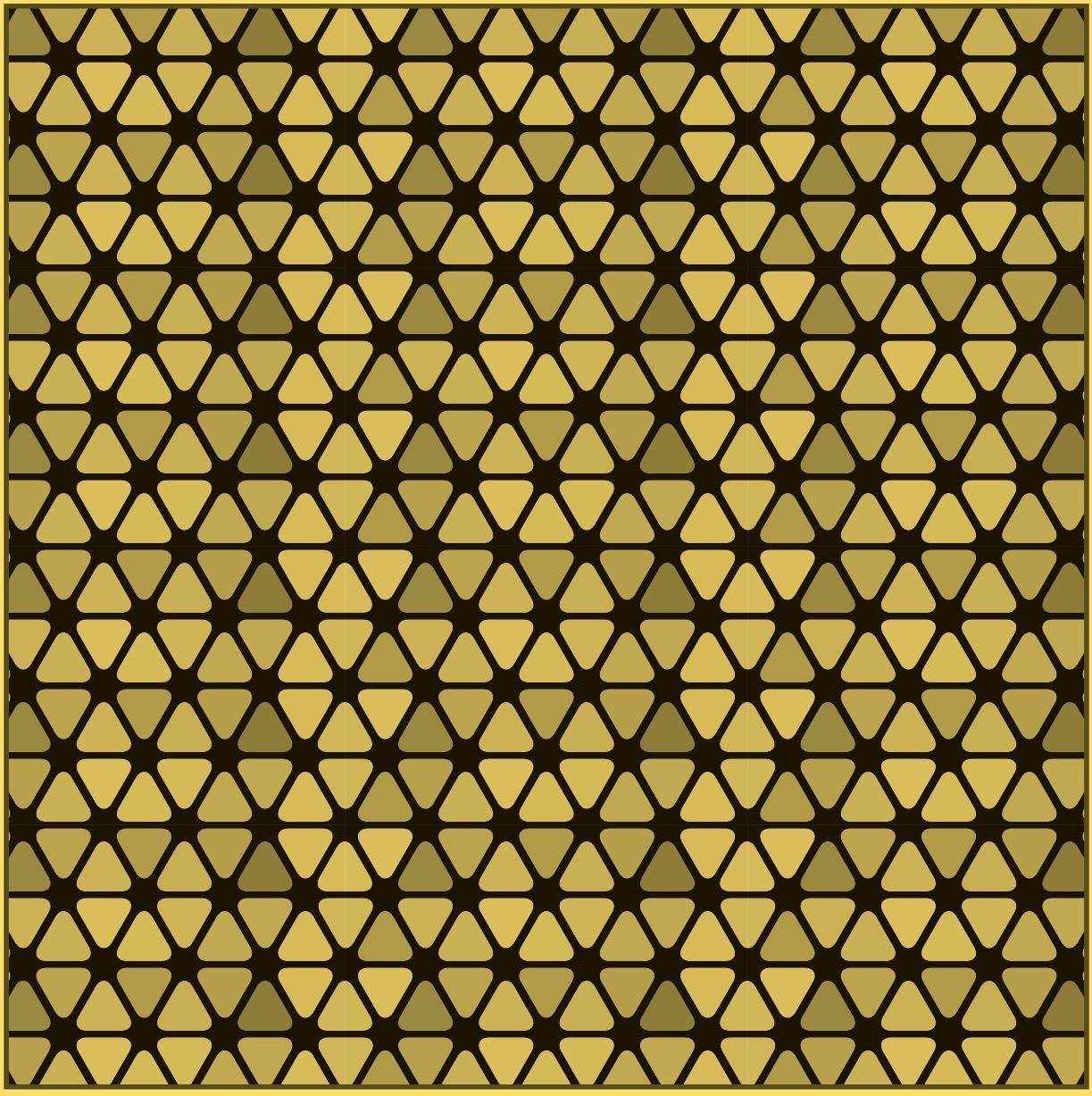
2018年度

シラバス

言語文化学科



秋学期は配布しません。1年間必ず保管すること。

獨協大学

シラバスは、科目の担当教員が学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

シラバスをよく読んで、計画的な履修登録をしてください。

【シラバスの見方】

1. 目次について

①シラバスページの検索方法

ページ端にあるインデックスで自分の入学年度に該当する目次ページを探してください。
目次の科目は、授業科目表（学則別表）と同じ順序で掲載しています。
※入学年度によっては授業科目表とシラバスの順序が一致していない場合があります。ご注意ください。

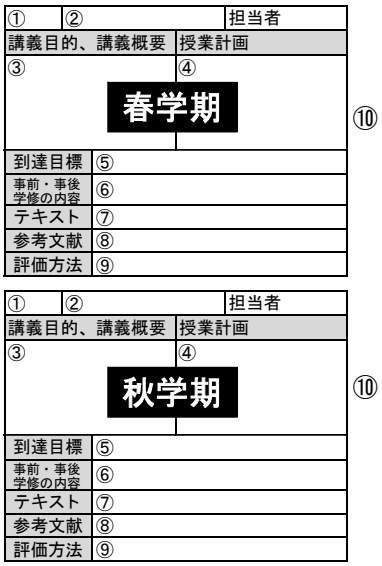
②履修できない科目

「履修不可」の欄に所属学部・学科名が記されている場合は、該当者はその科目を履修することができません。

〈略称説明〉

外：外国語学部	養：国際教養学部	経：経済学部	法：法学部
独：ドイツ語学科		済：経済学科	律：法律学科
英：英語学科		営：経営学科	国：国際関係法学科
仏：フランス語学科		環：国際環境経済学科	総：総合政策学科
交：交流文化学科	全：言語文化学科以外の全学部学科		免：2013年度以降入学の教職課程登録者

2. シラバスページの見方（右図参照）



①適用学生

13年度以降 ：2013年度以降入学者対象科目
※12年度以前入学者は教務課窓口にお越しください。

②入学年度に対応した科目名

入学年度に対応した科目名が記載されています。

③授業の目的や講義全体の説明、学生への要望

④学期の授業計画

各回ごとの講義のテーマ、内容を記載しています。
授業計画回数と実際の回数は必ずしも一致しません。

⑤到達目標

⑥事前・事後学修の内容

⑦授業で使用するテキスト

⑧参考文献

⑨評価方法について

⑩原則としてページ上段は春学期科目、下段は秋学期科目です。

3. 注意事項

①履修条件

担当教員が履修者に対して、その他の科目の履修や単位の修得などを条件としている科目があります。
必ず「講義目的、講義概要」の欄(上図③の部分)および『授業時間割表』を確認してください。

②定員

定員を設けている科目があります。各科目の定員は、『授業時間割表』を参照してください。

国際教養学部言語文化学科授業科目（2013年度以降入学者用）

目　次

学科基盤科目

「学科基盤科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	基礎演習	各担当教員	木4	2	1	全	1
秋	言語文化論	二宮　哲	月4	2	1	全	1
春	哲学Ⅰ	林　永強	金4	2	1	全	2
春	哲学Ⅱ	林　永強	金3	2	4	全	3
秋	哲学Ⅱ（再履修）	林　永強	金3	2	4	全	3

「外国語科目基盤科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	英語Ⅰ（IE）	各担当教員		1	1	全	4
春	英語Ⅰ（S）	各担当教員		1	1	全	5
春	英語Ⅰ（W）	各担当教員		1	1	全	6
秋	英語Ⅱ（IE）	各担当教員		1	1	全	4
秋	英語Ⅱ（S）	各担当教員		1	1	全	5
秋	英語Ⅱ（W）	各担当教員		1	1	全	6
春	英語Ⅲ（IE）	各担当教員		1	2	全	7
春	英語Ⅲ（W）	各担当教員		1	2	全	8
秋	英語Ⅳ（IE）	各担当教員		1	2	全	7
秋	英語Ⅳ（W）	各担当教員		1	2	全	8
春	スペイン語Ⅰ（総合1）	各担当教員		1	1	全	9
春	スペイン語Ⅰ（総合2）	各担当教員		1	1	全	10
春	スペイン語Ⅰ（入門）	各担当教員		1	1	全	11
春	スペイン語Ⅰ（会話）	各担当教員		1	1	全	12
秋	スペイン語Ⅱ（総合1）	各担当教員		1	1	全	9
秋	スペイン語Ⅱ（総合2）	各担当教員		1	1	全	10
秋	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	各担当教員		1	1	全	11
秋	スペイン語Ⅱ（会話）	各担当教員		1	1	全	12
春	スペイン語Ⅲ（総合）	各担当教員		1	2	全	13
春	スペイン語Ⅲ（講読）	各担当教員		1	2	全	14
春	スペイン語Ⅲ（会話1）	各担当教員		1	2	全	15
春	スペイン語Ⅲ（会話2）	各担当教員		1	2	全	16
秋	スペイン語Ⅳ（総合）	各担当教員		1	2	全	13
秋	スペイン語Ⅳ（講読）	各担当教員		1	2	全	14
秋	スペイン語Ⅳ（会話1）	各担当教員		1	2	全	15
秋	スペイン語Ⅳ（会話2）	各担当教員		1	2	全	16
春	中国語Ⅰ（総合1）	各担当教員		1	1	全	17
春	中国語Ⅰ（総合2）	各担当教員		1	1	全	18
春	中国語Ⅰ（入門）	各担当教員		1	1	全	19
春	中国語Ⅰ（会話）	各担当教員		1	1	全	20
秋	中国語Ⅱ（総合1）	各担当教員		1	1	全	17
秋	中国語Ⅱ（総合2）	各担当教員		1	1	全	18
秋	中国語Ⅱ（基礎表現）	各担当教員		1	1	全	19
秋	中国語Ⅱ（会話）	各担当教員		1	1	全	20
春	中国語Ⅲ（総合）	各担当教員		1	2	全	21
春	中国語Ⅲ（講読）	各担当教員		1	2	全	22
春	中国語Ⅲ（会話1）	各担当教員		1	2	全	23
春	中国語Ⅲ（会話2）	各担当教員		1	2	全	24
秋	中国語Ⅳ（総合）	各担当教員		1	2	全	21
秋	中国語Ⅳ（講読）	各担当教員		1	2	全	22
秋	中国語Ⅳ（会話1）	各担当教員		1	2	全	23
秋	中国語Ⅳ（会話2）	各担当教員		1	2	全	24

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	韓国語Ⅰ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	25
春	韓国語Ⅰ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	26
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	27
春	韓国語Ⅰ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	28
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解1)	各担当教員		1	1	全	25
秋	韓国語Ⅱ(文法・読解2)	各担当教員		1	1	全	26
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	1	全	27
秋	韓国語Ⅱ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	1	全	28
春	韓国語Ⅲ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	29
春	韓国語Ⅲ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	30
春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	31
春	韓国語Ⅲ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	32
秋	韓国語Ⅳ(文法・読解1)	各担当教員		1	2	全	29
秋	韓国語Ⅳ(文法・読解2)	各担当教員		1	2	全	30
秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション1)	各担当教員		1	2	全	31
秋	韓国語Ⅳ(コミュニケーション2)	各担当教員		1	2	全	32

「外国語科目進展科目」部門

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	英語上級	R. ラビーニ	水4	2	3	全	33
春	英語上級	J. G. ショールツ	火3	2	3	全	34
春	英語上級	M. ハルデイン	火3	2	3	全	35
春	英語上級	J. ハンクス	火3	2	3	全	36
春	英語上級	B. ゲンチ	火3	2	3	全	37
春	英語上級	山本　英政	月3	2	3	全	38
春	英語上級	中村　香代子	水4	2	3	全	39
春	英語上級	安間　一雄	火3	2	3	全	40
春	英語上級	小瀬　百合子	水4	2	3	全	41
春	英語上級	ロン　美香	水4	2	3	全	42
春	英語上級	奥平　文子	水4	2	3	全	43
秋	英語上級	R. ラビーニ	水4	2	3	全	33
秋	英語上級	J. G. ショールツ	火3	2	3	全	34
秋	英語上級	M. ハルデイン	火3	2	3	全	35
秋	英語上級	J. ハンクス	火3	2	3	全	36
秋	英語上級	B. ゲンチ	火3	2	3	全	37
秋	英語上級	山本　英政	月3	2	3	全	38
秋	英語上級	中村　香代子	水4	2	3	全	39
秋	英語上級	臼井　芳子	火3	2	3	全	40
秋	英語上級	小瀬　百合子	水4	2	3	全	41
秋	英語上級	ロン　美香	水4	2	3	全	42
秋	英語上級	奥平　文子	水4	2	3	全	43
春	英語上級(再履修)	O. シャトノバ	金1	2	3	全	44
春	英語上級(再履修)	ロン　美香	金1	2	3	全	45
秋	英語上級(再履修)	J. G. ショールツ	金4	2	3	全	44
秋	英語上級(再履修)	ロン　美香	金4	2	3	全	45
春	英語演習Ⅰ	澁井　とし子	木4	2	2	全	46
秋	英語演習Ⅰ	中村　香代子	水2	2	2	全	46
春	英語演習Ⅱ	J. G. ショールツ	金4	2	3	全	47
春	英語演習Ⅱ	B. ゲンチ	金1	2	3	全	48
春	英語演習Ⅱ	奥平　文子	水3	2	3	全	49
春	英語演習Ⅱ	S. K. エリス	木4	2	3	全	50
春	英語演習Ⅱ	関口　智子	金5	2	3	全	51
秋	英語演習Ⅱ	中込　知子	水4	2	3	全	47
秋	英語演習Ⅱ	B. ゲンチ	金1	2	3	全	48
秋	英語演習Ⅱ	奥平　文子	水3	2	3	全	49
秋	英語演習Ⅱ	S. K. エリス	木4	2	3	全	50
秋	英語演習Ⅱ	P. ネウパネ	木4	2	3	全	51

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	翻訳通訳論・英語	関口　智子	金4	2	3		52
秋	翻訳通訳実習・英語	関口　智子	火1	2	3		52
春	スペイン語上級	各担当教員		2	3	全	53
秋	スペイン語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	53
春	スペイン語演習	J. マルティネス	木2	2	3	全※1	54
春	スペイン語演習	P. ラゴ	金2	2	3	全※1	55
春	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	56
秋	スペイン語演習	二宮　哲	金3	2	3	全※1	58
秋	スペイン語演習	M. サンチェス	水3	2	3	全※1	60
秋	スペイン語演習	N. ウエチ	木1	2	3	全※1	56
秋	スペイン語演習	浦部　浩之	月4	2	3	全※1	57
秋	スペイン語演習	J. マルティネス	木2	2	3	全※1	54
秋	スペイン語演習	J. I. ドメネク・アロンソ	水3	2	3	全※1	59
秋	スペイン語演習	P. ラゴ	金2	2	3	全※1	55
春	翻訳通訳論・スペイン語	矢田　陽子	火3	2	3		61
秋	翻訳通訳実習・スペイン語	矢田　陽子	火3	2	3		61
春	中国語上級	各担当教員		2	3	全	62
秋	中国語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	62
春	中国語演習	武信　彰	月2	2	3	全※1	63
春	中国語演習	劉　岸麗	木3	2	3	全※1	64
春	中国語演習	永田　小絵	水1	2	3	全※1	65
春	中国語演習	蔡　暁軍	金5	2	3	全※1	66
秋	中国語演習	永田　小絵	木4	2	3	全※1	63
秋	中国語演習	横川　澄枝	金3	2	3	全※1	68
秋	中国語演習	吉田　桂子	金2	2	3	全※1	67
秋	中国語演習	蔡　暁軍	金5	2	3	全※1	66
秋	中国語演習	永田　小絵	水1	2	3	全※1	65
秋	中国語演習	劉　岸麗	木3	2	3	全※1	64
春	翻訳通訳論・中国語	永田　小絵	火2	2	3		69
秋	翻訳通訳実習・中国語	永田　小絵	火2	2	3		69
春	韓国語上級	各担当教員		2	3	全	70
秋	韓国語上級(再履修)	各担当教員		2	3	全	70
春	韓国語演習	青木　義幸	火4	2	3	全※1	71
秋	韓国語演習	青木　義幸	火4	2	3	全※1	71
秋	韓国語演習	白　寅英	金2	2	3	全※1	72
秋	韓国語演習	沈　民珪	木1	2	3	全※1	73
春	翻訳通訳論・韓国語	青木　義幸	火3	2	3		74
秋	翻訳通訳実習・韓国語	青木　義幸	火3	2	3		74

※1:交流文化学科は除く

「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	スペイン研究概論	二宮　哲	月5	2	1	全	75
	ラテンアメリカ研究概論	2018年度不開講		2	1	全	
春	スペインの言語と歴史・文化	二宮　哲	月4	2	2		76
秋	スペイン語研究	二宮　哲	月2	2	2		75
	スペイン語圏の文学	2018年度不開講		2	2		
	ラテンアメリカの歴史と文化	2018年度不開講		2	2		
春	ラテンアメリカの政治と社会	浦部　浩之	木2	2	2		77
春	ラテンアメリカの経済と社会	北野　浩一	金4	2	2		78
	ラテンアメリカ近現代史	2018年度不開講		2	2		
秋	ラテンアメリカの国際関係	浦部　浩之	木2	2	2		77
春	ブラジル研究	E. ウラノ	火2	2	2	全	79
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（ラテンアメリカ経済発展論）	北野　浩一	金4	2	2		78
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究a）	P. ラゴ	月3	2	2		80
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究b）	P. ラゴ	月3	2	2		80
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン・ラテンアメリカの芸術文化）	倉田　量介	火3	2	2	全	81
春	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	井垣　昌	木3	2	2		82
秋	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（カリブ海域研究）	工藤　多香子	火2	2	2	全	81
	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(専門講読)	2018年度不開講		2	2		
	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究(英西語学演習)	2018年度不開講		2	2		

「中国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
秋	中国研究概論	松岡　格	火4	2	1		83
秋	中国言語文化論	武信　彰	月4	2	2		84
春	中国社会論	鶴園　裕基	水4	2	2		83
春	中国地域論	鶴園　裕基	金4	2	2		84
秋	現代中国論Ⅰ	松岡　格	金4	2	2	法	85
秋	現代中国論Ⅱ	松岡　格	水1	2	2	法	86
春	中国史Ⅰ	張　士陽	木4	2	2	全	87
秋	中国史Ⅱ	張　士陽	木4	2	2	全	87
春	中国特殊研究(日中比較文化研究a)	大澤　昇	水3	2	2		88
秋	中国特殊研究(日中比較文化研究b)	大澤　昇	水3	2	2		88
春	中国特殊研究(中国文学研究a)	近藤　光雄	木3	2	2		89
秋	中国特殊研究(中国文学研究b)	近藤　光雄	木3	2	2		89
春	中国特殊研究(日中交流史)	武信　彰	月4	2	2		90
	中国特殊研究(専門講読)	2018年度不開講		2	2		

「韓国研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	韓国研究概論	小宮　秀陵	木2	2	1	全	91
春	韓国社会論Ⅰ	羅　一等	月2	2	2	全	92
秋	韓国社会論Ⅱ	小宮　秀陵	水3	2	2	全	92
	韓国経済論	2018年度不開講		2	2	全	
春	韓国史	佐藤　厚	金2	2	2	全	93
秋	日韓比較文化論	金　熙淑	月3	2	2	全	93
	日韓比較教育論	2018年度不開講		2	2	全	
秋	日韓交流史	小宮　秀陵	月4	2	2	全	91
秋	韓国研究情報収集法	金　熙淑	水1	2	2	全	94
春	韓国特殊研究(韓国政治論)	呉　吉煥	金1	2	2	全	95
春	韓国特殊研究(韓国前近代史)	小宮　秀陵	火4	2	2	全	96
秋	韓国特殊研究(韓国の宗教)	佐藤　厚	金2	2	2	全	95
秋	韓国特殊研究(韓国の言語文化)	金　秀晶	水3	2	2	全	96
春	韓国特殊研究(韓国文学史)	沈　元燮	水3	2	2	全	97
春	韓国特殊研究(韓国小説の世界)	沈　元燮	水4	2	2		98
秋	韓国特殊研究(韓国詩の世界)	沈　元燮	水4	2	2		98
秋	韓国特殊研究(専門講読)	金　熙淑	水2	2	3		97
秋	韓国特殊研究(日韓比較地域史論)	小宮　秀陵	木2	2	2		99

「日本研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	日本研究概論Ⅰ	城﨑　陽子	火4	2	1	全	100
秋	日本研究概論Ⅱ	生田　守	木4	2	1	全	100
春	日本文学論･古代Ⅰ	福沢　健	月5	2	1	全	101
秋	日本文学論･古代Ⅱ	福沢　健	月5	2	1	全	101
春	日本文学論･中世Ⅰ	城﨑　陽子	火3	2	1	全	102
秋	日本文学論･中世Ⅱ	飯島　一彦	水1	2	1	全	102
春	日本文学論･近現代Ⅰ	佐藤　毅	木1	2	1	全	103
秋	日本文学論･近現代Ⅱ	佐藤　毅	木1	2	1	全	103
春	民俗学	林　英一	木1	2	1	全	104
春	日本史Ⅰ	堀川　徹	火4	2	1	全	105
秋	日本史Ⅱ	堀川　徹	火4	2	1	全	105
	日本思想史Ⅰ	2018年度不開講		2	2	全	
	日本思想史Ⅱ	2018年度不開講		2	2	全	
春	日本特殊研究(日本文学作品研究a)	城﨑　陽子	水3	2	2	全	106
春	日本特殊研究(日本文学作品研究b)	飯島　一彦	木5	2	2	全	108
春	日本特殊研究(日本文学作品研究c)	城﨑　陽子	水4	2	2	全	107
秋	日本特殊研究(日本文学作品研究d)	城﨑　陽子	水3	2	2	全	106
秋	日本特殊研究(日本文学作品研究e)	城﨑　陽子	火3	2	2	全	107
秋	日本特殊研究(日本文化研究a)	飯島　一彦	木5	2	2	全	108
秋	日本特殊研究(日本文化研究b)	城﨑　陽子	水4	2	2	全	109
秋	日本特殊研究(日本文化研究c)	林　英一	木1	2	2	全	104
秋	日本特殊研究(日本文化研究d)	飯島　一彦	木4	2	2	全	110
春	日本特殊研究(日本史研究a)	丸浜　昭	水1	2	2	全	111
秋	日本特殊研究(日本史研究b)	丸浜　昭	水1	2	2	全	111
春	日本特殊研究(日本史研究c)	堀川　徹	火3	2	2		112
秋	日本特殊研究(日本史研究d)	堀川　徹	火3	2	2		112

「言語教育研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	言語学概論	安間　一雄	水1	2	1	全	113
秋	英語学概論	安間　一雄	水1	2	1	全	113
春	日本語教育概論	石塚　京子	月3	2	1	全	114
春	応用言語学Ⅰ	臼井　芳子	水1	2	2	全	115
秋	応用言語学Ⅱ	臼井　芳子	水1	2	2	全	115
春	英語圏の文学Ⅰ	関戸　冬彦	木3	2	1	全	116
秋	英語圏の文学Ⅱ	関戸　冬彦	木3	2	1	全	116
春	英語圏の文学・文化・批評Ⅰ	末松　良道	木3	2	2	全	117
秋	英語圏の文学・文化・批評Ⅱ	末松　良道	木3	2	2	全	117
春	国際語としての英語	臼井　芳子	火3	2	2		118
春	日本語教授法Ⅰa	野原　ゆかり	金3	2	3		119
秋	日本語教授法Ⅰb	瀬尾 悠希子	火2	2	3		119
春	日本語教授法Ⅱ	野原　ゆかり	水3	2	4		120
春	日本語音声学	磯村　一弘	水5	2	2		121
春	日本語文法論Ⅰ	浅山　佳郎	火1	2	1	全※2	122
秋	日本語文法論Ⅱ	浅山　佳郎	火1	2	1	全※2	122
秋	日本語コミュニケーション論	城﨑　陽子	火4	2	1	全	121
春	英語教育特殊研究（専門講読a）	関戸　冬彦	水1	2	2		123
秋	英語教育特殊研究（専門講読b）	関戸　冬彦	木1	2	2		123
春	英語教育特殊研究（授業分析と実践a）	臼井　芳子	火2	2	3		124
秋	英語教育特殊研究（授業分析と実践b）	臼井　芳子	火2	2	3		124
秋	英語教育特殊研究（早期外国語教育）	澁井　とし子	木4	2	3		118
	英語教育特殊研究（英西語学演習）	2018年度不開講		2	2		
春/秋	日本語教育特殊研究（教育実習）	各担当教員	その他	2	4		128
春	日本語教育特殊研究（教育教材論）	倉田　芳弥	月4	2	2		125
春	日本語教育特殊研究（専門講読）	田川　麻央	木4	2	2	全	126
秋	日本語教育特殊研究（年少者日本語教育）	宇津木　奈美子	火2	2	2	全	125
秋	日本語教育特殊研究（日本語教育のための社会言語学）	野原　ゆかり	水2	2	2		126
秋	日本語教育特殊研究（日本語学の諸問題）	浅山　佳郎	木1	2	2		127
春	日本語教育特殊研究（日本語教育研究法）	瀬尾 悠希子	金3	2	2		127

※2:14年度以降入学者は除く

「グローバル社会研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	異文化間コミュニケーションⅠ	岡村　圭子	木3	2	1		129
秋	異文化間コミュニケーションⅡ	山本　英政	月2	2	1	全	129
春	多文化共生研究Ⅰ	佐藤　唯行	火3	2	2		130
秋	多文化共生研究Ⅱ	佐藤　唯行	火3	2	2		130
秋	比較文化論	岡村　圭子	木3	2	2		132
春	大衆文化論	木本　玲一	月5	2	2	全	131
春	ローカル・メディア論	岡村　圭子	火3	2	2	全	132
春	英語圏の文化	山本　英政	木2	2	2	全	133
秋	英語圏事情	山本　英政	水2	2	2	全	133
春	国際関係論	大串　敦	火3	2	1	全	134
春	国際協力論	浦部　浩之	水3	2	1		135
秋	南北問題	浦部　浩之	水3	2	1		135
秋	NGO論	清水　俊弘	水2	2	1	全	134
春	国際政治論Ⅰ	岡垣　知子	水1	2	2	全	136
秋	国際政治論Ⅱ	山下　光	金5	2	2	全	136
春	国際経済論Ⅰ	益山　光央	火2	2	2	全	137
秋	国際経済論Ⅱ	益山　光央	火2	2	2	全	137
春	日本政治外交史Ⅰ	福永　文夫	金3	2	2	全	138
秋	日本政治外交史Ⅱ	福永　文夫	金3	2	2	全	138
春	国際機構と法Ⅰ	鈴木　淳一	月1	2	3	全	139
秋	国際機構と法Ⅱ	鈴木　淳一	月3	2	3	全	139
春	地域研究論	浦部　浩之	月4	2	2		140
秋	グローバル社会特殊研究（滞日外国人研究）	E. ウラノ	火3	2	2	法	141
春	グローバル社会特殊研究（在外日本人研究）	山本　英政	月2	2	2	全	141
	グローバル社会特殊研究（アメリカ合衆国のラティーノ社会）	2018年度不開講		2	2		
春	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合a）	高安　健一	金1	2	2	全	142
秋	グローバル社会特殊研究（東南アジアの経済と地域統合b）	高安　健一	金1	2	2	全	142
春	グローバル社会特殊研究（東南アジアの開発と社会）	江藤　双恵	火1	2	2	全	143
春	グローバル社会特殊研究（地球環境と法a）	一之瀬　高博	木2	2	3	全	144
秋	グローバル社会特殊研究（地球環境と法b）	一之瀬　高博	木2	2	3	全	144
	グローバル社会特殊研究（ポストコロニアル研究）	2018年度不開講		2	2	全	

「人間発達科学研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	教育学概論Ⅰ(教職論)	萩原　真美	火4	2	1	全	145
春	教育学概論Ⅰ(教職論)	桑原　憲一	月4	2	1	全	145
秋	教育学概論Ⅰ(教職論)	桑原　憲一	月5	2	1	全	145
春	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	萩原　真美	火3	2	1	全	146
秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	萩原　真美	火3	2	1	全	146
秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	萩原　真美	火4	2	1	全	146
秋	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	川村　肇	木3	2	1	全	146
春	心理学概論Ⅰ(こころの世界)	利根川　明子	金5	2	1	全	147
秋	心理学概論Ⅱ(心理検査法と自己理解)	田口　雅徳	木4	2	2	全	147
春	スポーツ･レクリエーション概論	和田　智	金4	2	1	全	148
春	スポーツ科学概論	依田　珠江	水1	2	1	全	149
春	教育の歴史Ⅰ	萩原　真美	水2	2	2	全	150
秋	教育の歴史Ⅱ	萩原　真美	水2	2	2	全	150
春	比較教育制度論	桑原　憲一	月5	2	2	全	151
春	比較教育制度論	小島　優生	水3	2	2	全	151
秋	比較教育制度論	小島　優生	水3	2	2	全	151
春	教育課程論	安井　一郎	水2	2	2	全	152
春	教育課程論	桑原　憲一	火3	2	2	全	152
秋	教育課程論	桑原　憲一	火4	2	2	全	152
春	教育心理学	田口　雅徳	金1	2	1	全	153
秋	教育心理学	田口　雅徳	金1	2	1	全	153
春	教育心理学	利根川　明子	金4	2	1	全	153
秋	教育心理学	利根川　明子	金4	2	1	全	153
春	カウンセリング論	白砂　佐和子	火4	2	2	全	154
秋	パーソナリティ理論	白砂　佐和子	火4	2	2	全	154
春	学校カウンセリング	山本　良	金2	2	2	全	155
秋	学校カウンセリング	山本　良	金2	2	2	全	155
秋	学校カウンセリング	鈴木　乙史	木4	2	2	全	155
	人間発達科学特殊研究(子ども論a)	2018年度不開講		2	2	全	
春	人間発達科学特殊研究(子ども論b)	小島　優生	木3	2	2	全	156
	人間発達科学特殊研究(教師と語る)	2018年度不開講		2	1	全	
春	人間発達科学特殊研究(認知科学)	田口　雅徳	木2	2	2	全	157
秋	人間発達科学特殊研究(認知科学)	田口　雅徳	木2	2	2	全	157
春	人間発達科学特殊研究(社会心理学a)	樋口　匡貴	金2	2	2	外	158
秋	人間発達科学特殊研究(社会心理学b)	樋口　匡貴	金2	2	2	外	158
秋	人間発達科学特殊研究(社会心理学b)	樋口　匡貴	金3	2	2	外	158
秋	人間発達科学特殊研究(スポーツ指導実習)	松原　裕	水3	2	2	全	160
春	人間発達科学特殊研究(リーダーシップ論)	和田　智	金2	2	2	全	159
春	人間発達科学特殊研究(スポーツマネージメント)	川北　準人	月3	2	2	全	160
秋	人間発達科学特殊研究(ボランティア論)	中條　共子	月3	2	2	全	159
春	人間発達科学特殊研究(スポーツパフォーマンス分析)	依田　珠江	木2	2	2	全	161

「総合科学研究科目群」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	社会学Ⅰ	岡村　圭子	土1	2	1	全	162
秋	社会学Ⅱ	岡村　圭子	土1	2	1	全	162
春	文化人類学Ⅰ	井垣　昌	木4	2	1	全	163
秋	文化人類学Ⅱ	松岡　格	金2	2	1	全	163
春	倫理学Ⅰ	林　永強	木3	2	1	全	164
秋	倫理学Ⅱ	林　永強	木3	2	1	全	164
春	文化史入門	古川　堅治	木2	2	1	全	165
	東洋思想史Ⅰ	2018年度不開講		2	1	全	
	東洋思想史Ⅱ	2018年度不開講		2	1	全	
春	文明史研究Ⅰ	髙橋　裕子	月2	2	1	全	166
秋	文明史研究Ⅱ	髙橋　裕子	月2	2	1	全	166
秋	比較宗教史	犬塚　悠	水2	2	1	全	165
春	科学史Ⅰ	野澤　聡	月2	2	1	全	167
秋	科学史Ⅱ	野澤　聡	月2	2	1	全	167
春	科学技術基礎論Ⅰ	野澤　聡	木1	2	1	全	168
秋	科学技術基礎論Ⅱ	野澤　聡	木1	2	1	全	168
春	数学Ⅰ	東　孝博	月2	2	1	全	169
秋	数学Ⅱ	東　孝博	月2	2	1	全	169

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春	物理学Ⅰ	東　孝博	月4	2	1	全	170
秋	物理学Ⅱ	東　孝博	月4	2	1	全	170
春	天文学Ⅰ	内田　俊郎	木4	2	1	全	171
秋	天文学Ⅱ	内田　俊郎	木4	2	1	全	171
春	生物学Ⅰ	飯泉　恭一	月3	2	1	全	172
秋	生物学Ⅱ	飯泉　恭一	月3	2	1	全	172
春	生理学Ⅰ	依田　珠江	木4	2	1	全	173
秋	生理学Ⅱ	依田　珠江	木4	2	1	全	173
春	地球環境論Ⅰ	大竹　伸郎	月4	2	1	全	174
秋	地球環境論Ⅱ	大竹　伸郎	月4	2	1	全	174
春	コンピュータと言語	呉　浩東	月2	2	1	全	175
春	情報科学各論Ⅰ	田中　雅英	火2	2	1	全	176
秋	情報科学各論Ⅰ	田中　雅英	火3	2	1	全	177
春	情報科学各論Ⅱ	田中　雅英	火3	2	1	全	177
秋	情報科学各論Ⅱ	田中　雅英	火2	2	1	全	176
春	データ構造とアルゴリズム論	黄　海湘	水3	2	2	全	178
秋	データベース論	黄　海湘	水5	2	2		178
春	社会調査法	田端　章明	木2	2	2	全	179
秋	統計と調査法	安間　一雄	火3	2	2	全	179
秋	総合科学特殊研究（世界の宗教と文化－－神教と多神教）	古川　堅治	木2	2	2		180
秋	総合科学特殊研究（思想と文化）	林　永強	金4	2	2		181
春	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化a）	髙橋　裕子	月3	2	2		182
秋	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化b）	髙橋　裕子	月3	2	2		182
春	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術a）	師岡　カリーマ　エルサムニー	月2	2	2	全	183
秋	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術b）	師岡　カリーマ　エルサムニー	月2	2	2	全	183
	総合科学特殊研究（科学技術と社会a）	2018年度不開講		2	1	全	
秋	総合科学特殊研究（科学技術と社会b）	野澤　聡	水1	2	1	全	184
春	総合科学特殊研究（宇宙論a）	東　孝博	火1	2	1	全	185
秋	総合科学特殊研究（宇宙論b）	東　孝博	火1	2	1	全	185
春	総合科学特殊研究（自然観察a）	飯泉　恭一	月2	2	2	全	186
秋	総合科学特殊研究（自然観察b）	飯泉　恭一	月2	2	2	全	186
春	総合科学特殊研究（サイエンスライティングa）	東　孝博	木4	2	2	全	187
秋	総合科学特殊研究（サイエンスライティングb）	東　孝博	木4	2	2	全	187
春	総合科学特殊研究（情報検索演習）	黄　海湘	水4	2	2	全	188
春	総合科学特殊研究（自然言語処理a）	呉　浩東	木1	2	2	全	189
	総合科学特殊研究（自然言語処理b）	2018年度不開講		2	2	全	
春	総合科学特殊研究（プログラミング論a）	呉　浩東	月4	2	2		190
秋	総合科学特殊研究（プログラミング論b）	呉　浩東	月5	2	2		190
秋	総合科学特殊研究（コンピュータ構造論）	呉　浩東	月2	2	2	全	188
秋	総合科学特殊研究（コーパス言語学）	呉　浩東	木1	2	2	全	189
秋	総合科学特殊研究（からだの機能を測る）	依田　珠江	水3	2	2	全	191
秋	総合科学特殊研究（文化について調べて書くa）	松岡　格	火2	2	2	全	192
	総合科学特殊研究（文化について調べて書くb）	2018年度不開講		2	2	全	
春	総合科学特殊研究（暮らしの中の民法入門）	新井　剛	金1	2	1	全	193
秋	総合科学特殊研究（続・暮らしの中の民法入門）	新井　剛	金1	2	1	全	193
秋	総合科学特殊研究（不動産取引と法）	新井　剛	木4	2	2	全	194
春	総合科学特殊研究（日本の司法(1)）	齋藤　哲	木2	2	2	全	195
秋	総合科学特殊研究（日本の司法(2)）	齋藤　哲	木2	2	2	全	195
秋	総合科学特殊研究（市民生活と法）	齋藤　哲	木4	2	2	全	196
春	総合科学特殊研究（マルチメディア論a）	田中　雅英	火4	2	2	全	197
秋	総合科学特殊研究（マルチメディア論b）	田中　雅英	火4	2	2	全	197
春	総合科学特殊研究（社会のなかの化学物質a）	内田　正夫	木4	2	2	全	198
秋	総合科学特殊研究（社会のなかの化学物質b）	内田　正夫	木4	2	2	全	198

「演習・卒業研究等」

開講区分	開講科目名称	担当者	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
春/秋	卒業研究	各担当教員		2	4	全	199

13 年度以降	基礎演習	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「基礎演習」の目的は、今後４年間の大学における学び、とりわけ２年次以降の専門教育（演習）に対応できる力を準備することにある。 そのために、図書館・ＰＣの利活用を含む『読む・書く・聞く・話す』の基礎力を高めていくことを主な課題とする。	1.　クラス別オリエンテーション 2.～14. ・図書館実習（１回） 図書館の利用、資料検索の仕方 ・観察学習（１回） 大学外の施設における学習 ・読む・書く・聞く・話すなどの基礎力の養成（10回） 文章を読む、要約をする、ノートをとる、講義を受ける、ディスカッション、プレゼンテーション、ＰＣスキルなどの学習 （各クラスによって学習順序や方法は異なる） 15. まとめ

到達目標	論理的思考、授業に臨む姿勢、レポート作成法、コンピュータリテラシーを習得し、大学において基本的な学習ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各担当教員から指示される。
テキスト	各担当教員から指示される。指定の課題図書を購入する必要がある。
参考文献	各担当教員から指示される。
評価方法	レポート課題、および授業での発表内容などに基づいて総合的に評価する。

13 年度以降	言語文化論	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
言語文化学科が学科の目的とする国際的な教養としての「言語」と「文化」が、全体としてどのようなものであるかを認識するための授業である。学科が設置している各研究科目群にはおおまかにどういう分野があり、それぞれの担当教員がどのような演習を開講しているかを把握し、学生 諸君自身による今後の履修のための「設計図」をえがくことを目的とする。 講義概要としては、各研究科目群についての概説、2年次以降の演習担当教員による内容紹介、２年次以降のシミュレーションの3種類で構成される。第1の概説はこの科目の担当者による、第2は、毎回学科の専任教員をゲスト にむかえておこなう。第３は出席者全員で行う。授業中の学生からの質問を、強く要求する。 なお、右記の予定は、各研究科目群担当教員の状況により前後する場合がある。	1. イントロダクション-「言語」と「文化」を学ぶ意味 2. 国際教養学部のカリキュラムについて 3. スペイン・ラテンアメリカ研究科目群 4. 中国研究科目群 5. 韓国研究科目群 6. 日本研究科目群 7. 言語教育研究科目群 8. グローバル社会研究科目群 9. 人間発達科学研究科目群 10. 総合科学研究科目群 11. 演習選択について 12. 学生による履修シミュレーション 13. 学生による履修シミュレーション 14. 学生による履修シミュレーション 15. ２年生になるに当たって-「学ぶ」ということの意味

到達目標	国際教養と言語文化の概念を理解し、言語と文化について、自分なりの問題設定ができるようにする。
事前・事後学修の内容	『演習の手引き』を読み、各研究科目群についての理解を深めておく。
テキスト	言語文化学科『演習の手引き』、適宜プリントを配布
参考文献	授業で紹介
評価方法	授業への参加度（50%）、プレゼンテーション（30%）、小レポート（20%）

13 年度以降	哲学 I	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は哲学という視座から、教養教育を吟味しようとする。教養は知的追求をしながら、人格を養うことでもある。哲学も、説得力をもつ普遍的な知を目指そうとする一方、人生のあり方を多角的に深く考察する。 本科目は、西洋と東洋哲学において、哲学と人生、真実、知識、行為という四つの課題を取り上げ、実生活の諸問題に沿いながら、思考力、判断力、さらに行動力を向上しようとする。 授業のやり方としては、各課題の関連文献に基づき、講義、発表、また討論を通して取り組む。	1. 哲学と人生 2. 人間と動物 3. 個人と全体 4. 現象と実在 5. 特性と本質 6. 仮名と真実 7. 因果と必然 8. 推論と確率 9. 経験と観念 10. 言語と真理 11. 功利と行為 12. 義務と約束 13. 美徳と修養 14. 人性と道徳 15. 哲学と世界

到達目標	現代の諸問題について、他者の意見を尊重しつつ、積極的・自主的なディスカッションができるようにする。さらに、人間と世界との関係を理性的に理解し、かつ説明できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	哲学Ⅱ	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
本科目は価値判断の諸説を探求していく。卒業に向けて、大学から社会への道を踏み出しながら、実社会における諸問題を哲学的に考えていく。自らの思考により、あらゆる打開策を構築する。 具体的には、規範倫理、人格実現説、人間学、そして公と私という四つの課題を取り上げ、価値そのものや価値判断の諸基準を考察する。 授業のやり方としては、各課題の関連文献に沿いながら、講義、発表、また討論を通して取り組む。 なお、授業の使用言語は全て英語である。レポートも英語で書く。	1. イントロダクション 2. 規範倫理学 I：功利主義 3. 規範倫理学 II：義務論 4. 規範倫理学 III：徳倫理学 5. 人格実現説 I：意志と行為 6. 人格実現説 II：人格と動機 7. 人格実現説 III：美徳と善人 8. 人間学 I：倫理と人間 9. 人間学 II：間柄と世間 10. 人間学 III：存在と道徳 11. 公と私 I：個人と政府 12. 公と私 II：自他と公共 13. 公と私 III：正直と勇気 14. 公と私 IV：忠誠と反逆 15. まとめ

到達目標	4 年間の大学生活を振り返りながら、「哲学 I」の学習成果をふまえ、現代世界の諸問題について自主的に取り組み、その背景を理解し、現代世界の諸問題とその解決策を英語で発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

13 年度以降	哲学Ⅱ_再履修	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
本科目は価値判断の諸説を探求していく。卒業に向けて、大学から社会への道を踏み出しながら、実社会における諸問題を哲学的に考えていく。自らの思考により、あらゆる打開策を構築する。 具体的には、規範倫理、人格実現説、人間学、そして公と私という四つの課題を取り上げ、価値そのものや価値判断の諸基準を考察する。 授業のやり方としては、各課題の関連文献に沿いながら、講義、発表、また討論を通して取り組む。 なお、授業の使用言語は全て英語である。レポートも英語で書く。	1. イントロダクション 2. 規範倫理学 I：功利主義 3. 規範倫理学 II：義務論 4. 規範倫理学 III：徳倫理学 5. 人格実現説 I：意志と行為 6. 人格実現説 II：人格と善性 7. 人格実現説 III：徳性と実現 8. 人間学 I：倫理と人間 9. 人間学 II：間柄と世間 10. 人間学 III：存在と道徳 11. 公と私 I：個人と政府 12. 公と私 II：自他と公共 13. 公と私 III：正直と勇気 14. 公と私 IV：忠誠と反逆 15. まとめ

到達目標	4 年間の大学生活を振り返りながら、「哲学 I」の学習成果をふまえ、現代世界の諸問題について自主的に取り組み、その背景を理解し、現代世界の諸問題とその解決策を英語で発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

13 年度以降	英語Ⅰ（IE）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーを学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約(英語)ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。	・各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、身近な話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	テキストはクラスによって異なる。
参考文献	各クラスにおいて必要に応じ教員が指示する。
評価方法	課題（20%)、 多読関連(20%)、 語彙テスト(20%)、 期末テスト(40%)

13 年度以降	英語Ⅱ（IE）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
多様なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディング及びディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。また、より正確かつ効率的に読めるよう、様々なリーディングストラテジーも学習する。内容理解の表現方法としては、口頭・筆記双方でパラフレイズや要約(英語)ができるようになることを目的とする。テーマの例としては生活や文化など身近な話題を取り上げ、リーディング素材などを通して問題提起を学習した後、ディスカッションや調査によってより深く問題探求することを目標とする。この他に、課外活動として多読学習を取り入れ、英語の読書習慣の形成を図る。授業の使用言語は英語とする。	・各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅰ」より普遍性の高い話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	春学期に同じ。
参考文献	春学期に同じ。
評価方法	春学期に同じ。

13 年度以降	英語Ⅰ（S）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基礎的な言語表現形式を口頭で使いこなす能力を養う。ここでは、音声言語の受容・産出効率を高めるために定型言語形式の使用練習や発音練習をする。また、プレゼンテーションスキルを学び、身近なテーマに関するプレゼンテーションの練習をする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。 授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。	・各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、身近な話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	テキストはクラスにより異なる。
参考文献	各クラスにおいて必要に応じ教員が指示する。
評価方法	参加態度・予習・努力等（10%）、口頭発表（30%）、期末ペアインタビュー（30%）、課題到達度（30%）

13 年度以降	英語Ⅱ（S）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語Ⅰ(S)」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。定型言語形式の使用練習においては、自発的な発話場面においても、適切に使用できることを目標とする。また、プレゼンテーションスキルを学び、アカデミックなテーマに関するプレゼンテーションの練習をする。受講者は毎回の授業における学習記録を付けることが求められる。 授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。	・各担当教員が初回の授業で指示する。 ・与えられたテーマによるプレゼンテーションのコンテスト Presentation Championship がクラスを超えた規模で行われる。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅰ」より普遍性の高い話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	春学期に同じ。
参考文献	春学期に同じ。
評価方法	春学期に同じ。

13 年度以降	英語Ⅰ（W）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
エッセイライティングの基礎を学ぶ。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレーンストーミング、アウトラインプロセシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。 授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。	・各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、身近な話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	テキストはクラスにより異なる。
参考文献	各クラスにおいて必要に応じ教員が指示する。
評価方法	テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度（50%）、期末作文課題（20%）、授業参加態度（20%）、ポートフォリオ（10%）

13 年度以降	英語Ⅱ（W）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
エッセイライティングの基礎を学ぶ。「英語Ⅰ（W）」に示した内容と目標を継承し、さらに発展的な学習を行う。パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、記述・意見表示・比較対象・原因-結果などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレーンストーミング、アウトラインプロセシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。 授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。	・各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅰ」より普遍性の高い話題に関して自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	春学期に同じ。
参考文献	春学期に同じ。
評価方法	春学期に同じ。

13 年度以降	英語Ⅲ（IE）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語Ⅱ（IE)」に引き続き、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。主たる学習活動はリーディングおよびディスカッションで、テーマに関連した語彙学習も行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。	・各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	テキストはクラスによって異なる。
参考文献	各クラスにおいて必要に応じ教員が指示する
評価方法	課題（20%)、 多読関連(20%)、 語彙テスト(20%)、 期末テスト(40%)

13 年度以降	英語Ⅳ（IE）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語Ⅲ（IE)」に引き続き、同じ授業形態の許で、様々なテーマに基づく統合的学習を行う。この授業では、受講者は読んだ内容を適格に要約し、それを口頭でも再構築する。また、読んだ内容を建設的に批判し、自ら知識・経験と結びつけて問題解決方法を調査し提案することが求められる。最後に、そのユニットで学んだことを総合的に評価し、自分の意見を文章にまとめる。	・各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	春学期に同じ。
参考文献	春学期に同じ。
評価方法	春学期に同じ。

13 年度以降	英語Ⅲ（W）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
実質的なエッセイライティングを学ぶ。1パラグラフ内の論理構成の技術をもとに，複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための基礎練習を行う。実際のライティング作業においては最終的作文のみならず途中のプロセスが重視される。すなわちアイデアの取捨選択・構成や文章の編集などで、このためにブレーンストーミング、アウトラインプロセシング、資料の利用法といった新しい技法を学ぶ。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。 授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。	・各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	・Basic Steps to Writing Research Papers (Cengage)
参考文献	各クラスにおいて必要に応じ教員が指示する。
評価方法	テーマ毎の課題作文による到達目標の達成度（50%）、期末作文課題（20%）、授業参加態度（20%）、ポートフォリオ（10%）

13 年度以降	英語Ⅳ（W）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「英語Ⅲ（W）」に引き続き、実質的なエッセイライティングを学ぶ。1パラグラフ内の論理構成の技術をもとに、複数パラグラフによる文章構成法・変化の記述・原因-結果・説得・分類・対立意見の表現などの内容構成法におけるレポートやリサーチペーパー作成のための練習を行うが、いずれもより高度な内容を含み、より安定したスキルの証明が求められる。教科書に基づいたフォーマルな課題の練習の他、受講者各自の知識・関心・経験に関連する課題作文の練習を行う。このほか随時正書法上の重要事項を学習する。授業の主要な使用言語は英語とする。また、課外の作文課題は原則として機械清書をして提出するものとする。受講者は課題毎の提出物・課題に対する反省などをまとめたポートフォリオを作成することが求められる。 授業は英語で行われる。学生も英語で参加することが求められる。	・各担当教員が初回の授業で指示する。

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を総合的に習得し、「英語Ⅱ」よりも高いレベルで自分の見解をまとめ、アウトプットできるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	春学期に同じ。
参考文献	春学期に同じ。
評価方法	春学期に同じ。

13 年度以降	スペイン語 I （総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。（総合）は、スペイン語 I の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。 なお、この授業はスペイン語 I （総合2）とのペア授業である。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	1. 発音・アクセント 2. 発音・アクセント 3. 名詞の性・数、冠詞 4. 名詞の性・数、冠詞 5. 形容詞 6. ser, estar動詞の使い方 7. ser, estar動詞の使い方 8. 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 9. 代名詞の用法 10. 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 11. 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 12. 動詞の活用 --- 直説法現在不規則活用 13. 動詞の活用 --- 再帰動詞 14. 動詞の活用 --- 再帰動詞 15. 今学期の復習

到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I （青い表紙)” 朝日出版社
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅱ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅱ（総合 1）は、スペイン語 I （総合1, 2）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （総合）は、スペイン語Ⅱの中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使い方、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。 なお、この授業はスペイン語Ⅱ（総合2）とのペア授業である。 基本的に採用教科書に沿って右記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	1. 春学期の復習 2. 動詞の活用 --- 再帰動詞 3. 再帰動詞と諸用法 4. 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 5. 動詞の活用 --- 直説法現在完了形・現在進行形 6. 比較表現 7. 動詞の活用 --- 直説法点過去 8. 動詞の活用 --- 直説法線過去 9. 点過去と線過去の違い 10. 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 11. 動詞の活用 --- 未来形・過去未来形 12. 動詞の活用 --- 接続法現在規則活用 13. 動詞の活用 --- 接続法現在不規則活用 14. 命令表現 15. 今学期の復習

到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	テキスト：柳沼孝一郎 他 著 “Plaza Mayor I （青い表紙)” 朝日出版社
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅰ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（総合2）はスペイン語Ⅰ（総合1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅰ（総合1）と同（総合2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語Ⅰ（総合1）に同じ。

到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	スペイン語Ⅰ（総合 1）に同じ。
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅱ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（総合2）の継続の授業である。 スペイン語Ⅱ（総合2）はスペイン語Ⅱ（総合1）とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語Ⅱ（総合1）と同（総合2）のふたつを同時に履修することになる。	スペイン語Ⅱ（総合1）に同じ。

到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	スペイン語Ⅱ（総合 1）に同じ。
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （入門）では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文・聞き取りの練習をする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（入門）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	スペイン語－日本語辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（入門）の継続の授業である。接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （基礎表現）では、（総合1, 2）の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（基礎表現）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰは、スペイン語初習者向け入門の授業である。直説法現在形までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 （会話）では、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅰ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅰ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、挨拶、現在形の文をつかった習慣や情報、希望などを伝達、および聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	スペイン語－日本語の辞書。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入のこと。
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅰ（会話）の継続の授業である。 接続法現在形までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。 （会話）では、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）での文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。（会話）の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。	学習目標となる文法項目は、スペイン語Ⅱ（総合1, 2）の項目と同じであるが、（会話）ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語Ⅱ（総合1, 2）の「授業計画」を参照のこと。

到達目標	スペイン語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、過去形の使い方と接続法の活用、および日常生活に支障のない作文、聞きとりができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	担当者が随時紹介する
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、過去完了、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。	15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞きとりと場面設定に合わせた受け答えができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（総合）の継続の授業である。 （総合）の授業では、初級文法のうち、1年目で不十分だった接続法を中心に扱う。また、中級用の教材を用いて、未来・過去未来、過去完了、関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を図る。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。	15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。	15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞きとりと場面設定に合わせた受け答えができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（講読）の継続の授業である。 （講読）の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなう。それとともに（総合）の授業で学んだ新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使い語彙を増強することも意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。	15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（会話1）、（会話2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。	15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞きとりと場面設定に合わせた受け答えができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（会話1）の継続である。 （会話1）、（会話2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、（総合）での文法項目に沿った口答練習をおこない、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、スペイン語Ⅲに引き続いて、聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。	15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（会話1)、(会話2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、(総合）の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進める。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。	15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、接続法を中心とした表現や、比較的平易な物語・小説・評論の講読、および基本的な聞きとりと場面設定に合わせた受け答えができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ（会話1）の継続である。 （会話1)、(会話2）のいずれかの担当教員が（LL）の授業を担当し、他方が（会話）の授業を担当する。 （会話）の授業では、(総合）での文法項目に沿った口答練習をおこない、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目に沿って口答練習を中心に授業を進めるとともに、テーマを定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。 （LL）の授業では、総合的オーディオヴィジュアル教材を用いて、スペイン語Ⅲに引き続いて、聞き取り能力を定着させ、また場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。また語彙力の強化も図る。	15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、各種テーマに関する意見発表や、語彙が豊富な物語・小説・評論を講読できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	中国語Ⅰ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。	1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 基本語順、人称代詞、指示代詞、否定詞“不” 5. 反復疑問文、疑問詞疑問文、当否疑問文、連体修飾 6. 形容詞述語文、選択疑問文 7. 前半まとめ 8. 二重目的文、量詞 9. 連動文、年月日・曜日の言い方 10. “有／没有”、“几／多少”、方位詞、数詞 11. “在”、金額の表現 12. 助動詞、語気助詞“了” 13. 動態助詞“了”、時量・回数と時点、時間量の言い方 14. 後半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『中国語一年目の教科書　ユニバーサル・ユース』（好文出版）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅱ（総合 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，文法を中心として全般にわたって総合的に基礎力を養成する。	1. 主述述語文、程度補語、離合詞 2. 進行相、動詞の重ね型 3. 方向補語、結果補語 4. 持続相、可能補語 5. 経験相、将然相、時刻の表現 6. 存現文 7. 前半まとめ 8. “把”字文、定着表現、到達表現 9. 比較の表現 10. 受身文 11. 様態補語 12. 使役文、後置修飾 13. “（是）…的”構文 14. 後半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『中国語一年目の教科書　ユニバーサル・ユース』（好文出版）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅰ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，構文・作文力の基礎を養成する。	1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 第 1 課　姓名の表現 5. 第 2 課　判断の表現 6. 復習 7. 前半まとめ 8. 第 3 課　程度の表現（Ⅰ） 9. 第 4 課　行為の表現 10. 第 5 課　時間の表現 11. 復習 12. 第 6 課　所有の表現 13. 第 7 課　存在の表現（Ⅰ） 14. 後半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『新表現の達人Ⅰ』［基本ブック］（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅱ（総合 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，構文・作文力の基礎を養成する。	1. 第 8 課　生活習慣の表現 2. 第 9 課　行為完了の表現 3. 第 10 課　可能と許可の表現（Ⅰ） 4. 第 11 課　願望と感情の表現 5. 第 12 課　条件と選択の表現 6. 第 13 課　状態の持続と経験の表現 7. 前半まとめ 8. 第 14 課　程度の表現（Ⅱ） 9. 第 15 課　比較の表現（Ⅰ） 10. 第 16 課　動作の時間的な量と回数の表現 11. 復習 12. 第 17 課　動作の結果の表現（Ⅰ） 13. 第 18 課　可能の表現（Ⅱ） 14. 前半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『新表現の達人Ⅰ』［基本ブック］（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅰ（入門）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，発音指導を中心に，簡単な挨拶表現・応答表現などを学ぶ。	1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 第 1 課 5. 第 2 課 6. 第 3 課 7. 前半まとめ 8. 復習 9. 第 4 課 10. 第 5 課 11. 復習 12. 第 7 課 13. 第 8 課 14. 後半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『新版例解中国語入門　你问我答〔第２版〕』（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅱ（基礎表現）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，反復練習・暗誦を通し基礎表現を身につけさせる。	1. 第 9 課 2. 第 10 課 3. 第 11 課 4. 第 12 課 5. 第 13 課 6. 第 14 課 7. 前半まとめ 8. 第 15 課 9. 第 16 課 10. 第 17 課 11. 第 18 課 12. 第 19 課 13. 第 20 課 14. 後半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『新版例解中国語入門　你问我答〔第２版〕』（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅰ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「学習の基礎となる中国語表音ローマ字（ピンイン）・簡体字等に慣れるとともに，徹底した発音と聞き取りのトレーニングを行い，人称代詞・指示代詞・量詞・前置詞等の虚詞（機能語）を学び，かつ基本的な語順や修飾構造等の文の構成法を身につけ，中国語がどのような言語であるかを知り，その学習の基盤を作る」中国語Ⅰの学習目標の下，中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）	1. 発音（基本母音・声調）・ピンイン 2. 発音（声母）・ピンイン 3. 発音（韻母）・ピンイン 4. 第 1 課　姓名の表現 5. 第 2 課　判断の表現 6. 復習 7. 前半まとめ 8. 第 3 課　程度の表現（Ⅰ） 9. 第 4 課　行為の表現 10. 第 5 課　時間の表現 11. 復習 12. 第 6 課　所有の表現 13. 第 7 課　存在の表現（Ⅰ） 14. 後半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『表現の達人Ⅰ』［発展ブック］（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅱ（会話）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「実詞（名詞・動詞・形容詞等）面においても基本語彙の獲得に務め，その語彙を活用して，簡単な文を作る練習と相手の話す簡単な中国語を聞き取り理解する練習を行い，基礎的なトレーニングを積む。アスペクト体系や補語を用いる表現まで初級段階において習得すべき基本文法事項を学び，中国語学習の基礎力を養成する」中国語Ⅱの学習目標の下，中国語を聞き話す楽しさを学ぶ。（積極性を養成する）	1. 第 8 課　生活習慣の表現 2. 第 9 課　行為完了の表現 3. 第 10 課　可能と許可の表現（Ⅰ） 4. 第 11 課　願望と感情の表現 5. 第 12 課　条件と選択の表現 6. 第 13 課　状態の持続と経験の表現 7. 前半まとめ 8. 復習 9. 第 14 課　程度の表現（Ⅱ） 10. 第 15 課　比較の表現（Ⅰ） 11. 第 16 課　動作の時間的な量と回数の表現 12. 第 17 課　動作の結果の表現（Ⅰ） 13. 第 18 課　可能の表現（Ⅱ） 14. 後半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本語彙の増強を図ったうえで、各種の表現・作文、聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『表現の達人Ⅰ』［発展ブック］（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅲ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，作文のための基本文法を整理し，併せて虚詞（機能語）・文型を学んで，文の組み立てをしっかりつかませる。	1. 第 1 課 2. 第 2 課 3. 第 3 課 4. 第 4 課 5. 第 5 課 6. 第 6 課 7. 前半まとめ 8. 第 7 課 9. 第 8 課 10. 第 9 課 11. 第 10 課 12. 第 11 課 13. 第 12 課 14. 後半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『作文ルール６６　―　日中翻訳技法　―　』(朝日出版社)
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅳ（総合）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる。」中国語Ⅳの学習目標の下，作文のための基本文法を整理し，併せて虚詞（機能語）・文型を学んで，文の組み立てをしっかりつかませる。	1. 第 13 課 2. 第 14 課 3. 第 15 課 4. 愛 16 課 5. 第 17 課 6. 第 18 課 7. 前半まとめ 8. 第 19 課 9. 第 20 課 10. 第 21 課 11. 第 22 課 12. 第 23 課 13. 第 24 課 14. 後半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『作文ルール６６　―　日中翻訳技法　―　』(朝日出版社)
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅲ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。	1. 第 1 課 2. 第 2 課 3. 復習 4. 第 3 課 5. 第 4 課 6. 復習 7. 前半まとめ 8. 第 5 課 9. 第 6 課 10. 復習 11. 第 7 課 12. 読み物（プリント教材） 13. 読み物（プリント教材） 14. 後半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『系統的に学ぼう　中国語 2　中級読解コース』（白帝社）＋（各クラス担当者作成の）プリント教材
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅳ（講読）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下，一般的な文章を読み読解力の基礎を養成する。	1. 第 8 課 2. 第 9 課 3. 復習 4. 第 10 課 5. 第 11 課 6. 復習 7. 前半まとめ 8. 第 12 課 9. 第 13 課 10. 復習 11. 第 14 課 12. 読み物（プリント教材） 13. 読み物（プリント教材） 14. 後半まとめ 15. 復習 ※ 上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『系統的に学ぼう　中国語 2　中級読解コース』（白帝社）＋（各クラス担当者作成の）プリント教材
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字を立てる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅲ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得することを目標とします。 スムーズな会話を成立させるためには、 1．相手の話した音声を正確にキャッチする 2．音声を語として理解する 3．語の意味を捉える 4．語の並び方（語法）によって文の意味と発言の意図を理解する 5．相手の発言を聴きながら自分の応対を考える 6．聞き終わったあとに自分の考えを音声化して発話するという一連の作業が必要になります。以上のプロセスを意識した会話の能力を養います。 3課進むごとに復習テストを実施します。達成度によっては適宜副教材を使用します。	1. ガイダンス・ＰＣによる中国語の入力練習 2. 第１課 発音の復習 3. 第２課 新しい単語 4. 第３課 お名前は？ 5. 1～３課 復習テスト 解答と解説 6. 第４課 何時に起きますか？ 7. 第５課 いつですか？ 8. 第６課 いくらですか？ 9. ４～６課復習テスト 解答と解説 10. 第７課 新しい単語 11. 第８課 なにがありますか？ 12. 第９課 どこにありますか？ 13. 第10課 なにが好きですか？ 14. ７～10課復習テスト 解答と解説 15. 学期のまとめと総復習

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストの新出単語を暗記する。事後に「まとめの会話」を暗記する。
テキスト	『音で覚える中国語会話特訓』同学社
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	試験（復習テスト・期末テスト）75%、授業への参加度 25%で評価する。

13 年度以降	中国語Ⅳ（会話 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
練習問題を中心に中国語の基本的な表現を習得することを目標とします。 スムーズな会話を成立させるためには、 1．相手の話した音声を正確にキャッチする 2．音声を語として理解する 3．語の意味を捉える 4．語の並び方（語法）によって文の意味と発言の意図を理解する 5．相手の発言を聴きながら自分の応対を考える 6．聞き終わったあとに自分の考えを音声化して発話するという一連の作業が必要になります。以上のプロセスを意識した会話の能力を養います。 3課進むごとに復習テストを実施します。達成度によっては適宜副教材を使用します。	1. 春学期の復習 2. 第11課 何時間寝ましたか？ 3. 第12課 新しい単語 4. 第13課 誰に買ってあげますか？ 5. 11～13課 復習テスト 解答と解説 6. 第14課どこで勉強しますか？ 7. 第15課 なにが盗まれましたか？ 8. 第16課 何をしていますか？ 9. 14～16課 復習テスト 解答と解説 10. 第17課 新しい単語 11. 第18課 見たことがありますか？ 12. 第19課 たばこを吸ってもいいですか？ 13. 第20課 これより安いですか? 14. 17～20課 復習テスト 解答と解説 15. 学期のまとめ、総復習

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストの新出単語を暗記する。事後に「まとめの会話」を暗記する。
テキスト	『音で覚える中国語会話特訓』同学社
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	試験（復習テスト・期末テスト）75%、授業への参加度 25%で評価する。

13 年度以降	中国語Ⅲ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読み読解力の基礎を作るとともに，単文ではなく一定の長さをもったリスニングとスピーキングの訓練を行う。また，補語を中心に初級段階では運用するところまでは習得し得ていない文法事項についての能力を深め，同時に語彙力を増強し，識字数も増やす」中国語Ⅲの学習目標の下，話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い，会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※　教科書の話題に沿って会話練習を行う。 会話練習の中で語彙や表現を補い，日中の習慣の違いも学ぶ。	1.　第 1 課 2.　同上の応用練習 3.　第 2 課 4.　同上の応用練習 5.　第 3 課 6.　同上の応用練習 7.　前半まとめ 8.　第 4 課 9.　同上の応用練習 10.　第 5 課 11.　同上の応用練習 12.　第 6 課 13.　第 7 課 14.　第 6 課・第 7 課の応用練習 15.　後半まとめ ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『〔スリム版〕表現する中国語Ⅱ』（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	中国語Ⅳ（会話 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
「比較的平易な文章を読む練習を通して読解力の基礎を確かなものとし，一定の長さをもった内容について，リスニングとスピーキングの訓練を積み，基礎的運用能力を養う。また，多く呼応関係からなる文型表現を学び繰り返し練習し，もって作文力と読解力を向上させる」中国語Ⅳの学習目標の下，話題をめぐってまとまった内容を話す練習を行い，会話力に話題の広さと内容の深さを具わせる。 ※　教科書の話題に沿って会話練習を行う。 会話練習の中で語彙や表現を補い，日中の習慣の違いも学ぶ。	1.　第 8 課 2.　第 9 課 3.　第 8 課・第 9 課の応用練習 4.　第 10 課 5.　第 11 課 买东西 6.　第 10 課・第 11 課の応用練習 7.　前半まとめ 8.　第 12 課 9.　第 13 課 10.　第 12 課・第 13 課の応用練習 11.　第 14 課用練習 12.　第 14 課 13.　第 15 課 14.　第 14 課・第 15 課の応用練習 15.　後半まとめ ※　上記の進行表は，各クラスの授業の進度によってそれぞれ多少前後することがあります。

到達目標	中国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、さらなる語彙の増強を図ったうえで、多様な表現・作文、一般的な文章読解、様々な場面を想定した聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	語彙を中心に予習し，学習した例文を暗誦するなどして定着した知識とする。
テキスト	『〔スリム版〕表現する中国語Ⅱ』（白帝社）
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間試験・期末試験）70%，授業への参加度 30%

13 年度以降	韓国語 I （文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. ハングルのしくみ①② 2. ハングルのしくみ③④ 3. あいさつ①② 4. 名詞文 5. 存在文 6. 用言文 7. 数詞① 8. 数詞② 9. 否定形 10. 尊敬形 11. 連用形 12. 해요体 13. 해요体の尊敬形 14. 過去形 15. まとめ

到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
参考文献	授業中に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅱ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 基本事項の確認① 2. 連体形① 3. 連体形② 4. 未来意思形 5. ㄹ変則 6. ㄷ変則 7. ㅅ変則 8. ㅂ変則 9. ㅎ変則 10. 르変則 11. 1課復習 *ことばの架け橋中級表現編 12. 2課復習 13. 3課ぞんざいな文末表現 14. 3課推量表現 15. まとめ

到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまえ、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社　生越直樹『ことばの架け橋中級表現編』　白帝社
参考文献	授業中に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語 I （文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. ハングルのしくみ①② 2. ハングルのしくみ③④ 3. あいさつ①② 4. 名詞文 5. 存在文 6. 用言文 7. 数詞① 8. 数詞② 9. 否定形 10. 尊敬形 11. 連用形 12. 해요体 13. 해요体の尊敬形 14. 過去形 15. まとめ

到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社
参考文献	授業中に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅱ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 基本事項の確認① 2. 連体形① 3. 連体形② 4. 未来意思形 5. ㄹ変則 6. ㄷ変則 7. ㅅ変則 8. ㅂ変則 9. ㅎ変則 10. ㅡ変則 11. 1課復習*ことばの架け橋中級表現編 12. 2課復習 13. 3課ぞんざいな文末表現 14. 3課推量表現 15. まとめ

到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまえ、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹・チョ・ヒチョル『ことばの架け橋改訂版』白帝社　生越直樹『ことばの架け橋中級表現編』　白帝社
参考文献	授業中に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語 I （コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. 字母編①② 2. 字母編③④ 3. 1課 4. 2課 5. 3課 6. 4課 7. 5課 8. まとめ 9. 6課 10. 7課 11. 8課 12. 9課 13. 10課 14. 11課 15. まとめ

到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅱ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 12課 2. 13課 3. 14課 4. まとめ 5. 1課(西江NEW韓国語２A) 6. 2課 7. 3課 8. 4課 9. 5課 10. まとめ 11. 6課 12. 7課 13. 8課 14. 9課 15. まとめ

到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまえ、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press 西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 Student's Book 2A』
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語 I （コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は韓国語の基礎を習得することを目標とし、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能に重点を置く。 ハングルのしくみからはじめ簡単な挨拶、自己紹介、注文するなど、交流や日常生活に必要な基本文と共に、文化的知識を身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. 字母編①② 2. 字母編③④ 3. 1課 4. 2課 5. 3課 6. 4課 7. 5課 8. まとめ 9. 6課 10. 7課 11. 8課 12. 9課 13. 10課 14. 11課 15. まとめ

到達目標	韓国語基礎レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、基本的な表現、聞き取り、日常会話、意思疎通、パソコンでのハングル入力ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅱ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、過去形、未来形、変則用言などを学ぶことにより、韓国語の基礎を完成させることを目的とする。	1. 12課 2. 13課 3. 14課 4. まとめ 5. 1課（西江NEW韓国語） 6. 2課 7. 3課 8. 4課 9. 5課 10. まとめ 11. 6課 12. 7課 13. 8課 14. 9課 15. まとめ

到達目標	韓国語初級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、語彙の増強と言語文化的基礎知識の獲得をふまえ、日常生活に必要な作文、簡単な文章読解、会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	K.S.Jeong & S.S.Rung『おいしい KOREAN レッスン』Asahi Press 西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 Student's Book 2A』
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅲ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の富裕なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. 基本事項の確認 2. 4課 未来連体形 3. 4課 さまざまな表現 4. 5課 引用形 5. 5課 引用形のさまざまな表現 6. 6課 名詞化語尾 7. 6課 さまざまな表現 8. 7課 受身形 9. 7課 さまざまな表現 10. 8課 本文 11. 8課 さまざまな表現 12. 9課 本文 13. 9課 使役形 14. 10課 書き言葉の表現 15. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編　白帝社
参考文献	授業中に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（20%）、課題（20%）

13 年度以降	韓国語Ⅳ（文法・読解 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、特に「読む」と「書く」を中心にアカデミックライティングができることを目的とする。	1. 予備編① 2. 予備編② 3. 1章　対照 4. 1章の①② 5. 1章の③④ 6. 2章　定義 7. 2章の①② 8. 2章の③④ 9. 3章　部分否定・グラーフ 10. 3章の①② 11. 3章の③④ 12. 4章　理由、数式 13. 4章の①② 14. 4章の③④ 15. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『西江韓国語学問目的ライティング 3』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、課題（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅲ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った韓国語の知識を生かして、「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の上達を目標とする。 基本文型や文法知識を生かして韓国語の富裕なコミュニケーションを取れることを目的とする。韓国の文化的知識も身に付けていく。 「生きた韓国語」に接する機会をできるだけ多く提供していきたい。	1. 基本事項の確認 2. 4課 未来連体形 3. 4課 さまざまな表現 4. 5課 引用形 5 . 5課 引用形のさまざまな表現 6. 6課 名詞化語尾 7. 6課 さまざまな表現 8. 7課 受身形 9. 7課 さまざまな表現 10. 8課 本文 11. 8課 さまざまな表現 12. 9課 本文 13. 9課 使役形 14. 10課 書き言葉の表現 15. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	生越直樹『ことばの架け橋』中級表現編　白帝社
参考文献	授業中に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、小テスト（20%）、課題（20%）

13 年度以降	韓国語Ⅳ（文法・読解 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、春学期に学んだ単語、文法などを活用し、特に「読む」と「書く」を中心にアカデミックライティングができることを目的とする。	1. 予備編① 2. 予備編② 3. 1章　対照 4. 1章の①② 5. 1章の③④ 6. 2章　定義 7. 2章の①② 8. 2章の③④ 9. 3章　部分否定・グラーフ 10. 3章の①② 11. 3章の③④ 12. 4章　理由、数式 13. 4章の①② 14. 4章の③④ 15. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『西江韓国語学問目的ライティング 3』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、課題（40%）

13 年度以降	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 1課 描写する 2. 2課 推測する 3. 3課 提案する 4. 3課 約束する 5. 4課 比較する 6. 5課 助言する 7. 5課 言い訳する・助けを求める 8. 前半まとめ／中間テスト 9. 6課 推薦する 10. 6課 アクティビティ 11. 7課 心配を表現する 12. 8課 情報を話す 13. 8課 意見を話す 14. 9課 励ましの言葉 15. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 2B』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	中間テスト（20%）、期末テスト（60%）、小テスト（20%）

13 年度以降	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 1）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 1課 紹介 2. 2課 学校生活 3. 3課 家 4. 4課 招待と訪問 5. 4課 アクティビティ 6. 5課 外貌と性格 7. 5課 アクティビティ 8. 前半まとめ／中間テスト 9. 6課 問題 10. 6課 アクティビティ 11. 7課 仕事 12. 7課 アクティビティ 13. 8課 公共生活 14. 8課 アクティビティ 15. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 Student's Book 3A』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	中間テスト（20%）、期末テスト（60%）、小テスト（20%）

13 年度以降	韓国語Ⅲ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 1課 描写する 2. 2課 推測する 3. 3課 提案する 4. 3課 約束する 5. 4課 比較する 6. 5課 助言する 7. 5課 言い訳する・助けを求める 8. 前半まとめ／中間テスト 9. 6課 推薦する 10. 6課 アクティビティ 11. 7課 心配を表現する 12. 8課 情報を話す 13. 8課 意見を話す 14. 9課 励ましの言葉 15. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 2B』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	中間テスト（20%）、期末テスト（60%）、小テスト（20%）

13 年度以降	韓国語Ⅳ（コミュニケーション 2）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は1年生の時に習った内容を復習しつつ、新しい文法の知識や語彙を増やすことにより、より高度な韓国語の表現力の習得をめざす。 履修者には韓国語ができるという実感と実際のコミュニケーションができるように期待したい。	1. 1課 紹介 2. 2課 学校生活 3. 3課 家 4. 4課 招待と訪問 5. 4課 アクティビティ 6. 5課 外貌と性格 7. 5課 アクティビティ 8. 前半まとめ／中間テスト 9. 6課 問題 10. 6課 アクティビティ 11. 7課 仕事 12. 7課 アクティビティ 13. 8課 公共生活 14. 8課 アクティビティ 15. まとめ

到達目標	韓国語中級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、長文テキストおよび新聞・雑誌記事など実用文の読解、聴解、様々な場面を想定した会話、意思疎通ができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『NEW 西江韓国語 Student's Book 3A』西江大学韓国語教育院
参考文献	授業中に指示します。
評価方法	中間テスト（20%）、期末テスト（60%）、小テスト（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）(Global Issues A)	担当者	R．ラビーニ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Alternative Global Issues In this course students, will examine issues connected to alternative media including topics on the pharmaceutical industry and health matters. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction and overview 2. Choosing a Topic and Discussion / Titles 3. Topics Proposals / Outlines 4. Plagiarism and Referencing 5. Paraphrasing and quotations 6. Research paper: writing an abstract 7. Research paper: detailed outline 8. Editing and Peer Review I 9. Research paper: first draft and conferencing 10. Editing and Peer Review II / Revised Draft 11. Presentation Preparation 12. Research paper: Final draft 13. Oral presentation 1: group A 14. Oral presentation 1: group B 15. Oral presentation 2: group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Cengage Learning). ISBN 978-4-902902-89-1
参考文献	Handouts will be given by the teacher periodically
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級（AE）(Global Issues B)	担当者	R．ラビーニ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Alternative Global Issues In this course, students will examine issues connected to alternative media including topics on the environment and international conflicts. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction and overview 2. Choosing a Topic and Discussion / Titles 3. Topics Proposals / Outlines 4. Plagiarism and Referencing 5. Paraphrasing and quotations 6. Research paper: writing an abstract 7. Research paper: detailed outline 8. Editing and Peer Review I 9. Research paper: first draft and conferencing 10. Editing and Peer Review II / Revised Draft 11. Presentation Preparation 12. Research paper: Final draft 13. Oral presentation 1: group A 14. Oral presentation 1: group B 15. Oral presentation 2: group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Cengage Learning). ISBN 978-4-902902-89-1
参考文献	Handouts will be given by the teacher periodically
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級 (AE) (History of the Home: the Heart of Research 1800s)	担当者	Ｊ．Ｇ．ショールツ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Students will study the physical, social and economic histories of the home and how research in these three different fields can be combined into a cohesive whole. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction 2. Topics and sources 3. The working outline/research discussion 4. 〃 5. Style/research discussion 6. Writing the introduction/research discussion 7. Writing the first draft/group share 8. Writing the body/group share 9. 〃 10. First draft/group share 11. Avoiding Plagiarism 12. Evaluating and rewriting 13. Presentations (1) 14. Presentations (2) 15. Presentations (3)

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Reading materials on the theme of the course will be provided by the professor.
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級 (AE) (History of the Home: the Heart of Research 1900s)	担当者	Ｊ．Ｇ．ショールツ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Students will study the physical, social and economic histories of the home and how research in these three different fields can be combined into a cohesive whole. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction 2. Topics and sources 3. The working outline/research discussion 4. 〃 5. Style/research discussion 6. Writing the introduction/research discussion 7. Writing the first draft/group share 8. Writing the body/group share 9. 〃 10. First draft/group share 11. Avoiding Plagiarism 12. Evaluating and rewriting 13. Presentations (1) 14. Presentations (2) 15. Presentations (3)

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Reading materials on the theme of the course will be provided by the professor.
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）(The Golden Ages of Japanese Film)	担当者	M．ハルデイン

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Students will watch Japanese films covering a range of themes in order to learn about the history of Japanese cinema and of the society the films reflect. They will also learn how to analyse a film. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction; The History of Japanese Cinema 2. 楢山節考（1958): Abandoning the Old 3. はなれ瞽女おりん: Social Outcasts 4. ゴジラ: Ethics and the Bomb 5. 蛍の墓: Childhood and Impermanence 6. Research paper: topic and bibliography 7. Research paper: detailed outline /鬼婆: The Animal Inside 8. 人情紙風船: Poverty and Censorship 9. 雨月物語: Ambition, Folly, and Fidelity 10. Research Paper: First Draft 11. 東京物語: The Slow Separation of the Family 12. 七人の侍: The Power of the Group 13. Research Paper: Revised Draft 14. Presentations (1) 15. Presentations (2)

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Cengage Learning). ISBN 978-4-902902-89-1
参考文献	特になし
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級 (AE) (The Golden Ages of Japanese Cinema)	担当者	M．ハルデイン

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Students will watch Japanese films covering a range of themes in order to learn about the history of Japanese cinema and of the society the films reflect. They will also learn how to analyse a film. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction; The History of Japanese Cinema 2. 楢山節考（1958): Abandoning the Old 3. はなれ瞽女おりん: Social Outcasts 4. ゴジラ: Ethics and the Bomb 5. 蛍の墓: Childhood and Impermanence 6. Research paper: topic and bibliography 7. Research paper: detailed outline /鬼婆: The Animal Inside 8. 人情紙風船: Poverty and Censorship 9. 雨月物語: Ambition, Folly, and Fidelity 10. Research Paper: First Draft 11. 東京物語: The Slow Separation of the Family 12. 七人の侍: The Power of the Group 13. Research Paper: Revised Draft 14. Presentations (1) 15. Presentations (2)

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge and Taylor, Cengage Learning). ISBN 978-4-902902-89-1
参考文献	特になし
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級（AE）（Turning Points – Pre-1900）	担当者	J．ハンクス

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Students will discover a variety of pre-20th century turning points. Topics can cover a wide range including, but not limited to culture, social science, fashion, and law. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	Week 1: Introduction and Objectives Week 2: Discussion of possible topics – Turning Points Week 3: Topic proposals and approval: outline worksheet Week 4: Topic Q&A: peer input Week 5: Research paper: topic and bibliography Week 6: Research paper: detailed outline Week 7: Evaluating sources: (reliability / bias) Week 8: 1st draft editing / Peer review -1 Week 9: Research paper: first draft and conferencing Week 10: Conferencing (cont.) Week 11: Revised draft editing / Peer Review -2 Week 12: Research paper: revised draft Week 13: Oral presentation 1: group A Week 14: Oral presentation 2: group B Week 15: Oral presentation 3: group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Materials will be provided by the instructor.
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product)，口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）（Turning Points - 20th Century）	担当者	J．ハンクス

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Students will discover a variety of 20th century turning points. Topics can cover a wide range including, but not limited to culture, social science, fashion, and law. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	Week 1: Introduction and Objectives Week 2: Discussion of possible topics –Turning Points Week 3: Topic proposals and approval: outline worksheet Week 4: Topic Q&A: peer input Week 5: Research paper: topic and bibliography Week 6: Research paper: detailed outline Week 7: Evaluating sources: (reliability / bias) Week 8: 1st draft editing / Peer review -1 Week 9: Research paper: first draft and conferencing Week 10: Conferencing (cont.) Week 11: Revised draft editing / Peer Review -2 Week 12: Research paper: revised draft Week 13: Oral presentation 1: group A Week 14: Oral presentation 2: group B Week 15: Oral presentation 3: group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Materials will be provided by the instructor.
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product)，口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級 (AE) (Social Media)	担当者	B．ゲンチ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will explore various issues related to social media by reading scholarly articles written on the topic. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction 2. Discussion Week: 6 ways social media harms us 3. Discussion Week: What about the benefits? 4. Research Paper: Structure of Introduction Paragraph 5. Research Paper: Structure of Body Paragraph 6. Research Paper: Topic and Bibliography 7. Research Paper: Detailed Outline 8. Research Paper: How to Quote and Paraphrase 9. Research Paper: First Draft and Conferencing 10. Discussion Week: A tool of manipulation? 11. Discussion Week: Social media in Education 12. Revised Draft and Feedback 13. Oral Presentations 14. Oral Presentations 15. Oral Presentations

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Reading materials on the theme of the course will be provided by the professor.
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級 (AE) (Decreasing Population of Japan)	担当者	B．ゲンチ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will explore the theme, Population Problem in Japan, from various perspectives by reading scholarly articles. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction 2. Discussion Week: Demographic time bomb in action 3. Discussion Week: Humanoids instead of humans? 4. Research Paper: Structure of Introduction Paragraph 5. Research Paper: Structure of Body Paragraph 6. Research Paper: Topic and Bibliography 7. Research Paper: Detailed Outline 8. Research Paper: How to Quote and Paraphrase 9. Research Paper: First Draft and Conferencing 10. Discussion Week: More women in the workforce 11. Discussion Week: What about working mothers? 12. Revised Draft and Final Feedback 13. Oral Presentations 14. Oral Presentations 15. Oral Presentations

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Reading materials on the theme of the course will be provided by the professor.
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級　(AE)　School Bullying	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine different aspects of 'School Bullying' at middle schools in the United States. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1　Introduction 2　Learn definitions of bulling 3　Discuss bullying 4　Discuss what causes school bulling 5　Discuss different kinds of school bullying comparing US and Japan 6　Discuss prevention measures to stop bullyings 7　Discuss what adults can do 8　Watch film to discuss school bullying 9　Learn about structure and footnotes of research paper 10　Retrieve rough drafts for research paper 11　Return checked rough drafts with comments 12　Presentation1:Group A and retrieve research papers 13　Presentation2:Group B and retrieve research papers 14　Presentation3:Group C and retrieve research papers 15　Return research papers with comments

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	電子ファイル
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級　(AE) Animals and Domestication School Bullying	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine different aspects of domestication of Animals and human beings. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1　introduction 2　Learn definitions of domestication and taming and discuss pets you have ever kept 3　Discuss when humans started practicing domestication 4　Discuss what makes an animal possible to domesticate 5　Discuss if domesticated species are all mutants 6　Discuss what happens when you domesticate a species? 7　Discuss if humans are domesticated 8　Watch film to discuss limitation of animal domestication 9　Learn about structure and footnotes of research paper 10　Retrieve rough drafts for research paper 11　Return checked rough drafts with comments 12　Presentation1:Group A and retrieve research papers 13　Presentation2:Group B and retrieve research papers 14　Presentation3:Group C and retrieve research papers 15　Return research papers with comments

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	電子ファイル
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE） (Technology in Our Lives)	担当者	中村　香代子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine how technology benefits and affects our lives today. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1　Introduction and Course Overview 2　Reading & Discussion on Topic 1 3　Reading & Discussion on Topic 2 4　Reading & Discussion on Topic 3 5　Research Paper：Thesis and Detailed Outline 6　Reading & Discussion on Topic 4 7　Reading & Discussion on Topic 5 8　Research Paper：First Draft and Conferencing 9　Reading & Discussion on Topic 6 10　Research Paper：Group Work 11　Research Paper：Revised Draft 12　Oral Presentation 1：Group A 13　Oral Presentation 2：Group B 14　Oral Presentation 3：Group C 15　Peer Review & Discussion

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	*Basic Steps for Writing Research Papers* (Kluge & Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 & 配布資料
参考文献	授業中に紹介
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%），research paper (55%: outline, drafts, final product)，口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE） (Science and Ethics)	担当者	中村　香代子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine several issues about the risks and ethical problems scientific advances bring us. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1　Introduction and Course Overview 2　Reading & Discussion on Topic 1 3　Reading & Discussion on Topic 2 4　Reading & Discussion on Topic 3 5　Research Paper：Thesis and Detailed Outline 6　Reading & Discussion on Topic 4 7　Reading & Discussion on Topic 5 8　Research Paper：First Draft and Conferencing 9　Reading & Discussion on Topic 6 10　Research Paper：Group Work 11　Research Paper：Revised Draft 12　Oral Presentation 1：Group A 13　Oral Presentation 2：Group B 14　Oral Presentation 3：Group C 15　Peer Review & Discussion

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term
テキスト	*Basic Steps for Writing Research Papers* (Kluge & Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 & 配布資料
参考文献	授業中に紹介
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%），research paper (55%: outline, drafts, final product)，口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）（Literacy in languages and linguistics）	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
□Content This class deals with common misunderstandings about … ・geographical, sociological, and historical aspects of language and languages ・native language development ・prescriptivism vs. objective description of language □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1 Myth 1: The Meanings of Words Should Not be Allowed to Vary or Change 2 Myth 3: The Media are Ruining English 3 Myth 5: English Spelling is Kattastroffik 4 Myth 6: Women Talk Too Much 5 Myth 7: Some Languages are Harder than Others 6 Myth 10: Some Languages Have No Grammar Research paper: outline deadline 7 Myth 12: Bad Grammar is Slovenly 8 Myth 13: Black Children are Verbally Deprived 9 Myth 14: Double Negatives are Illogical Research paper: draft deadline 10 Myth 16: You Shouldn't Say 'It is Me' because 'Me' is Accusative 11 Myth 17: They Speak Really Bad English Down South and in New York City 12 Myth 21: America is Ruining the English Language 13 Research paper: revision deadline Oral presentation: Group A 14 Oral presentation: Group B 15 Oral presentation: Group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	(1) Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge & Taylor, Cengage Learning, ISBN978-4-902902-89-1) (2) Language Myths (L. Bauer & P. Trudgill, Penguin Books, ISBN 978-0140260236)
参考文献	特になし
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）（Discovering Japan through Foreign Media）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine how Japan is portrayed in foreign media such as webpage, news reports, books, films, etc. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction 2. Essays on Tokyo (Why ask me?) 3. Essays on Tokyo (The Language Dance) 4. Webpage articles on Japan 5. News reports on Japan 6. Research paper: topic and bibliography 7. Research paper: detailed outline 8. Travel guides to Japan 9. Research paper: first draft and conferencing 10. Japanese characters on foreign films 11. Linguistic landscape of Japan 12. Research paper: revised draft 13. Oral presentation 1: group A 14. Oral presentation 2: group B 15. Oral presentation 3: group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および配布資料
参考文献	特になし
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）（Global Issues）	担当者	小瀬　百合子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine several global issues (e.g., racism, global warming and human rights). □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction, Racism 2. Communication 3. Global Warming 4. Endangered Species 5. Human Rights 6. Research Paper: topic and bibliography 7. Research Paper: detailed outline 8. War and Peace 9. Research Paper: first draft 10. Food 11. Health 12. Research Paper: Revised draft 13. Oral Presentation 1: Group A 14. Oral Presentation 2: Group B 15. Oral Presentation 3: Group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	*Basic Steps to Writing Research Papers* & *CLIL Global Issues* (Sasajima, Sanshusha) ISBN978-4-384-33433-3
参考文献	なし
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）（Current News）	担当者	小瀬　百合子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine current news in several areas (e.g., business, technology and culture). □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction, Education 2. Culture 3. Technology 4. Business 5. Environment 6. Research Paper: topic and bibliography 7. Research Paper: detailed outline 8. Politics 9. Research Paper: first draft 10. Health 11. Sports 12. Research Paper: Revised draft 13. Oral Presentation 1: Group A 14. Oral Presentation 2: Group B 15. Oral Presentation 3: Group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	*Basic Steps to Writing Research Papers* (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1&配布資料
参考文献	なし
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）（K-12 Education in Japan）	担当者	ロン　美香

講義目的、講義概要	授業計画
□Content This course will look into educational issues in Japan. The focus will be on K-12 with emphasis on English education. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction and Orientation 2. Reading & Discussion for issues of K6 3. Writing & Presentation for issues of K6 4. Reading & Discussion for issues of Junior/Senior high school 5. Writing & Presentation for issues of Junior/Senior high school 6. Reading & Discussion for issues of extracurricular activities 7. Writing & Presentation for issues of extracurricular activities 8. Mid-term Presentation 9. Reading & Discussion for issues of entrance examination 10. Writing & Discussion for issues of entrance examination 11. Editing/Peer Review 12. Editing Workshop 13. Final Presentation: Group 1 14. Final Presentation: Group 2 15. Final Presentation: Group 3

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Related reading materials will be either distributed by the instructor or collected by students
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）（A Compararison of Educational Issues)	担当者	ロン 美香

講義目的、講義概要	授業計画
□Content This course will compare educational issues in Japan and abroad. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction and Orientation 2. Reading & Discussion for issues of education in Japan 3. Writing & Presentation for issues of education in Japan 4. Reading & Discussion for issues of education in America 5. Writing & Presentation for issues of education in America 6. Reading & Discussion for issues of education in Asia 7. Writing & Presentation for issues of education in Asia 8. Mid-term Presentation 9. Reading & Discussion for issues of education in Europe 10. Writing & Discussion for issues of education in Europe 11. Editing/Peer Review 12. Editing Workshop 13. Final Presentation: Group 1 14. Final Presentation: Group 2 15. Final Presentation: Group 3

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Related reading materials will be either distributed by the instructor or collected by students
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）(Global Issues I)	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content The purpose of this course is to help students explore interconnected global issues and challenges from multiple perspectives. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction / Patterns of organization in English 2. Stereotypes and Racism 3. Information and Communication 4. Culture and Fashion 5. Health 6. Food 7. A Sound Material-Cycle Society 8. Global Warming 9. Research paper: topic and bibliography 10. Research paper: detailed outline 11. Research paper: first draft and conferencing 12. Research paper: revised draft 13. Oral presentation 1: group A 14. Oral presentation 2: group B 15. Oral presentation 3: group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および CLIL GLOBAL ISSUES
参考文献	Handouts (authentic materials) /　　(Sasajima, S.,*et al.*, SANSHUSHA)
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級（AE）(Global Issues II)	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
□Content The purpose of this course is to help students examine interrelated global issues from multiple perspectives in an interdependent global community. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction /　Patterns of organization in English 2. Energy 3. Ecosystems and Humans 4. Endangered Species 5. International Relationships 6. War and Peace 7. Human Rights 8. Global Citizenship 9. Research paper: topic and bibliography 10. Research paper: detailed outline 11. Research paper: first draft and conferencing 12. Research paper: revised draft 13. Oral presentation 1: group A 14. Oral presentation 2: group B 15. Oral presentation 3: group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1 および CLIL GLOBAL ISSUES
参考文献	*n Advanced Introduction to Globalisation* (Michie, J., Edward Elgar) /　　(Sasajima, S., *et al.,* SANSHUSHA)
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級_再履修	担当者	O．シャトノバ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content In this course, students will examine and discuss contemporary issues, including technological innovations, food safety, environmental changes, etc. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1: Introduction 2: Reading & Discussion: *Changing Climate, Changing Minds* 3: Reading & Discussion: *Lucky Discoveries* 4: Research paper: Avoiding Plagiarism. Citation. 5: Reading & Discussion: *Breaking the Cycle of Poverty* 6: Research paper: topic and bibliography 7: Research paper: detailed outline 8: Reading & Discussion: *Food revolution* 9: Research paper: first draft and conferencing 10: Reading & Discussion: *Happy Planet* 11: Research paper: Editing. Peer review. 12: Research paper: revised draft 13: Oral Presentation: group A 14: Oral Presentation: group B 15: Oral Presentation: group C

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	All readings will be provided by the instructor.
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級_再履修	担当者	J．G．ショールツ

講義目的、講義概要	授業計画
□Content Students will study the physical, social and economic histories of the home and how research in these three different fields can be combined into a cohesive whole. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction 2. Topics and sources 3. The working outline/research discussion 4. 〃 5. Style/research discussion 6. Writing the introduction/research discussion 7. Writing the first draft/group share 8. Writing the body/group share 9. 〃 10. First draft/group share 11. Avoiding Plagiarism 12. Evaluating and rewriting 13. Presentations (1) 14. Presentations (2) 15. Presentations (3)

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Reading materials on the theme of the course will be provided by the professor.
評価方法	準備・参加（10%），課題（15%), research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%)

13 年度以降	英語上級_再履修	担当者	ロン　美香

講義目的、講義概要	授業計画
□Content This course will look into educational issues in Japan. The focus will be on K-12 with emphasis on English education. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation 600-900 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction and Orientation 2. Reading & Discussion for issues of K6 3. Writing & Presentation for issues of K6 4. Reading & Discussion for issues of Junior/Senior high school 5. Writing & Presentation for issues of Junior/Senior high school 6. Reading & Discussion for issues of extracurricular activities 7. Writing & Presentation for issues of extracurricular activities 8. Mid-term Presentation 9. Reading & Discussion for issues of entrance examination 10. Writing & Discussion for issues of entrance examination 11. Editing/Peer Review 12. Editing Workshop 13. Final Presentation: Group 1 14. Final Presentation: Group 2 15. Final Presentation: Group 3

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Related reading materials will be either distributed by the instructor or collected by students
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語上級_再履修	担当者	ロン　美香

講義目的、講義概要	授業計画
□Content This course will compare educational issues in Japan and abroad. □Reading & Discussion ・read and evaluate texts in social sciences and humanities ・express one's opinions about the course topic in a discussion constructively □Writing & Presentations ・write a research paper on the course topic with appropriate citation (700-1,000 words + bibliography) ・make a visually aided presentation of the paper Class is taught and participated in English.	1. Introduction and Orientation 2. Reading & Discussion for issues of education in Japan 3. Writing & Presentation for issues of education in Japan 4. Reading & Discussion for issues of education in America 5. Writing & Presentation for issues of education in America 6. Reading & Discussion for issues of education in Asia 7. Writing & Presentation for issues of education in Asia 8. Mid-term Presentation 9. Reading & Discussion for issues of education in Europe 10. Writing & Discussion for issues of education in Europe 11. Editing/Peer Review 12. Editing Workshop 13. Final Presentation: Group 1 14. Final Presentation: Group 2 15. Final Presentation: Group 3

到達目標	リーディングおよびディスカッション、ライティング、スピーキングといった英語運用能力を上級レベルで総合的に習得し、専門性のあるテーマに関して短い論文を作成し、口頭発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	Read textbook units or other assigned readings and complete all assignments before beginning of the following class. Students are also expected to work on the research paper throughout the term.
テキスト	Basic Steps to Writing Research Papers (Kluge&Taylor, Cengage Learning) ISBN978-4-902902-89-1
参考文献	Related reading materials will be either distributed by the instructor or collected by students
評価方法	準備・参加（10%）, 課題（15%）, research paper (55%: outline, drafts, final product), 口頭発表（20%）

13 年度以降	英語演習 I （クリティカル・シンキング）	担当者	澁井　とし子

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル時代に必要な英語力と課題解決力を段階的に授業で養成します。クリティカル・シンキングの考え方を学びながら、現代社会の重要な問題について、自分で考える力を身に付けられるよう、各章で取り上げた問題に関して様々な考え方を英語で読み、聞くことで、議論する力を養います。	1. 講義の概要 2. Study Abroad　reading & discussion 3. Study Abroad　listening & discussion 4. Nuclear Power　reading & discussion 5. Nuclear Power　listening & discussion 6. Immigration　reading & &discussion 7. Immigration　listening & discussion 8. The Social Safety Net　reading & discussion 9. The Social Safety Net　listening & discussion 10. Global Warming　reading & discussion 11. Global Warming　listening & discussion 12. Women in the Workplace　reading & discussion 13. Women in the Workplace　listening & discussion 14. School on Saturdays 15. 講義のまとめ

到達目標	「英語 I ～IV」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修は、各ユニットの"Preview"部分を読み、"Warm-up Discussion"に答えておいてください。事後学修は、授業で何を学んだかを整理し、語彙を覚え、自分の考えを整理しておいてください。
テキスト	Michael Hood 著『Think Smart』（金星堂、2018 年）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	プレゼンテーション 30%、小テスト 30%、レポート 30%、授業への参加度 10%

13 年度以降	英語演習 I （映画とレクチャーで学ぶ異文化コミュニケーション）	担当者	中村　香代子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では異文化コミュニケーションに関する様々なトピックを軸に、総合的な英語力向上を目指します。映画「グラントリノ」を使ってたっぷりリスニング練習をすると共に、映画中の役立つ表現を覚え、ロールプレイを通して会話の自然なリズムやスピードを身につけて行きます。 コース後半ではレクチャーやリーディングを通してトピックの理解を更に深めます。また映画やリーディングの内容についてディスカッションを重ねることで、スピーキング力も鍛えていきます。 学期末にはクラスで扱ったトピックに関して各自プレゼンテーションをしてもらいます。その準備過程がリーディング・ライティング練習になるのはもちろんですが、効果的な発表の仕方やレジメの書き方も一緒に学びましょう。	1　ガイダンス 2　映画（リスニング・ディスカッション）生と死 3　映画（リスニング・ディスカッション）戦争の英雄 4　映画（リスニング・ディスカッション）新しい文化 5　映画（リスニング・ディスカッション）文化的タブー 6　映画（リスニング・ディスカッション）人生の道 7　映画（リスニング・ディスカッション）誤解 8　映画（リスニング・ディスカッション）解決策 9　英語表現クイズとロールプレイテスト 10　異文化コミュニケーション（リーディング） 11　ノンバーバルコミュニケーション（身振り・時間） 12　ノンバーバルコミュニケーション　（空間・接触） 13　ノンバーバルコミュニケーション　（パラ言語） 14　プレゼンテーション 15　プレゼンテーション

到達目標	「英語 I ～IV」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で学んだ英語表現の復習や音読の練習をしっかりしておいて下さい。 また、リーディングや講義プリントは意味を調べて、内容を予習しておきましょう。
テキスト	教材プリントは教員が準備・配布します。
参考文献	授業中に紹介
評価方法	授業態度とディスカッションにおける貢献度（30%）、英語表現クイズとロールプレイ（40%）、プレゼンテーション（30%）で総合的に評価します。

13 年度以降	英語演習 II（The Screenplay and Formal Analysis）	担当者	Ｊ．Ｇ．ショールツ

講義目的、講義概要	授業計画
Students will learn how to write a screenplay and to do formal analysis and how both can be applied to other fields.	1. Introduction 2. Professional Development 3. Introduction to Screenwriting 4. Introduction to Formal Analysis 5. Class Analysis 6. The Screenplay 7. Direction/Class Analysis 8. Dialogue/Class Analysis 9. Analysis Essay 10. Analysis Essay Introduction 11. Essay Development/Class Analysis 12. Essay Conclusion/Class Analysis 13. Script Readings 14. Presentations 15. Presentations

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to prepare for class discussions, write an essay, write part of a short screenplay and present their analysis of a chosen film.
テキスト	Students are not required to buy a textbook
参考文献	Reading materials and questions will be provided by the professor.
評価方法	assignments 30% presentation 20% writing 50% 出席：出席を大前とし、5 回以上した場合不合格する。

13 年度以降	英語演習 II （映画英語）	担当者	中込　知子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ジャーナリストを目指す 20 代の女性が主人公のファッション業界を背景とした映画 The Devil Wears Prada を教材として、英語圏の文化を学び、日常生活またビジネスで話される英語のスピードに慣れ聴解力と発話力の向上を目指す。 講義概要 オーバーラッピングやシャドーイングをしながら発音、イントネーション、リエゾン等のプロソディーを身に付けていき、最終的には映画のいくつかのシーンを英語でダビングやグループでのロールプレイができるよう台詞に慣れていく。また、グループディスカッションで登場人物の会話の含みを考えていく。 グループプロジェクトとして 1 シーンの script の共同執筆、ロールプレイの発表がある。	1. Introduction 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. Discussion 15. Review

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	前回の授業の復習と事前に指示された部分の予習をしてくること。
テキスト	Aline Brosh McKenna, *The Devil Wears Prada* 松柏社
参考文献	特になし
評価方法	授業への積極的参加度（30%）　課題、口頭発表（40%）　期末テスト（30%）

13 年度以降	英語演習Ⅱ　(Consumer Society)	担当者	Ｂ．ゲンチ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the notion Consumer Culture and explore its different aspects as well as its influence on human relations. The goal of the course is to improve students' reading and discussion skills.	1. Orientation and Introduction 2. How Humans Became Consumers? 3. How Humans Became Consumers? 4. How Humans Became Consumers? 5. What Is Conspicuous Consumption: Thorstein Veblen 6. The New Mind Manipulators 7. The New Mind Manipulators 8. Being Busy as a Symbol of Status 9. Wellness Boom 10. Oral Presentation Structure and Template 11. Use of Visuals in Presentations 12. A Guide to Effective Question and Answer Session 13. Presentations 14. Presentations 15. Presentations

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to answer the questions on the assigned reading materials prior to the class and should bring a printed copy of their answers to the class. Handwriting is not accepted.
テキスト	Students are not required to buy a textbook
参考文献	Reading materials and questions will be provided by the professor.
評価方法	準備・参加 20% 課題 40% 口頭発表 40%　出席：出席を大前とし、5 回以上した場合不合格する。

13 年度以降	英語演習Ⅱ（Kawaii Culture）	担当者	Ｂ．ゲンチ

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, students will read scholarly articles on Kawaii culture and examine its social implications from various perspectives. The goal of the course is to improve students' reading and discussion skills.	1. Orientation and Introduction 2. What is Kawaii?: Four Definitions Explored 3. The New Science of Cute 4. The New Science of Cute 5. The New Science of Cute 6. Kawaii in a Gendered Context: Cute or Capable? 7. Kawaii in a Gendered Context: Cute and Masculine? 8. Cuteness as a New Drug 9. Power of Cute Puppies 10. Oral Presentation Structure and Template 11. Use of Visuals in Presentations 12. A Guide to effective Question and Answer Sessions 13. Presentations 14. Presentations 15. Presentations

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to answer questions on the assigned reading materials prior to the class and should bring a printed copy of their answers to the class. Handwriting is not accepted.
テキスト	Students are not required to buy a textbook.
参考文献	Reding materials and questions will be provided by the professor.
評価方法	準備・参加 20% 課題 40% 口頭発表 40% 出席：出席を大前とし、5 回以上した場合不合格する。

13 年度以降	英語演習Ⅱ（現代世界 1）	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
■本講座の主目的は，英語を媒体とし，（1）現代世界における課題やトレンドを切り口として英語力を向上させる。（2）多岐に亘るトピック及びテーマを通じて多様な視点や包括的に物事を見る力を培う。（3）国際社会に必要なスキルの向上を目指す，の３点である。 ■授業構成は，（1）ウォームアップ（2）インプット（3）アウトプットの３段階とし，授業は全て英語で行う。 ◆インプットでは，クラスで英語の読み物や視覚教材等を幅広い観点から共有し，各トピック・テーマへの理解を深め，リスニングやリーディング力の向上を図る。 ◆アウトプットでは，自らの考えを基に，ファシリテーション，ディスカッション，ディベート，ネゴシエーション，ペア/ グループワーク，プレゼンテーション等を行い英語による発信力を鍛える。	１．オリエンテーション ２．◆導入・現代世界の諸相 ◆アカデミック・スキルズのレビュー ３～７　（1）トピック別学習 （2） 活動・課題 ８　３～７のまとめとプレゼンテーション ９～１３　（1）テーマ別学習 （2）活動・課題 １４　９～１３のまとめ・学期の復習 １５　グループプロジェクト・プレゼンテーション 評価

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎時のトピック・テーマについての予習・復習及び課題
テキスト	随時プリント・資料を配布
参考文献	随時紹介
評価方法	授業への参加度・貢献度　２０％　クラス内外の課題　５０％　　プレゼンテーション　３０％

13 年度以降	英語演習Ⅱ（現代世界 2）	担当者	奥平　文子

講義目的、講義概要	授業計画
■本講座の主目的は、英語を媒体とし，（1）現代世界における課題やトレンドを切り口として英語力を向上させる。（2）多岐に亘るトピック及びテーマ学習を通じて多様な視点や包括的に物事を見る力を培う。（3）国際社会に必要なスキルの向上を目指す，の３点である。 ■授業構成は、（1）ウォームアップ（2）インプット（3）アウトプットの３段階とし，授業は全て英語で行う。 ◆インプットでは，クラスで英語の読み物や視覚教材等を幅広い観点から共有するとともに，トピック・テーマへの理解を深め，リスニングやリーディング力の向上を図る。 ◆アウトプットでは，自らの考えを基に，ファシリテーション，ディスカッション，ディベート，ネゴシエーション，ペア/ グループワーク，プレゼンテーション等を行い英語による発信力を鍛える。	１．オリエンテーション ２．◆導入・現代世界の諸相 ◆アカデミック・スキルズのレビュー ３～7　（1）トピック別学習 （2）活動・課題 ８　３～７のまとめとプレゼンテーション ９～１３　（1）テーマ別学習 （2）活動・課題 １４　９～１３のまとめ・学期の復習 １５　グループプロジェクト・プレゼンテーション 評価

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎時のトピック・テーマについての予習・復習および課題
テキスト	随時プリント・資料を配布
参考文献	随時紹介
評価方法	授業への参加度・貢献度　２０％　クラス内外の課題　５０％　　プレゼンテーション　３０％

13 年度以降	英語演習Ⅱ（American Comic Book Culture）	担当者	Ｓ．Ｋ．エリス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, we will take a look at the cultural history and background of American comic books. In class, students will improve their critical thinking and discussion skills by taking a closer look at American comic book culture, while comparing it with its counterpart in Japan. How are American and Japanese comic books different? What are the cultural and historical influences that have created these differences? Each week, students will learn about a different aspect of U.S. comic books, while discussing and presenting on influences such as immigration, gender, and fan culture. Students are required to keep a reflection journal for class discussion. In-class assignments, and short quizzes will also be given to assess progress and comprehension.	1. Introduction and course overview/ How to read a comic book. 2. A Brief History of American Comic Books 3. Immigrant origins of Superheroes 4. Immigrant issues in Comic Books. 5. Women in Comics 6. Women in Comic books 7. The Ten Cent Plague: Censorship and Comics 8. Censorship in Comics Continued 9. The Marvel Age: Comic Books in the 60s and Beyond. 10. The Diversification of Comic Books 11. Comic Books in Film 12. Comic Books in Film and TV 13. Comic Book Fan Culture 14. Fan Culture & Activism cont./ Review 15. Final presentations

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Discussion participation is crucial in this class. Outside readings, viewings and writing in reflection journal, pre-and post-class is required to prepare for and reflect on content and discussions, lectures, and presentations. These will be turned in and graded by the instructor on a regular basis.
テキスト	Readings & viewing materials will be provided by the instructor.
参考文献	特になし
評価方法	Participation and Attitude 20% /Reflection Journal and Homework 40% Quizzes and Presentations 30% Take Home Test 10 %

13 年度以降	英語演習Ⅱ（Fan Culture and Transmedia Storytelling）	担当者	Ｓ．Ｋ．エリス

講義目的、講義概要	授業計画
With the rapid development of new media, people have been creating and expanding on popular narratives, from Harry Potter to Instagram stories via traditional books and films as well as interactive platforms such as YouTube and Twitter. Increasingly, these newer platforms have leveled the playing field for creators and fans, with some fans even taking their enthusiasm to address real world problems through awareness campaigns and fan activism. In this course, students will take a closer look at the transmedia experience; they will also delve into participatory culture through the planning and creation of their own work in English. Students are required to keep a reflection journal for class discussion. In-class assignments, and short quizzes will also be given to assess progress and comprehension.	1. Introduction and Course Overview 2. What is Transmedia Storytelling? 3. Examples of Transmedia Narratives 4. Fan Reactions to Traditional Media 5. Mini-presentations on Fan work 6. Transmedia Example #2 7. What is Fan Fiction? 8. Mini-fic Writing workshop 9. Discussion 10. Transmedia Example #3 11. What is Fan Activism? 12. Fan Activism continued 13. Discussion 14. Group Sharing-Students Creations 15. Course Review

到達目標	英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Discussion participation is crucial in this class. Outside readings, viewings and writing in reflection journal, pre-and post-class is required to prepare for and reflect on content and discussions, lectures, and presentations. These will be turned in and graded by the instructor on a regular basis.
テキスト	Readings & viewing materials will be provided by the instructor.
参考文献	特になし
評価方法	Participation and Attitude 20% /Reflection Journal and Creative Work 40% Quizzes and Presentations 30% Take Home Test 10 %

13 年度以降	英語演習Ⅱ（ニュース英語で英語力強化）	担当者	関口　智子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では,英語の生のニュースを素材に、語彙力とリスニング力を向上させるとともに、英語構文力と理解力を養成します。 ネットで配信されている英語ニュース（VOA, BBC, CNN10 など）を聞き、日々世界で起きている出来事について学んでいきます。 まず、世界の出来事を英語で理解するための語彙を習得し、時事英語で用いられる用語・表現を適切な日本語に変換できるようにします。徐々に早いスピードのニュースを聞き、聞き取りが難しいところは、ニュース原稿で確認し、構文の分析、正確な内容把握を行います。また、このクラスを通し、世界情勢を理解する背景知識も英語と日本語で身につけていきます。	(1) 導入：時事問題診断テスト (2) 英語ニュースサイトの紹介 (3) 英語ニュースの語彙力増強 1 (4) 英語ニュースの語彙力増強 2 (5) 英語ニュースの聞き方 1 (6) 英語ニュースの聞き方 2 (7) 英語ニュースの読み方 1 (8) 英語ニュースの読み方 2 (9) 英語ニュース原稿の翻訳 1 (10) ボイスオーバーで実践 1 (11) 英語ニュース原稿の翻訳 2 (12) ボイスオーバーで実践 2 (13) 英語ニュース原稿の翻訳 3 (14) ボイスオーバーで実践3 (15) 総括

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回授業で小テストをします。指定された予習課題は必ずやってきてください。
テキスト	小林 敏彦『ニュース英語パワーボキャビル 4000 語 』, 語研, 1998　その他、適宜副教材を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	小テスト　(30%),　授業中の実践　(50%)、　レポートなどの提出物　(20%)

13 年度以降	英語演習Ⅱ（Contemporary Global Issues）	担当者	Ｐ．ネウパネ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to enhance students' communication and discussion skills in English. Students will deepen their understanding of various global issues such as poverty, inequality, education, health, and development. Students are required to do pre-reading on the topics, participate in discussions, and prepare and deliver group presentations regularly.	Week 1: Introduction: Global issues Week 2: Sustainable Development Goals (SDGs) Week 3-4: Poverty and inequality Week 5-6: Education and development Week 7-8: Gender and education Week 9-10: Health and development Week 11-12: Globalization and development Week 13-14: Conflict, peace and development Week 15: Review

到達目標	「英語Ⅰ～Ⅳ」の学習成果を踏まえ、専門的、実践的な英語運用能力を習得し、特定のテーマに関する英語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Students are required to complete assigned pre-reading as well as prepare for group presentations.
テキスト	No textbook required.
参考文献	Materials will be provided by the instructor.
評価方法	Class participation: 20%, Group presentation: 40%, Final report: 40%

13 年度以降	翻訳通訳論・英語	担当者	関口　智子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、基礎的な通訳技能訓練法を通して、語彙力・リスニング力・スピーキング力・文章構成力など総合的な英語力を向上させることを目標とします。 初心者のためのリスニングとスピーキングのスキル強化を特に重視し、基本に忠実でシステマティックなトレーニングを、英日・日英双方向で行います。聴き取り、語彙の確認、語彙のクイックレスポンス、サイト・トランスレーション、シャドーイングなどの基礎的な通訳訓練を行います。また、通常の語学学習と異なり、通訳の基礎訓練では、集中力・記憶力訓練、即時反応のための訓練、メモ取り練習など他の技能も同時に訓練します。さらに内容とレベルを発展させ、スピーチの逐次通訳および同時通訳を目指す「翻訳通訳実習」との連携も念頭に置いて授業を進めます。	(1) 導入：通訳訓練法の紹介 (2) 逐次通訳（英日）：パートナーの自己紹介 (3) 第１章　通訳とは (4) 副教材 (5) 第２章　通訳の種類と活躍の場 (6) 副教材 (7) 第３章　通訳に求められるもの (8) 副教材 (9) 第４章　通訳の研究 (10) 副教材 (11) 第５章　通訳のモデル (12) 副教材 (13) 第６章　通訳と翻訳 (14) 副教材 (15) 総括

到達目標	英語の翻訳通訳についての基礎理論を習得し、基本的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回授業で小テストをします。指定された予習課題は必ずやってきてください。
テキスト	友野百枝ほか　『通訳学１０１』、 大阪教育図書、 2012　　その他、適宜副教材を配布します。
参考文献	水野真紀子ほか『グローバル時代の通訳』三修社、 2002
評価方法	小テスト　(30%)、　授業中の通訳演習　(50%)、　レポートなどの提出物　(20%)

13 年度以降	翻訳通訳実習・英語	担当者	関口　智子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、 翻訳通訳論で習得した通訳の基本スキルを土台に、逐次通訳と同時通訳の訓練を通し、英語の実践的運用能力を更に向上させることを目標とします。 授業は、ミニレクチャー、個人、ペアワーク、グループワーク、全体での演習の形をとします。様々な素材を教材として使用し、まず、聴き取り、語彙の確認、語彙のクイックレスポンス、サイト・トランスレーション、シャドーイングなどの通訳訓練から始めます。徐々に実践の比重を増やし、後半はメモ取りをしながらの逐次通訳、最後に同時通訳で仕上げを行います。 通訳は、単なる英文和訳や和文英訳ではなく、起点言語（原語）で表現されたメッセージを “解釈” して、目標言語（訳出語）で “意味” を伝えるという側面を強調します。	(1) インタビュー通訳にトライ (2) 第７章　記憶とノートテーキング (3) 副教材 (4) 第８章　逐次通訳（１） (5) 副教材 (6) 第９章　逐次通訳（２） (7) 副教材 (8) 通訳実践１ (9) 第 10 章　同時通訳（１） (10) 副教材 (11) 第 11 章　同時通訳（２） (12) 副教材 (13) 第 12 章　通訳とデリバリー (14) 通訳実践２ (15) 総括

到達目標	英語の翻訳通訳についての応用理論を習得し、実務的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回授業で小テストをします。指定された予習課題は必ずやってきてください。
テキスト	友野百枝ほか　『通訳学１０１』、 大阪教育図書、 2012　　その他、適宜副教材を配布します。
参考文献	水野真紀子ほか『グローバル時代の通訳』三修社、 2002
評価方法	小テスト　(30%)、　授業中の通訳演習　(50%)、　レポートなどの提出物　(20%)

13 年度以降	スペイン語上級	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
非ネイティブ講師の授業では、スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 ネイティブ講師のクラスでは、「通じる会話」のみに重きをおくのではなく、むしろ、実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目標とする。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時に養う。 この授業では特に予習が不可欠である。	15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、専門的な文章、新聞記事、雑誌記事の講読、および会議などパブリックな場での発表、発言ができるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し課題を済ませておく。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	担当者が随時紹介する
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語上級_再履修	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語上級の内容に従って、非ネイティブ講師の授業では購読を中心とした「読み」の訓練を、ネイティブ講師の授業では実務的な文書の作成や会議での発言といったパブリックな場面で通用しうるスペイン語力の獲得を目指す。 スペイン語上級を参照のこと。	15回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。

到達目標	スペイン語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、専門的な文章、新聞記事、雑誌記事の講読、および会議などパブリックな場での発表、発言ができるようにする。
事前・事後学修の内容	15 回分の授業構成について、各担当者が最初の授業で説明する。
テキスト	担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）
参考文献	担当者が随時紹介する
評価方法	授業への参加度、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	Ｊ．マルティネス

講義目的、講義概要	授業計画
El objetivo de esta asignatura es desarrollar la expresión oral de los estudiantes así como la confianza a la hora de expresarse e interactuar con hablantes nativos en situaciones de la vida diaria. Las clases se llevarán a cabo exclusivamente en español y el programa se discutirá para adapatarse al interés y motivaciones de los estudiantes. Es FUNDAMENTAL la PARTICIPACIÓN ACTIVA en clase. La clase se dividirá en tres partes: 1. Conversación (temas elegidos por los estudiantes). Discusión moderada por un estudiante. 2. Desarrollo de estrategias para la expresión oral, potenciando la fluidez por encima de la exactitud gramatical. 3. Práctica de la entrevista del examen DELE si así lo desean los estudiantes..	1. Presentación de la asignatura. 2. Expresar opiniones I. 3. Expresar opiniones II. Práctica DELE. 4. Contar algo, estructurar un relato. 5. Hacer generalizaciones y excepciones I. 6. Hacer generalizaciones y excepciones II. DELE. 7. Hacer conjeturas I. 8. Hacer conjeturas II. Práctica DELE. 9. Relatar experiencias. Práctica DELE. 10. Cómo hacer presentaciones I. 11. Cambiar de tema I. 12. Cambiar de tema II. Práctia DELE. 13. Hacer sugerencias. Práctica DELE. 14. Repaso y presentaciones I. 15. Repaso y presentaciones II.

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Antes de la clase: lectura sobre el tema de la clase siguiente. Después de la clase: tareas asignadas.
テキスト	El professor suministrará el material necesario.
参考文献	El professor suministrará el material necesario.
評価方法	Participación active: 40%. Tareas: 30% Presentación: 30%

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	Ｊ．マルティネス

講義目的、講義概要	授業計画
Continuando con los objetivos del primer semestre, desarrollaremos la capacidad de los estudiantes de expresar de forma independiente sus opiniones, argumentarlas y debatir con el resto de compañeros. Para ello deberán moderar discusiones sobre artículos de periódico de actualidad. Los estudiantes (dependiendo del número) tendrán que realizar presentaciones comparando aspectos económicos, políticos, educativos… entre Japón y un país de habla hispana de su elección. El objetivo es desarrollar la capacidad crítica y de evaluación de los estudiantes así como su capacidad de exponer, argumentar y defender sus opiniones sobre un tema concreto. Si los estudiantes tienen interés PRACTICAREMOS LA PARTE DE LA ENTREVISTA DEL EXAMEN DE ESPAÑOL **DELE**.	1. Presentación de la asignatura. 2. Expresiones coloquiales I. 3. El sistema educativo en España I. 4. El sistema educativo en España II. 5. Comparación sist. educ. de Japón y España. 6. Expresiones coloquiales II. 7. El sistema político y electoral español I. 8. El sestema político y electoral español II. 9. Comparación sist. pol. español y japonés. 10. Expresiones coloquiales III. 11. El turismo en España. 12. Comparación ind. turística en Japón y España. 13. Expresiones coloquiales IV. 14. Repaso y presentaciones. 15. Repaso y presentaciones. Los temas se adaptarán al interés de los estudiantes.

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Antes de la clase: lectura sobre el tema de la clase siguiente. Después de la clase: tareas asignadas.
テキスト	El professor suministrará el material necesario.
参考文献	El professor suministrará el material necesario.
評価方法	Participación active: 40%. Tareas: 30% Presentación: 30%

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	P．ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
El presente curso trata de desarrollar la competencia comunicativa de los alumnos de nivel intermedio para que éstos puedan interaccionar de forma adecuada en diferentes situaciones de comunicación. Asimismo, se pondrá énfasis en la expresión escrita y en la comprensión lectora. Para ello se han elegido una serie de temas cercanos al mundo de los estudiantes con el propósito de aumentar su motivación. Finalmente, se promoverá el acercamiento de los aprendices a la cultura, los comportamientos, valores y las convenciones sociales de la lengua meta.	1, 2, 3. Tema: Las costumbres 3, 4, 5. Tema: El mundo laboral 6, 7, 8. Tema: El amor 9, 10, 11. Tema: La ecología 12, 13, 14, 15. Tema: El dinero

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Es necesario preparar la clase con antelación y repasar
テキスト	Fotocopias preparadas por la profesora.
参考文献	No es necesario.
評価方法	La asistencia es el factor más importante (se exige la asistencia al 80% de las clases). El 30% corresponde a las tareas y los trabajos realizados en clase.

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	P．ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
El presente curso trata de desarrollar la competencia comunicativa de los alumnos de nivel intermedio para que éstos puedan interaccionar de forma adecuada en diferentes situaciones de comunicación. Asimismo, se pondrá énfasis en la expresión escrita y en la comprensión lectora. Para ello se han elegido una serie de temas cercanos al mundo de los estudiantes con el propósito de aumentar su motivación. Finalmente, se promoverá el acercamiento de los aprendices a la cultura, los comportamientos, valores y las convenciones sociales de la lengua meta.	1, 2, 3. Tema: Los amigos 3, 4, 5. Tema: La salud 6, 7, 8. Tema: Tiempo de ocio 9, 10, 11. Tema: El mundo de la moda 12 y 13. Tema: Enigmas de nuestro planeta 14 y 15. La Navidad en España

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	Es necesario preparar la clase con antelación y repasar
テキスト	Fotocopias preparadas por la profesora.
参考文献	No es necesario.
評価方法	La asistencia es el factor más importante (se exige la asistencia al 80% de las clases). El 30% corresponde a las tareas y los trabajos realizados en clase.

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	Ｎ．ウエチ

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　スペイン語の総合的応用能力を高めるとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目的とします。 講義概要 　スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的・客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。ラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。	1. Presentación del curso 　Argentina: información general 2. Historietas argentinas: Parte I 3. Parte II 4. Parte III 5. Música argentina 6. Presentación oral 7. Ecuador: Información general 8. Patrimonio de la Humanidad: Parte I 9. Parte II 10. Parte III 11. Chile: información general 12. Literatura chilena: Parte I 13. Parte II 14. Presentación oral 15. Resumen final

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出された課題は必ずこなすようにしましょう。
テキスト	教室で配布
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加態度、エッセイの結果という 2 つの要素から総合的に判断して付けます。 50%を授業へ積極的な参加、残りの 50%をエッセイと発表によって行う。

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	Ｎ．ウエチ

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　スペイン語の総合的応用能力を高めるとラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目的とします。 講義概要 　スペイン語の総合的応用能力を高めると同時に論理的・客観的な思考のトレーニングにも役立つような素材を取り扱う。ラテンアメリカの社会、文化などの理解を深めることを目指します。様々なテーマの読み物に触れることで、コミュニケーションをする知識を身につけて行きます。辞書をよく活用してスペイン語に親しむこと、情報を入手すること、批判的な意見を大切にします。また、インターネット等を利用したレポート、教材として活用することも考えています。	1. México: información general 2. El Muralismo: grandes protagonistas. Parte I 3. El Muralismo: grandes protagonistas. Parte II 4. Frida Kahlo: obras representativas. Parte I 5. Parte II 6. Patrimonios de la Humanidad. Presentación oral. 7. Cuba: información general 8. Cuba: Patrimonios de la Humanidad. Parte I 9. Cuba: Patrimonios de la Humanidad. Parte II 10. Presentación oral sobre música cubana. 11. Cine hispanoamericano: grandes protagonistas. 12. Análisis de una película. Parte I 13. Análisis de una película. Parte II 14. Presentación oral 15. Resumen final

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で出された課題は必ずこなすようにしましょう。
テキスト	教室で配布
参考文献	特になし
評価方法	授業への参加態度、エッセイの結果という 2 つの要素から総合的に判断して付けます。 50%を授業へ積極的な参加、残りの 50%をエッセイと発表によって行う。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、スペイン語の（1）読解力、(2) 語彙力、(3) 応用文法力を高めることを主要な目的とする。 スペイン語に慣れ、読解力を向上させるためには、数多くの文章を読むことが重要である。しかしながら第5学期（3年生春学期）までの授業では必ずしもそれに十分な時間を割けていないので、本授業では（1）基礎文法をひととおり学習した人向けの応用文法のテキスト、および（2）多読用の長文のテキスト（主要な単語の意味があらかじめ記されており、辞書を引く時間を省くことができるため、その分、かなり長い文章を読むことができるように工夫されている）の2つを毎回の授業で用い、スペイン語力を総合的に高めていく。	第1回の授業から第15回の授業まで、左の「講義概要」で説明している2つのテキストを併用して学習を進めていく。 すでに必修科目の授業は終了しているので、この授業では一律の到達目標が定められているわけではなく、またそれを測るための試験も行わない。一例を示していえば、10の語彙力がある人には15の、15の語彙力がある人には20の語彙力を、自ら目ざしてもらうことになる（ただし、あくまで応用レベルのスペイン語力を身につけたい人向けの授業なので、必修段階でのスペイン語力をある程度習得していない人にはレベルが合わず、「単位稼ぎ」を主目的に履修するとそれが叶わない可能性がある）。

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業前に予習をしておく必要がある。また、授業直後に入念な復習を行うことで授業効果が高まる。
テキスト	担当者が用意し、授業で配布する。
参考文献	西和辞典（各自が所有しているもので可）。
評価方法	授業参加で評価（授業参加とは授業出席率ではない。事前の予習を含め、授業への積極的な参加こそが語学力の向上に資するので、授業での真剣な取り組みを適切に評価に反映させる）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語Ⅲ、Ⅳまでに培ったスペイン語力を基礎に、講読を中心とした「読み」の訓練をする。専門的な文章の一部や新聞記事等を、文化的背景を理解したうえで講読することができる力を養う。できるだけ多くの種類の文章に触れ、それぞれのジャンルが持つ独自の文体に馴染むことを目標とする。また、多様な教材を使うことで語彙の増強も図る。 また、この演習では、DELEを意識した教材を使用し、DELE取得を目指す学生の参考になるクラス構成をする。	以下のテーマの教材に沿って、購読、解説を行う。授業の様子により、進度やテーマの変更の可能性がある。 1. イントロダクション 2. 文化（言語 1/2） 3. 文化（言語 2/2） 4. 文化（芸能：スペイン） 5. 時事（経済：スペイン） 6. 時事（政治：スペイン） 7. 時事（国際関係：スペイン） 8. 随想（スペインの作家） 9. 随想（ラテンアメリカの作家 1/2） 10. 随想（ラテンアメリカの作家 2/2） 11. 小説・物語（短編 1/4, 2/4） 12. 小説・物語（短編 3/4, 4/4） 13. 詩（1/2） 14. 詩（2/2） 15. 全体のまとめ

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し、次回の内容をプリントで確認する。
テキスト	適宜プリントを配布
参考文献	授業で紹介
評価方法	定期試験によって評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	Ｊ．Ｉ．ドメネク・アロンソ

講義目的、講義概要	授業計画
基本的にこのクラスはスペイン語会話の上達に重点を置いて進めますが、文法や表現方法で説明が必要な際には日本語での説明を間にはさみます。言語習得のためにはその言語の背後にある文化を理解することは不可欠です。そのためにビデオ教材などを使用し、スペイン文化の一端を理解するためにも多少の時間を割きます。	１．総復習 ２．過去完了形（規則活用と不規則活用） ３．会話と記述（現在形を過去形にする） ４．接続法現在－１（規則活用と不規則活用） ５．接続法現在―２（実現可能性の少ないこれからのこと） ６．条件法の説明とその用法 ７．接続法過去形 ８．前半まとめ／小テスト ９．将来の眺望（環境問題、エレルギー問題など） １０．スペインの歴史の概要説明 １１．間接話法－１　現在形 １２．間接話法－２　過去形 １３．各種テーマについての準備学習 １４．総復習 １５．まとめ／期末試験

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回宿題を課すので、必ず提出すること。
テキスト	TeVeo　IDBN 978-4-86211-272-9　（出版：ＤＴＰ出版　著者：ドメネク）
参考文献	特になし
評価方法	宿題、授業内評価（３０％）、試験（７０％）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	スペイン語演習	担当者	M．サンチェス

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は口述表現、筆記表現、聴解、読解の４つの技能の向上をその目標とし、合わせて中級レベルに対応する文法問題ならびに語彙練習も同時に実施する。とりわけクラスではコミュニケーションを図るためにシンプルな状況設定をしたり、写真やイラストを使用することで口述表現の練習を重点的に行うが、常に受講者のレベルに応じて進度を調整し、リラックスして参加できるよう努める。また試験前にはコース終了に必要な学習内容を確認できるよう、講師は重要事項の復讐を行う。	1. コース説明、オリエンテーション 2. テーマ・旅行：口頭表現練習:"最後にした旅行" 3. テーマ・旅行：読解ならびに筆記表現練習 4. テーマ・旅行：文法と語彙 5. テーマ・町：口頭表現練習:自分の町 6. テーマ・町：読解ならびに筆記表現練習 7. テーマ・町：文法と語彙 8. テーマ・余暇：口頭表現練習 9. テーマ・余暇：読解ならびに筆記表現練習 10. テーマ・余暇：文法と語彙 11. テーマ・健康と暮らし：口頭表現練習 12. テーマ・健康と暮らし：読解ならびに筆記表現 13. テーマ・健康と暮らし：文法と語彙 14. 復習：本コースで学習した内容の復習と評価 15. 評価：本コースで学習した内容の評価

到達目標	「スペイン語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「スペイン語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的なスペイン語運用能力を習得し、特定のテーマに関するスペイン語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業前、単語の予習をする 授業後、宿題・課題をする
テキスト	教材：コピーを使用
参考文献	コースの教材はウェブサイト上でダウンロード可能
評価方法	筆記試験: 60% 宿題、授業態度: 40%

13 年度以降	翻訳通訳論・スペイン語	担当者	矢田　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、スペイン語と日本語間の翻訳・通訳における難しさや問題点を考察し、スペイン語と日本語の言語文化差異を乗り越えて意味を伝えるとはどうしたらいいのかを15週に渡って考察していきます。 春学期の授業では、翻訳をする練習ではなく、既存の文学翻訳作品、映画の字幕などを分析しながら、基礎的翻訳理論を理解し、翻訳の現実と理想を考えます。 授業では、比較翻訳分析をしながら、基礎的翻訳理論を学びますが、小説、新聞、ニュース、映画といった様々な媒体を使うため、高度なスペイン語能力を必要とします。	Week 1 翻訳とは？　翻訳理論とは何か Week 2～Week5 : 日本文学スペイン語版の翻訳分析「妊娠カレンダー」（翻訳理論：等価理論） Week 6 ～Week 10　スペイン映画翻訳(1)　歴史文化要素と翻訳：「エル・スール」 Week11～Week 15 スペイン映画翻訳 (2) 歴史的文化的要素と翻訳「パンズ・ラビリンス」

到達目標	スペイン語の翻訳通訳について基礎理論を習得し、基本的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教員から次週の授業のための準備をと指示がある場合は必ずしてくること。
テキスト	プリントを随時配布
参考文献	「翻訳学入門　（みすず書房)」、「翻訳の原理（大修館書店)」
評価方法	レポート提出（60%)、授業参加度（40%）

13 年度以降	翻訳通訳実習・スペイン語	担当者	矢田　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続き、スペイン語から日本語への翻訳通訳について考察していきますが、秋学期は、新聞やスペイン国営放送のニュースといったジャーナリズムに関わる翻訳・通訳も取り扱い、現代スペイン社会や中南米諸国が抱える問題点をみつめ、それを日本語にどのように伝えれば良いのかを考えていきます。 また後半には、スペインを代表するペドロ・アルモドバル映画の字幕分析を通して、現代スペインの社会問題についても考察し、翻訳と社会的文化的要素の関係性について深く考察していきます。 春学期に「翻訳通訳論　スペイン語」を履修していることが望ましい。また、十分なスペイン語力を必要とします。	Week 1～Week 4　スペイン新聞「El Pais」を訳してみる。 Week 5～Week 8　スペイン国営放送TVE　ニュースの翻訳 Week 9～Week 15 ペドロ・アルモドバルとスペイン社会。「現代スペインの今」を訳す。

到達目標	スペイン語の翻訳通訳について応用理論を習得し、実務的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教員から次週の授業のための準備をと指示がある場合は必ずしてくること。
テキスト	随時、教員がプリントを配布
参考文献	「翻訳学入門　（みすず書房)」、「翻訳の原理（大修館書店)」
評価方法	レポート提出（60%)、授業参加度（40%）

13 年度以降	中国語上級	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
中国語Ⅰから中国語Ⅳまでに学習した内容を総復習し、定着をはかるとともに、さらなる中国語能力向上に向けた確実な足がかりを築くことを目的とする。 単語（語彙力強化）編と実用（発信力強化）編に分けて授業運営を行う。 単語編についてはこれまで学習した語彙を総復習し、併せて発音の矯正と基本語を通した文法知識の確認を行う。既習語彙を網羅した語彙集で，毎回ほぼ等分した範囲の語彙を学習し、同時に小テストによって確認し定着を図る。 実用編については、これまでの学習で身についた発信力を、テキストを用いた学習で磨く形で行う。また受講者同士でのペアワークやグループワークを通して、中国語による発信力・コミュニケーション能力の確立を目指す。	1 a-c 2 c-d 小テスト 1 3 d-f 小テスト 2 4 f-g 小テスト 3 5 g-h 小テスト 4 6 h-j 小テスト 5 7 j-l 小テスト 6 8 l-m 小テスト 7 9 m-p 小テスト 8 10 p-r 小テスト 9 11 s-w 小テスト 10 12 x-y 小テスト 11 13 y-z 小テスト 12 14 z 小テスト 13 15 小テスト 14 復習 単語編については上記計画で、武信、永田、横川が担当予定。実用編についてはテキストの流れにしたがって実施する。こちらの担当者は虞、吉田、頼が担当予定。

到達目標	中国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	単語編については小テストの結果を復習し，次回の範囲を声に出して読むことによって既習語彙の記憶を確かなものにする。実用編については自分の弱点などを意識して会話練習を繰り返すこと。
テキスト	単語編については語彙集を配付する。実用編については、『おもてなしの中国語』（郁文堂）を使用する。
参考文献	中国語の辞書・辞典全般
評価方法	単語編（小テスト 80%、授業への参加度 20%）、実用編（中間・期末テスト 70%、授業への参加度 30%）

13 年度以降	中国語上級_再履修	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
１～５学期までに学んだ語彙・文法・文型の総復習を行い、最低限習得していなければならない基礎的な能力を固めることを目指します。 基本的な単語と文型を繰り返し徹底的に習得する訓練を通じて、聞く・読む・話す・書く・訳すの五技能を向上させることを目的とします。 授業中は反復訓練を中心に行いますので、遅刻欠席は厳禁です。 毎回小テストを行い、学習内容の定着を図ります。	1. ガイダンス、総合力試験 2. ボキャビル訓練１ 3. 名詞述語文 4. 形容詞述語文 5. ボキャビル訓練２ 6. 動詞述語文 7. 連体修飾・副詞 8. ボキャビル訓練３ 9. 比較の構文 10. 呼応表現のいろいろ 11. ボキャビル訓練４ 12. 可能・不可能と予測の表現 13. 方向補語と様態補語 14. 手段と目的の表現 15. 学期のまとめ、期末試験

到達目標	中国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された箇所の単語の意味と読みを暗記する。和訳から中国語を書けるようにする。
テキスト	第一回の授業で総合力試験を行い、その結果をふまえて指示する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	試験（中間・期末）70%、授業への積極的な参加 30%で評価する。

13 年度以降	中国語演習	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
中国の新聞・雑誌やブログから拾ったニュースが日本でも報道されることが多い。 これらから面白いニュースを拾って，そのネタ元となったであろう中国語による記事を読んでいく。 “ナマの”記事だけに，語彙や文体に特有のものも含まれる一方，内容の面白さもある。楽しんで中国語の文章を読む体験をしてもらう。 もちろん，教科書のようにピンイン付きの分かち書きになどになったテキストではないので，基礎力と相当の努力が必要となる。	1. 蚊取り線香 20 巻たき睡眠、一家 5 人体調不良 2. くまのプーさん、中国 SNS での規制解除される 3. ライター飲み込んだ男性、10 年以上たって思い出す 4. マンション 15 階から捨てたスイカが車直撃 5. 動物園で女がラクダの毛をはぎバッグに詰め込む 6. 実名制のはずなのに…、「受取人：ドラえもん」 7. おばあちゃんが「飛行機のエンジン」に小銭を投げ入れる 8. 「ぼったくりツアー」、返品求める客に「卵あげるから」 9. カクレモモジリの巨大フィギュアが上海に登場 10. チベット犬バブル崩壊で野犬被害続出 11. ホテル代を払いたくない!? ホテルの窓から逃走 12. 道で犬を拾って連れ帰る、よく見たらキツネだった 13. 男性が腹痛で病院！CT を撮ったら腸にウナギ 14. 「香香」と「杉山」勘違い パンダ公開で中国副報道局長 15. 中国人観光客の身勝手行為が原因、添乗員が象に踏まれ死亡 ※ 上記のものは候補であって，実際には最新のニュースに取り替えられる可能性があります

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	教材の文章を予習し，既習部分の復習をする
テキスト	プリント配布
参考文献	適宜指示する。
評価方法	レポート 50%，発表等の授業への参加度 50%

13 年度以降	中国語演習	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
我是演说家第四季第十二期 **《我是演说家 第 4 季》主题是为新时代发声。内容设置上区别前三季，将由黄子佼带队新选手 PK 陈鲁豫带队前三季的老队员进行演讲。每一集还将邀请一名十大话题代表人物作为开讲嘉宾。** https://www.youtube.com/watch?v=KDthqkul33E 中国の人気トーク番組「我是演説家」（I am a Speaker）の字幕付きの映像を用いてリスニングとスピーキングの訓練を行う。一回の授業で10分ほどのスピーチを扱い、内容を正確に理解するとともに、リピーティング、シャドーイング、発表などを通じてレベルの高い中国語を習得することを目的とする。中国語能力を高めたいと強く希望し、予習復習を怠らない学生の履修を期待する。	1. 开课说明，鉴赏《鲁豫讲述她眼里的北京》 2. 《鲁豫讲述她眼里的北京》 3. 马丁 《莫攀比》 4. 刘慧凝 《了不起的少年感》 5. 点评，小结 6. 测验 7. 熊浩 《直面你的焦虑》 8. 罗天 《听奶奶的话》 9. 点评，小结 10. 测验 11. 陈岚 《重新理解自己的母亲》 12. 王磊 《中国味道》 13. 点评，小结 14. 测验 15. 史进福 《我的信念》1.

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にビデオクリップで指定された箇所を視聴し字幕を書き起こし、事後にスピーチ練習をする。
テキスト	https://www.youtube.com/watch?v=KDthqkul33E
参考文献	履修者のレベルによって適宜配布する。
評価方法	授業への参加度 50%、試験 50%で評価する。

13 年度以降	中国語演習	担当者	劉　岸麗

講義目的、講義概要	授業計画
1・2年に学んだ基礎中国語の文法、文型を用いて日常会話、リスニングを練習し、より正確な表現力と即戦力を身に着けることを目指す。 会話の部分と読解の部分がそれぞれあるので、その違いも勉強していくうちに、自然に覚えることができる。大量の練習問題もあり、中国語の基礎を確かなものとなるでしょう。同時に、応用力もレベルアップができる。会話、リスニング、問題集の練習は全員一緒に行う場合と担当者を決めて、完成してもらう場合があります。	1. ガイダンス 2. 会话：自我介绍 3. 文章：全家福 4. 会话：五一节 5. 文章：过生日 6. 会话：约会 7. 文章：我的一天 8. 会话：问路 9. 文章：十月北京 10. 会话：体育运动 11. 文章：给姐姐的信 12. 会话：谈爱好 13. 文章：民族音乐家 阿炳 14. 復習 15. 学期のまとめと期末試験

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	初回のガイダンスで指示します。
テキスト	「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研　朝日出版社）
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	試験 70%、授業への参加度 30%で評価します。

13 年度以降	中国語演習	担当者	劉　岸麗

講義目的、講義概要	授業計画
1・2年に学んだ基礎中国語の文法、文型を用いて日常会話、リスニングを練習し、より正確な表現力と即戦力を身に着けることを目指す。テキストは「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研　朝日出版社）を使用する予定。会話の部分と読解の部分がそれぞれあるので、その違いも勉強していくうちに、自然に覚えることができる。大量の練習問題もあり、中国語の基礎を確かなものとなるでしょう。同時に、応用力もレベルアップができる。会話、リスニング、問題集の練習は全員一緒に行う場合と担当者を決めて、完成してもらう場合があります。	1. ガイダンス 2. 会话：参观与旅游 3. 文章：自行车日 4. 会话：宾馆服务台 5. 文章：三个和尚没水吃 6. 会话：买东西 7. 文章：笑脸相迎 8. 会话：在医务室 9. 文章：书包太沉重 10. 会话：作客 11. 文章：情人多算帐 12. 会话：谁请客 13. 文章：来盘“微笑” 14. 復習 15. 学期のまとめと期末試験

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	初回のガイダンスで指示します。
テキスト	「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研　朝日出版社）
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	試験 70%、授業への参加度 30%で評価します。

13 年度以降	中国語演習	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
中国で人口に膾炙する代表的な小説をオリジナル(古文)と現代中国語訳で読み解く。 「四大奇書」は中国元代から明代にかけて書かれた通俗小説である。『西遊記』、『三国志演義』、『水滸伝』、『紅楼夢』から有名な篇段を抜き出して読む。 「伝奇小説」は「志怪小説」とも呼ばれ、現代の文学ジャンルで言えばファンタジーまたはSF小説と位置付けることができる。 これらの文学は日本の江戸時代～明治時代にかけて日本文学に大きな影響を与え、現代でも様々に形を変えて日本文学にとって欠くことのできない一ジャンルを形成している。	1. ガイダンス、四大奇書について 2. 四大奇書（1）西遊記 3. 四大奇書（2）三国志演義 4. 四大奇書（3）水滸伝 5. 四大奇書（4）紅楼夢 6. 四大奇書のまとめ、唐宋伝奇小説についての説明 7. 白蛇伝 8. 人虎伝 9. 杜子春伝 10. 李娃伝 11. 枕中記 12. 聊斎志異 13. 剪燈新話 14. 唐宋伝奇小説のまとめ 15. 期末試験と解説

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	現代中国語訳をよく読んで内容を把握してくること。音読を通じて中国語のリズムを体得すること。
テキスト	教科書は指定しない。教室でプリント配布、または教材をダウンロードするサイトを知らせる。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	授業への参加度 50%、試験 50%で評価する。

13 年度以降	中国語演習	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に読んだ文学に続き、秋学期は中国古典哲学に挑戦する。 ここで紹介する名句名言は現代の教養ある中国語でも常用されるため、より高いレベルの中国語を身につけたいと希望する学生には必ずや役に立つ内容となろう。 さらに、数千年の時を超えて、今も人々の生活信条に影響を及ぼす中国哲学について理解を深めることは、単に中国語の学習だけではなく、人生の指針を与えてくれるものでもある。	1. ガイダンス、中国哲学と諸子百家について 2. 儒家（1）論語１ 3. 儒家（1）論語２ 4. 儒家（1）論語３ 5. 儒家（2）孟子１ 6. 儒家（2）孟子２、荀子 7. 道家（1）荘子１ 8. 道家（1）荘子２ 9. 道家（1）荘子３ 10. 道家（2）老子１ 11. 道家（2）老子２ 12. 墨家　墨子 13. 法家　韓非子 14. 名家　公孫龍 15. 期末試験と解説

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	現代中国語訳をよく読んで内容を把握してくること。音読を通じて中国語のリズムを体得すること。
テキスト	教科書は指定しない。教室でプリント配布、または教材をダウンロードするサイトを知らせる。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	授業への参加度 50%、試験 50%で評価する。

13 年度以降	中国語演習	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
口語調の文章を読みながら、読解力の基礎を作り、助動詞、副詞、補語などの表現を中心に、文の中の正確な位置を把握する。 また、三十年代の北京の街の風景や方言の言い回しにも触れる。	1. “父からの躾” 2. 新出語彙、文型、訳など 3. “好きな授業” 4. 新出語彙、文型、訳など 5. “友達との遊び” 6. 新出語彙、文型、訳など 7. 中間テスト 8. “空き地での遭遇” 9. 新出語彙、文型、訳など 10. “胡同の風景” 11. 新出語彙、文型、訳など 12. “ボール探し” 13. 新出語彙、文型、訳など 14. 学期のまとめ 15. 総復習と期末試験

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	初回のガイダンスで指示します。
テキスト	我们看海去］短編小説　『城南旧事』より抜粋　（プリント配布）
参考文献	授業中に適宜指示します。
評価方法	授業への積極的参加 30%，授業へ積極的参加した成果（試験）70%で評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

13 年度以降	中国語演習	担当者	蔡　暁軍

講義目的、講義概要	授業計画
口語調の文章を読みながら、読解力の基礎を作り、助動詞、副詞、補語などの表現を中心に、文の中の正確な位置を把握する。 また、三十年代の北京の街の風景や方言の言い回しにも触れる。	1. “学校生活” 2. 新出語彙、文型、訳など 3. “事件との関わり” 4. 新出語彙、文型、訳など 5. “見知らぬ人1” 6. 新出語彙、文型、訳など 7. 中間テスト 8. “見知らぬ人2” 9. 新出語彙、文型、訳など 10. “父との議論1” 11. 新出語彙、文型、訳など 12. “父との議論２” 13. 新出語彙、文型、訳など 14. 学期のまとめ 15. 総復習と期末試験

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	初回のガイダンスで指示します。
テキスト	「新・ブラッシュアップ中国語」（関中研　朝日出版社）
参考文献	授業中に適宜指示します。
評価方法	授業への積極的参加 30%，授業へ積極的参加した成果（試験）70%で評価する。 中間試験と適宜小テストを実施する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	中国語演習（中国語ビジネス会話）	担当者	吉田　桂子

講義目的、講義概要	授業計画
「世界の中の日本」という観点を持つことはとても大切です。特に隣国である中国と日本は、政治、経済、文化あらゆる面で密接な関係にあるといえましょう。 ビジネスの分野でも、業務の知識を持ち、中国語を自由に操れる人材の育成がこれまでにも増して求められています。 本講では、こうした人材育成のファーストステップとして、「貿易業務」の基本を理解しながら、中国語によるビジネス会話を習得していきます。 実際の授業では、日中間のビジネス現場の現状を紹介しながら、毎回、参加者全員に会話の機会を提供し、楽しみながら聞いて話せる中国語の「会話能力」を身に着けていきます。 中国語のフラッシュアップに、幅広い興味を持った皆さんの参加を期待します。	1. 商談のアポイントメント取得 2. 引き合い 3. オファー 4. 商品およびメーカーの紹介 5. カウンタービット 6. コミッション 7. 注文 8. 支払条件 9. 信用状 10. 船積期日 11. 包装 12. 保険 13. 契約 14. クレーム 15. 講義のまとめ

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回の授業で扱った会話内容を各自復習し、次回の授業で発表し相互評価する。
テキスト	テキスト:『実習ビジネス中国語　商談編』白水社
参考文献	授業中に指示
評価方法	定期試験 30%、授業への参加度 70%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	中国語演習	担当者	横川　澄枝

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 1・2年時における中国語学習の延長として、文章を読み読解力を高め語彙量を増やす。“教育”を統一テーマとし、2つの切り口から現代中国の側面を考え、関連して日本の教育について考察する。 【講義概要】 前半は映画《**一个都不能少**》を通して、内容への疑問点を抽出し、“**代课老师,民办学校,希望工程**”などの意味を調べ、初級教育の側面を知る。公教育の歴史的変遷に関する文章、教育関連法規、当該映画の評論文などを読み、各自調べたことをもとにレポートを作成する。 後半のテーマは初等教育における［国語］・［語文］教科書の日中比較、および教師用指導書を比較すること。これらを通じていわゆる国語の授業で何を教えようとしているのかを探り、考察したことをレポートにまとめる。	1. 講義概要　（人数、進捗状況により変更がありうる） 2. 映画《**一个都不能少**》の内容への疑問点を抽出する 3. キーワード：　**代课老师,民办学校,希望工程** etc 4. 中国の公教育の在り方（通時的に） 5. 中国の教育関連法規 6. 映画《**一个都不能少**》に関する評論 7. いわゆる教師もの小説の抜粋 8. まとめ、レポート作成 9. 標準語と共通語 10. 中国の義務教育課程教科書《**语文**》 11. 義務教育課程教師用指導書《**语文 教师教学用书**》 12. 日本の義務教育国語教科書 13. 日中の国語科指導法についての比較 14. 日中の国語科指導法についての比較 15. まとめ、レポート作成

到達目標	「中国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「中国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な中国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する中国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	前時に渡すプリントの予習。最低限の予習として単語の意味を調べておく
テキスト	教材はその都度プリントを配布する
参考文献	書籍版（＝紙の）中日辞典　※　見出し字をたてる伝統的配列であることを条件に各自の選択で
評価方法	レポート課題（2 篇）など 70%、授業への参加度（含　貢献度）など 30%

13 年度以降	翻訳通訳論・中国語	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：日本と中国の翻訳の歴史と理論についての理解を深め、さらに実際の翻訳作品を素材として比較や分析を行います。また、学期の最後には種々のテキストを用いて翻訳実習を行います。 中国における翻訳研究の歴史、日中間の翻訳交流の歴史などから翻訳がいかなる役割を果たしたかを探ります。林語堂、魯迅の翻訳論に関しては中国語の原文と参考用に日本語翻訳または参考文献を配布します。 学期の半ばでは、実際の翻訳作品を例にとって、日本語から中国語、および中国語から日本語へ翻訳された場合の言語表現の変化を検討します。	1. ガイダンス 2. 翻訳の理論が扱う問題 3. 中国における翻訳の歴史 4. 中国の翻訳論と日本の翻訳論 5. 近代文学と翻訳 6. 日本における中国文学の翻訳（近代以前） 7. 日本における中国文学の翻訳（近代以降） 8. 日本文学の中国語訳を読む（1） 9. 日本文学の中国語訳を読む（2） 10. 中国文学の日本語訳を読む（1） 11. 中国文学の日本語訳を読む（2） 12. 翻訳実習（1） 13. 翻訳実習（2） 14. 翻訳実習（3） 15. 学期のまとめ、レポート提出

到達目標	中国語の翻訳通訳について基礎理論を習得し、基本的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にテキストを精読すること。
テキスト	プリント配布、または URL 指示
参考文献	プリント配布、または URL 指示
評価方法	レポート 50%、授業への参加度 50%で評価する。

13 年度以降	翻訳通訳実習・中国語	担当者	永田　小絵

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：中日・日中翻訳・通訳入門 履修者の中国語運用能力に適した翻訳通訳の練習を行います。 １～５回：比較的読みやすい雑誌記事などの中→日翻訳 ５回目：中間試験 ６～９回：基本的な文法事項にそって中国語作文練習を行いながら日本語から中国語への訳出訓練をします。 10～15回：中日・日中双方向の逐次通訳と同時通訳の練習を行い、すばやい反応力と応用力を養います。	1. ガイダンス　中国語読解力の判定 2. 文化コラムの翻訳 3. エッセイの翻訳 4. 社会ニュースの翻訳 5. 翻訳の試験及び中国語リスニング力の判定 6. 中国語への訳出練習（単文） 7. 中国語への訳出練習（単文） 8. 中国語への訳出練習（長文） 9. 中国語作文試験及びスピーキング力の判定 10. 原稿付き逐次通訳 11. 原稿なし逐次通訳 12. 原稿付き同時通訳 13. 原稿なし同時通訳 14. 通訳実技試験と解説 15. 翻訳実技試験と解説

到達目標	中国語の翻訳通訳について応用理論を習得し、実務的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に課題文を精読（または視聴）し授業で訳出できるようにする。事後に単語や文法を整理する。
テキスト	プリント配布、または URL 指示
参考文献	プリント配布、または URL 指示
評価方法	試験 50%、授業への参加度 50%で評価する。

13 年度以降	韓国語上級	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、韓国語を通じて自分はどのようなことを実現したいのかを考え、それに一歩でも近づくことを目的とします。「ことば」は勿論、コミュニケーションに必要な文化、ICTスキル、思考力、協働など様々な能力の開発をするとともに、教室内外の社会的活動を通じて、自己実現していきます。授業スケジュールは学生の特性によって変更可能性があります。	１．私はこの授業を通じて何を成し遂げたいのかー ２．相手を知る、自分を知る１ ３．相手を知る、自分を知る２ ４．相手を知る、自分を知る３ ５．インタビュー活動１ ６．インタビュー活動２ ７．インタビュー活動３／前半のまとめ ８．情報を共有する１ ９．情報を共有する２ １０．情報を共有する３ １１．お互いアドバイスをする１ １２．お互いアドバイスをする２ １３．お互いアドバイスをする３ １４．後半のまとめ １５．総まとめ／期末テスト

到達目標	韓国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず予習・復習、宿題をしてください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『New 西江韓国語 4A』
参考文献	授業内に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、発表および授業中の課題遂行（20%）、宿題（20%）

13 年度以降	韓国語上級_再履修	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、前期に引き続き、韓国語を通じて自分はどのようなことを実現したいのかを考え、それに一歩でも近づくことを目的とします。「ことば」は勿論、コミュニケーションに必要な文化、ICTスキル、思考力、協働など様々な能力の開発をするとともに、教室内外の社会的活動を通じて、自己実現していきます。授業スケジュールは学生の特性によって変更可能性があります。	１．私はこの授業を通じて何を成し遂げたいのかー ２．自分が紹介したい場所のアクセスや位置を伝える１ ３．自分が紹介したい場所のアクセスや位置を伝える２ ４．自分が紹介したい場所のアクセスや位置を伝える３ ５．話の概要を理解したり、伝える１ ６．話の概要を理解したり、伝える２ ７．話の概要を理解したり、伝える３／前半のまとめ ８．自分の意見を述べる１ ９．自分の意見を述べる２ １０．自分の意見を述べる３ １１．自分のお気に入りについて語る１ １２．自分のお気に入りについて語る２ １３．自分のお気に入りについて語る３ １４．後半のまとめ １５．総まとめ／期末テスト

到達目標	韓国語上級レベルの文法知識、読解力、表現力を習得し、多様かつ高度な表現・作文、高度な文章読解、様々な場面を想定した複雑な聞き取り・会話ができるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず予習・復習、宿題をしてください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『New 西江韓国語 4A』
参考文献	授業内に指示します
評価方法	期末テスト（60%）、発表および授業中の課題遂行（20%）、宿題（20%）

13 年度以降	韓国語演習	担当者	青木　義幸

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、韓国語を通じて自分はどのようなことを実現したいのかを考え、それに一歩でも近づくことを目的とします。「ことば」は勿論、コミュニケーションに必要な文化、ICTスキル、思考力、協働など様々な能力の開発をするとともに、教室内外の社会的活動を通じて、自己実現していきます。授業スケジュールは学生の特性によって変更する可能性があります。	１．エピソードを語る ２．引用しながら語る１ ３．引用しながら語る２ ４．意味を説明する１ ５．意味を説明する２ ６．理由を説明する１ ７．理由を説明する２ ８．まとめ ９．感情を伝える１ １０．感情を伝える２ １１．感情を伝える３ １２．推薦する１ １３．推薦する２ １４．推薦する３ １５．総まとめ

到達目標	「韓国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず予習・復習、宿題をしてください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『New 西江韓国語 4B』
参考文献	授業内に指示します
評価方法	期末テスト 60%、発表 20%、授業中の課題遂行・宿題 20%

13 年度以降	韓国語演習	担当者	青木　義幸

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、前期に引き続き、韓国語を通じて自分はどのようなことを実現したいのかを考え、それに一歩でも近づくことを目的とします。「ことば」は勿論、コミュニケーションに必要な文化、ICTスキル、思考力、協働など様々な能力の開発をするとともに、教室内外の社会的活動を通じて、自己実現していきます。授業スケジュールは学生の特性によって変更する可能性があります。	１．基本事項の確認 ２．回想して語る１ ３．回想して語る２ ４．回想して語る３ ５．仮定して語る１ ６．仮定して語る２ ７．仮定して語る３ ８．前半のまとめ ９．　クレームする1 １０．クレームする2 １１．クレームする3 １２．問題改善を要請する1 １３．問題改善を要請する2 １４．問題改善を要請する3 １５．総まとめ

到達目標	「韓国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	必ず予習・復習、宿題をしてください。
テキスト	西江大学韓国語教育院『New 西江韓国語 4B』
参考文献	授業内に指示します
評価方法	期末テスト 60%、発表 20%、授業中の課題遂行・宿題 20%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	韓国語演習	担当者	白　寅英

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は春学期の「韓国語上級」の学習成果を踏まえ、多様な文章の読解を通して高級文法や高級語彙・表現を習得し、より高度な韓国語を身につけることを目指す。 なお、プレゼンテーションの機会を設け、発表文の作成から発表、質疑応答まですべてを韓国語で行い、実践的な韓国語の運用能力やコミュニケーション能力の向上を図る。	1　授業の概説と受講者の要望収集・確認 2　1課　人物（読解） 3　インタビュー 4　Review 5　2課ソウルの名所 6　発表 7　Review 8　3課　誕生と葬式 9　調査 10　Review 11　前半のまとめ 12　4課　漫画で学ぶ四字熟語 13　ことわざの引用 14　Review 15　まとめ

到達目標	「韓国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読し、予習すること。 また、出される課題を指定日に提出・発表などができるように用意すること。
テキスト	西江大学韓国語教育院　『西江 NEW 韓国語 5A 』
参考文献	特になし
評価方法	定期試験 40%、プレゼンテーション 30%、課題および授業への参加度 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	韓国語演習	担当者	沈　民珪

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は春学期の上級で学んだ事項をふまえ、さらに高度な韓国語運用力を習得するためのものである。そのため、授業をすべて韓国語で行い、意思伝達の能力を向上させ、自由な意思交換ができる場とする。	1　授業の概説と受講者の要望収集・確認 2　5課　詩 3　5課　エッセイ 4　Review 5　6課　コラム 6　6課 悩み相談 7　Review 8　7課　成功になる習慣 9　主張と反論 10 Review 11 前半のまとめ 12 8課　韓国現代史 13 事件の説明 14 Review 15 まとめ

到達目標	「韓国語Ⅰ～Ⅳ」ならびに「韓国語上級」の学習成果をふまえ、専門的、実践的な韓国語運用能力を習得し、特定のテーマに関する韓国語文献研究、実務的課題に対処できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回出される課題を解いて次回に発表・提出してください。
テキスト	西江大学韓国語教育院　『西江 NEW 韓国語 5A 』
参考文献	特になし
評価方法	期末テスト 50%、課題及び発表 20%、授業参加度 30%、

13 年度以降	翻訳通訳論・韓国語	担当者	青木　義幸

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、翻訳・通訳の実践的スキルを身につけることです。今学期の中心は翻訳・通訳の基礎を学ぶことです。また、実際に翻訳・通訳をしながら、求められる能力とスキルを習得します。授業は講義形式とグループ活動によって行います。 授業スケジュールは学生の特性によって多少の変更可能性があります。	１．講義概要 ２．なぜ翻訳をするのか ３．どのような翻訳が求められているのか ４．翻訳１ ５．翻訳２ ６．翻訳３ ７．翻訳４ ８．前半のまとめ／筆記テスト ９．なぜ通訳をするのか １０．どのような通訳が求められているのか １１．通訳１ １２．通訳２ １３．通訳３ １４．通訳４ １５．今学期の振り返り

到達目標	韓国語の翻訳通訳について基礎理論を習得し、基本的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教材は授業の中でプリントを配布します。必ず予習・復習、課題をしてください。
テキスト	プリント教材（辞書は必ず準備してください。）
参考文献	宮脇孝雄（1998）翻訳家の書斎－＜創造力＞が働く書斎－ 研究者出版
評価方法	中間テスト４０％、授業中の課題遂行や宿題など６０％

13 年度以降	翻訳通訳実習・韓国語	担当者	青木　義幸

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、前期の翻訳通訳論を踏まえ、より実践的な通訳、翻訳をします。日韓翻訳、韓日翻訳、日韓通訳、韓日通訳を実際にしながら、実践力と、生じる問題点をいかに補っていくかを考える力も養います。授業はペア活動やグループ活動が中心になります。 授業スケジュールは学生の特性によって多少の変更可能性があります。	１．講義概要 ２．翻訳の実践１ ３．翻訳の実践２ ４．翻訳の実践３ ５．プロジェクト１ ６．翻訳プロジェクト１ ７．翻訳プロジェクト２ ８．翻訳プロジェクト３ ９．翻訳プロジェクト４ １０．通訳の実践 １１．通訳プロジェクト１ １２．通訳プロジェクト２ １３．通訳プロジェクト３ １４．通訳プロジェクト４ １５．今学期の振り返り

到達目標	韓国語の翻訳通訳について応用理論を習得し、実務的な翻訳通訳ができるようにする。
事前・事後学修の内容	教材は授業の中でプリントを配布します。必ず予習・復習をしてください。
テキスト	プリント教材（辞書は必ず準備してください。）
参考文献	宮脇孝雄（1998）翻訳家の書斎－＜創造力＞が働く書斎－ 研究者出版
評価方法	成果物６０％、授業中の課題遂行や宿題など４０％

13 年度以降	スペイン研究概論	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン研究概論では、主にスペインの言語・地理・文化・歴史に関する講義を行う。特にスペイン語を学ぶものにとっては最低限知っておかなければならない基礎的知識の獲得を第一の目的とする。ただし、**スペイン語を学んでいる必要はない**。 講義は、スペインの歴史、地理、社会、言語事情の基礎を講義する。簡単な課題を与える場合がある。 なお、「ラテンアメリカ研究概論」と関連性・連続性が強いため、左記授業も選択することが望ましい。	1. 世界のスペイン語 2. イベリア半島の地理・言語状況 3. カタルーニャの言語 4. カタルーニャの文化 5. バスク、ガリシアの言語文化 6. アンダルシーアの言語文化 7. イスラム・スペイン 8. 1492 9. フラメンコ・闘牛 10. スペイン黄金世紀 11. 18, 19世紀のスペイン 12. 19, 20世紀のスペイン 13. スペイン内戦とフランコ体制 14. スペインの民主化とヨーロッパ統合、現代スペイン 15. 春学期のまとめ

到達目標	スペインの歴史、文化、社会、政治、経済等に関する事情について基本的な知識を習得し、これに関して分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し、次回の内容をプリントで確認する。
テキスト	適宜プリントを配布
参考文献	授業で紹介
評価方法	定期試験によって評価する。

13 年度以降	スペイン語研究	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペイン語の文法要素を言語学的に分析することが本講義の目的である。分析の結果も大事な成果のひとつであるが、それ以前に分析の方法、プロセスを見いだし、問題設定をする練習の場とも考える。 今年度の主なテーマは「代名詞・冠詞の用法を中心とした定表現について」とする。 まず、スペイン語の代名詞に関する基本的な知識を獲得・復習するために講義を行う。その際に先行研究を紹介し、それらの分析にはどのような問題点があるのかを洗い出す。次に冠詞について同様に確認する。 ある程度の予備知識がついたところで、扱ったテーマの中からひとつテーマを選択し、それに関する短いレポートを課題とする。	1. 言語学的予備知識解説 2. 語用論的予備知識解説 3. スペイン語の定表現について（導入） 4. スペイン語の定表現について（分析） 5. 問題点１ 6. 課題１ 7. 課題の説明１ 8. スペイン語の冠詞と構文について（導入） 9. スペイン語の冠詞と構文について（例の収集） 10. スペイン語の冠詞と構文について（分析） 11. スペイン語の冠詞と構文について（考察） 12. 問題点2 13. 課題2 14. 課題の説明2 15. 講義のまとめ

到達目標	スペイン語学、言語学的にスペイン語を観察・分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し、次回の内容をプリントで確認する。
テキスト	適宜プリントを配布
参考文献	授業で紹介
評価方法	数回のレポートによって評価する。

13 年度以降	スペインの言語と歴史・文化	担当者	二宮　哲

講義目的、講義概要	授業計画
スペインの文化について歴史を辿りながら総覧する。とくに言語の歴史を中心として、その周辺で動く社会や風習などを概観する。 主な対象は「スペイン」ではあるが、勿論、言語を中心に見ていくため、スペイン以外のスペイン語圏についても可能な限り触れていく。またスペイン語の文献や作品を実際に読む。そのため一定以上のスペイン語力が求められる。 今年度は特に、スペインの各地に伝わる「食」を中心に据えて、スペインの地域性と歴史をもとにスペインの文化について考えて行きたい。	1. オリエンテーション 2. スペインの地域性 3. 地域性・歴史と言語 4. 地域性・歴史と文化 5. スペインの歴史と食の関係（導入） 6. スペインの歴史と食の関係（考察） 7. 地域と食に関するプレゼンテーション（北部） 8. 地域と食に関するプレゼンテーション（中央部北） 9. 地域と食に関するプレゼンテーション（中央部南） 10. 地域と食に関するプレゼンテーション（東部） 11. 地域と食に関するプレゼンテーション（南部） 12. 歴史と食（考察） 13. 歴史と食（まとめ） 14. 現代と食 15. 総論

到達目標	スペインの言語の歴史の把握、ならびにスペインの歴史に沿って、主な文学作品・歴史資料を分析し、鑑賞・批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	次の授業までに、前の授業で学習した内容を復習し、次回の内容をプリントで確認する。
テキスト	適宜プリントを配布
参考文献	授業で紹介
評価方法	プレゼンテーション（50%），レポート（50%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ラテンアメリカの政治と社会	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義ではラテンアメリカという地域の多様性を知り、またこの地域の政治と社会の基本構図を理解することを目標とする。 ラテンアメリカは世界でも稀な、大陸的規模で同質的な文化をもつ地域である。しかし詳しく見ていくと、その同質性を基底としつつも多様性に富んだ地域であることが分かる。また規模は小さいが、カリブ地域にはまったく異質な言語や文化をもつ小国家群も存在する。 本講義では、まずラテンアメリカの政治と社会の基本的な歩みを知り、そのうえでいくつかの代表的な国を具体的に取り上げて地域の多様性について理解を深めていく。そしてこれらを基礎に、現代のラテンアメリカがいかなる政治的・社会的課題を抱えているか、またそれにどう取り組んでいるか(取り組むべきか)を考えていく。	1. 政治史（1）：ラテンアメリカ諸国の独立（19世紀） 2. （2）：近代化とポピュリズム（20世紀前半） 3. （3）：開発と軍事政権（1960年代～） 4. （4）：経済危機と民主化（1980年代～） 5. （5）：ネオリベラリズムと現代社会 6. 地域的多様性（1）：ラプラタ諸国（アルゼンチンなど） 7. （2）：ブラジル 8. （3）：アンデス諸国（ペルーなど） 9. （4）：メキシコ・中米諸国 10. （5）：カリブ諸国 11. 現代の課題（1）：ネオリベラリズムと貧困・格差 12. （2）：先住民運動と多文化主義 13. （3）：麻薬と組織犯罪・暴力 14. （4）：政治の左傾化と社会運動 15. （5）：これからのラテンアメリカ

到達目標	ラテンアメリカの政治と社会に関する基本的事項を総合的かつ体系的に理解し、諸問題について分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題（基本事項の事前確認や文献の講読）について毎回指示する。
テキスト	指定なし。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験で評価（これに授業への参加状況を加味する場合がある)。

13 年度以降	ラテンアメリカの国際関係	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では世界のなかにおけるラテンアメリカの位置づけやその歴史的歩みを学ぶとともに、この地域をとりまく国際関係の諸問題について理解することを目標とする。 ラテンアメリカは発展途上地域であるが、言語的・文化的にはスペインなどのヨーロッパ的特色も有し、また多くの第三世界諸国と異なり、独立国としても200年近い歴史のある、世界のなかで固有の性質をもつ地域である。 本講義ではまず、世界のなかのラテンアメリカという視点からこの地域の歴史的歩みを捉える。そのうえで、対米関係やラテンアメリカ諸国間の関係に関する重要論点について学ぶ。そして、今日のグローバル化の影響やラテンアメリカで強まりつつある新しい地域主義の動向を知り、この地域が抱える21世紀の課題について考える。なお、日本とラテンアメリカの関係についても取り上げる。	1. 国際関係史（1）：植民地時代のラテンアメリカ 2. （2）：独立期と一次産品輸出経済 3. （3）：米国の覇権主義の拡大（20世紀前半） 4. （4）：国家発展と経済危機（20世紀後半） 5. （5）：地域協調の時代（1990年代以降） 6. 対米関係（1）：キューバ革命と米国 7. （2）：軍事政権と米国による援助政策 8. （3）：米国の国益とネオリベラリズムの浸透 9. （4）：反米左傾化の拡大 10. 域内関係（1）：資源開発と国境紛争 11. （2）：輸入代替工業化期の経済統合 12. （3）：反グローバリズムと社会運動 13. （4）：新しい地域統合（UNASUR、CELAC） 14. 日本とラテンアメリカ（1）：日本人移民と日系社会 15. （2）：日本による開発協力

到達目標	ラテンアメリカの国際関係に関する基本的事項を総合的かつ体系的に理解し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題（基本事項の事前確認や文献の講読）について毎回指示する。
テキスト	指定なし。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験で評価（これに授業への参加状況を加味する場合がある)。

13 年度以降	ラテンアメリカの経済と社会	担当者	北野　浩一

講義目的、講義概要	授業計画
ラテンアメリカの国々やそこに住む人々を理解するためには、経済的な営みについての正しく深い知識を持っていることも重要です。しかし、日本との経済的な結びつきが緊密なアジア諸国に比べ、ラテンアメリカの経済に関する情報は多いとはいえません。 本講義では、できるだけ実態に即しながらラテンアメリカの経済的特徴を理解することを目的とします。特に、「一次産品輸出経済」や、「輸入代替工業化」、「ネオリベラル政策」、といった、ラテンアメリカ経済の説明に不可欠なキー概念を正しく理解し、受講者が自ら運用できる能力の獲得を目指します。 授業は、各回一つのトピックを取り上げ、歴史的視点や、地域間比較を行ないながら解説します。直近の経済データや資料を用い、現実の経済活動を体感できるよう構成します。	1．ラテンアメリカ経済概観 2．一次産品輸出経済から輸入代替工業化へ 3．マクロ経済の諸問題 4．経済自由化政策 5．経済発展と政府 6．経済発展と企業 7．人的資本と技術開発 8．貧困と格差 9．農業と農村 10．経済のグローバル化 11．地域統合 12．新一次産品輸出経済 13．開発と環境 14．日本とラテンアメリカ 15．まとめ

到達目標	ラテンアメリカの経済と社会の特色と歴史的変遷過程、主要な思想、現状と課題、および対応等について分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業でプリントを配布します。次の講義までに復習をしてください。
テキスト	宇佐見耕一他『図説ラテンアメリカ経済』日本評論社、2009 年。
参考文献	西島章次・小池洋一編『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ、2011 年。
評価方法	期末テスト 50%、授業中の小テスト 30%、レポート等 20%として、総合的に評価します。

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 （ラテンアメリカ経済発展論）	担当者	北野　浩一

講義目的、講義概要	授業計画
ラテンアメリカの国々は、日本や欧米諸国とは異なる経済構造を有します。「ハイパー・インフレーション」や「一次産品輸出依存」といった特有の問題は、既存の分析ツールである経済学にも再考を迫りました。 本講義では、ラテンアメリカ経済を分析するために、主に開発経済学の枠組みを用いて経済の諸側面について検討を加えていきます。各回の授業では、ラテンアメリカ経済を基礎にして、主要テーマ毎にこれまで開発経済学でどのような分析がなされてきたのかを解説します。 ラテンアメリカの経済発展を深く理解するとともに、受講者自らが発展途上国の経済を分析し、評価できる能力の習得を目指します。	1．ラテンメリカの経済と経済発展論 2．グローバリゼーションと市場自由化 3．マクロ経済問題 4．金融グローバリゼーション 5．地域統合の進展と課題 6．産業と企業 7．資源ブームと経済発展 8．農業と一次産品輸出 9．開発と環境 10．貧困と所得分配 11．社会保障と社会扶助 12．地方分権化の進展と課題 13．経済自由化と政治変化 14．ポストネオリベラリズムの課題 15．ラテンアメリカ経済発展の評価とまとめ

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業でプリントを配布します。次の講義までに復習をしてください。
テキスト	西島章次・小池洋一編『現代ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ、2011 年。
参考文献	ジェトロ・アジア経済研究所編『テキストブック開発経済学［新版］』有斐閣ブックス、2015 年。
評価方法	期末テスト 50%、授業中の小テスト 30%、レポート等 20%として、総合的に評価します。

13 年度以降	ブラジル研究	担当者	E．ウラノ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、受講生がブラジルについて積極的に考え、独自の視点を身につけることである。そのために、ブラジルに関する基礎知識を勉強していただくとともに、社会科学をベースとした思考能力を高めることを目指す。 この授業では、「未来の大国」ブラジルがもつ可能性を、社会･経済・政治面から解説する。例えば、これから持続可能な成長を成し遂げるためには、どのような改革や社会政策が必要なのか。 近年目立つ出来事として、BRICs や G20 などを通じた多極的外交、経済成長、格差の是正による新中間層の形成、ブラジル企業の多国籍化、油田開発などがあげられる。こうした変貌はどのような基盤により実現されているのだろうか。また、日本とブラジルは、今後、経済・文化・外交面でどのように関係を強化していけるのか。 講義形式の授業ではあるが、双方向のコミュニケーション、学生のプレゼンテーションなどを通じて積極的な参加が期待される。	1. イントロダクション：世界のなかのブラジル 2. 「失われた 80 年代」、90 年代、インフレーション、経済安定化 3. 2000 年代、経済成長への道。2010 年代の成長と停滞 4. 格差社会の是正に向けて: Bolsa Família、新中間層の誕生（1） 5. 格差社会の是正に向けて: Bolsa Família、新中間層の誕生（2） 6. 人種による不平等：クォーター制度と是正の試み 7. 持続可能な成長への課題: 教育・インフラ整備・新たな政治経済危機 8. 映像から見たブラジル 9. 映像から見たブラジル 10. 日本の中のブラジル：在日ブラジル人の移住（1） 11. 日本の中のブラジル：在日ブラジル人の移住（2） 12. 日本の中のブラジル：在日ブラジル人の移住（3） 13. 学生のプレゼンテーション 14. 学生のプレゼンテーション 15. まとめ

到達目標	ブラジルの経済・社会などを体系的に理解し、各種の問題について論理的に分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	書籍、新聞、ニュースなどからブラジル関連の情報を自分でピックアップして、 内容について予習をすること
テキスト	テキストはなし。文献は授業時に紹介する。
参考文献	参考文献： 堀坂浩太郎（2012）『ブラジル―跳躍の軌跡』、岩波新書
評価方法	平常授業における課題レポート(20%)、 プレゼンテーション(20%)、 期末試験（60%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 （スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 a)	担当者	P．ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
Objetivo del curso: 1. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los autores y obras artísticas y literarias más destacadas de cada época. 2. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral a través de comentarios acerca de los conocimientos adquiridos. -La comprensión oral mediante videos y películas. -Expresión escrita. **Destinatarios:** alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.	1. Presentación del curso. 2. Introducción 3. Los albores del arte español: *la cueva de Altamira* 4 y 5. Los iberos y los celtas: sus sociedades y manifestaciones artísticas 6 y 7. La romanización de la Península Ibérica y sus consecuencias 8 y 9. Las invasiones germánicas (s. V). La sociedad, el arte y la arquitectura visigodos 10 y 11. La invasión musulmana (s. VIII). La sociedad y la cultura hispanomusulmana 12. La arquitectura hispanomusulmana 13, 14 y 15. La Alhambra de Granada y los jardines del Generalife (1)

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Es necesario repasar para poder contestar a las preguntas de cada tema.
テキスト	La profesora entregará las fotocopias correspondientes a cada tema..
参考文献	No es necesario.
評価方法	Cada tema contiene una serie de preguntas que es necesario contestar. **La asistencia a clase es importantísima.**

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 （スペイン語で聞くスペイン・ラテンアメリカ研究 b)	担当者	P．ラゴ

講義目的、講義概要	授業計画
Objetivo del curso: 3. La enseñanza de la cultura y la civilización españolas desde sus orígenes hasta la actualidad. Se pondrá énfasis en los periodos históricos más importantes, así como en los autores y obras artísticas y literarias más destacadas de cada época. 4. Desarrollar: -La comprensión lectora a través de la lectura de textos escritos. -La expresión oral a través de comentarios acerca de los conocimientos adquiridos. -La comprensión oral mediante videos y películas. -Expresión escrita. **Destinatarios:** alumnos que posean un conocimiento general de la gramática española.	1 y 2. La arquitectura medieval: el románico (s. XI) y el gótico (s. XII) 3 y 4. El Camino de Santiago 5 y 6. *La Celestina*: el paso de la Edad Media al Renacimiento 7, 8 y 9. Los Siglos de Oro: el Renacimiento (XVI). El Greco (1541-1614), un pintor manierista. La arquitectura renacentista: El Monasterio del Escorial. 10, 11 y 12. Los Siglos de Oro: el Barroco (s. XVIII). Velázquez (1599-1660). 13, 14 y 15. Francisco de Goya (1746-1828), un pintor entre el Romanticismo y la Ilustración.

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Es necesario repasar para poder contestar a las preguntas de cada tema.
テキスト	La profesora entregará las fotocopias correspondientes a cada tema..
参考文献	No es necesario.
評価方法	Cada tema contiene una serie de preguntas que es necesario contestar. **La asistencia a clase es importantísima.**

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 （スペイン・ラテンアメリカの芸術文化）	担当者	倉田　量介

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では，スペインとその旧植民地ラテンアメリカのパフォーミングアーツ(音楽・ダンス・演劇)および映像ほか視聴覚メディアを扱います。欧米や日本の事情と比較することで，背景となる社会や時代の諸相を考察します。 この地域の音楽はダンスと一対に様式化されてきたことから，まず身体技法について触れます。クレオールを筆頭に文化混淆がキーワードとなるため，まず個別の構成要素を検討します。グローバルなポピュラー音楽市場に影響を与えたキューバの事例中心です。次にジャマイカのレコード産業やサンバ・ボサノヴァで知られるブラジルに目を向け，ドキュメンタリーを観ながら，クラブカルチャーの源流を探ります。随時，ローカルな民俗芸能が国民文化として戦略的に広報される経緯を追います。芸術はサブカルチャーから流行に至る場合が多い。映画の動向やガウディの商標化も取りあげます。ルーツとは何か。学問的に論じましょう。	1. VTR を交えたイントロダクション 2. カリブ海地域における混血主義とシンクレティズム 3. スペイン系弦楽器にみる口頭メディア的な弾き語り 4. アフリカ系太鼓にみるポリリズムとコール&レスポンス 5. フォルクローレ(民俗)をめぐる身体技法とグローカル化 6. メインストリームと対象化(オブジェクティフィケーション) 7. 映画の媒介: ICAIC からエリセやアルモドーバルまで 8. 世界を席巻するポピュラー音楽と世界で渦巻く対抗文化 9. マス対象の文化産業とサルサほか移民の市場細分化 10. 黒塗りとブラックアトランティック: ラップ・レゲトン.... 11. カット&ミックス: ジャマイカ発のスカ・レゲエ・ダブ.. 12. 音楽大国ブラジルにおけるトロピカリアや農民の祝宴 13. 日本の「大衆演劇」，創られた「ラテン歌謡」やＪポップ 14. 国際的なマーケットでブランド化された建築家ガウディ 15. まとめ

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義が軸となるため，特に事前学修は必要ないが，関心を抱いたジャンルや実践者については，事後に自分で PV ほかのコンテンツを検索するなどして，最終レポートの下準備につなげること。
テキスト	適宜プリント配布し，参考書を紹介するが，地域文化的な各論に関しては以下をあげる。石橋純編『中南米の音楽』(東京堂出版，2010，978-4490206678)
参考文献	特になし
評価方法	平常授業の感想紙におけるコメント等の実績および聴講姿勢(35%)と期末レポート(65%)

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究（カリブ海域研究）	担当者	工藤　多香子

講義目的、講義概要	授業計画
カリブ海域といっても、日本から遠く、あまりなじみのない場所かもしれません。しかし、砂糖やタバコ、そしてサルサやレゲエといった音楽を通じてカリブ海域と私たちの社会は密接につながっています。この講義では、なぜ砂糖がこの地域で栽培されるようになったのか、また、どうして多様な音楽がこの地域から生まれるのかを歴史的背景にさかのぼりながら解説します。 具体的には2015年に米国と国交再開したばかりのキューバを中心に人々の暮らしなどを紹介しながら、広くカリブ海域の人々の経験について文化人類学的に考察します。コロンブスの「発見」以来、独特の歴史を背負うこととなったこの地域の社会や人々の考え方に、遠い日本に住む私たちにもきっと学ぶべきことが多くあるはずです。	1. 概論　「ヨーロッパの闘技場」としてのカリブ海域 2. コロンブスと「カリブ」の出会い 3. ヨーロッパと砂糖 4. 砂糖が生んだ社会 5. タバコの文化史 6. 海賊とラム酒 7. 奴隷制度の実態 8. 奴隷制度の爪痕 9. 人種と民族 10. クレオール文化 11. カリブ海域の音楽 12. カリブ海域の宗教 13. キューバ革命 14. キューバのいま 15. まとめ

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回リアクションペーパーを提出してもらいます。ふだんからカリブ海域のニュースなどに関心をもつようにしてください。
テキスト	特に指定なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	レポート 60%、リアクションペーパー40%

13 年度以降	スペイン・ラテンアメリカ特殊研究 （スペイン・ラテンアメリカの社会文化）	担当者	井垣　昌

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、主に南米の数カ国に関する事例研究に触れながら、現代ラテンアメリカの社会と文化との関係について理解することにある。ラテンアメリカ全体の特徴、域内における多様性と相違についても視野に入れる。 本授業は講義形式で行なうが、履修生には、自由研究の提出や発表、講義や発表への質問など、積極的な授業参加を求める。また、知識や概念の理解度を試す小テストや、概念を用いた思考力を試す課題を出す。なお、課題を全て提出しない学生は、成績評価の対象としない。 ※履修生の興味・関心、授業の進捗などに応じて、授業計画等を変更する場合があるが、講義で取り上げる主な国やテーマは、ラテンアメリカの一部に限られる。 ※授業の進め方については、初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1. ガイダンス 2. ラテンアメリカの概念と全体像 3. ラテンアメリカの主な亜地域と諸国家の特徴 4. ラテンアメリカにおける人種と民族 5. ラテンアメリカにおける宗教と国家 6. アンデス地域におけるコミュニティ形成 7. アンデス地域の宗教、政治、文化―コカ葉 8. アンデス地域の宗教、政治、文化―祝祭 9. アンデス地域の伝統、社会、文化―フォルクローレ 10. 異文化接触―アンデス地域とアマゾン地域 11. ラプラタ地域の政治、文学、舞踊―ガウチョ 12. ラプラタ地域の宗教、政治、経済―マテ葉 13. 異文化接触―アンデス地域とラプラタ地域 14. ラテンアメリカの他地域との比較―嗜好品 15. まとめ

到達目標	「スペイン・ラテンアメリカ研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってスペイン・ラテンアメリカを研究し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：指定された資料を精読し、概念および用語の意味と具体例を関連付けて把握しておくこと。 事後：授業の内容を復習し、ラテンアメリカに関するトピックの考察に反映させること。
テキスト	参考資料を配布
参考文献	授業中に紹介
評価方法	平常点（授業への参加度等）［25%］、小テスト［25%］、課題［50%、実施する場合は期末試験を含む］を評価対象の目安とする。課題の期限内の全提出および一定回数以上の出席を成績評価の必須条件とする。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	中国社会論	担当者	鶴園　裕基

講義目的、講義概要	授業計画
今日において、「人の移動」は我々が経験する日常の一部であると同時に、すぐれて国際的な社会現象である。本講義ではこの観点にたち、中国および中国語圏の社会の様相についての理解を深めることを目的とする。 まず人の移動に関する理論を解説した上で、中国からの／への「人の移動」の歴史的・現在的事例を取り上げて解説を行い、その現代的な意義についても触れる。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1 ガイダンス 2 人の移動の理論 3 一九世紀までの華僑華人（東南アジア） 4 一九世紀までの華僑華人（東アジア） 5 一九世紀までの華僑華人（北米） 6 二〇世紀以降の華僑華人（東南アジア） 7 二〇世紀以降の華僑華人（東アジア） 8 二〇世紀以降の華僑華人（北米） 9 満州移民 10 台湾移民 11 台湾籍民 12 中国国内の人の移動 13 中台間の人の移動 14 外国人労働者 15 まとめ

到達目標	中国社会の特色や問題などに対する理解を深め、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	テキストはなし。教材は教員の方で用意します。
参考文献	参考文献については授業内で紹介します。
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［70%］を評価対象とする。小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

13 年度以降	中国研究概論	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
中国研究および中国語圏理解のために役立つ、基礎的な知識を身につけることを目標とする。 中国人の現代生活と深い関わりを持つ、文化・政治・社会・経済などに関わる諸トピックをとりあげ、関連する中国語キーワードとともに、現代中国への理解への手がかりとする。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1. ガイダンス 2. 前提知識：中国の近代 3. 前提知識：中国と現代 4. 生活の知恵：伝統的遊び 5. 生活の知恵：古典作品 6. 生活の知恵：歴史ドラマ 7. 中国の海外投資：アジア 8. 中国の海外投資：アフリカ 9. 学園生活：初等教育 10. 学園生活：中等教育 11. 中国の建築：伝統 12. 中国の建築：現在 13. 現代中国社会：土地 14. 現代中国社会：住宅 15. まとめ

到達目標	中国の歴史、文化、社会、政治、経済等に関する事情について基本的な知識を習得し、これに関して分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	テキストはなし。教材は教員の方で用意します。
参考文献	参考文献については授業内で紹介します。
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［70%］を評価対象とする。小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

13 年度以降	中国地域論	担当者	鶴園　裕基

講義目的、講義概要	授業計画
受講者には、本講義の受講を通して、文化的・歴史的側面から、中国語圏における都市文化についての理解を深めてもらいたい。 具体的には、香港、上海、満州、台湾、福建などの都市で育まれた言語、食文化、音楽、映画等の文化等を概観する。その上で、それらの文化と他者とどのように接触し、いかなる交流を持ったのかを履修生とともに考えていきたい。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1 ガイダンス 2 地域と文化についての考え方 3 上海：歴史概観 4 上海：租界とモダニズム 5 香港：歴史概観 6 香港：越境する食文化 7 香港：香港映画の世界 8 満州：歴史概観 9 満州：李香蘭と満州映画協会 10 台湾：歴史概観 11 台湾：台湾歌謡の世界 12 台湾：族群と食文化 13 福建：歴史概観 14 福建：伝統文化と観光 15 まとめ

到達目標	中国各地域の特色や問題に対する理解を深め、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	テキストはなし。教材は教員の方で用意します。
参考文献	参考文献については授業内で紹介します。
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［70%］を評価対象とする。小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

13 年度以降	中国言語文化論	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
いわゆる漢字文化圏の一員に数えられる日本は，古代より中国文明の波打ち際でその文化を創り醸成してきた。「一衣帯水」という微妙な距離をおいての受容と長い交流の中で両言語の関係は実に密でかつまた微妙である。日本語母語話者が中国語を学ぶときに陥る誤解や誤用は，背景の文化に対するそれと同様，独特のものがある。 日本語母語話者の中国語学習においては，この誤解や誤用を生む背景に対する深い理解が欠かせない。	1. オリエンテーション 2. 中国語とは？普通话、汉语、华语、国语　漢字文化圏 3. 現代中国語の音韻 4. 華人と中国語の比喩 5. 中国人のコミュニケーションの特色 6. 中国人の「色」 7. ことわざ・歇後語 8. 〝既成の言い回し〟描写表現 9. 東西南北、右左 10. 日本語母語話者ゆえの誤謬 11. 飲食に関する言葉 12. 中国人の名前・命名 13. 自尊心・コネ社会・宗教 14. 「漢文」の時代の中国語と現代中国語 15. まとめ

到達目標	中国語とその文化を学ぶための視点を養成し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	次回の内容について思いを巡らせ，既習の内容について咀嚼玩味する。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	定期試験 70%，授業への参加度 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	現代中国論 I	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
中国の現状について理解するために、北京・上海・広州などの主要都市および、東北・内陸・国境地帯の各省について、地域ごとの現状（主要な住民の構成、主要産業、地域の歴史など）を解説し、履修者には中国国内の情勢に対する理解を深めてもらう。 ある意味で、これまで身につけてきた中国に関する知識を別の角度から総括することになるであろう。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課す。この小課題は全て提出していない学生は、成績評価の対象としない。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1. ガイダンス 2. 広州・深圳と対外貿易 3. 上海と工業・金融 4. 重工業と東北三省 5. 山東省とドイツ 6. 出稼ぎ供給地としての華中地域 7. 革命故地 8. 首都、北京 9. 古都、西安・杭州・南京 10. 四川省と観光 11. 雲南と少数民族 12. 内モンゴルと草原・モンゴル族 13. 新疆ウィグル自治区と中央アジア 14. チベット・チベット族と高原地帯 15. まとめ

到達目標	現代中国を全体的かつ多角的に捉え、各種の課題について分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	テキストはなし。教材は教員の方で用意します。
参考文献	参考文献については授業内で紹介します。
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［70%］を評価対象とする。小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	現代中国論Ⅱ	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
中国語圏の現在の姿について理解するために、特に台湾のエスニシティをめぐる状況を概観し、各自の見解をまとめる。これにより、現代中国語世界への理解を深めることを目標とする。 まずは台湾社会を構成する主なエスニシティについて紹介し、歴史・言語・地理環境などについて解説を行う。それらを踏まえて台湾内の社会の変化やその意義についても触れる。 本授業は講義形式で行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。また、授業中に小課題の提出を課すこともある。 授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1. ガイダンス 2. 現代政治と四大族群 3. 台湾のマジョリティ―閩南人 4. 政治的対立の起源 5. 二二八事件 6. マイノリティ―先住民族と客家 7. 日本史・中国史・先住民史―台湾出兵 8. 日本統治時代のエスニシティ状況 9. 日本史と先住民史の交錯、再び―霧社事件 10. エスニシティと社会運動―先住民 11. エスニシティと社会運動―客家 12. 境界線上の民族：外省人 13. 境界線上の民族：少数民族 14. ことばと名前を通して日中台の関係を考える 15. まとめ

到達目標	現代中国を全体的かつ多角的に捉え、各種の課題について分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	テキストはなし。教材は教員の方で用意します。
参考文献	参考文献については授業内で紹介します。
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、小課題［70%］を評価対象とする。小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

13 年度以降	中国史Ⅰ	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代の東アジア世界をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀前半，中国は内外の諸要因から激動の時代を迎えます。2000 年間，王朝交替を繰り返しながら存続してきた皇帝支配体制は最大の危機に直面します。 清朝国家は体制存続にために様々な改革を実施します。講義ではこの時期の社会秩序や経済活動の変動に対して，当時の人々がどのように対応したかを中心に考えていきたいと思います。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	1　講義の概要 2　清朝体制：皇帝支配 3　清朝体制：科挙と地方統治 4　アヘン戦争と冊封・朝貢体制の動揺 5　太平天国 6　体制の反撃 7　回民反乱 8　万国公法と西学受容 9　開港場の社会と経済 10　農村社会の変容 11　朝鮮半島をめぐる日清対立 12　台湾事件と台湾出兵 13　新疆をめぐる紛争 14　清末新宗教の活動 15　まとめ

到達目標	中国の歴史を東アジアの国際関係と結びつけながら深く理解し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読むこと。授業時に紹介した関連文献を図書館などで探し読むこと
テキスト	並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』（中公文庫Ｓ22－19）中央公論新社，2008 年。
参考文献	授業時に紹介する
評価方法	定期試験 80%、平常点 20%

13 年度以降	中国史Ⅱ	担当者	張　士陽

講義目的、講義概要	授業計画
現代の東アジア世界をより深く理解するために，その成立の背景となる中国近代史について講義します。 19 世紀後半、清朝はベトナム・ビルマ・琉球などの宗主権を喪失する一方，朝鮮半島ではその主導権をめぐり日本と対立し日清戦争が勃発します。その敗北によって清朝体制の存続は危機的状況に陥ります。この時代に伝統の創造により中国の変革を目指した人々，さらなる変革を求めて「革命」を選んだ人々などの思想と行動を検討し，また地方自治改革と地域社会の対応の軌跡をたどりながら，中華民国初期の近代国家建設の試みとその挫折を検証します。 中国近代史では政治経済の短期的変動に関心が向きがちですが，伝統中国社会の特質の変容と再編という点も視野に入れる予定です。	1　講義の概要 2　周辺地域の宗主権の喪失 3　清仏戦争 4　劉銘伝の台湾近代化政策 5　日清戦争 6　台湾民主国の抵抗 7　変法改革 8　戊戌の政変 9　キリスト教と反キリスト教暴動 10　義和団の蜂起 11　纏足問題と天足運動 12　革命派の台頭 13　地方自治の試み 14　王朝体制の崩壊と中華民国の誕生 15　まとめ

到達目標	中国の歴史を東アジアの国際関係と結びつけながら深く理解し、これに関して分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読むこと。授業時に紹介した関連文献を図書館などで探し読むこと
テキスト	並木頼寿・井上裕正『世界の歴史 19　中華帝国の危機』（中公文庫Ｓ22－19）中央公論新社，2008 年。
参考文献	授業時に紹介する
評価方法	定期試験 80%、平常点 20%

13 年度以降	中国特殊研究（日中比較文化研究ａ）	担当者	大澤　昇

講義目的、講義概要	授業計画
日本人の見た[中国]、中国人の考えた[日本] 経済・政治などが地球上で均一化していく「グローバル （全球）化」の中で、日本と中国の地域的な対立は世界的にも注目を集めている。「政冷経熱」（政治上は対立するが、 経済的には交流が深まる）が「政冷経冷」（政治的にも経済的にも対立する）、更には日中間の「文明の衝突」に向かわないためには、日本と中国との間の文化の違いや日本人と中国人の思考の差異を冷静な目で見る必要があるだろう。卑弥呼の時代の日中交流から、現代の中国人観光客の日本観やネット上の発言まで、「日本人が中国をどう捉えたか」「中国人が日本をどう見たか」を題材に、日中両国の文化を世界的な視点で、歴史の流れの中で比較していく。	1. 「支那」と「小日本」――ネット上に溢れる蔑称 2. 徐福伝説と呉太伯（大陸文化の渡来） 3. 聖徳太子と空海（遣唐使が見た中国） 4. 慈覚大師と浜松中納言（大陸文化からの自立） 5. 武家政権と科挙政治（中国化を免れた日本） 6. 「日本国王」と室町文化（日本文化の成立） 7. 「南蛮文化」の渡来と日中衝突（日本文化の拡大） 8. 近松門左衛門と荻生狙来（「聖人君子の国」とは？） 9. 黒船来航とアヘン戦争（高杉晋作の上海渡航） 10. 「文明開化」と「中体西用」（福沢諭吉と梁啓超） 11. 「合わせ鏡」としての日中関係（夏目漱石と魯迅） 12. 「同文同種」の分裂と衝突（横光利一と郭沫若） 13. 「激変中国」と「平和日本」（文化大革命と平和憲法） 14. 世界文明の中の日本と中国の文化 15. 「日本文化」と「中国文明」

到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に高校時代の世界史、日本史の教科書や参考書を授業の時系列に従い読み直す。事後、授業中に書いた小レポートの内容を再吟味する。
テキスト	大沢昇著『クジラの文化、竜の文明　日中比較文化論』（集広舎、2015 年）
参考文献	授業中に紹介、プリントを配布
評価方法	授業ごとの小レポート 70%、最終授業の課題レポート 30%

13 年度以降	中国特殊研究（日中比較文化研究ｂ）	担当者	大澤　昇

講義目的、講義概要	授業計画
「竜の文明」と「くじらの文化」 日本人と中国人は、一見するとまったく見分けが付かないほど、顔立ちは似ているが暮らしの上では、大きな違いが散見される。日本では「衣食住」が日常の暮らしに欠かせないものと考えるが、中国では“衣食住行”と言い、交通手段も人間の生活に於いて必要不可欠なものとする。また家族観や価値観、思考様式でも両文化は異なる点が多い。19世紀、「西欧の衝撃」を受けて近代化する過程に於いて、日本では「和魂洋才」から「文明開化」に進んでいったが、中国では“中体西用”と言って欧米文明の「先進性」をなかなか認めようとしなかった。こうした日中文化の違いを、具体的に幅広く見ることで、中国文化を客観的に観察し、日中間の「異文化理解」の一助としたい。	1. 「顔」と「文化」――外見はそっくりだが 2. （国の形）国号・国旗・国歌の考え方が異なる日中 3. （食）「水の料理」と「火の料理」 4. （政治）姓のない天皇、姓をもつ皇帝 5. （住）「木の家屋」と「土の城壁」 6. （思考方法）「恥の文化」と「誇り（驕）の文明」 7. （衣）「柄の着物（和服）」と「色の衣服」 8. （価値観）「縮み志向」と「巨大願望」 9. （交通）「歩く文化」と「乗る文明」 10. （死生観）日本の「幽霊」と中国の「妖怪」 11. （言語表現）「以心伝心」と“討価還価” 12. （芸術）派手な「浮世絵」と地味な「文人画」 13. （家族）公儀に対する「忠」と父母に尽くす「孝」 14. （社会）「金太郎アメ」世間と「クモの巣」関係 15. 「クジラの文化」と「竜の文明」（これからの日本と中国――「普遍的な地球文明」か「文明の衝突」か？）

到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に『クジラの文化、竜の文明』をテーマに従い読む。事後、授業中に書いた小レポートの内容を再吟味する。
テキスト	大沢昇著『クジラの文化、竜の文明　日中比較文化論』（集広舎、2015 年）
参考文献	授業中に紹介、プリントを配布
評価方法	授業ごとの小レポート 70%、最終授業の課題レポート 30%

13 年度以降	中国特殊研究（中国文学研究ａ）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、中国の代表的な古典文学作品を取り上げます。中国語の原文に触れながら読解力を高めるとともに、文学作品を鑑賞する能力を養い、中国文化への理解を深めることを目指します。 履修者は配布された資料を予習のうえ、授業のときには一人一人順番に翻訳を行ないます。また、適宜担当者を決め、プレゼンテーションをしてもらう予定です。 一部の作品は映像化されているので、春学期の後半に鑑賞する予定です。また、学生の興味と語学力のレベルに応じて作品を変更することがあります。	1. ガイダンス、唐詩選より 2. 唐詩選より 3. 唐詩選より 4. 唐代伝奇『柳毅伝』 5. 唐代伝奇『柳毅伝』 6. 唐代伝奇『柳毅伝』 7. 唐代伝奇『謝小娥伝』 8. 唐代伝奇『謝小娥伝』 9. 『三国演義』 10. 『三国演義』 11. 『三国演義』 12. 『西遊記』 13. 『西遊記』 14. 『西遊記』 15. 全体のまとめ

到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	本文を予習し、訳出できるようにするだけでなく、作品の特色や作者の意図などについても考えておく。
テキスト	授業中に配布します
参考文献	授業中に紹介します
評価方法	授業中の課題の達成度 50%、レポート 50%

13 年度以降	中国特殊研究（中国文学研究ｂ）	担当者	近藤　光雄

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、中国近現代文学の代表的な作家の短篇、中篇小説を取り上げます。五四運動、日中戦争、新中国の成立、文化大革命後の改革開放といった異なる時代において、近現代の作家たちは歴史や社会をどのように捉え、人間とその生活をいかに表現したか。時代情況や文学史的な背景を解説し、中国語で書かれた文学作品を読解していくなかでこれらの問題を考えるとともに、それを支える作家の思想、作品のモチーフ、言葉のスタイルへの理解を深めることを目指します。日本語に翻訳されたものも多数存在するため、レポートを作成する際には補助資料として紹介します。 授業の進め方は春学期同様。	1. 魯迅（一） 2. 魯迅（二） 3. 魯迅（三） 4. 丁玲（一） 5. 丁玲（二） 6. 丁玲（三） 7. 茅盾（一） 8. 茅盾（二） 9. 茅盾（三） 10. 趙樹理（一） 11. 趙樹理（二） 12. 趙樹理（三） 13. 莫言（一） 14. 莫言（二） 15. 莫言（三）

到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	本文を予習し、訳出できるようにするだけでなく、作品の特色や作者の意図などについても考えておく。
テキスト	授業中に配布します
参考文献	授業中に紹介します
評価方法	授業中の課題の達成度 50%、レポート 50%

13 年度以降	中国特殊研究（日中交流史）	担当者	武信　彰

講義目的、講義概要	授業計画
日中間の文化交流史においては多くの興味深いことがあるが，２つの時期の状況がとりわけ注目を引く。 唐代においては，日本が貪欲に中国から学んだ。まず文字に出会いものを書くことを覚えた。後に仮名も生んだ。 そして，近代において今度は中国が必死に日本から学んだ。日本新漢語が東アジアの国々の言語体系に流れ込み，当然のこととして中国人の日常言語を形成する重要な部分ともなったのである。 中国語を学ぶ日本人の観点から，これを論ずる中国人学者の論文を読み，われわれの学ぶ現代中国語という言語を新たな視点で捉える。 〈隔在中西之间的日本 － 现代汉语中的日语“外来语”问题 –〉（王彬彬，《上海文学》1998年）を読みつつ進行する。	1. オリエンテーション 2. 唐代と近代　双方向の交流 3. 現代中国語に深く根付く日本語由来の外来語 4. 日本の翻訳と中国の翻訳 5. 中国語を通して抽象語彙を翻訳した日本語 6. 近代日本人学者の翻訳方法 7. 訳語の競合と定着 8. 梁啓超と日本新漢語流入の契機（1） 9. 梁啓超と日本新漢語流入の契機（2） 10. 厳復の不満・反論 11. 欧米の概念をいかに翻訳すべきかの議論 12. 厳復のスタンスと限界 13. 中国語にとって欧米の概念（１） 14. 中国語にとって欧米の概念（２） 15. まとめ

到達目標	「中国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって中国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	教材の中文の読解を試み，既習の中文を熟読玩味する。
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	適宜指示する。
評価方法	定期試験 70%，授業への参加度 30%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	韓国研究概論	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的はこれから韓国について研究を進めるために必要な基本的な知識を身につけ、理解を深めることにある。 そのため、韓国の文化、言語、歴史、社会、政治などの諸トピックを網羅的に論評したテキストを用いて各々のテーマについてみていくことにする。 最初の3回は適宜プリントを配布して講義を進めていくうえで前提となる内容を紹介する。４回目以降は、テキストを１週に１章ずつ進めていく。 人数にもよるが、基本的に講義とグループ発表の形式で進めていく。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. ガイダンス 2. 世界の中の韓国 - 韓国概観① 3. 韓国の中の諸地域 - 韓国概観② 4. いま，韓国をどう見るか 5. 韓国の文化 6. 韓国の言語と文学 7. 韓国の歴史 8. 韓国の社会 9. 韓国の政治 10. 韓国の経済 11. 韓国の外交・安全保障 12. 日韓関係 13. 世界に暮らすコリアン 14. これからの日本，韓国と東アジア 15. まとめ―韓国を考えるための視座

到達目標	韓国の様々な事情について基本的な知識を習得したうえで分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを精読しておくこと。事後学修：授業中に配布したプリントなどを整理すること。
テキスト	小倉紀蔵編『現代韓国を学ぶ』有斐閣, 2012 年
参考文献	川村湊編『韓国（知の攻略 思想読本)』作品社, 2002 年
評価方法	授業に対する積極的態度（20%），レポート（20%），グループ発表（10%），期末テスト（50%）

13 年度以降	日韓交流史	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では古代から現代までの日韓交流の歴史を概観することで、多様な日韓交流に関する知識・理解を深めるとともに、東アジア地域や世界の情勢に対する見方・考え方も身につけることを目的にしている。 そのため、東アジア地域や世界のなかで日韓交流の歴史を扱った本をテキストにして、日韓交流の歴史を見ていく。日韓交流は古代から多様にあるが、1回ごとにいくつかの重要なトピックについての理解を深めた後、交流の社会背景や現代社会との関わりについても見ていく。 基本的には講義形式とグループでの議論・発表を中心に進めていく。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時補充プリントなども配布していく。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. 日韓交流史をみる視角 2. 日韓交流史概観 3. 先史時代の交流 4. 三国・伽耶と倭との交流 5. 隋唐帝国の成立・展開と東アジアの情勢 6. 10世紀～12世紀の東アジアと日本・高麗の交渉 7. モンゴル帝国の成立と東北アジア 8. 明の成立と日本・朝鮮 9. 豊臣秀吉の世界構想と日朝関係 10. 通信使外交の成立と展開 11. 日韓の開港と東アジアの紛争 12. 帝国主義と独立運動 13. 日韓国交正常化以前の交流 14. 現代日韓交流の拡大・発展 15. まとめ―日韓交流の未来を展望する

到達目標	日韓の交流と歴史について相互に認識し、その相違点について分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修修：テキストを精読しておく。事後学修：授業で配布するプリントを整理する。
テキスト	歴史教育研究会・歴史教科書研究会編『日韓歴史共通教材 日韓交流の歴史』明石書店、2007 年
参考文献	吉田光男編『日韓中の交流―ひと・モノ・文化（アジア理解講座)』山川出版社、2004 年
評価方法	授業に対する積極的参加度（20%），レポート（30%），期末試験（50%）

13 年度以降	韓国社会論 I	担当者	羅　一等

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、韓国社会の教育問題を中心に韓国社会を取り巻く事象に対する理解を深めることである。受講生は、韓国社会に関する専門的知識を得ると同時に、それを論理的に分析、提示する能力を修得することを目標とする。 授業は、教員による講義と受講生による発表で構成される。受講生は、予め決められたテーマの中から一つを選んで調査を行い、その内容をまとめて報告、ディスカッションを行う。 前半の授業では、調査方法の説明、および韓国の歴史と韓国の学校の歴史を概観し、韓国社会と韓国の教育問題を考えるために必要な基礎知識を修得する。後半の授業では、韓国社会の教育問題を、校内暴力問題、学生人権問題、教育熱の三つのテーマに分けて発表と講義を行う。そして最後に、韓国の代案教育運動とMOOCについて紹介し、未来の学校のあり方について考える。 本講義は、受講生の調査とディスカッションを重視しているので、授業の全過程において受講生の積極的な参加が求められる。	1. 講義の概要 2. 社会について考えるための質的調査法：聞き取り調査 3. 韓国の歴史1：朝鮮時代末期から朝鮮戦争まで 4. 韓国の歴史2：朝鮮戦争から民主化まで 5. 韓国の学校の歴史1：宗教改革から産業革命まで 6. 韓国の学校の歴史2：日本統治時代から新自由主義時代まで 7. 韓国の校内暴力問題1：調査報告とディスカッション 8. 韓国の校内暴力問題2：既存の議論の批判的検討 9. 韓国の学生人権問題1：調査報告とディスカッション 10. 韓国の学生人権問題2：既存の議論の批判的検討 11. 韓国の教育熱1：調査報告とディスカッション 12. 韓国の教育熱2：既存の議論の批判的検討 13. 韓国の代案教育1：意義と現状 14. 韓国の代案教育2：事例紹介 15. 学校の未来：MOOC時代の到来と展望

到達目標	朝鮮半島情勢を含めた、韓国社会をとりまく事象について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：配布するプリントを精読してください。担当するテーマの調査と発表を準備してください。 事後：毎回出される課題で復習をしてください。
テキスト	プリントで配布する。
参考文献	授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験 50%　発表 40%　平常点 10%

13 年度以降	韓国社会論 II	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国現代社会の伝統と変容を世界のコリアンをテーマに読み解いていく。特に韓国のなかの伝統文化が世界各国でどのように変容するのかに焦点をあてながら、韓国社会の特色を考えることが目的である。 そのため、世界で活躍するコリアンの生活や、彼ら同士の交流などに関する文献・資料を読みながら議論を行うことにする。前半はおもに日本の中のコリアン社会・後半は世界の中のコリアン社会を読み解いて行く。 講義は講義とグループでの議論・発表を中心に行う。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時補充プリントを配布するようにする。韓国語の最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. 世界のコリアン概説 2. 自己・他者理解としてのコリアン 3. コリアンの日本定住 4. 日本の中のコリアン 5. 近代日本とコリアン 6. 済州島文化と在日コリアン 7. 世界のなかのコリア語 8. 中国朝鮮族と国家 9. 北朝鮮と移住する人々 10. コリアンの食文化 11. コリアンと音楽 12. コリアンたちの出会い 13. コリアン・アメリカンのアイデンティティー 14. 現代韓国社会とコリアン文化 15. 世界の中のコリアン文化

到達目標	朝鮮半島情勢を含めた、韓国社会をとりまく事象について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修；毎回与えられたテーマについて自分なりに調べて考えてくること。事後学修；プリント・学習内容を整理し、与えられた参考文献を精読する。
テキスト	テキスト：授業で配布するレジュメ。
参考文献	勉誠出版編集部編『アジア遊学 92　世界のコリアン』勉誠出版社, 2006 年
評価方法	授業に対する積極的参加度（30%），レポート（30%），期末課題（40%）

13 年度以降	韓国史	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
ここ数年、日本と韓国の関係は必ずしも良いとは言えない状況が続いている。その原因は近代の歴史に関する問題である。これに関連してインターネットサイトの中には様々な見解が溢れ、中には極端なものも多い。いま必要なのは、韓国（朝鮮半島）の歴史についてのバランスのとれた理解である。そこで本講義では韓国の通史を講義し、東アジアの中での韓国の位置および日韓関係について学ぶ。 講義は、事前の予習を前提とし、ポイントを記したプリントを配布し、それに基づいて話をする。 知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充てる。これも成績評価の対象とするので、テキストを持参の上、きちんと授業を聴くこと。 なお不定期にレポートを課す場合がある。	第1回：ガイダンス 第2回：古代から統一新羅へ（1）三国時代 第3回：古代から統一新羅へ（2）統一新羅時代 第4回：高麗時代（1）建国から武臣政権の誕生 第5回：高麗時代（2）モンゴル支配から高麗の滅亡 第6回：朝鮮時代（1）建国から豊臣秀吉の侵略 第7回：朝鮮時代（2）後金の侵攻から正祖の治世 第8回：朝鮮時代（3）西欧勢力の進出への対応 第9回：植民地時代（1）日韓併合から満洲事変 第10回：植民地時代（2）太平洋戦争と朝鮮 第11回：現代（1）1945年から1960年 第12回：現代（2）1960年から1980年 第13回：現代（3）1980年から2000年 第14回：現代（4）2000年以後 第15回：まとめ

到達目標	古代から現代に至る韓国（朝鮮半島）の歴史を理解したうえで、各種の現代的課題について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：テキストを読んでくること。事後学修：小テストに備え、テキストとプリントを見直すこと。
テキスト	水野俊平著『韓国の歴史＜増補改訂版＞』（河出書房新社、2017 年）
参考文献	授業時に指示する
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。 ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。

13 年度以降	日韓比較文化論	担当者	金（きむ）　熙淑（ひぃすく）（김 희숙）

講義目的、講義概要	授業計画
私達は、異文化を語る際、無意識のうちに、自分の属している社会や文化を念頭において同質性と異質性を語っている。しかしながら、とりわけ韓国の文化を語る際、表面的な同質性にとらわれがちになってしまい、「文化比較」がきちんと行われない場合が多い。本講座ではこのような点をふまえ、日韓の文化比較を行う際の基本的な事項を学んでいく。具体的には、家族、村落、祭儀、信仰、食文化などに関する日韓比較の理解を目標とし、授業の最後に各自で身近なテーマを決めて「日韓文化比較」を行うことを課題とする。積極的に取組むことを期待したい。 ●参加型授業による人数制限をする。（50 名まで） ◎注意：テーマごとにグループ分けし話し合う場を設け発表する形式を取る。極力 1 回目の授業から出席すること。	1. 日韓比較文化概説　ガイダンス 2. 韓日の建国神話 3. 韓日の国土構造 4. 韓日の村落 5. 韓日の産育習俗 6. 韓日の歳時風俗 7. 韓日の冠婚葬祭 8. 韓日の宗教（民俗信仰） 9. 韓日の家族 10. 韓日の食文化 11. 韓日の食事の作法 12. 韓日の住生活 13. 韓日の服飾 14. 韓国人と日本人のコミュニケーションの取り方 15. まとめ

到達目標	日韓の文化の相違点を理解し、これについて比較分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	文化比較を行う意味は何か
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	参考文献：講義においてその都度紹介する。
評価方法	課題レポート（講義内容から一つのテーマを選ぶ）70%、授業への参加度 30%（グループディスカッション、毎回提出するコメントペーパ等）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	韓国研究情報収集法	担当者	金 熙淑（김 희숙）

講義目的、講義概要	授業計画
本講座は、実際にどのように韓国研究を行っていくのか、その方法論を理解することを目的とした、演習形式の講義である。韓国研究を行う際の研究課題設定の方法から、資料収集法、現地調査の方法、研究成果のまとめ方、そして研究成果の発表までを、総合的に学んでいく。３－４名のグループをつくり、グループ毎に研究テーマを決めて研究を行い、最終的には研究成果を発表してもらう。履修者にはグループ研究への積極的な取組と発表においても質疑応答の積極的な参加を期待したい。 研究テーマ→政治、経済、宗教、教育、文学、言語、歴史問題、大衆文化（マンガ、マナー、恋愛事情、就職、お風呂、マスメデイア、トイレ文化等）自由に選択	1. ガイダンス 2. 研究課題の設定方法 3. 体系的な情報収集方法 4. 情報収集の手順 5. 情報を精選する方法 6. 資料収集方法 7. 現地調査の方法 8. 研究成果のまとめ方 9. プレゼンテーションの方法 10. 研究発表① 11. 研究発表② 12. 研究発表③ 13. 研究発表④ 14. 研究発表⑤ 15. まとめ 注意：「現地調査」は、授業時間以外にフィールドワークを必須とする。

到達目標	韓国研究に必要な情報を実際に収集・整理して、発表できるようにする。
事前・事後学修の内容	研究テーマを決め発表するまでのプロセスを考える
テキスト	レジュメを配布する。
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	課題レポート 50%、発表内容、質疑応答、コメントパーパー50%

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国政治論）	担当者	呉 吉煥（オー・キルハン）

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、韓国の政治と政治史についての基礎的な知識を習得して、朝鮮半島の政治と社会に対する理解を深めることが目的である。 韓国政治の理解には、朝鮮半島における政治文化の形成・展開を検討することがとりわけ重要である。政治文化とは、政治のあり方を規定するイデオロギー、伝統、観念、信仰、ルールなどの政治過程に関わる一切の文化のことで、朝鮮半島ではそれが近代以後に大きく変貌したとされる。だが、その根幹となるものはすでに前近代に形成されており、政治文化の正確な把握には、前近代朝鮮の政治の展開過程を検討する必要がある。 講義では、朝鮮王朝が成立した一四世紀末から二一世紀初めまでの朝鮮半島・韓国の政治史を概観しつつ、各時期における政治の様子とその特徴を明らかにしていく。	1. ガイダンス、韓国政治史の時期区分 2. 朝鮮王朝の成立と両班支配体制の確立 3. 支配体制の再編 4. 開国と近代社会の形成 5. 大韓帝国と植民地化 6. 日本の植民地時期 7. 解放と「分断体制」の成立（第１共和国） 8. 学生革命（第２共和国） 9. 軍事政権の成立（第３共和国） 10. 「維新体制」（第４共和国） 11. 軍事政権と韓国社会 12. 「光州民主化運動」と新軍部政権（第5共和国） 13. 民主化と文民政権の誕生（第６共和国） 14. 二一世紀の韓国政治 15. まとめ

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に朝鮮史の概説書を１冊以上読んでおくこと。
テキスト	テキストは特に指定しない。毎回プリントを配布して授業を進める。
参考文献	初回の授業時に紹介する。
評価方法	授業への参加度（授業態度、コメントペーパの内容など）：５０％、期末試験：５０％

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国の宗教）	担当者	佐藤　厚

講義目的、講義概要	授業計画
韓国と日本は隣国で似ている点も多いが異なる点も多くある。宗教もその一つで、宗教分布や宗教と人々との関係など、日本と大きく異なっている。本講義では、こうした韓国の宗教状況とそれに関する問題点を理解することにより、韓国社会に対する理解を深めることを目標とする。 講義では、最初に総論として韓国宗教の構造を提示した後、各論として民間信仰、仏教、儒教、キリスト教に分けて講義を行う。講義の方法はプリントを配布し、それに基づいて話をする。また講義に関連した映像教材もたくさん紹介する予定である。なお知識を定着させるため、授業の最後の15分を小レポート作成に充て、さらに翌週の冒頭には小テストを行う。 なお不定期にレポートを課す場合がある。	第1回：ガイダンス 第2回：韓国宗教の構造 第3回：民間信仰 第4回：葬儀と墓地 第5回：仏教（1）仏教略史 第6回：仏教（2）韓国史の中での仏教 第7回：仏教（3）現代韓国の中の仏教 第8回：儒教（1）儒教略史 第9回：儒教（2）韓国史の中の儒教 第10回：儒教（3）現代韓国の中の儒教 第11回：キリスト教（1）キリスト教略史 第12回：キリスト教（2）韓国史の中でのキリスト教 第13回：キリスト教（3）現代韓国のキリスト教 第14回：現代韓国と宗教 第15回：まとめ

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：プリントを読んでくること。事後学修：小テストに備え、プリントを見直すこと。
テキスト	プリントを使用
参考文献	授業中に指示
評価方法	授業冒頭に行う小テスト（30%）、小レポート（20%）、期末試験（50%）。 ※ただし、期末試験が 50 点未満の場合は単位を与えません。

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国前近代史）	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は先史から朝鮮時代までの歴史を概観し、韓国の歴史に関する基礎的知識を習得し、現代社会の前近代史に対する捉え方を理解することにある。 講義では韓国史の手引書となる 1 冊を選び、先史から朝鮮時代までの歴史の歩みを、国家別・時代別にみていく。この際、国内政治とともに、東アジアや西洋との国際関係の中での歴史的展開を重視する。また、各回で扱う単元に関連する論点を取り上げ、現代社会の韓国前近代史に対するまなざしも考えるようにしたい。 基本的には講義形式だが、重要な論点についてはグループで議論・発表するようにする。また授業の中で内容理解の定着を図るため、随時プリントを配布し、小テストなども行う。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. ガイダンス 2. 韓国史の時代区分 3. 韓国の先史時代 4. 古朝鮮・楽浪と領域論 5. 高句麗史と帰属問題 6. 百済史の展開と古代日本 7. 新羅の成長 8. 加耶諸国と倭 9. 統一新羅とその虚構性 10. 渤海の領域と対外関係 11. 高麗社会の展開と外交 12. 朝鮮前期の政治構造と国際関係 13. 朝鮮後期の社会変動 14. まとめ1－韓国前近代史と現代韓国社会 15. まとめ2－韓国前近代史と現代の日本

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定箇所を事前に読んでおく。また授業中に配布したプリントは自分なりに整理しておくこと。
テキスト	田中俊明編『朝鮮の歴史 ： 先史から現代』昭和堂, 2008 年
参考文献	李成市, 宮嶋博史, 糟谷憲一 編『朝鮮史 1: 先史-朝鮮王朝 (世界歴史大系)』山川出版社, 2017 年
評価方法	授業に対する積極的参加度（20%）, レポート（30%）, 期末試験（50%）

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国の言語文化）	担当者	金　秀晶

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、韓国語文法体系をより深く勉強していきます。受講生はテキストの内容を理解し、レジュメの提出と共に発表します。韓国語についてテーマを決め、グループ理解し、韓国語についてテーマを決め、グループでプレゼンテーションを行います。毎回精読の上、サマリーを必ずやって来てください。 授業スケジュールは学生の特性によって変更可能性があります。	1. ガイダンス① 2. ガイダンス② 3. 第2章文字－発表 4. 第3章音韻①－発表 5. 第3章音韻②－発表 6. 第4章単語と品詞－発表 7. 第4章造語－発表 8. 第5章文構造①－発表 9. 第5章文構造②－発表 10. 第5章文構造③－発表 11. 第6章敬語法－発表 12. プレゼンテーション① 13. プレゼンテーション② 14. プレゼンテーション③ 15. 総まとめ

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。
テキスト	李翊燮他『韓国語概説』大修館
参考文献	授業内に指示します
評価方法	翻訳（30%）、レジュメの提出および発表（20%）、プレゼンテーション（40%）、書評（10%）

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国文学史）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
（講義目的）文学とは一国の文化の核心を集約した言語芸術である。本講座は、韓国文学史を代表する作品を、各時代の思想や世界観を中心に考察することを通して､韓国人の心の原風景を巨視的･通史的に把握しようとする韓国研究企画の一つである。 （講義概要） 1）古代・中世　：古朝鮮から三国時代、高麗、朝鮮時代に至る文学の流れを世界観を中心に考察する。代表的な庶民芸術で、韓国人の愛情心理の原型をなしている「春香伝」は映画で鑑賞する。 2）近現代：近代国民国家建設が植民地化とともに進まざるをえなかった近代韓国文学の特殊性を把握した上で、植民地時代、新自由主義時代を生き抜く韓国近代文学の流れを代表作を中心に考察する。最近人気を博しているSNS詩や新世代ネット小説の世界も積極的に取り扱う。	1. 文学とは何か。世界文学の流れ。 2. 建国神話と古歌謡 3. 新羅、百済の歌と仏教説話 4. 古代の韓国人が憧れていた「美しい顔」 5. 高麗の流行歌 6. 朝鮮時代の詩と歌 7. 朝鮮時代の庶民小説ーパンソリ映画「春香伝」 1 8. パンソリ映画「春香伝」 2 9. 前半まとめ／中間テスト 10. 韓国近代文学の明暗：歴史と課題 11.「万歳前」が描いた植民地下の朝鮮 12.「あなた」を呼ぶ詩人たち：「躑躅の花」、「服従」 13. 空と風と星と詩：詩人尹東柱の生涯と詩 14. ネット及びSNS文学：青少年作家、ネット詩の世界 15. まとめ（＊差し替えの可能性あります）

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ネット検索などを通して、各テキストに関する事前調査を行ってください。 授業後にポイントとなるところを文章として整理し、記述式のテストに備えてください。
テキスト	沈元燮編、『1 冊で読む韓国文学テキスト、2018 年度版』（冊子）配布
参考文献	申 明直、権 寧奎、『韓国文学ノート』白帝社、2009
評価方法	中間テスト・期末テスト 80%、感想文・授業への参加度：20%

13 年度以降	韓国特殊研究（専門講読）	担当者	金（きむ）　熙淑（ひぃすく）（김 희숙）

講義目的、講義概要	授業計画
本購読では、文学・文化・社会・芸術に関する専門的かつより実用的な韓国語の読解能力向上を図る。 そのため、卒業論文作成の際に参考されるような、様々なトピックを選び論文を多読する。また、映画鑑賞、歌を聴く。学ぶ志として論語をも素読する。 ３－４名のグループをつくり、グループごとに活発な議論を展開していくことを期待したい。 最初の講義で講義の進め方などについて詳細な説明をするので、履修者には最初の講義から参加してほしい。	1. ガイダンス 2. 論語の素読 3. 詩の朗読・暗誦 4. 歌を聴く 5. 文学に関する論文読み① 6. 文学に関する論文読み② 7. 前半のまとめ 8. 文化に関する論文読み① 9. 文化に関する論文読み② 10. 現代社会に関する論文読み① 11. 現代社会に関する論文読み② 12. 芸術に関する論文読み 13. 芸術に関する映画視聴① 14. 芸術に関する映画視聴② 15. まとめ

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に論文を読み内容を充分に理解した上で、講義に臨むこと
テキスト	レジュメを配布する
参考文献	授業時に適宜紹介する
評価方法	中間テスト・期末テスト 50%、授業への参加度（質疑応答、コメントペーパーなど）50%

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国小説の世界）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
―小説で分かる韓国人と韓国社会 （講義目標） 小説は、一国の社会と文化・歴史を具体的に映してくれる鏡のような存在である。本講座は、映画版韓国小説の学習や分析を通して、韓国現代史や文化、韓国人のコミュニケーション・スタイルなどに関する理解を深めることを目標とする。 （講義概要） 1）映画版の韓国小説をを通して、激動の韓国現代史の流れや韓国文化、韓国人の心理、コミュニケーション・スタイルを追体験する。 2）各作品に関する感想を交換・討論する過程を通して、小説・映画テキストに関する分析力を培養し、また議論の経験を蓄積することを目指す。	1. 2000 年代の青少年文化―「狼の誘惑」１鑑賞 2. 「狼の誘惑」鑑賞２―意見交換 3. 映像でみる韓国現代史名場面 4. 激動期の韓国家族史「国際市場」１ 5. 「国際市場」２、意見交換 6. 都市周辺の貧困層と外国人労働者―「ウアンドギ」１ 7. 「ウアンドギ」２、意見交換 8. 中間まとめ 9. 韓国人の死生観とコミュニケスタイル―「祝祭」１ 10. 「祝祭」２、意見交換 11. 分断と韓国社会：「JSA」１ 12. 「JSA」２、意見交換 13. 捨てられた市民たち：「彼と私の漂流日記」１ 14. 「彼と私の漂流日記」２、意見交換 15. まとめ

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各作品のテーマや社会的背景に関する事前調査をしてから鑑賞に臨んでください。A4、1 枚の中に自分の意見を効果的に記述できる方法を研究してください。
テキスト	DVD「狼の誘惑」「太白山脈」「国際市場」「ウアンドギ」「JSA」「彼と私の漂流日記」
参考文献	秋月望、『韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史』キネマ旬報ムック、2015
評価方法	感想文（A4 1 枚）5－6 回 80%、授業への参加度及び発言の積極性 20%

13 年度以降	韓国特殊研究（韓国詩の世界）	担当者	沈　元燮

講義目的、講義概要	授業計画
―詩やK・POPで覚える韓国語中・上級― （講義目的） 韓国は珍しく詩集が大量に出版され、読まれている国である。歌や踊りを楽しむ文化も同じ。韓国の「詩と歌」を勉強することは、韓国人の精神世界や生き方を理解するに必要な近道の一つになる。本講座では、長い間韓国人に親しまれてきた近・現代詩（K・POPを含め）の鑑賞・講読を通じて、韓国理解を深める一方、中・上級韓国語の実践世界を経験することを目的とする。 （講義概要） 韓国人に広く愛されている近現代詩やK･POPの中から、抒情的で、比較的に理解しやすいテキストを選び、テーマごとに講読を行う。重要な文型、語尾などは応用練習を行う。作曲されている作品は動画鑑賞を並行する。	1 「恨」:「アリラン」金素月「山有花」、「躑躅の花」 2 「知恵1」：韓龍雲 「服従 」、徐廷柱「 菊の花のそばで 」 3 「知恵2」：無名の少女 「一日」、최대호「準備物」 4 「愛1」： 金春洙 「花」、鄭玄宗「島」、安度眩「道」 5 「愛2」 ： 羅泰柱「푿꽃」、都鍾煥「足跡」 6 「自我」： 尹東柱 「序詩」「十字架」 7 「尹東柱の詩と生涯」(ドキュメンタリ映画) 8 「現代韓国のSNS 詩人たち」：최대호 하상욱 이환천 9 「自由」：金芝河、金珉基 「朝露」「常緑樹」 10 「分断」:「臨津江」、「口笛」(北朝鮮歌謡) 11 「K・Pop」:張ナラ「祈り」、金世花 「涙で書いた手紙」 12 「K・Pop」:尹鍾信、成始**境**、규현「光和門にて」 13 「K・Pop」:Exo、BigBang 14 「K・Pop」:トワイス、防弾少年団 15 まとめ

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	作品の語彙・文型などを事前に予習し、疑問点を自らチェックしてから授業に臨んでください。学習した文型を応用し、自分の日常生活を反映した例文を作ってみてください。
テキスト	『詩や歌で覚える韓国語中・上級の世界 2018 年度版』(冊子)。授業中に配布。
参考文献	大村益夫編、『詩で学ぶ朝鮮の心』青丘文化社、1998
評価方法	朗読（暗誦）テスト（30%）、筆記テスト（50%）、課題・授業参加度（20%）

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	韓国特殊研究（日韓比較地域史論）	担当者	小宮　秀陵

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、日韓の地域史を比較することで、韓国の歴史・文化を理解することを目的とする。 今回は日韓の世界史・東洋史・国史の抱える問題点を克服する手法としての東アジア史・海域史・グローバルヒストリーを扱う。 前半の8回は地域史を比較分析する前提として必要な内容を整理し、あわせて、近年東アジア、海域、グローバルなどといった用語が重要視されている背景について歴史学の立場から経緯を概観する。後半は東アジア、海域、グローバルをテーマに日韓両地域を比較することでどのような側面で歴史の理解が変わるのかを実際に見ていく。 授業は基本的に講義形式だが、テーマによっては随時グループで発表や討論をする。最初の講義で授業の進め方などについて詳しく説明するので、必ず参加するようにしてほしい。	1. 地域と歴史学のつながり 2. 地域史とは何か 3. 比較史とは何か 4. 日韓の歴史学と課題―世界史・東洋史・国史の問題 5. 日本の東洋史と東アジア史 6. 冷戦と東アジア史の誕生 7. 中韓の歴史認識論争と東アジア史 8. 日韓両国の広域史の試み 9. モノからみた東アジアの歴史 10. ユーラシア史の中の日本と韓国 11. 海域世界からみた東アジア 12. 地球市民のための歴史とアジア 13. 日韓両国のグローバルヒストリー 14. 地域史と比較史を考える視座 15. まとめ―日韓の歴史学の現在と未来

到達目標	「韓国研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって韓国を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：レジュメに示された各トピックについて各自で調べること。事後学修：授業で議論した内容を整理すること。
テキスト	授業で配布するレジュメ。
参考文献	羽田正『新しい世界史へ: 地球市民のための構想』岩波新書、2011 年
評価方法	授業に対する積極的参加度（20%），レポート（20%），グループ発表（20%），期末考査（40%）

13 年度以降	日本研究概論 I	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
人生儀礼 人の一生には節目ごとに様々な儀礼が行われます。これを「人生儀礼」とか「通過儀礼」と呼び、属する集団での身分の変化や新しい役割の獲得が行われます。 本講義では人が生まれて成長する過程で迎えるいくつかの儀礼（生誕、成人、婚姻、葬送など）を取り上げ、これを通史的に学習することで、日本文化における様々な伝統行事の成立や展開、そして人生儀礼の意義について理解することを講義の目的とします。	1　ガイダンス―人生儀礼とは― 2　生活習俗―衣― 3　生活習俗―食・その１― 4　生活習俗―食・その２― 5　生活習俗―住― 6　人生儀礼―生誕・その１― 7　人生儀礼―生誕・その２― 8　人生儀礼―成人・その１― 9　人生儀礼―成人・その２― 10　人生儀礼―婚姻・その１― 11　人生儀礼―婚姻・その２― 12　人生儀礼―葬送・その１― 13　人生儀礼―葬送・その２― 14　人生儀礼―葬送・その３― 15　まとめ

到達目標	日本研究の各分野における基本的な研究業績・課題を理解のうえ、これについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	レポート７０％、課題を含めた授業への参加度３０％

13 年度以降	日本研究概論Ⅱ	担当者	生田　守

講義目的、講義概要	授業計画
日本語や社会・文化について、日本研究の礎となる視点を提供し、日本について考える力を涵養するのがこの講義の目的である。 （1）日本語とはどんな言語だろうか。世界言語の中で日本語の特徴をとらえることを試みる。 （2）日本語の表現の特徴で、特に敬語を取り上げ、社会と言語の関係について考察する。 （3）文化という語もよく使われるが、その基本的定義をふりかえり文化に根ざす問題について考察する。 （4）日本文化のキーワードである「義」を取り上げ、文楽や日本語論から考察を行なう。 授業は講義形式で行う。	1.講義の概要 2.日本語論(1)世界の中の日本語、日本語の特徴 3.日本語論(2)主語の省略、主題と主語 4.日本語論(3)受動文 5.日本語論(4)時間の表現 6.ことばと社会(1)日本社会と敬語 7.ことばと社会(2)ポライトネス 8.ことばと社会(3)配慮表現 9.文化をめぐって(1)文化とは 10.文化をめぐって(2)価値・倫理 11.文楽に見る忠義 12.『武士道』を読む① 13.『武士道』を読む② 14.日本語的表現 15.講義のまとめ

到達目標	日本研究の各分野における基本的な研究業績・課題を理解のうえ、これについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内容で興味を持った点を自分で深めたり、調べたりすること
テキスト	授業時に資料を配布する
参考文献	特になし
評価方法	試験 100%

13 年度以降	日本文学論・古代 I	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
奈良時代の文学・及び宮崎駿監督「もののけ姫」を取り扱いながら、講義概要にあるような能力の習得を目指す。 ① 神話とは何かを説明できる。 ② 世界各地に類似する神話が分布する理由が説明できる。 ③ ヤマタノオロチ退治神話について、神話的な意味を説明できる。 ④ 近代と前近代の「神殺し」の違いについて説明できる。 ⑤ 近代と前近代の労働観の違いについて説明することができる。 ⑥ 「もののけ姫」と環境思想との関わりについて説明することができる。	1. 神話とは何か 2. ペルセウス・アンドロメダ型神話について 3. 日本人遙かな旅 4. 同時発生説・伝播説 5. エリアーデの神話論 6. バルトの神話作用 7. ヤマタノオロチ退治神話の意味 8. 日本神話とももののけ姫 9. アシタカの神殺し 10. エボシのタタラ場の近代性 11. 前近代と近代の労働観 12. エボシの神殺しと近代合理主義 13. ギルガメシュ叙事詩とももののけ姫 14. ももののけ姫と環境思想 15. まとめ

到達目標	古代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　指定された予習課題を提出する。 事後学修　指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。
テキスト	プリントを配布
参考文献	プリントを配布
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70%　　授業への積極的参加：30%

13 年度以降	日本文学論・古代Ⅱ	担当者	福沢　健

講義目的、講義概要	授業計画
奈良・平安時代の文学及び宮崎駿監督「千と千尋の神隠し」を取り扱いながら、以下の能力の習得を目指す。 ① 原質神話の基本的な構成を説明することができる。 ② 主人公の特徴として、「越境性」「非対称性」の概念を説明することができる。 ③ 根の国訪問神話の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ④ 伊勢物語の主人公「昔男」の二つの罪を、非対称性の観点から説明することができる。 ⑤ 源氏物語第一部の構成・登場人物の役割について、原質神話のフレームによって説明することができる。 ⑥ 「千と千尋の神隠し」のカオナシの役割について、移行対象の観点から説明することができる。	1. 原質神話とは何か 2. 根の国訪問神話 3. 主人公の特徴 4. 魔女の宅急便と原質神話 5. 在原業平の犯した二つの罪 6. 業平像の変容 7. 源氏物語第一部のあらすじ 8. 須磨・明石の巻と原質神話 9. 桐壺帝と父親との対決 10. 千尋の越境生・非対称性 11. 援助者としてのハク・カオナシ 12. カオナシと貨幣 13. カオナシと移行対象 14. ヒーローとヒロインの飛翔 15. まとめ

到達目標	古代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修　指定された予習課題を提出する。 事後学修　指定された様式に基づいて授業の内容を振り返る。
テキスト	プリントを配布
参考文献	プリントを配布
評価方法	試験（持ち込み不可）。最終授業時に実施。 試験：70%　　授業への積極的参加：30%

13 年度以降	日本文学論・中世Ⅰ	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
古今集の世界―中世和歌史と古今伝授― わが国の勅撰集の第一にあげられる『古今和歌集』は、後代にわたって「注釈」されつつ、さらには「本説」と呼ばれる歌に関するエピソードなどを伴って享受されていきます。 本講義では、『古今和歌集』に関する様々な「注釈」や「古今伝授」と呼ばれる学習パターンが盛んとなる中世期から近世期にかけての和歌文学史の様態をいくつかの文献を読み解き、中世から近世にかけての和歌文学史の流れを理解することを講義の目的とします。	1　ガイダンス―勅撰集とは― 2　古今集仮名序の世界―『古今和歌集』仮名序を読む― 3　『古今和歌集』の注釈―その１・『俊頼髄脳』― 4　『古今和歌集』の注釈―その２・『奥義抄』― 5　『古今和歌集』の注釈―その３・『古今集注』― 6　六條藤家の登場―柿本人麿影供― 7　御子左家の登場―藤原俊成・『古来風体抄』― 8　御子左家の登場―藤原定家・『顕注密勘』― 9　御子左家の分裂―二条家・『六巻抄』― 10　二条家の流れ―頓阿・『頓阿序注』― 11　反御子左家の誕生―為顕流・『古今和歌集聞書三流抄』 12　為顕流からの展開―謡曲への影響― 13　古今伝授の世界―その１・御所伝授の成立― 14　古今伝授の世界―その２・地下伝授への展開― 15　まとめ

到達目標	中世日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞し、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として、提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	レポート７０％、課題を含めた授業への参加度３０％

13 年度以降	日本文学論・中世Ⅱ	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：日本の歌うウタ（歌謡）の歴史を辿り、日本人の想像力と情の表現を味わい、特に中世歌謡のダイナミズムを理解する。 講義概要：日本のウタはもともとすべて声に出して歌うものであったが、中国から書く文芸（詩文）の伝統が入ってから徐々に歌うウタと書くウタとの分離が始まり、平安時代半ば過ぎにはほぼ分離が完成する。するとかえって歌うウタのダイナミズム（表現の多様化と振幅の拡大）が発展し、それが近世近代の爆発的な流行歌謡群を生んだ。その影響は現代にも及んでいる。 講義は全体的には日本歌謡史を追うが、その中で中世歌謡の部分を厚くして、現代の歌謡との対比も含めて提示し、日本文化の基底を占める感情を探っていく。	1.　オリエンテーション・導入 2.　概説①（日本の「歌うウタ」概観） 3.　概説②（日本の「歌うウタ」の表現） 4.　日本の歌うウタ・古代 5.　日本の歌うウタ・中古Ⅰ 6.　日本の歌うウタ・中古Ⅱ 7.　日本の歌うウタ・中世Ⅰ 8.　日本の歌うウタ・中世Ⅱ 9.　日本の歌うウタ・中世Ⅲ 10.　日本の歌うウタ・中世Ⅳ 11.　日本の歌うウタ・近世Ⅰ 12.　日本の歌うウタ・近世Ⅱ 13.　日本の歌うウタ・近代Ⅰ 14　日本の歌うウタ・近代Ⅱ 15.　まとめ（日本人とウタ）

到達目標	中世日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前：配布するテキストを読んで理解してくる。 事後：提示されたウタの歴史と表現を他のウタに応用して考えてみる。→毎回課題を提示します。
テキスト	毎時間印刷して配布する。
参考文献	『古代から近世へ 日本の歌謡(うた)を旅する』（和泉書院刊、税込 3,888 円）他、授業中に適宜示す。
評価方法	数回提示する課題５０％、学期末の論述試験５０％

13 年度以降	日本文学論・近現代Ⅰ	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察する。テーマに応じて日本の古典文学や文学思潮まで幅広く言及し、日本文学の奥深さと楽しさを味わい、恐怖の構造の理解まで到達させる。 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。春学期は「恐怖の日本文学」と題して、恐怖や苦悩を扱った作品をブックレビューし、その本質に迫る。また、現代人と先人との相違まで考察し、日本文化論まで思考を進める。	1. 恐怖の現代文学のアウトライ 2. ①伝統的手法による恐怖の造形、荒俣宏「帝都物語」 3. ② 同上 京極夏彦「魍魎の匣」 4. ③ 同上 坂東眞砂子「死国」 5. ①超自然的事象からの造形 「二重螺旋の悪魔」 6. ② 同上 鈴木光司「リング」 7. ③ 同上 瀬名秀明「パラサイトイヴ」 8. ①心理学的な題材からの造形 9. ② 同上 貴志祐介「黒い家」 10. ③ 同上 桐野夏生「OUT」 11. ①社会派ミステリーの造形 宮部みゆき「模倣犯」 12. ② 同上 東野圭吾「容疑者Xの献身」 13. ①原作を映像で見る 14. ② 同上 15. まとめ（総集編

到達目標	近現代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	シラバス及び前授業で予告した作品を読み、授業に備え、事後は、恐怖も構造を整理して、まとめておく
テキスト	特になし
参考文献	その都度紹介する
評価方法	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%

13 年度以降	日本文学論・近現代Ⅱ	担当者	佐藤　毅

講義目的、講義概要	授業計画
現代日本におけるベストセラーの傾向と特色を分析することで、現代人がどのような世界に住み、どのような世界を望んでいるか考察し、現代文学思潮論まで理解させる。 現代文学のベストセラーを詳細に分析する。「癒しの現代文学」と題して、癒しややさしさを扱った作品をブックレビューし、その本質に迫り、癒しの構造を分析する。	1. ガイダンス 2. ①人間関係からの癒し 重松清「ビタミンＦ」 3. ② 同上 恩田陸「夜のピクニック」 4. ③ 同上 佐藤多佳子「一瞬の風になれ」 5. ①時間からの救い 浅田次郎「地下鉄に乗って」 6. ② 同上 北村薫「スキップ」 7. ③ 同上 佐藤正午「Ｙ」 8. ①笑いの持つ救い 奥田英朗「インザプール」 9. ② 同上 佐藤多佳子「しゃべれどもしゃべれども」 10. ①美しい生き方 藤沢周平、司馬遼太郎、池波正太郎 11. ② 同上 有川浩「阪急電車」 12. ③ 同上 天童荒太「悼む人」 13. ①原作を映像で見る 14. ② 同上 15. まとめ（総集編）

到達目標	近現代日本文学の研究作法を習得し、背景を捉えながら作者・作品を分析・鑑賞、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	シラバス及び前授業で予告した作品を読み、授業に備え、事後は、恐怖も構造を整理して、まとめておく。
テキスト	特になし
参考文献	その都度紹介する。
評価方法	授業時レポート 20%。定期試験レポート 80%

13 年度以降	民俗学	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
民俗学は、庶民生活を考える学問です。庶民は何を語り、どのような生活を送ってきたのでしょう。高度経済成長期を境に、生活様式が大きく変化しました。しかし今、我々が「普通」に行っていることは、かつて行われてきたことの延長線上に位置づけることができます。そして、その多くは文字化されずに「伝承」されてきました。「伝承」されてきた庶民生活にスポットをあてたのは柳田國男です。民俗学は「伝承」されてきた庶民生活を研究する学問として発展してきました。そのために前近代的な事象への関心が高くなっていますが、民俗学は現在の学問です。現在の我々の生活様式も研究対象になります。 本講座では民俗学が研究対象とするものの概説、学問の誕生のいきさつから始め、具体的にいくつかの対象を取り出して、これまでの研究成果を学び、またそれを土台にして「現在」をも視野にいれ、我々の生活とは何か、どのように過去とつながり、また未来へ続くのか考えたいと思います。	１、　講義の概説 ２、　民俗学の研究対象（民俗誌にみる分類を中心に） ３、　国学と民俗学 ４、　日本の信仰 ５、　国家神道 ６、　異界の存在１（妖怪・幽霊とは何か） ７、　異界の存在２（『東海道四谷怪談』） ８、　異界の存在３（妖怪と神の関係） ９、　昔話とその背景１（桃太郎はなぜ英雄か） １０、昔話とその背景２（浦島の話） １１、災害伝承と伝説 １２、年中行事１（正月を中心に） １３、年中行事２（盆行事を中心に） １４、現代の年中行事 １５、人の一生（人生儀礼）

到達目標	今日に至るまで民間伝承されてきた文化の発展模様について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に指示した文献・プリントを精読し、授業後には授業で出された課題をまとめておくこと。これらの課題をこなすことが定期試験につながります。
テキスト	プリントを配布
参考文献	授業中で一覧を配布
評価方法	定期試験 100%ですが、授業への参加度を加味します。

13 年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 c）	担当者	林　英一

講義目的、講義概要	授業計画
地域による「生活」の在り方を「地域文化」として捉えます。本講座ではこの「地域文化」について考えます。方言や雑煮からもわかるように、「地域」による生活文化に異なりが見られます。地域差と言われるものです。しかし、「地域文化」は、ミクロの視点から見る「地域」と、類似文化の広がりから捉えられるマクロ的「地域」があります。前者は、そこに生活する人々の繋がりによって成り立ち、これは担い手の側面から見るならば、基本的な「地域」ということになります。一方、後者は類似の文化の広がりとして見られ、文化圏として捉えられます。これらの「地域文化」を踏まえるだけではなく、過疎地と都市部の文化的問題を「地名」や「祭り」を中心にして捉え、さらにボーダレスとなっている今日でありながら、「郷土」意識が強く残っていることなど、これらを現代的な問題として捉え、今後のあり方について考えたいと思います。	１、　講義の概説 ２、　地名の成立ちと地域 ３、　地域と生活構造１（村の成立と地域） ４、　地域と生活構造２（「地域」を捉える） ５、　結（白川郷の屋根葺きのDVDから） ６、　地域認識の問題（地名と地域の関係） ７、　地域の祭り（具体的に） ８、　地域と祭りの関係 ９、　地域の重層性 10、　伝統的祭りの方向性１（過疎地域の問題） 11、　伝統的祭りの方向性２（都市部の問題） 12、　フォークロリズム（「伝統」とは何か） 13、　新興の祭り（山鹿踊りのDVDとよさこい祭り） 14、　ボーダレス社会と地域文化 15、　講義のまとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配付プリントの事前・事後学修と指示した関連文献を精読し、自分の住む「地域」を学んでください。
テキスト	プリントを配布します
参考文献	参考・関連文献は授業中に紹介
評価方法	試験 100%、授業参加度・貢献度を加味する。

13 年度以降	日本史Ⅰ	担当者	堀川　徹

講義目的、講義概要	授業計画
近年の日本史研究では、日本列島に展開した歴史像がより多角的、多面的に捉えなおされており、今日では一定の成果を確認することができます。こうした研究状況をふまえ、古代・中世に焦点をあて、それぞれの時代像や歴史認識を豊かにするために重要と思われるテーマを講義していきます。 極めて限られた時間数の中での講義のため、歴史経過にそって通史的に講義することは必要最低限にとどめるとともに、取り上げるテーマには時代的に多少の多寡があることも予め了承しておいてください。	1. 講義の導入―学問としての歴史学(1)特徴 2. 学問としての歴史学(2)目的 3. 学問としての歴史学(3)対象と事実 4. 卑弥呼と邪馬台国 5. 倭の五王の時代 6. 大化改新 7. 天智天皇と天武天皇 8. 平城京の時代 9. 帰化人・渡来人と地域社会 10. 平安京の時代と院政 11. 源平の争乱と鎌倉幕府 12. 鎌倉幕府と蒙古襲来 13. 室町幕府の成立 14. 室町幕府の衰退と戦国大名 15. 講義のまとめ

到達目標	日本の原始から近現代に至る各時代の文化、社会、およびその背景や変遷等について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布資料などに目を通し日本史の基礎的知識を補って講義に臨んでください。事後学習として参考文献を読み、講義内容を整理してください。
テキスト	使用しません。毎回プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義のなかで紹介します。高等学校の日本史の教科書や概説書があれば参考になります。
評価方法	レポート 100%　なお、一定の出席数に満たない場合は評価をしませんので注意してください。

13 年度以降	日本史Ⅱ	担当者	堀川　徹

講義目的、講義概要	授業計画
日本史Ⅰに続くこの講義では、近世から近現代を素材とします。その際、対外関係に重点をおいて考察しますが、その前提となる政治や社会経済についても触れることになります。この講義を通じて、近世社会を経て近・現代日本における国民国家形成の過程とその展開について考えていきます。	1. 講義の概要 2. 織豊政権と江戸幕府の成立 3. 江戸時代初期の政治と外交 4. 幕藩社会とその構造 5. 幕政の安定と経済の発展 6. 幕政の改革 7. 幕府の衰退と近代化への道 8. 開国と幕末の動乱 9. 明治維新と富国強兵 10. 立憲国家の成立 11. 日清・日露戦争と国際関係 12. ワシントン体制と軍部の台頭 13. 第2次世界大戦 14. 冷戦と講和 15. 講義のまとめ

到達目標	日本の原始から近現代に至る各時代の文化、社会、およびその背景や変遷等について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に配布資料などに目を通し日本史の基礎的知識を補って講義に臨んでください。事後学習として参考文献を読み、講義内容を整理してください。
テキスト	使用しません。毎回プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義のなかで紹介します。高等学校の日本史の教科書や概説書があれば参考になります。
評価方法	レポート 100%　なお、一定の出席数に満たない場合は評価をしませんので注意してください。

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 a）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
日本の芸能 奈良時代に渡来した伎楽、雅楽、散楽のうち、「舞」や「滑稽な物真似」、「対話」といったいくつかの要素が特徴的に発展、形成されて中世の能や狂言となりました。 本講義では、古代の芸能としての伎楽、雅楽、散楽から猿楽を経て、能や狂言が分化していくわが国の芸能史を様々な文献からたどり、さらには、演じられる物語のベースになる文献を解読し、理解することを講義の目的とします。	1　ガイダンス―芸能とは― 2　伎楽・雅楽・散楽―伝来と定着・その１― 3　伎楽・雅楽・散楽―伝来と定着・その２― 4　伎楽・雅楽・散楽―芸態・その１ 5　伎楽・雅楽・散楽―芸態・その２― 6　猿楽への分岐―藤原明衡『新猿楽記』をよむ・その１ 7　猿楽への分岐―藤原明衡『新猿楽記』をよむ・その２ 8　大和・近江四座の成立とその展開 9　古典との融合―その１・三輪― 10　古典との融合―その２・井筒― 11　古典との融合―その３・俊寛 12　民衆と芸能―その１・歌舞伎の歴史― 13　民衆と芸能―その２・忠臣蔵― 14　民衆と芸能―その３・世話物― 15　まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	試験７０％、課題も含めた授業への参加度３０％

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 d）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
くずし字で読む「百人一首」 『小倉百人一首』は、もともと平安時代の歌人を中心に、奈良時代から鎌倉時代初期に至る歌人の秀歌を集めたもので、藤原定家の撰とされています。当初は二条家の和歌の秘伝として伝授されたりしていましたが、近世期に入って、北村季吟や契沖、賀茂真淵など、様々な人々が注釈書を記しました。 江戸時代中期ごろから、特に女子の古典入門書として取り上げられ、古典教材の他に、家庭遊戯の「かるた」として普及しました。本講座では、『百人一首一夕話』をもとに、日本文化の一端としての百人一首を、歌にまつわるエピソードとともにくずし字の習得も含めて学ぶことを目的とします。	1　ガイダンス―『百人一首』の成立― 2　天智天皇①―私の袖は露に濡れたよ― 3　天智天皇②―天智天皇のエピソード― 4　持統天皇①―香具山に夏が来た― 5　持統天皇②―持統天皇のエピソード― 6　柿本人麿①―長き夜を独りで寝るか― 7　柿本人麿②―柿本人麿のエピソード― 8　山部赤人―富士の高嶺に雪が降っている― 9　中納言家持―カササギの橋に霜が置くよ― 10　安倍仲麿―三笠の山に月が― 11　喜撰法師―宇治山の庵に住む― 12　小野小町①―花の色は移ろうもの― 13　小野小町②―小野小町のエピソード 14　陽成院―恋は積もって淵となるよ― 15　まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストのくずし字部分を事前に学習することを課題とします。
テキスト	『くずし字で読む「百人一首一夕話」』武蔵野書院，2018 年
参考文献	児玉幸多編『くずし字解読辞典』東京堂出版
評価方法	試験６０％、課題も含めた授業への参加度４０％

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 c）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
富士山の伝承と文学 『万葉集』に「奇しくもいます神」と詠まれ、古来から霊山として讃えられてきた富士山は、一方で山容の美しさ、雄大さが様々な文学作品に表現された山でもあります。 本講義では、「伝承」と「文学」の二つの視点から世界文化遺産にも登録された「富士山」を解き明かすことを目的とします。「富士山」をキーワードに、通史としての日本文学史を学び、日本人の志向を文学作品から読み解くことをします。	1　ガイダンス―パワースポット「富士山」― 2　富士に抱く思い―『万葉集』『古今和歌集』― 3　富士山の伝説―その１・『富士山記』― 4　富士山の伝説―その２・『更級日記』― 5　富士山の伝説―その３・『竹取物語』― 6　伝説のクライマー―その１・『日本霊異記』― 7　伝説のクライマー―その２・『聖徳太子伝暦』― 8　富士山の神―その１・『人穴草子』― 9　富士山の神―その２・『富士山縁起』― 10　もう一つのかぐや姫伝説―『皇国地誌』― 11　室町将軍富士山を見る―『覧富士記』― 12　富士信仰の歴史と伝承―その１・古代から中世― 13　富士信仰の歴史と伝承―その２・中世から近世― 14　富士信仰の歴史と伝承―その３・近世― 15　まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	試験７０％、課題も含めた授業への取り組み３０％

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 e）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
本居宣長の世界 本居宣長は伊勢・松阪に生まれた江戸時代の国学者です。国学者とは、日本の古典を研究対象とし、日本固有の「道」を明らかにしようとした人々を指しています。宣長の残した古事記の注釈書である『古事記伝』や源氏物語の注釈書である『紫文要領』などは現代でも重要視されている文献です。 本講義では、宣長の師である賀茂真淵のものをはじめ、本居宣長の残した随筆や注釈書から宣長の言葉に表されている「思想」をいくつかのキーワードとして取り上げ、研究者として、また、教育者として活躍した「宣長の思想」を理解し、「生きるとは」「学ぶとは」といったことを考えることを講義の目的とします。	1　ガイダンス―本居宣長とは― 2　生きる力―『排蘆小船』をよむ・その１― 3　生きる力―『排蘆小船』をよむ・その２― 4　物学び―『玉勝間』をよむ・その１― 5　物学び―『玉勝間』をよむ・その２― 6　物学び―『玉勝間』をよむ・その３― 7　物学び―賀茂真淵『万葉考』をよむ・その１ 8　物学び―賀茂真淵『万葉考』をよむ・その２ 9　「心」と「詞」―『石上私淑言』をよむ・その１ 10　「心」と「詞」―『石上私淑言』をよむ・その２ 11　「心」と「事」と「言葉」―『うひ山ふみ』①― 12　「心」と「事」と「言葉」―『うひ山ふみ』②― 13　「心」と「事」と「言葉」―『うひ山ふみ』③― 14　宣長の思考 15　まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として、提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	試験７０％、課題を含めた授業への参加度３０％

13 年度以降	日本特殊研究（日本文学作品研究 b）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：路傍に見過ごされる石碑を読む。 講義概要：現代の日常生活の周辺にも気づかぬまま存在している石碑類（道標・墓誌・歌碑・句碑・記念碑・供養碑等）を読み解くために解釈と理解の道筋を示して、身近に存在する文化的歴史的遺産に対する意識を高めるのが目的の、実践的な授業である。 今年度は草加周辺の旧日光街道に焦点を当てて、フィールドワークを増やし、読解の基本の指導と作業を行って基礎力を養った後に、学生各自が碑文の採集と解釈を行い、教室で報告することを課する。 変体仮名や異体字、漢文・梵字などを読まなくてはならないので、勉強しなくてはならないことは山ほどある。 全体としては足を動かし、手を動かし、頭を動かす実習型の授業である。課題が多いので心して参加せられたい。	1. オリエンテーション・導入 2. 概説（石碑の種類・刻まれた文字達） 3. フィールドワーク、草加宿 4. フィールドワーク、草加市民俗資料館 5. フィールドワーク、大学周辺 6. フィールドワーク、草加茶屋町周辺 7. フィールドワーク、蒲生茶屋町周辺 8. 道標・講中碑を読む 9. 日本漢文体の読解、梵字の読解 10. 墓碑銘・供養碑を読む 11. 学生諸君の報告と検討① 12. 学生諸君の報告と検討② 13. 学生諸君の報告と検討③ 14. 学生諸君の報告と検討④ 15. まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	前：身辺の石碑に注意を払っておくこと。事後：調査報告書の内容の充実に努めること。
テキスト	特になし
参考文献	授業中に示す。
評価方法	フィールドワーク参加 10%。各自が調査した碑文の採集・調査報告書を発表、およびその内容 40%。授業中に検討した上で手直しの後、調査報告書 2 点の提出、その内容 50%。

13 年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 a）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：民俗芸能を通して、日本の民衆生活の基盤に潜む概念や価値観・世界観を認識し、理解する。 講義概要：日本の民俗芸能は世界にもまれに見る多様さと濃厚さで民衆生活と結びつき、いまだに多数残存している。いわゆる先進国としては唯一と言って良い。 そこにはっきりと呈示されている、日本の文化の基盤を形成する「見えないもの」との対峙の仕方を、年中行事・信仰・地域社会・儀礼等との関わり方から分析し、講義する。 具体的には「神の来訪」「異人の出現」「稲作の習俗と芸能」「年齢階梯」という観点を「境界領域の存在」という地平から照射し、東西日本の様々な民俗芸能・行事を取り上げ、フィールドワークにもとづく映像資料も用いて、概念や価値観・世界観の実際がどう機能しているかに留意する。	1. オリエンテーション・導入 2. 日本文化と「見えないもの」、境界領域の存在 3. 神の来訪と芸能①…春日若宮の「おん祭」 4. 神の来訪と芸能②…八重山の祭と芸能 5. 異人の出現と芸能①…「異人」と日本全国の祭・芸能 6. 異人の出現と芸能②…異類の代表、獅子 7. 異人の出現と芸能③…岩手県の鹿踊 8. 稲作の習俗と芸能①…中国地方の花田植 9. 稲作の習俗と芸能②…東北の田植踊り 10. 稲作の習俗と芸能③…能登の「アエノコト」 11. 年齢階梯と芸能①…年齢階梯制とは何か？ 12. 年齢階梯と芸能②…福島県の若衆組と成人儀礼 13. 境界領域の時空①…異人の出現する領域と年齢階梯 14. 境界領域の時空②…日常とは別の時間・空間・社会 15. まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：特に必要はない。授業の内容（特に映像）に集中すること。 事後学修：授業の内容に沿った課題の提出を求める。
テキスト	特に使わない。
参考文献	授業中に適宜示す。
評価方法	学期末に、記述式の試験を実施する。その成績 50%。課題の提出 50%。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 b）	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
和本リテラシー―写本から版本へ― わが国における文学研究は「訓む」「写す」「使う」「解く」のおよそ４つのキーワードによってその歴史を紡いできました。「和本リテラシー」とは、「和本」に特化した理解力を示しています。 本講義では、現存最古の歌集である『万葉集』をテーマに取り上げ、この作品を各時代の人々がどのように訓み、写し、使い、解いてきたかを文化史的に理解することを講義の目的とします。また、実際に和本に触れたり、これを作ってみたりもします。	1　ガイダンス―『万葉集』あれこれ― 2　訓む―梨壺の五人の奮闘― 3　訓む―道長も訓んだ『万葉集』― 4　写す―『万葉集』の写本あれこれ― 5　使う―藤原敦隆の試み― 6　使う―歌聖の創始・「人麿影供」― 7　使う―印刷の歴史― 8　解く―北村季吟『万葉拾穂抄』― 9　解く―契沖『万葉代匠記』― 10　解く―賀茂真淵『万葉考』― 11　解く―本居宣長『万葉集玉の小琴』― 12　解く―鹿持雅澄『万葉集古義』― 13　和本を作る―その１― 14　和本を作る―その２― 15　まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として、提示される課題に取り組んでください。
テキスト	城崎陽子『万葉集を訓んだ人々―「万葉文化学」のこころみ―』2010 年、新典社。
参考文献	参考文献は授業時間内に紹介します。
評価方法	試験７０％、課題も含めた授業への参加度３０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	日本特殊研究（日本文化研究 d）	担当者	飯島　一彦

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：日本文化全般に潜む「境界領域」の問題を、様々な視点から考える。 講義概要：概説では、耳慣れない概念であろう「境界領域」の存在を明らかにしていく。 第４回以降は「祭り」「物語」「歌謡」等の表現分野において「境界領域観」が、どのように発揮されているか、諸相を見ていく。そして、境界領域の認識が作り上げる世間（人間関係）観・世界観と周辺諸国の文化のそれとの違いを明確にしていく。 文化とは目に見える物の世界だけではなく、目に見えない価値観・世界観・振る舞いまで含むのである。人と人との関わりの中で、どこにどのように目に見えない「境界線」を引いて、どのように物事を考えているのか、ということまでも明らかにしていく。	1. オリエンテーション・導入 2. 概説①（境界領域とは何か？） 3. 概説②（国境・境界・境界領域） 4. 祭りと境界領域① 5. 祭りと境界領域② 6. 祭りと境界領域③ 7. 「異界」「異人」と境界領域① 8. 「異界」「異人」と境界領域② 9. 物語と境界領域① 10. 物語と境界領域② 11. 歌謡と境界領域① 12. 歌謡と境界領域② 13. 「世界」「世間」の構造と境界領域① 14. 「世界」「世間」の構造と境界領域② 15. まとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：参考文献の該当部分を読んでくること。事後学修：身近に潜む「境界領域」を考えること。
テキスト	授業中に適宜示す
参考文献	授業中に適宜示す
評価方法	授業期間中数回課す予定の課題（50%）とレポートまたは試験の成果（50%）による。

13 年度以降	日本特殊研究（日本史研究 a）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945年に終わった戦争は太平洋戦争と呼ばれ、相手はアメリカだったととらえられがちであるが、これを事実に照らして見直したい。対米開戦前に泥沼の日中戦争が続いており、さかのぼれば1931年の満州事変にいきつく。足かけ15年の戦争で、日本が一番長く戦った国は中国である。 中高での学習では原爆や空襲などの被害を重点に学ぶことが多いようだが、被害面だけでなく加害面にもしっかり目を向けたい。見るのがつらいところもあるかもしれないが、映像をかなり使う。そして、当時の教育や社会の状況、経済との関わりなども含めて、戦争の全体像を考えたい。中国や韓国をはじめアジア諸国との関わりがますます強まる中で、「対立」がつくられている。この戦争はどういうものだったかの事実はしっかり知っておきたい。 なお、秋学期と連動させており、できればあわせて受講して欲しい。	1　1945年に終わった戦争の相手・呼称をめぐって 2　1941年12月8日―真珠湾からかコタバルからか 3　被害の問題①―空襲は何を示すか 4　被害の問題②―原爆投下をどうとらえるか 5　日中戦争をとらえる①―満州事変から日中戦争へ 6　日中戦争ととらえる②―対米英戦争とのかかわり 7　加害の問題①―731部隊とは何か 8　加害の問題②―南京事件をどうとらえるか 9　治安戦としての日中戦争―「尽滅掃討」作戦 10　日本の戦争と植民地朝鮮 11　日本軍隊の特徴をみる 12　戦時下の社会―戦争への動員・女性と戦争他 13　敗戦をめぐって①―南太平洋・本土決戦体制・沖縄 14　敗戦をめぐって②―ポツダム宣言の受諾と国体 15　「15年戦争」を振り返る

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に吉田裕『アジア・太平洋戦争』（岩波新書）の通読を勧める。事後はプリントを見直して欲しい。
テキスト	毎時間プリントを配布する
参考文献	上記のほかは、講義の中で紹介する
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90%　平常時の意見･感想など 10%

13 年度以降	日本特殊研究（日本史研究 b）	担当者	丸浜　昭

講義目的、講義概要	授業計画
1945年8月15日に敗戦を迎えた戦争は、戦後70年を越えた今日でもさまざまな課題を残す。その背景には、占領そして講和や賠償問題等を通してアメリカの強い関わりがある。トランプ政権が誕生し日米関係見直しが必至となる今、この歩みを知ることは重要である。沖縄のことを日本の問題としてしっかり考えたい。 中国や韓国などでは、この2、30年間で民衆の声がそれぞれの国を動かすようになり、同時に日本とも民衆同士の交流が進んできた。戦後補償や戦争認識をめぐる問題は、やっとそれを民衆が論議できるようになったと捉えたい。きちんと論議できる知識をもつ若者でいて欲しい。 2011年の3･11を経て、原発がどのように導入されどのような問題を持つかを学ぶこともあらためて欠かせないことになった。取り上げていきたい。 なお、なるべく春学期とあわせて受講して欲しい。	1　「15年戦争」の終わり方をふりかえる。 2　「民主化」と日本国憲法 3　東京裁判と日本の戦争責任をめぐって 4　朝鮮戦争とサンフランシスコ講和のもった問題 5　日本の国内での補償をめぐって 6　日本のアジアへの補償をめぐって 7　日韓条約はなぜ1965年に結ばれたか 8　日中国交回復を考える 9　「戦後」の沖縄の歩み 10　ベトナム戦争と沖縄の日本復帰 11　米軍基地問題と日本の安全保障を考える 12　原発をめぐって①―「ビキニ被曝」と原子力平和利用 13　原発をめぐって②―3.11から何を学ぶか 14　戦後50年の国会決議をめぐって―政治家の戦争認識 15　「戦後70年」を超えて

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ぜひ毎日、新聞に目を通すことを勧める。事後はプリントを見直して欲しい。
テキスト	毎時間プリントを配布する
参考文献	講義の中で紹介する
評価方法	事前出題による論述形式で定期試験を実施 90%　平常時の意見･感想など 10%

13 年度以降	日本特殊研究（日本史研究 c）	担当者	堀川　徹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、日本の古代社会を取り上げます。高校の教科書程度の知識をもとに、日本古代における家族と女性、都市、生産・流通、交通。歴史認識等を取り上げ，日本の古代社会を多面的に考察し，それらの因果関係や相関関係を考えます。	1. 講義の導入―日本古代史とは 2. 日本古代の史料(1)公的記録 3. 日本古代の史料(2)私的記録 4. 8世紀の社会と生活(1)律令制 5. 8世紀の社会と生活(2)民衆 6. 古代の家族と女性 7. 古代の都市と生活 8. 古代の生産と流通 9. 古代の人・モノ・情報の移動 10. 古代の情報伝達 11. 古代の旅行 12. 氏族系譜と歴史認識 13. 神話・伝承と歴史認識 14. 古代日本人のライフサイクル 15. 講義のまとめ

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義中に紹介する参考文献を読んでおくこと。
テキスト	使用しません。毎回プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義のなかで紹介します。
評価方法	レポート 100%　なお、一定の出席数に満たない場合は評価をしませんので注意してください。

13 年度以降	日本特殊研究（日本史研究 d）	担当者	堀川　徹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、古代から近世の対外関係を取り上げます。高校の教科書程度の知識をもとに、前近代の対外関係史を軸として、諸外国と日本の関係性を多面的に考察します。 軸となる概論を行ったあと、当該時期の注目すべきテーマを各論として設定し、対外関係をマクロな視点とミクロな視点の両方から捉えることで、その具体像を考察します。	1. 講義の導入―対外関係史とは 2. 東アジア世界の成立―概論(1) 3. 東アジア世界論―各論(1) 4. 文字の伝来と渡来人―各論(2) 5. 律令国家と東アジア―概論(2) 6. 隋唐と日本―各論(3) 7. 古代の国際交易―各論(4) 8. 通交・通商圏の拡大―概論(3) 9. 東シナ海の宋海商―各論(5) 10. 海を渡った文物―各論(6) 11. 倭寇と「日本国王」―概論(4) 12. 蒙古襲来と異文化接触―各論(7) 13. 近世的世界の成立と成熟―概論(5) 14. 鉄砲伝来とフランシスコ・ザビエル―各論(8) 15. 近世の対外関係とジェンダー―各論(9)

到達目標	「日本研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義中に紹介する参考文献を読んでおくこと。
テキスト	使用しません。毎回プリントを配布します。
参考文献	参考文献は講義のなかで紹介します。
評価方法	レポート 100%　なお、一定の出席数に満たない場合は評価をしませんので注意してください。

13 年度以降	言語学概論	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
言葉の仕組みと役割を客観的に記述する学問である言語学とはどのような分野なのかを概観する。ここでは言語学の基礎的および応用的領域を取り上げ、社会における言語の機能を理解すると共に、その背景にある基本的な考え方を学ぶ。主として英語を対象言語とするが、言語資料分析については他の言語も扱う。また、言語学の周辺領域における言語研究にも言及する。	1. 話し言葉と書き言葉 ?言葉は約束事言語学の研究対象，記号論，ローマ字表記…英文法の基礎となる言語産出モードの質的差異について学ぶ. 2. 動物の言語と人間の言語 ?チンパンジーも言葉が話せる？動物のコミュニケーション…英文法理解及び産出の基礎となる人間言語の特性を二重分節などのキーワードを用いて学ぶ. 3. 言語と脳 ?失われた言葉を取り戻す心理言語学と大脳生理学…英文法及び英語音声の産出能力に関わる失語症を中心とした研究に言及する. 4. 子供の言葉の発達 ?どのようにして言語を習得するか？第1言語の発達過程…英文法及び英語音声の獲得を中心的な例とする第2言語習得の理論の背景を学ぶ. 5. 外国語の上達 ?どのようにしたらうまく話せるようになるか？第2言語の習得理論…英文法及び英語音声の獲得を中心的な例として学ぶ. 6. 音と音声 (1) ?カテゴリーができるまで調音音声学と音韻論…英語音声を中心的な例として学ぶ. 7. 音と音声 (2) ?音声はどのように聞こえるか？音響音声学と聴覚音声学…英語音声を中心的な例として学ぶ. 8. 統語論 ?「正しい」言葉の記述 vs 言葉の「正しい」記述構造主義文法，生成文法，その他の文法…英文法を中心的な例として学ぶ. 9. 形と意味 ?発話に意味を込める形態論，意味論，語用論…広義の英文法を中心的な例として学ぶ. 10. 会話の原則 ?言葉の適切な使い方談話分析…広義の英文法を中心的な例として学ぶ. 11. 言語と社会 ?言葉の多様性と普遍性社会言語学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ. 12. 世界の言語とその系統 ?言語の系統と分類歴史言語学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ. 13. 言語の進化 ?言語と人類の発達言語考古学…英語の歴史的発達を踏まえて学ぶ. 14. コンピューターと言語 ?近未来の言語研究人工知能，機械翻訳，コーパス言語学…英文法・英語音声・英語の歴史的発達など英語学全般を含む分野に関連する研究方向を概観する. 15. まとめ…英文法・英語音声・英語の歴史的発達などを含む言語学全般に関連する基礎知識を総括する.

到達目標	音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・談話分析・心理言語学・社会言語学・動物の言語使用・数理言語学・応用言語学といった言語学の各領域において基本的な知識を習得し、分析・論証ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。
テキスト	G. ユール／今井・中島訳 『現代言語学 20 章』(大修館, 1987; ISBN: 4-469-21145-1)
参考文献	David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of Language (Cambridge University Press, 1987; ISBN: 0-521-42443-7)
評価方法	定期試験 ：100%

13 年度以降	英語学概論	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
英語学の基礎的諸領域の広範な理解を目標とする。扱う領域としては発音・音声学・形態論・統語論・意味論・語用論・談話論・英語史などがある。それぞれのテーマについて基本的概念を解説し、実際の英語理解の支援を行う。分野によっては視聴覚資料を補助的に用いる。	1. 英語の文法理論（6章） 2. 音声学（7章） 3. 音韻論 (1)：分節音韻論（8章） 4. 音韻論 (2)：強勢・イントネーション（8章） 5. 形態論・語形成（9章） 6. 統語論 (1)：構造主義の統語分析（10章） 7. 統語論 (2)：生成文法の統語分析（10章） 8. 意味論・語用論（11章） 9. 談話分析 10. 英語史 (1)：古英語（4章） 11. 英語史 (2)：中英語（4章） 12. 英語史 (3)：近代英語（5章） 13. 英語史 (4)：現代英語（5章） 14. 英語史 (5)：英語の多様性（12章） 15. 英語の対象言語学的研究（15章）

到達目標	音声学・音韻論・形態論・統語論・意味論・談話分析・英語史・英語の社会的変異・英語の権力構造といった英語学の各領域において基本的な知識を習得し、分析・論証ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする.
テキスト	龍城正明編,『英語学パースペクティブ』(南雲堂, 2015; ISBN: 978-4-523-30075-5)
参考文献	David Crystal, The Cambridge Encyclopedia of the English Language, 2nd ed. (Cambridge University Press, 2003; ISBN: 0 521 82348 X / 0 521 53033 4)他
評価方法	定期試験 ：70%，小テスト・授業中の課題 ：30%

13 年度以降	日本語教育概論	担当者	石塚　京子

講義目的、講義概要	授業計画
＜講義概要＞ 「日本語教育」とは何か、「日本語教師」の仕事とはどのようなものか、といったことを概説します。この講義は、日本語教師を目指す学生に限定するものではありません。外国語としての日本語、日本語教育の歴史と現状、外国語教授法など、言語や教育に広く興味を持っている学生を対象とした講義内容となります。なお、日本語教師養成課程を履修する学生にとっては、日本語教授法 1 の内容と多少の重なりがありますが、実践的な指導法を学ぶための前段階と位置づけて授業に臨んでください。 ＜講義の目的＞ 1.日本語教育と国語教育の違いを知る 2.日本語教育の歴史と現状を知る 3.さまざまな外国語教授法を概観する 4.日本語を外国語として客観的に捉える 5.外国語としての日本語の指導法を考える 6.教師の役割を考える	1. 講義の概要説明、日本語教育の一例を紹介 2. 日本語教育とは何か(1)　日本語教育と国語教育の違い 3. 日本語教育とは何か(2)　日本語教育の歴史 4. 日本語教育とは何か(3)　日本語教育の現状 5. 日本語教育とは何か(4)　コミュニケーション教育 6. 外国語教授法の歴史 7. 外国語教授法の紹介(1) 8. 外国語教授法の紹介(2) 9. 異文化接触と日本語教育 10. 言語教育と言語学習観 11. 日本語のしくみと指導のポイント(1) 12. 日本語のしくみと指導のポイント(2) 13. 教室活動の活動例 14. 教師の役割と評価 15. 講義のまとめ ＊進捗状況によって内容が変更になる場合もあります。

到達目標	日本語を学習対象言語として捉えたうえで、日本語教育の基本的な内容、および日本語教育の歴史と現状について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業中に出される課題について事前に調べておいてください。 配布した資料を授業後にまとめ、次回までにきちんと内容を整理しておいてください。
テキスト	必要な資料を授業中に配布
参考文献	佐々木泰子著『ベーシック日本語教育』（ひつじ書房、2007）＊その他は授業中に適宜紹介
評価方法	定期試験（70%）、平常点や課題などの提出状況（30%）を総合的に評価

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	応用言語学 I	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
応用言語学の領域の中でも主に第二言語・外国語習得諸理論およびそれらの理論が外国語教育に何を示唆するかを学ぶ。また、4技能の領域においてどのような研究がされ、外国語教育に何を示唆しているかを考える。	第1回：概論　応用言語学とは？ 第2回：習得のメカニズム 第3回：モニターモデル 第4回：インタラクション仮説、アウトプット仮説 第5回：学習者言語：中間言語、習得順序 第6回：言語能力(BICS, CALP, DLS)、認知要求度と場面依存度 第7回：教室での言語習得 第8回：4技能の習得　リーディングおよび他技能との関係 第9回：4技能の習得　リスニングおよび他技能との関係 第10回：リーディング・リスニングまとめ 第11回：口頭発表1 インプットと他技能の関係 第12回：4技能の習得　スピーキングおよび他技能との関係 第13回：4技能の習得　ライティングおよび他技能との関係 第14回：スピーキング・ライティングまとめ 第15回：口頭発表2 アウトプットと他技能との関係

到達目標	言語の獲得・習得、言語教育といった言語学の応用理論について分析し、論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、テーマごとに設定される課題をこなすこと。
テキスト	論文他の配布資料
参考文献	Understanding SLA (Ortega)、英語教育学体系第 5 巻：第二言語習得（佐野他）
評価方法	論文のまとめを含む諸課題（40%）口頭発表（20%）定期試験（40%）

13 年度以降	応用言語学Ⅱ	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
第二言語習得がいかにダイナミックなものであるかということを理解し、諸理論をどのように言語教育に応用していくかを考える。特に個人要因に焦点をあてる。また、テーマごとに論文を読み、研究方法、問題点、展望などについて議論する。	第1回：　概要：環境要因・個人要因 第2回：　環境要因、社会的動機づけ理論 第3回：　適性、MI 第4回：　不安 第5回：　動機づけ 1 第6回：　動機づけ 2 第7回：　学習ストラテジー、学習ビリーフ、好意度 第8回：　意欲、WTC 第9回：　グループワーク：言語習得過程モデル 第10回：　口頭発表 第11回：　年齢：臨界期仮説、早期英語教育 第12回：　スピーチ学習モデル、音声認識、早期英語教育 第13回：　グループワーク：初中等教育における英語教育 第14回：　口頭発表 第15回：　まとめ

到達目標	言語の獲得・習得、言語教育といった言語学の応用理論について分析し、論証できるようにする。
事前・事後学修の内容	テーマごとに配布される論文を読むこと。また、テーマごとに設定される課題をこなすこと。
テキスト	論文他の配布資料
参考文献	英語教育学体系第 5 巻：第二言語習得（佐野他）
評価方法	論文のまとめを含む諸課題(50%)、口頭発表およびそのまとめレポート（50%）

13 年度以降	英語圏の文学Ⅰ	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
英語で書かれた代表的な文学（主に小説、アメリカ文学）を通して、その作品における様々な英語表現が理解できるようになり、またその国や地域の文化についても理解を深めることを目的とします。具体的には英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品、トウェイン、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、サリンジャーなど、を読みながら英語表現や文化を積極的に学んでいきます。 なお、この科目は講義科目となってはいますが、教員側からの一方通行的講義ではありません。90 分間ただ座って聞いているだけ、という授業はほとんどせず、参加者全員が主体的に学び、対話をし、その場で調べ、分析しながら深く学ぶことを目指す全員参加型のアクティブラーニング形式で進行します。よって毎回の出席は当たり前、かつ授業内で毎回何をどう学んだのかを明確にしていくことが評価へとつながっていきますので、その旨よく理解した上で履修してください。	１：イントロダクション文学とは何か?/ アメリカ文学への招待 ２：マーク・トウェインとその時代（南北戦争とミシシッピ） ３：トウェイン（*Adventures of Huckleberry Finn*）を読む ４：マーク・トウェインの英語表現 / 晩年のトウェイン 5：フィッツジェラルドと時代（1920 年代とアメリカンドリーム） ６：フィッツジェラルドの作品（*The Great Gatsby*）を読む ７：フィッツジェラルドの英語表現 / 短編小説と映画 ８：トウェインとフィッツジェラルドの比較（事実と影響） ９：ヘミングウェイと時代（アメリカンドリーム以後のアメリカ） １０：ヘミングウェイの作品（短編小説）を読む １１：ヘミングウェイの英語表現とフィッツジェラルドの影響 １２：サリンジャーとその時代（第二次大戦以後のアメリカ） １３：サリンジャーの作品（*The Catcher in the Rye*）を読む １４：サリンジャーの英語表現 / 翻訳と村上春樹 １５：トウェイン、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、サリンジャーの系譜（まとめ）

到達目標	文化・社会・政治的知識と関連づけながら、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前（作家、作品についての情報収集）、事後（授業の内容と自分の意見、解釈のまとめ）
テキスト	特定のテキストは指定しないが、必要に応じて個々の作品を参照。
参考文献	フィッツジェラルド *The Great Gatsby*, トウェイン　*Adventures of Huckleberry Finn* など
評価方法	授業内課題（60%）、レポートないしプレゼンテーション（40%）

13 年度以降	英語圏の文学Ⅱ	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
英語で書かれた代表的な文学（英米の小説、詩、演劇など）を通して、その作品における様々な英語表現を理解できるようになり、またその国や地域の文化についても理解を深めることを目的とします。具体的には英語で書かれた代表的な文学作品、シェイクスピアやカズオ・イシグロなど、を読みながら英語表現や文化を積極的に学んでいきます。 なお、この科目は講義科目となってはいますが、教員側からの一方通行的講義ではありません。90 分間ただ座って聞いているだけ、という授業はほとんどせず、参加者全員が主体的に学び、対話をし、その場で調べ、分析しながら深く学ぶことを目指す全員参加型のアクティブラーニング形式で進行します。よって毎回の出席は当たり前、かつ授業内で毎回何をどう学んだのかを明確にしていくことが評価へとつながっていきますので、その旨よく理解した上で履修してください。	１：イントロダクション　文学とは何か？ ２：イギリスの小説（時代と文化、英語表現） ３：イギリスの詩（時代と文化、英語表現） ４：イギリスの演劇、映画（時代と文化、英語表現） ５：アメリカの小説（時代と文化、英語表現） ６：アメリカの詩（時代と文化、英語表現） ７：アメリカの演劇、映画（時代と文化、英語表現） ８：英米文学の特徴（まとめと中間報告） ９：カズオ・イシグロの世界（*The Remains of the Day*） １０：*The Remains of the Day* と英語表現 １１：英米文学と日本（受容の歴史） １２：英語で読まれる日本文学（翻訳と表現） １３：英語で発信する日本文学（翻訳と英語表現） １４：世界文学、英米以外の英語圏文学の作品と英語表現 １５：イギリス、アメリカ、日本、そして世界文学（まとめ）

到達目標	文化・社会・政治的知識と関連づけながら、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前（作家、作品についての情報収集）、事後（授業の内容と自分の意見、解釈のまとめ）
テキスト	特定のテキストは指定しないが、必要に応じて個々の作品を参照。
参考文献	カズオ・イシグロ *The Remains of the Day*, シェイクスピア *Romeo & Juliet* など
評価方法	授業内課題（60%）、レポートないしプレゼンテーション（40%）

13 年度以降	英語圏の文学・文化・批評 I	担当者	末松　良道

講義目的、講義概要	授業計画
「英語圏の文学・文化・批評I、II」では、イングランドにおける中世から第2次世界大戦後までの文学を、歴史的背景と共に概観する。ブリテン諸島のもうひとつの国、アイルランド共和国や地域（ウェールズ、スコットランド等）との関係を念頭に置きながら、イングランドがどう移り変わっていったかを、代表的な文学作品を通して考える。 「英語圏の文学・文化・批評I」では、イングランドという国の成立と中世英文学、そしてシェイクスピアやジョン･ミルトンなど、ルネサンスの文学までを扱う。授業は基本的に講義形式で進めるが、プリントを配布して、作品の抜粋や英詩などを英文で読んだり、演劇作品などは一部をビデオで鑑賞する。受講者は授業で紹介する作品を中心に、幾つかの作品を翻訳か、出来るならば原文で読んで、気づいたこと、感じたことなどをノートに取ることが求められる。	1. イントロダクション、古代のブリテン島 2. アーサー王伝説の始まり、アングロ・サクソン時代 3. 『ベーオウルフ』 4. バイキング来襲、アングロ・サクソン時代の文学 5. ノルマン人のイギリス征服、中世後半の歴史・社会 6. ジェフリー・チョーサー『カンタベリー物語』1 7. ジェフリー・チョーサー『カンタベリー物語』2 8. この授業のためのレポートの書き方解説 9. 15世紀の歴史と社会、マロリー『アーサー王の死』 10. 16世紀の社会：宗教改革と英語訳聖書 11. 16世紀の社会：エリザベス女王、ルネサンスの劇場 12. シェイクスピアの経歴 13. シェイクスピアの作品 14. スチュアート朝、清教徒革命と共和制 15. 王政復古と名誉革命、ジョン・ミルトン『失楽園』

到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳、または原文で、講義で言及する作品を出来るだけ多く読んで欲しい。
テキスト	必要な資料はプリントで配布する。
参考文献	川崎寿彦『イギリス文学史入門』（研究社、1986）、指昭博『図説イギリスの歴史』（河出書房新社、2002）
評価方法	定期試験 40%、レポート 40%、平常点（コメント･ペーパー等）20%

13 年度以降	英語圏の文学・文化・批評 II	担当者	末松　良道

講義目的、講義概要	授業計画
「英語圏の文学・文化・批評II」では、イングランドにおける18世紀から第2次世界大戦後までの文学を、歴史的背景と共に概観する。大英帝国の安定、産業革命、2つの世界大戦などを経つつ、イングランドがどう移り変わっていったかを、それぞれの時代の代表的な文学作品を通して考える。授業は基本的に講義形式で進めるが、プリントを配布して、英詩などを原文で読む。また、小説や演劇の場合は映画化されたものを一部鑑賞する。受講者は授業で紹介する作品を中心に、幾つかの作品を翻訳か、出来るならば原文で読んで、気づいたこと、感じたことなどをノートに取ることが求められる。	1. 18世紀の歴史と社会 2. 18世紀の文学（ポープ、デフォー、スウィフトなど） 3. 19世紀の歴史と社会、特に産業革命について 4. 19世紀の小説（ジェイン・オースティン） 5. 19世紀の小説（チャールズ・ディケンズ） 6. 19世紀の小説（ブロンテ姉妹） 7. 19世紀の小説（トマス・ハーディー） 8. ロマン派以降の詩（ワーズワース、テニスン他） 9. 第１次世界大戦前後の社会、福祉国家への歩み 10. 20世紀初期の文学（ロレンス、T. S. エリオット） 11. イギリス演劇の展開（ショー、ラティガン） 12. 第2次世界大戦と大戦後のイギリス 13. 第2次世界大戦後の社会と文学（オーウェル） 14. 第2次世界大戦以降の小説（シリトー他） 15. 第2次世界大戦以降のイギリス演劇（オズボーン他）

到達目標	文学研究のアプローチを使って、英語圏の文学・文化を鑑賞・分析し、批評できるようにする。
事前・事後学修の内容	翻訳、または原文で、講義で言及する作品を出来るだけ多く読んで欲しい。
テキスト	必要な資料はプリントで配布する。
参考文献	川崎寿彦『イギリス文学史入門』（研究社、1986）、指昭博『図説イギリスの歴史』（河出書房新社、2002）
評価方法	定期試験 40%、レポート 40%、平常点（コメント･ペーパー等）20%

13 年度以降	国際語としての英語	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
多様な英語の存在を（再）認識し、「国際共通語としての英語（English as a Lingua Franca）」のあり方を考えることを目的とする。また、非英語母語話者として、どのような英語を学習し、指導していけばいいかを模索する。	第1回：概論　「英語」の神話・学習者ビリーフ 第2回：英語のディアスポラと３つの同心円（Kachru） 第3回：標準英語(Standard English)とは？ 第4回：マスメディアにおける多様な英語 第5回：「内部圏」の英語の多様性1(英、豪、アイルランドなど) 第6回：「内部圏」の英語の多様性2(米、カナダなど) 第7回：「外部圏」の英語の多様性（印、フィリピンなど） 第8回：「拡張圏」の英語の多様性（欧州や北アジア諸国） 第9回：日本英語コーパス　分析 第10回：日本英語コーパス　分析結果　ポスター発表（グループ） 第11回：ネイティブ信仰 第12回：Jenkin's Lingua Franca Core, Seidlhofer's ELF 第13回：ELFのあり方　ディスカッション 第14回：ELFのあり方　ポスター発表（グループ） 第15回：まとめ

到達目標	英語の多様性や英語帝国主義概念などを理解したうえで、日本がどのような英語を教授し、使用していけばいいのかなどといった問題を客観的かつ理論的に分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料を読み、テーマごとに設定する課題をこなすこと。
テキスト	論文他の配布資料
参考文献	English in Japan in the Era of Globalization (Seargent), World Englishes: A resource book for students)Jenkins)
評価方法	日本語英語コーパス（20%）ポスター発表およびまとめレポート(50%）その他課題（30%）

13 年度以降	英語教育特殊研究（早期外国語教育）	担当者	澁井　とし子

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、2020年に教科化となる小学校外国語の基礎知識と小学校での指導方法を理解し、小中高連携を意識した、外国語の指導力向上を目指します。 小学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領や教材、並びに小・中学校を通した英語教育の在り方の基本について理解します。また、第二言語習得理論に沿った学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができることを授業目標とします。	1. 講義の概要 2. 発達心理学の基礎,第二言語習得に関する基本的な知識 3. 学習指導要領に見る外国語活動と外国語 4. 児童や学校の多様性への対応、異文化理解 5. ALT等とのティームティーチングによる指導の在り方 6. 言語使用を通した言語習得・音声によるインプット 7. 音声から文字へ、国語教育との連携 8. クラスルームイングリッシュ、スモールトーク他 9. 題材の選定と教材、ICT等の活用の仕方 10. 学習到達目標、指導計画 11. 学習指導案の作り方 12. 学習状況の評価（パフォーマンス評価） 13. 学習指導案作り 14. 学習指導案作り 15. まとめ

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいてください。また、毎回授業のポイントが何であったかを振り返り、授業内容を復習してください。
テキスト	小川隆夫・東仁美著『小学校英語はじめる教科書』（mpi 松香フォニックス、2017 年）
参考文献	授業中に紹介
評価方法	定期試験 50%、レポート 30%、模擬授業の内容 20%

13 年度以降	日本語教授法Ⅰa	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　この授業では、外国語として日本語を教えるために必要な基礎的な知識と能力を身につけます。自分自身の日本語運用や外国語学習の経験を振り返りながら、何をどう教えるかについて、様々な角度から考えます。 【講義概要】 　日本語教育能力検定試験の出題範囲を概観し、これまでに学んだ各論の知識を整理します。また、コミュニケーション能力を伸ばす言語教育とはどのようなものかを考え、実践のための基礎力を養います。授業は、講義とディスカッション、発表の形態で進めます。 【注意事項】 　授業で指示された課題は必ず取り組んで来ること。	1.　オリエンテーション 2.　言語使用と社会 3.　言語習得 4.　異文化理解と心理 5.　外国語教授法 6.　音声学・音韻論、学習者の発音1 7.　音声学・音韻論、学習者の発音2 8.　発音の指導 9.　日本語の文字・表記 10.　日本語の語彙、語彙形成、意味 11.　文字・語彙の指導 12.　文法・文型1 13.　文法・文型2 14.　文法・文型の指導 15.　コースデザイン　－調査・分析－

到達目標	日本語教授法の基礎理論を理解し、発話場面や文脈にあった日本語運用能力を育成するために必要とされる教材開発、および学生のニーズに合わせた指導、教案作成ができるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。
テキスト	佐々木泰子編『ベーシック日本語教育』ひつじ書房
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	①課題の取り組み　３０％ ②期末試験　５０％ ③参加態度・貢献度　２０％

13 年度以降	日本語教授法Ⅰb	担当者	瀬尾　悠希子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　第二言語としての日本語を教えるために必要な、基礎的知識、スキル、態度を身につけること。 【講義概要】 　この授業では、コースデザインの基礎や、文法の指導、聞く・話す・読む・書くの技能別の指導について理解を深め、具体的な教室活動を考えることができるようになることを目指します。さらに、文化を教えることや学習者の自律性を育てること、学習をどのように評価するかについても学びます。 　事前および事後学修をきちんと行い、授業にも積極的に参加することが求められます。	1.　オリエンテーション 2.　外国語教授法 3.　コースデザイン① 4.　コースデザイン② 5.　文法の指導① 6.　文法の指導② 7.　聞くための指導 8.　話すための指導 9.　読むための指導 10.　書くための指導 11.　教案の作成 12.　文化を教える 13.　学習者の自律性を育てる 14.　学習を評価する 15.　まとめ－学び続ける教師／支援者になるために

到達目標	日本語教授法の基礎理論を理解し、発話場面や文脈にあった日本語運用能力を育成するために必要とされる教材開発、および学生のニーズに合わせた指導、教案作成ができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：教科書の指定箇所をよく読み、わからないことを調べ、章末の問題をすること。 事後学修：教科書を読み直し、授業の復習をすること。出された課題を行うこと。
テキスト	坂本正・川崎直子・石澤徹『日本語教育への道しるべ　第３巻　ことばの教え方を知る』凡人社
参考文献	『日本語教育事典』研究社、『日本語教育能力試験に合格するための用語集』アルク、その他適宜紹介する
評価方法	ディスカッション・ファシリテーション 30%、予習と通常課題 25%、最終課題 20%、授業への参加態度と貢献度 25%

13 年度以降	日本語教授法Ⅱ	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 外国語として日本語を教える具体的な方法を学びます。この授業は、日本語教育機関で実習を行うための準備教育で、演習中心で進めます。 【講義概要】 毎回、学生による模擬授業を行います。模擬授業担当者は期日までに教案を提出し、当日は自分の授業の様子をビデオに録画し、授業後半の振り返りに使用します。一方、教師役以外は全員学習者役となり、学習者の立場から、また、授業を俯瞰的、客観的にみる観察者として授業観察記録をつけます。 履修者の人数により、1回の模擬授業の人数を決定しますが、少なくとも一人2回は授業（教師役）を担当します。 学期末には、観察記録（他者からの評価）と振り返り（自己評価）をまとめ、自己分析レポートとして提出します。	1. オリエンテーション，初級で教える項目の確認 2. 初級の授業の流れと教案の作成 3. 模擬授業① 4. 模擬授業② 5. 模擬授業③ 6. 模擬授業④ 7. 模擬授業⑤ 8. 模擬授業⑥ 9. 模擬授業⑦ 10. 模擬授業⑧ 11. 中級以上の指導内容と授業の流れ 12. 模擬授業⑨ 13. 模擬授業⑩ 14. 模擬授業⑪ 15. 模擬授業⑫、まとめ

到達目標	「日本語教授法Ⅰ」の学習成果のうえに、実際に作成した教案に基づき模擬授業を行い、また、他者の模擬授業を客観的に評価し、建設的な意見を述べることができるようにする。
事前・事後学修の内容	教案作成等の事前課題がある。事後としては模擬授業についての内省レポートを提出。
テキスト	模擬授業に使用するテキスト:『みんなの日本語初級Ⅰ,Ⅱ』、『げんきⅠ,Ⅱ』等の一般的な初級の教科書
参考文献	授業で随時紹介
評価方法	①授業の準備　２０％　②模擬授業　３０％　③期末レポート（自己分析レポート）３０％ ④参加態度・貢献度　２０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	日本語音声学	担当者	磯村　一弘

講義目的、講義概要	授業計画
日本語の音声について、基本的な知識を学ぶ。普段、意識しないで話している日本語の音声を、客観的に捉えられるようになることを目標とする。 そのうえで、外国人学習者が日本語の音声を学ぶ際の問題点や、これを教えるための具体的な方法について考える。	1. (4/11) 言語音を作るしくみ 2. (4/18) 母音 3. (4/25) 子音(1)：調音点と調音法、破裂音、鼻音 4. (5/2) まとめと復習 5. (5/9) 子音(2)：ふるえ音、はじき音、摩擦音 6. (516) 子音(3)：破擦音、接近音、側面音 7. (5/23) 日本語の母音と子音まとめ 8. (5/30) 母音の無声化 9. (6/6) 特殊音素(1)：撥音 10. (6/13) 特殊音素(2)：促音、長音 11. (6/20) 拍とリズム 12. (6/27) アクセント(1)：アクセントのしくみ 13. (7/4) アクセント(2)：品詞別のアクセント 14. (7/11) **イントネーション** 15. (7/18) **最終試験、総復習**

到達目標	日本語について、音声学の基本的事項を理解し、音声の問題として言語現象と言語教育を把握することができるようになる。
事前・事後学修の内容	教科書に目を通しておくこと
テキスト	『国際交流基金日本語教授法シリーズ２　音声を教える』ひつじ書房
参考文献	特になし
評価方法	「最終試験」の成績による。単位が必要な者は、7/18 の試験を必ず受験すること。出席は取らない。

13 年度以降	日本語コミュニケーション論	担当者	城﨑　陽子

講義目的、講義概要	授業計画
日本の年中行事 日本文化の基点ともいうべき「年中行事」を中心に文学作品にうかがえる様々な行事を通史的に追いつつ、日本文化について学び、各国の文化との比較を通じてそれぞれの文化への理解を深めることを本講義の目的とします。 特に「五節供」とその周縁の行事をとりあげてこれを概説し、それらの行事に関する現代の様態をレポートしたり、各国の行事を紹介したりする時間をとり、ディスカッションする場面を設けます。	1　ガイダンス―年中行事とは・アンケート― 2　日本文化の基点―暦の概念― 3　日本文化の基点―儀式書の概説― 4　年中行事―正月行事・その１― 5　年中行事―正月行事・その２― 6　年中行事―正月行事・その３― 7　年中行事―上巳の儀礼・その１― 8　年中行事―上巳の儀礼・その２― 9　年中行事―端午の儀礼・その１― 10　年中行事―端午の儀礼・その２― 11　年中行事―七夕の儀礼・その１― 12　年中行事―七夕の儀礼・その２― 13　年中行事―重陽の儀礼― 14　年中行事―新嘗祭・大嘗祭― 15　まとめ

到達目標	外国人の日本語学習者に日本語を教えるうえで必要な知識とコミュニケーション力を養成し、異文化の日本語教育現場においてこれを活用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学習として提示される課題に取り組んでください。
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	参考文献は授業中に紹介します。
評価方法	レポート６０％、リアクションペーパーや課題を含めた授業への参加度４０％

13 年度以降	日本語文法論 I	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 日本語の文法のうち形態論から統語論の前半をとりあげる。形態論とは語の内部構造を決定する過程であり、統語論とは語の結合によって句構造を決定する過程である。講義では、日本語における語及び形態素の認定にはじまり、融合的な活用と派生、さらに自律的な結合である複合をあつかい、後半で文の基本構造と命題のパターンをとりあげる。 [講義概要] 授業は、反転式に準ずる方法をとる。履修者は、PORTAを通じて与えられる問題への解答を準備する予習をし、授業内でグループでその問題を議論する。授業後やはりPORTAを通じて配布されるテキストを読んで理解を深め、次の授業で不明な点への質問をおこなう。	1. 授業ガイダンスと文法論概説 2. 単語 3. 品詞 4. 形態素 5. 語構成 6. 複合 7. 活用 8. 前半のまとめ 9. 二次語幹 10. テ形からの拡大 11. 自動詞と他動詞 12. 名詞の文法カテゴリ 13. 単文の構造 14. 命題のパターン 15. 後半のまとめ

到達目標	日本語文法を体系的に理解し、文法的知識の言語教育への応用を把握するとともに、文法的に言語を分析することができるようになる。
事前・事後学修の内容	PORTA で配布される問題への解答を用意し、テキストを読了するとともに、質問を含む小レポートを提出すること。全体で毎回 3~4 時間の学習が予想される。
テキスト	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。
参考文献	鈴木孝明(2015)『日本語文法ファイル』くろしお出版
評価方法	授業内小テスト(40%)　2 回のレポート(40%)　授業活動の積極性(20%)

13 年度以降	日本語文法論Ⅱ	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 日本語の文法のうち統語論の後半と談話論をとりあげる。統語論とは語から文をくみたてるときの、語順に関する構造を決定する過程のことであり、談話論は発話された複数の文間の関係によって決定される過程のことである。春学期の文法論 I もふくめて、日本語教育により適合する意味論的な文法を中心とする。 [講義概要] 授業は、反転式に準ずる方法をとる。履修者は、PORTAを通じて与えられる問題への解答を準備する予習をし、授業内でグループでその問題を議論する。授業後やはりPORTAを通じて配布されるテキストを読んで理解を深め、次の授業で不明な点への質問をおこなう。	1. 授業ガイダンスおよび統語論と談話論概説 2. 付加詞および修飾 3. VAT 4. モダリティ 5. 否定と疑問 6. 複文 7. 前半のまとめ 8. 指示と省略 9. 主題 10. 語順と談話 11. 動詞範疇と談話 12. 談話の構造(1)～会話 13. 談話の構造(2)～文章 14. 開始と終了，応答と間投 15. 後半のまとめ

到達目標	日本語文法を体系的に理解し、文法的知識の言語教育への応用を把握するとともに、文法的に言語を分析することができるようになる。
事前・事後学修の内容	PORTA で配布される問題への解答を用意し、テキストを読了するとともに、質問を含む小レポートを提出すること。全体で毎回 3~4 時間の学習が予想される。
テキスト	担当者(浅山)によるテキストを PORTA を通じて配布する。
参考文献	Th.R.Hofmann(1986)『10 日間意味旅行』くろしお出版
評価方法	授業内小テスト(40%)　2 回のレポート(40%)　授業活動の積極性(20%)

13 年度以降	英語教育特殊研究（専門購読 a）	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
この「英語教育特殊研究（専門購読 a)」では英語教育に関する専門書（洋書)、特に skill-based に関するもの、を読み、専門分野のことを英語で読み取れる読解力を養成するのと同時に、それらの内容についての議論、発表をしながら、理解をより深めていくことをねらいとし、かつ総合的な英語力の向上を目指します。内容に関しては教職的な授業実践も含みますが、英語の「教え方」を学ぶことは「学び方」の参考にもなるはずで、またその逆もありえます。英語を「教える」「学ぶ」に関心があれば教職履修の有無は問いません。必要なものは英語教育への興味、関心と積極的な参加姿勢です。The aim of this course is to improve your English ability through reading texts related to English education, especially skill-based approaches. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons.	1 Introduction 2 Reading the text with exercises 1 (how to be a good teacher) 3 Reading the text with exercises 2 (tips for a good teacher) 4 Reading the text with exercises 3 (how to teach reading) 5 Reading the text with exercises 4 (discussion for reading) 6 Reading the text with exercises 5(how to teach writing) 7 Reading the text with exercises 6 (discussion for writing) 8 Reading the text with exercises 7(how to teach listening) 9 Reading the text with exercises 8 (discussion for listening) 10 Reading the text with exercises 9(how to teach speaking) 11 Reading the text with exercises 10 (discussion for speaking) 12 Reading the text with exercises 11(make a lesson plan) 13 Reading the text with exercises 12(demo lesson) 14 Reading the text with exercises 13(review & evaluation) 15 Final Evaluation

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前（文献の講読)、事後（文献に基づいた実践）
テキスト	To be announced at the first lesson
参考文献	授業内で随時指示します
評価方法	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%

13 年度以降	英語教育特殊研究（専門講読 b）	担当者	関戸　冬彦

講義目的、講義概要	授業計画
この「英語教育特殊研究（専門購読 b)」では英語教育に関する専門書（洋書)、特に contents-based に関するもの、を読み、専門分野のことを英語で読み取れる読解力を養成するのと同時に、それらの内容について議論、発表をしながら、理解を深めていくことをねらいとし、かつ総合的な英語力の向上を目指します。内容に関しては教職的な授業実践も含みますが、英語の「教え方」を学ぶことは「学び方」の参考にもなるはずで、またその逆もありえます。英語を「教える」「学ぶ」に関心があれば教職履修の有無は問いません。必要なものは英語教育への興味、関心と積極的な参加姿勢です。The aim of this course is to improve your English ability through reading texts related to English education, especially contents-based approaches. It is necessary for you to attend classes positively, and you cannot get your credit if you are absent more than 3 times without any particular reasons.	1 Introduction 2 Reading the text with exercises 1(teaching literature) 3 Reading the text with exercises 2(literature for materials) 4 Reading the text with exercises 3(before lesson) 5 Reading the text with exercises 4 (preparation for lesson) 6 Reading the text with exercises 5 (tips for lesson) 7 Reading the text with exercises 6(using short stories) 8 Reading the text with exercises 7 (practical samples) 9 Reading the text with exercises 8 (discussion for stories) 10 Reading the text with exercises 9(using drama) 11 Reading the text with exercises 10 (practical samples) 12 Reading the text with exercises 11 (discussion for drama) 13 Reading the text with exercises 12(demo lesson) 14 Reading the text with exercises 13(review & evaluation) 15 Final Evaluation

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前（文献の講読)、事後（文献に基づいた実践）
テキスト	To be announced at the first lesson
参考文献	授業内で随時指示します
評価方法	Class Assignment & In Class Performance 70% Final Test, Paper or Presentation 30%

13 年度以降	英語教育特殊研究（授業分析と実践 a）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
「英語科教科教育法I～IIIの学習成果を踏まえ、英語指導において重要な役割を担う教材を分析し、学習者のニーズ（レベルや動機付け）にあわせた補助教材の選定やスキャフォルディング（足場かけ）ができるようにする。 具体的には、教材分析の方法や学習者のレベルに合せて難易度を調整する方法を学ぶ。また、インターネット等を利用した補助教材の選定方法およびスキャフォルディング方法を学ぶ。	第1回：概論 第2回：発問と認知要求度 第3回：教科書分析1: 発問と認知要求度の観点から 第4回：言語活動タスク 第5回：教科書分析2: 言語活動タスクと認知要求度の観点から 第6回：テーマ内容と他教科との関係 第7回：教科書分析3: テーマ内容と他教科との関連性の観点から 第8回：スキャフォルディング 第9回：インターネットを利用したリーディング教材の検索・選定 第10回：教材の簡略化およびスキャフォルディング 第11回：リーディング補助教材の作成 第12回：インターネットを利用したリスニング教材の検索・選定 第13回：リスニング教材のスキャフォルディング 第14回：リスニング補助教材の作成 第15回：まとめ

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料を読み、テーマごとに設定された課題をこなす。
テキスト	高等学校英語検定済教科書、配付資料
参考文献	Learning to learn n a Second Language (Gibbons 他), A Taxonomy for Learning (Anderson 他)
評価方法	教材分析課題（30%）補助教材作成（30%）その他課題（30%）　ポートフォリオ（10%）

13 年度以降	英語教育特殊研究（授業分析と実践 b）	担当者	臼井　芳子

講義目的、講義概要	授業計画
「英語科教科教育法I～IIIの学習成果を踏まえ、英語指導において重要な役割を担う教材を分析し、学習者のニーズ（レベルや動機付け）にあわせた補助教材の選定やスキャフォルディング（足場かけ）ができるようにする。 英語を教える授業と英語で教える授業の授業分析を通し、言語運用や授業内インタラクションの違いを可視化することによって、内容言語統合型学習(CLIL)の可能性を検討するとともに、その長所を活かす授業展開に必要な教室談話能力や足場かけを検討した上で、授業計画・実践し、省察する。また、集大成として提携校において模擬授業を実施する。	第1回：概論 第2回：教室談話能力(Classroom Interaction Competence) 第3回：「英語を教える」授業分析 第4回：「英語で教える」授業分析 第5回：フォーカス・オン・フォーム 第6回：内容言語統合型学習(CLIL) 第7回：CLIL教員に求められる8領域：学習者のニーズ、計画 第8回：CLIL教員に求められる8領域：multimodality, interaction 第9回：CLIL教員に求められる8領域：教科リタラシー、評価 第10回：CLIL教員に求められる8領域：協働と省察、文脈と文化 第11回：模擬授業および授業分析1:グループ1 第12回：模擬授業および授業分析2:グループ2 第13回：模擬授業および授業分析3:グループ3 第14回：提携校における模擬授業の準備 第15回：省察および総括

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって英語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布資料を読み、テーマごとに設定された課題をこなす。
テキスト	高等学校英語検定済教科書、配付資料
参考文献	フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業（和泉）、英語で教科内容や専門を学ぶ（早稲田大学総研）
評価方法	授業分析課題(30%)、 模擬授業および授業分析レポート(40%)、その他の課題（30%）

13 年度以降	日本語教育特殊研究（教育教材論）	担当者	倉田　芳弥

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 　この授業では、多様化する学習者のニーズに対応した教材の選定や作成ができるようになることを目的とします。 【講義概要】 　授業では、教材分析及び教材作成について学び、また技能別に実際に教材を作成します。作成した教材は、実際に使用して意見交換を行います。 　授業中、グループワークやペアワークが多いので、授業には積極的に参加してください。また、指示された課題には必ず取り組むようにしてください。	１．オリエンテーション・教材分析の概要 ２．主教材と補助教材 ３．初級教材の分析・発表 ４．中上級教材の分析 ５．会話教材の分析 ６．会話教材の作成、発表 ７．聴解教材の分析 ８．聴解教材の作成、修正 ９．聴解教材の発表 １０．読解教材の分析 １１．読解教材の作成 １２．インターネットを活用した教材の分析 １３．最終課題作成 １４．最終課題修正 １５．最終課題の発表

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、授業内容に関する事前・事後の課題があります。
テキスト	特に指定しない。プリントを配布する。
参考文献	授業の中で、必要に応じて紹介する。
評価方法	課題 40%、期末レポート 30%、授業への参加度・貢献度 30%

13 年度以降	日本語教育特殊研究（年少者日本語教育）	担当者	宇津木　奈美子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、日本語を母語としない子どもを対象とした日本語教育に焦点あて、子どもの現状とそこから浮かびあがる問題を考察していきます。 　まず、子どもの言語能力を第 1 言語と第 2 言語の関係性から捉えていきます。その上で、学校現場や地域・家庭における日本語教育の取り組みや事例を検討し、そこから見えてくる課題を明らかにしていきます。 　子どもが母国で培ってきた母語や母文化などの資源を生かしつつ、子どもの継続的な認知発達を支える学習支援のあり方について検討していきます。 　授業は、グループワークやペアワークが多いので、積極的な参加姿勢が求められます。	1.　講義の概要 2.　日本語を母語としない子どもの現状と問題点① 3.　日本語を母語としない子どもの現状と問題点② 4.　日本語を母語としない子どもの現状と問題点③ 5.　日本語を母語としない子どもの言語能力の捉え方① 6.　日本語を母語としない子どもの言語能力の捉え方② 7.　第 1 言語と第 2 言語の関係 8.　母語保障の必要性 9.　学校現場や地域の取り組みと課題① 10.　学校現場や地域の取り組みと課題② 11.　日本語学習と教科学習について① 12.　日本語学習と教科学習について② 13.　日本語学習と教科学習について③ 14.　日本語と母語と教科の関係性について 15.　講義のまとめ

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で指示された参考文献を読んでおいて下さい。また、授業後は授業で得た知見を整理しておいてください。
テキスト	適宜プリント配布
参考文献	中島和子（2016）『完全改訂版バイリンガル教育の方法』アルク
評価方法	期末レポート 70%、授業への参加度 30%

13 年度以降	日本語教育特殊研究（専門講読）	担当者	田川　麻央

講義目的、講義概要	授業計画
【講義概要】 第二言語習得研究とは、母語を獲得した後、母語以外の言語を学ぶ過程でどのような問題が起こり、それはなぜ起こるのかということを明らかにしようとする学問です。第二言語習得研究がこれまでどのように行われ、日本語教育にどう貢献してきたのか基礎を学びます。 【講義目的】 自らの外国語学習の経験を第二言語習得研究の知見に照らし合わせながら、効果的な日本語学習について考察することを目的とします。 【注意事項】 各回の授業では、課題提出、およびディスカッション等のグループ活動があります。授業で指示された課題は必ず取り組んで、積極的に参加してください。	1. 第二言語学習とはどのようなものか 2. 学習者が独自に作るルールとはどのようなものか 3. 学習者の母語は第二言語習得に影響するか 4. 習得には決まった順序があるか① 5. 習得には決まった順序があるか② 6. 重要なのはインプットかアウトプットか 7. 文法を教えることに効果はあるか 8. 教室で学習すべきか 9. 言語習得に年齢の影響はあるか 10. 第二言語習得に適性はあるか 11. 動機づけや性格は第二言語習得に影響するか 12. 母語と外国語では「読む」ことに違いがあるか① 13. 母語と外国語では「読む」ことに違いがあるか② 14. 発表 15. まとめ

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：資料の指定された箇所を精読して問題を解く。事後学習：授業内容を整理する。
テキスト	担当者が用意する資料
参考文献	授業中に紹介
評価方法	レポート 50%，課題の取り組み 40%，授業での発言 10%

13 年度以降	日本語教育特殊研究（日本語教育のための社会言語学）	担当者	野原　ゆかり

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 以下の３点を通して、日本語教師に必要な社会言語学の素養を身につけることを目的とします。 １．自身の言語運用を社会との関わりから振り返る。 ２．多文化社会のなかでの日本語とその運用を知る。 ３．多言語・多文化社会で求められる日本語・日本語教育を考える。 【講義概要】 この授業では、多言語・多文化社会との関係から「日本語」を再考します。多様な背景を持つ学生がともに考え、自らの、そしてお互いの言語運用について理解を深めることで、相互理解のための日本語・日本語教育とはどのようなものかを考えていきます。	1. オリエンテーション 2. 言語のバリエーション 3. 言語運用のルール① 4. 言語運用のルール② 5. 言語・非言語行動 6. 言語運用に対する評価 7. 社会言語能力 8. 接触場面の日本語① 9. 接触場面の日本語② 10. 正しい日本語とは 11. 不快な日本語① 12. 不快な日本語② 13. やさしい日本語、わかりやすい日本語① 14. やさしい日本語、わかりやすい日本語② 15. コミュニケーション能力、まとめ

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回テーマに関する事前課題がある。事後としては毎回振り返りシートを提出。
テキスト	教科書の指定は特になし。毎回プリントを配布。
参考文献	授業の中で適宜指示する。
評価方法	①課題の取り組み　３０％　②参加態度・貢献度　３０％　③期末レポート　４０％

13 年度以降	日本語教育特殊研究（日本語教育研究法）	担当者	瀬尾　悠希子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 日本語教育研究を行うために必要な、基礎的な知識と技術を身につけること。 【講義概要】 自らの経験を振りかえったり、先行研究を批判的に読み、研究の問いにつながる問題意識を深めます。 また、質問紙調査、インタビュー調査、参与観察を実際に体験しながら、それぞれの調査方法の基本的な特徴と方法、注意点を理解することを目指します。 ほぼ毎週課題が出るので、事前・事後学修をきちんと行う必要があります。その点を留意の上、受講してください。	1. オリエンテーション、日本語教育研究とは 2. 問いを立てる、先行研究を読む① 3. 先行研究を読む② 4. 質問紙調査① 5. 質問紙調査② 6. 質問紙調査③ 7. 量的研究と質的研究 8. インタビュー調査① 9. インタビュー調査② 10. インタビュー調査③ 11. インタビュー調査④ 12. 参与観察① 13. 参与観察② 14. 参与観察③ 15. その他の研究法、まとめ

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：出された課題を行うこと。 事後学修：出された課題を行うこと。
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	ドルニェイ『外国語教育学のための質問紙調査入門』松柏社、フリック『新版質的研究入門』春秋社、その他適宜紹介
評価方法	最終レポート 50%、課題 50%

13 年度以降	日本語教育特殊研究（日本語学の諸問題）	担当者	浅山　佳郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 日本語を対象に、生成文法分析を行う。授業の目的は，生成文法の考え方を理解するとともに、それによる言語分析について基本的な方法を獲得すること、および日本語の構造について一定の知見をえることである。 [講義概要] 授業前に教科書の相当箇所を読了し、教員から提示される問題への解答を準備してくることが求められる。 授業自体は、その問題への議論を中心に行われる。よってできるかぎり、日本語文法論1および2を既習しているか、それに相応する言語学の初歩を終了していることが望まれる。	1. 授業ガイダンスと日本語学概論 2. 日本語の基本構造 3. 文 4. 句構造 5. 語彙範疇と機能範疇 6. 自他の対応と非対格 7. 「する」動詞構文 8. 主語主題と移動 9. 機能範疇CP 10. 補文構造 11. VP補文と格交替 12. 複合述語と結果句 13. 述語の意味と概念構造 14. VPシェル構造 15. 日本語と生成文法

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	教科書の毎回の指定箇所を読了するとともに、配布課題への解答を準備してくること。毎回 3～4 時間の学習が必要となる。
テキスト	長谷川信子(1999)『生成日本語学入門』大修館書店
参考文献	大津由紀雄ほか(2002)『言語研究入門』研究社
評価方法	授業内の小テスト(40%)　レポート(40%)　授業活動への積極性(20%)

13 年度以降	日本語教育特殊研究（教育実習）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本学における日本語教員養成課程は、4年次における教育実習を必須としている。実習の目的は、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることである。 【講義概要】 この授業は、大学での事前と事後の指導、および学外の日本語教育機関（日本語学校）における、少なくとも2週間（48時間相当）にわたる実習（実際の授業を担当する教壇実習を含む）によって構成される。 【注意事項】 この授業を履修するためには、教授法Ⅱを修了していることが条件となる。	各教育機関による。

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各教育機関によって指示される。
テキスト	各教育機関によって指示される。
参考文献	各教育機関によって指示される。
評価方法	基本的には実習校からの評価に基づく。よって、欠勤、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。

13 年度以降	日本語教育特殊研究（教育実習）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 本学における日本語教員養成課程は、4年次における教育実習を必須としている。実習の目的は、日本語教育の諸問題を理解するとともに、学内で学んできたことを実際の教育現場において実践し、指導方法及び日本語教育への理解を深めることである。 【講義概要】 この授業は、大学での事前と事後の指導、および学外の日本語教育機関（日本語学校）における、少なくとも2週間（48時間相当）にわたる実習（実際の授業を担当する教壇実習を含む）によって構成される。 【注意事項】 この授業を履修するためには、教授法Ⅱを修了していることが条件となる。	各教育機関による。

到達目標	「言語教育研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって日本語教育を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各教育機関によって指示される。
テキスト	各教育機関によって指示される。
参考文献	各教育機関によって指示される。
評価方法	基本的には実習校からの評価に基づく。よって、欠勤、遅刻、不真面目な勤務態度は厳しい評価となる。

13 年度以降	異文化間コミュニケーションⅠ	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
あなたにとってなにが異文化／自文化か？と問われたらどう答えるだろうか。異文化は「遠い国」「違うコトバ」だけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも異文化は見つけられる。場合によっては、遠い異文化より身近な異文化のほうに受け入れ難い何かを感じることもある。 本講義では、異文化間コミュニケーションの基礎的研究とその歴史的背景をふまえたうえで、現代社会の異文化関係について様々な角度から学ぶことがねらいである。とくに、異なる文化の人々が共に社会を築きあげる際に起こりうる問題にはどういったことがあるか、またそれはどういった経緯で起こるのかについて深く考えてもらいたい。授業でとりあげる資料や事例は、慎重に扱わねばならない難しいものもあるが、本講義をとおして、自分なりに異文化共生や異文化理解の糸口を探してほしい。	1. オリエンテーション 2. 異-文化と自-文化を意識する 3. 異文化間コミュニケーション研究の歴史 4. コミュニケーションの構造 5. 異文化へのまなざし（1） 6. 異文化へのまなざし（2） 7. 異文化へのまなざし（3） 8. 異文化からのまなざし（1） 9. 異文化からのまなざし（2） 10. 異文化からのまなざし（3） 11. 内なる異文化（1） 12. 内なる異文化（2） 13. マルチカルチュラリズムについて（1） 14. マルチカルチュラリズムについて（2） 15. まとめ

到達目標	自文化と異文化の境界線、異文化間コミュニケーションのメカニズムとそこに付随する各種の問題点について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	あなたにとっての「異文化」とはなにか、考えておく。
テキスト	岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社
参考文献	授業内で指定する
評価方法	授業への積極性（50%）、期末試験（50%）

13 年度以降	異文化間コミュニケーションⅡ	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間のコミュニケーションとは「他者理解」の作法と言い換えることができる。グローバル時代では不可欠なことだ。しかし、それは「言うは易く行うは難し」のフレーズ通りなのである。 本講義では、その事例としてアメリカの黒人問題をとり上げる。 価値観や行動様式、そして外見のちがう「他者」との出会いでは、相手を理解する努力と寛容さが必要だ。ただ、アメリカは黒人種との出会いにおいて大きな過ちを犯した。それは彼らを奴隷として処遇したことである。この大罪に、アメリカはいまだ苦しんでいる。黒人と白人との修復されない不仲は犯罪や貧困の温床となっている。 苦悩するアメリカの現状を紹介し､歴史をさかのぼって奴隷から「解放」､そして真の「解放」への闘争を紹介する。	1. ガイダンス 2. モザイク国家アメリカ 3. 最近の黒人暴動にみる共生の現実 4. 奴隷制とは 5. 奴隷解放？現実は？ 6. 自由と平等への戦いのはじまり 7. バスボイコット事件 8. 公民権運動の共生理念 9. 非暴力不服従　ガンジーとキング 10. 迷える北部の黒人たち 11. 急進派ブラック・パワーとは 12. ベトナム反戦と黒人運動 13. モハメッド・アリ 14. 最近の人種関係 15. まとめ

到達目標	自文化と異文化の境界線、異文化間コミュニケーションのメカニズムとそこに付随する各種の問題点について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする
テキスト	特になし
参考文献	『アメリカ黒人の歴史』岩波新書　　『キング牧師とマルコム X』上坂昇　講談社現代新書
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%

13 年度以降	多文化共生研究 I	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
ユダヤ人と英国社会との最初の出会いから現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指しつづけたユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究（多数派英国人側に視点を置いた英国史研究）の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。 春学期は下記二冊の「テキスト」にそって授業を行う。	1. 中世英国のユダヤ人社会 2. 諸侯・騎士・教会・都市とユダヤ人との関係 3. 中世英国ユダヤ人金融の潜在的機能とユダヤ人追放命令 4. 千年王国思想とユダヤ人再入国 5. 英国人地主貴族社会への同化 6. 19世紀末英国の移民排斥論のメカニズム 7. 英国ファシスト勢力との対決 8. 現代英国ユダヤ人社会 9. 8%の有色人種人口を抱える現代英国社会 10. 高等教育機関におけるユダヤ人排斥 11. 公民権闘争期の黒人・ユダヤ人関係史 12. 黒人の反ユダヤ主義 13. 海を越えた子供たち、キンダー・トランスポート 14. アメリカにおける反ユダヤ主義の特色 15. まとめ

到達目標	国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係でそれぞれの能力を発揮しながら共に生きていくという、多文化共生にむけた課題や問題点について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995 年 講談社選書　1600 円）
参考文献	特になし
評価方法	20 問 12 択の Quiz 形式の試験、教科書持ち込み可。出席はとらない。評価は定期試験のみによって決定。

13 年度以降	多文化共生研究Ⅱ	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカ資本主義のひのき舞台に遅れて登場した被差別マイノリティー出身のユダヤ系企業家。 彼らが米企業社会に受け容れられるための苦難のプロセス、そして彼らが世界経済におけるアメリカの圧倒的優位を実現する上で重要な切り札となった様々なビジネス技法・システムを構築してゆく過程を学ぶ。 秋学期は下記二冊の「テキスト」にそって授業を行う。	1. 経済の暗黒大陸」に固めた地歩―百貨店― 2. 東欧系ユダヤによるハリウッドの創造 3. 不動産開発こそ富の源泉 4. ユダヤ商人社会内部の信用格付 5. 三大テレビネットワークに残るユダヤ色 6. ユダヤ系投資銀行の興亡 7. 最強の金融機関、ゴールドマン・サックス 8. ウォール街の「企業乗っ取り屋」 9. ヘッジファンド業界の帝王 10. ユダヤ人企業家成功の秘訣 11. 米高等教育機関におけるクオータ・システム 12. 在米イスラム社会の反ユダヤ主義 13. 格差社会アメリカで増幅する黒人貧困層の敵意 14. 反ユダヤ色をよわめた白人ブルーカラー層 15. 宗教、人種の違いを乗り越えた対話の試み

到達目標	国籍や民族の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、対等な関係でそれぞれの能力を発揮しながら共に生きていくという、多文化共生にむけた課題や問題点について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておいて下さい。また授業で学んだ箇所を事後に復読して下さい。
テキスト	『アメリカのユダヤ人迫害史』佐藤唯行（2000 年　集英社新書　740 円） 仮題『アメリカのユダヤ大富豪』佐藤唯行（PHP 研究所電子書籍版 1120～560 円）
参考文献	特になし
評価方法	20 問 12 択の Quiz 形式の試験、教科書（スマホ、iPad）持ち込み可。出席はとらない。評価は定期試験のみによって決定

13 年度以降	大衆文化論	担当者	木本　玲一

講義目的、講義概要	授業計画
音楽、ゲーム等のコンテンツや、それらの背景にあるサブカルチャー（音楽文化、オタク文化など）、さらにはそれらを売買する市場について、具体的な事例をもとに講義を進めていく。コンテンツを介したグローバル化についても講義する。各産業の成り立ち、市場の形成、関連する技術の変容、制度の確立、文化の動態などについて考えながら、私たちが日常的に接している文化を多角的に見る視点を養う。	1　イントロダクション 2　20世紀のサブカルチャー1：ロックと対抗文化 3　20世紀のサブカルチャー2：ロックの成熟化 4　20世紀のサブカルチャー3：ヒップホップの時代 5　20世紀のサブカルチャー4：ヒップホップの現在 6　サブカルチャーとグローバル化1：日本のロック 7　サブカルチャーとグローバル化2：その後 8　産業と文化1：文化産業論 9　産業と文化2：市場の動態 10 不良の文化 11 オタク文化 12 ゲーム文化(1) 13 ゲーム文化(2) 14 予備 15 まとめ

到達目標	大衆文化のグローバル化／ローカル化、大衆文化と産業の関係性といった、大衆文化にまつわる各種の事象について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業内で指示する課題に取り組むこと
テキスト	授業内で随時指示する
参考文献	授業内で随時指示する
評価方法	テスト

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	ローカル・メディア論	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
Think Globally, Act locallyというフレーズを一度は耳にしたことがあるだろう。それに示されているように、多文化共生やグローバル化、さらには現代の環境問題や社会福祉のあり方を考えるうえで、「地域」もしくは「ローカル」は重要なキーワードのひとつである。それを頭に置いたうえで、本講義を受講してほしい。 本講義で扱う地域メディアは、ある特定のエリアにおける情報を伝える地域情報誌や、各地域・地方で発行されているミニコミ誌やフリーペーパー、コミュニティFMなどである。それらが、多文化が共生する社会においてどのような役割を果たしてきた／いる／いくのか、また将来的に、どういった機能がそのメディアに要求されているのかについて、受講者とともに考えてゆきたい。学期のさいごには、受講者自身が制作したローカル・メディアを提出・発表してもらう。	1. イントロダクション 2. グローバル化とローカル・コミュニティ 3. 地域・地方文化の復権とメディア 4. 各地の地域メディア（1） 5. 各地の地域メディア（2） 6. メディアによる地域文化の創造（1） 7. メディアによる地域文化の創造（2） 8. メディアによる地域文化の創造（3） 9. 災害と地域メディア（1） 10. 災害と地域メディア（2） 11. 多文化共生と地域メディア（1） 12. 多文化共生と地域メディア（2） 13. 受講者による発表（1） 14. 受講者による発表（2） 15. まとめ

到達目標	各種・各地域のローカル・メディアが多文化共生社会において果たす役割等について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	自分がよく読んだり視聴したりするローカル・メディアについて調べておく。
テキスト	岡村圭子『ローカル・メディアと都市文化』ミネルヴァ書房
参考文献	授業の中で指定する
評価方法	授業時間内での発表・質問など（50%）、期末試験（50%）

13 年度以降	比較文化論	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義ではグローバリゼーションとローカリゼーションという現象に注目しながら、異文化を「比較する」ということはどういうことなのかについて考えを深め、グローバリゼーションがもたらした「文化の融合」あるいは「文化変容」をめぐる諸問題について考える。受講者は本講義をとおして、文化を比較するときの視点がどこに置かれるか、また異文化比較によって生じる問題点や困難な点、比較によって明らかにされる自文化の姿など、あらためて意識してもらいたい。 講義の前半では、それぞれ異なった文化を比較することによって、なにが見えてくるのか、そして異なった文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわれているのかをテーマに講義をする。後半は翻訳（不）可能性をテーマに、具体的な事例について資料映像・記事などを用いてディスカッションする。	第１回：オリエンテーション 第２回：グローバル化するローカル文化（１） 第３回：グローバル化するローカル文化（２） 第４回：異文化を比較する（１）時間・空間 第５回：異文化を比較する（２）漫画 第６回：異文化を比較する（３）食文化 第７回：異文化を比較する（４）美意識 第８回：文化帝国主義と「英語」使用 第９回：オリエンタリズムとポストコロニアリズム 第１０回：異文化の翻訳不可能性について（１） 第１１回：異文化の翻訳不可能性について（２） 第１２回：文化的境界線のダイナミクス（１） 第１３回：文化的境界線のダイナミクス（２） 第１４回：文化変容と異文化の融合 第１５回：文化比較から見えてくるもの

到達目標	グローバル社会のなかのローカル文化が置かれた状況を理解しながら、異文化比較の方法や視点を養い、そこに存在する問題点について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	情報化社会と文化産業、文化のオリジナリティについて資料を収集しておく。
テキスト	岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社
参考文献	授業の中で指定する
評価方法	授業への積極性（50%）、期末試験（50%）

13 年度以降	英語圏の文化	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
年間、60 数万人もの移民を受け入れているアメリカ。白人々口の割合は減る一方で、今世紀の半ばには 5 割を切るという。 国家の黎明期、アメリカはイギリス文化を模したワスプ（WASP＜White Anglo-Saxon Protestant＞）社会を創造した。１９世紀末、工業化に伴い膨大な数の移民を受け入れたアメリカは多民族国家へと急速に変化していったが、ワスプ文化は依然として社会の根幹をなしていた。 冷戦下のベトナム戦争は既存の文化に対抗するカウンターカルチャーを生み、それまでのアメリカ的価値観に大きな揺らぎをもたらした。 近年、よく聞かれる多文化主義にいたるアメリカ文化の変遷を、社会の変化を捉えながらたどり、この国の文化の特徴を明らかにする。	1. ガイダンス 2. ワスプ主義とは 3. 新しい白人移民の流入 4. 多民族社会の問題 5. 異文化と差別 6. メルティングポット論 7. ビートニックス 8. 冷戦とベトナム戦争 9. カウンターカルチャーⅠ 10. カウンターカルチャーⅡ 11. ロックミュージックの誕生 12. 文化多元論 13. アファーマティブアクション 14. 多文化主義 15. まとめ

到達目標	英語圏の各種文化が形成されるに至った過程や要因、およびその特徴等について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を読み、講義理解の補助とする
テキスト	特になし
参考文献	『アメリカの反知性主義』みすず書房、2016 年
評価方法	定期試験 80%、課題提出など 20%

13 年度以降	英語圏事情	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化の理想は、世界の共生のはずである。しかし、テロの脅威が世界を不安に陥れている。力を武器に富の眠る第三世界を思うままに支配してきた欧米への反撃が収まらない。 授業では経済と軍事の頂点に君臨してきたアメリ カをとり上げて、その価値観と行動様式を見ていき、平和に資する多国間の共生のあり方を探っていこう。キーワードは「力の支配」である。 ① 銃社会アメリカで起こる惨劇はたびたび報道される。銃を所持しようとするアメリカ人の価値観とはいったいなん なのか、検証する。 ② アメリカと日本は第二次大戦以降、緊密な関係を築いてきたのだが、問題はないのか？日米は互いに敬い、果たして平等なのだろうか	1. ガイダンス 2. 銃社会アメリカ 3. なぜ、銃が必要か 4. 日本の中のアメリカ、米軍を考える 5. アメリカの占領 6. 日米による安全保障とは 7. 米兵事件の実相 8. 湾岸戦争 9. ９１１ 10. アフガン/イラク戦争 11. もう一つの９１１ 12. 映像 13. ソフト・パワー 14. アメリカンポップカルチャーの力 15. まとめ

到達目標	英語圏における実際問題を政治、経済、文化、社会といった様々な視点から捉えて分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを熟読し、授業理解の補助とする
テキスト	『米兵犯罪と日米密約』明石書店
参考文献	特になし
評価方法	定期試験 80%、課題提出など 20%

13 年度以降	国際関係論	担当者	大串　敦

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、ソ連時代から現代にいたるまでのロシアとロシア以外の旧ソ連諸国の内政を扱う。ソ連の政治体制が独特な体制であったことは言うまでもない。その成立から解体、新体制の成立と現状を比較政治学的に分析・理解する。比較政治学の主要理論（革命論、体制変動論、政治体制論、政党政治、議会政治、連邦制、官僚制など）と地域に関する事実関係を理解することができればおおむね講義の目的は達成される。	1. 目的と方法、スラヴ・ユーラシア地域の基礎条件 2. 革命の理論とロシア革命 3. 全体主義体制とスターリン体制 4. 民主主義と共産主義体制 5. ナショナリズム理論と帝国としてのソ連 6. 近代化論、社会経済発展と共産主義体制 7. 体制転換の理論とソ連解体1 8. 体制転換の理論とソ連解体2 9. 連邦制の理論とロシアの連邦制 10. 憲法体制の理論と旧ソ連諸国の憲法体制 11. 政治体制転換と経済体制転換 12. 政党政治の理論と旧ソ連諸国の政党政治 13. 新家産制国家論とロシア官僚制 14. 競争的権威主義体制論と旧ソ連諸国の政治体制 15. まとめ

到達目標	国際関係に関する基本的知識のうえに、国際社会の成り立ち、国際関係の歴史的展開、国際関係における政治と経済の関わりを正確に解釈し、個別の事象について分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献リストを配布しますので、できるだけ目を通してください。
テキスト	特になし。
参考文献	文献リストを配布します。
評価方法	期末試験による。

13 年度以降	ＮＧＯ論	担当者	清水　俊弘

講義目的、講義概要	授業計画
紛争解決や平和の実現、人権、環境、開発（貧困）問題など、国境を越える地球規模の公共的な課題に自発的、積極的に取り組む市民を主体とした活動が注目されている。 この講座では非政府組織、NGOの活動に着目し、具体例を元に、問題の捉え方、関わり方に関する多様な視点を養うことを目標とする。 この講座では、紛争問題では、イラク、アフガニスタン、パレスチナなどの現地における活動を題材にしながら、考える視点や安全対策など具体的な事例をもとに活動のあり方を考える。また、開発問題では復興から開発期に入ったカンボジアやラオスを事例に、開発のプロセスで起こる様々な人権侵害、自然破壊などについて考える。また、復興、開発期における政府開発援助（ＯＤＡ）の諸問題についても具体的な事例をもとに検証する。 また、こうした紛争地等で活動するＮＧＯが、力を合わせることで、世界を動かす力を発揮する事例として、対人地雷全面禁止条約の成立過程（オタワプロセス）やクラスター爆弾禁止条約の成立過程における市民社会の役割についても詳しく説明する。	1. NGO論オリエンテーション 2.～3. 「対テロ戦争」と市民社会I／アフガニスタンの現状とNGOの活動 4.～5. 「対テロ戦争」と市民社会II／イラクの現状とNGOの活動 6. パレスチナ問題とＮＧＯの取り組み 7. NGOの安全対策（講義と演習） 8. 東アジアの平和と市民交流 9. 「貧困対策」と持続的開発目標（SDGｓ）。ラオスにおける森林保全から考える。 10. アフリカにおけるHIV/AIDSの原状とNGOの取り組み 11. NGOの組織運営と人材、資金について 12.~13.非人道兵器の禁止と市民社会I対人地雷の廃絶ｷｬﾝﾍﾟｰﾝに学ぶＮＧＯのﾈｯﾄﾜｰｸ 14. 非人道兵器の禁止と市民社会IIクラスター爆弾禁止条約の成立過程に学ぶ市民社会の役割 15. 理解度の確認

到達目標	非政府組織（NGO）に関する基本的、体系的知識のうえに、国際社会における NGO の役割や意義、課題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に政府開発援助（ODA）や国連などの国際機関の概要について予習をしておくこと、そして事後には様々な NGO が主催するセミナーに参加したり、インターンとして関わることを薦める。
テキスト	特になし
参考文献	・日本国際ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ著『NGO の選択』めこん　2005 年・清水俊弘著　『クラスター爆弾なんてもういらない』合同出版 2008 年
評価方法	平常点、授業への参加度、課題提出などの実績（30%）及び期末考査（小論文またはリポート）の結果（70%）を評価対象とする。

13 年度以降	国際協力論	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
世界の各地では地域紛争が絶えない。また貧富の格差も一向になくならない。こうした諸問題を前に、我々はＰＫＯ(平和維持活動)やＯＤＡ(政府開発援助)を軸に平和構築や経済開発・貧困緩和に取り組んできた。この2つを有機的に結びつけること、すなわち紛争中やその前後の危険な状況下で効果的な開発援助を進めていくことも今日の重要課題のひとつである。 本講義ではこれらの国際協力の基本的枠組みや具体的事例、成果や限界について学び、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	1. 平和協力(1)：国連と平和維持活動(PKO) 2. (2)：国連PKOの原則と歴史的変遷 3. (3)：日本のPKO協力と論点 4. (4)：事例研究：アフリカ・モザンビーク 5. 開発協力(1)：政府開発援助(ODA)の理念と枠組み 6. (2)：開発援助の歴史的変遷 7. (3)：貧困と「人間の安全保障」 8. (4)：事例研究：中米・エルサルバドル 9. 選挙支援(1)：民主主義支援と選挙監視活動 10. (2)：選挙監視活動の原則と歴史的変遷 11. (3)：事例研究：欧州・ウクライナ 12. 新しい課題(1)：平和協力と開発協力の融合 13. (2)：武装解除と平和構築 14. (3)：国際協力の意義・問題点・課題 15. 授業のまとめ

到達目標	国際協力に関する基本的知識のうえに、国際協力に関連した事例、および国際協力の実態や新たな展開などについて分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。
テキスト	指定なし。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験で評価(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。

13 年度以降	南北問題	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
地球上にいる人間の約8割は発展途上国に暮らしている。そして世界人口の約13%に当たる約9億人は、国際貧困ライン（1日1.9ドル）以下の生活を強いられている。我々は今この問題に正面から向き合わなければならない。たとえば、経済開発は重要だがそれを環境に負荷を与えずに行えるのか。市場経済と自由競争の社会で脆弱な貧困層にいかなる社会政策(教育・保健・福祉)を進めていけばよいのか。先進国による開発援助はいかにあるべきか。今日の新興国の成長は、国際関係の構図をいかに変えつつあるのか。 本講義ではこうした現代世界における政治的・地理的課題について考え、それを通じて国際関係を見つめる視野を涵養することを目標とする。	1. 地球環境(1)：地球環境問題と南北対立 2. (2)：貧困と環境破壊 3. (3)：持続可能な開発の模索 4. (4)：地球温暖化問題と南北関係 5. 南の開発(1)：第三世界の独立と開発援助戦略 6. (2)：ナショナリズムと格差の拡大 7. (3)：貧困と「人間開発」 8. (4)：国連の新しい開発戦略 9. 資源問題(1)：世界の食糧問題 10. (2)：水問題と砂漠化問題 11. (3)：人口増加とエネルギー問題 12. 新しい争点(1)：自然災害と防災 13. (2)：核拡散と原子力利用 14. (3)：グローバル化と金融問題 15. 授業のまとめ

到達目標	南北関係に関する基本的、体系的知識のうえに、南北問題、および途上国の抱える諸問題やその解決策について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。
テキスト	指定なし。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験で評価(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。

13 年度以降	国際政治論 I	担当者	岡垣　知子

講義目的、講義概要	授業計画
国際政治学は、他の社会科学および自然科学の知見を取り入れながら、戦争の原因および平和の条件をその中心的課題として、発展してきた学問である。この講義は、複雑化する今日の国際政治事象を体系的に考え、一見アト・ランダムな寄せ集めに見える国際的事件の中に一定のパターンを見出し、分析する力を養うことを目的として、国際政治学の基礎概念や代表的理論を紹介する。	１．　国際政治学とは何か ２．　国際政治の先駆思想 ３．　国際政治の歴史 ４．　国際政治学の基礎概念（１）集合行為の論理 ５．　国際政治学の基礎概念（２）分析のレベル ６．　国際政治学の基礎概念（３）国家とは ７．　国際政治学の基礎概念（４）国際政治の構造と安定性 ８．　リアリズムの世界（１）古典的リアリズム ９．　リアリズムの世界（２）構造主義とネオリアリズム １０．リベラリズムの世界（１）相互依存論 １１．リベラリズムの世界（２）民主的平和論 １２．リベラリズムの世界（３）国際制度論 １３．コンストラクティヴィズム、その他の理論 １４．理論と政策 １５．まとめ

到達目標	国際政治学の基礎的理論、ウェストファリア以降現代に至るまでの国際社会の変遷や歴史的流れ、現代国際社会の課題と日本のかかわり方を体系的かつ正確に解釈し、個別の事象について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ポータルサイトに載せるアウトラインに沿って予習しておく。 授業で扱った内容についてのレポート提出が求められることがある。
テキスト	なし
参考文献	村田他『国際政治学をつかむ』有斐閣、藤原他『平和政策』有斐閣
評価方法	小テスト：10%；宿題：10%；レポート：30%；期末テスト：50%

13 年度以降	国際政治論 II	担当者	山下　光

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際政治を深く理解するためにポイントとなる知識や知的道具を提供する。前半では国際政治に主要な概念および重要なイシューについて紹介し、後半では国際政治の主要理論を導入する。なお、適宜時事問題についても取り上げる機会とする。	１．講義概要、インダクション ２．国際政治の概念と趨勢（１）：国家と主権 ３．国際政治の概念と趨勢（２）：民族と国民国家 ４．国際政治の概念と趨勢（３）：グローバリゼーション、グローバル・ガバナンス ５．国際政治の概念と趨勢（４）：人道主義と人権 ６．国際政治の概念と趨勢（５）：9.11 と国際テロ ７．国際政治の概念と趨勢（６）：安全保障と戦争 ８．国際政治の概念と趨勢（７）：紛争と紛争管理 ９．　講義の中間まとめ・討議 １０．国際政治を考える視点（１）：リベラリズム １１．国際政治を考える視点（２）：リアリズム １２．国際政治を考える視点（３）：ネオリベラリズム １３．国際政治を考える視点（４）：ネオリアリズム １４．国際政治を考える視点（５）：英国学派 １５．講義の総括・討議

到達目標	国際政治学の基礎的理論、ウェストファリア以降現代に至るまでの国際社会の変遷や歴史的流れ、現代国際社会の課題と日本のかかわり方を体系的かつ正確に解釈し、個別の事象について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたレジュメおよび参考文献の読解
テキスト	なし。配布レジュメに基づき進める。
参考文献	テーマに応じ適宜授業の中で紹介する。
評価方法	レポートによる。長さ、期限など詳細は授業中に指示する。なお、期限を過ぎての提出は認めないため、指示をしっかり確認して準備すること。

13 年度以降	国際経済論 I	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
国際経済を理解するのに最低限必要と思われる基本的な考えを講義します。その中心は貿易理論、国際貿易の一般均衡、貿易政策となります。講義で扱う内容は、よりすすんだ諸理論を学ぶのに必須の基礎的事項なので厳密な展開を心がけたいと思います。受講生には予習と復習を求めます。私語厳禁。	1. 国際貿易概観 2. リカード的比較優位説 3. リカード的比較優位説 4. ヘクシャー・オリーン定理 5. ヘクシャー・オリーン定理 6. 国際貿易の一般均衡 7. 国際貿易の一般均衡 8. 経済成長と貿易 9. 国際資本移動と移民 10. 国際資本移動と移民 11. 関税・輸入数量制限 12. 関税・輸入数量制限 13. 輸入補助金と輸出自主規制 14. 輸入補助金と輸出自主規制 15. 質問とまとめ

到達目標	貿易理論・政策、国際収支調整といった国際経済の仕組や、これらに関する諸問題について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学修に関しては、授業時に指示する。
テキスト	大山道広・伊藤元重『国際貿易』　岩波書店
参考文献	特になし
評価方法	試験のみ（100%）で評価

13 年度以降	国際経済論Ⅱ	担当者	益山　光央

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に扱った貿易理論とともに国際経済学の大きな柱である国際収支調整メカニズムに関連する事柄を学びます。国際収支の赤字、黒字からはじまり、だんだんと高度な内容へと移行します。すべて基本的な内容なので、きちんと理解する必要があります。 春学期の国際経済論 a を履修しているほうがより理解が深まります。私語厳禁。	1. 国際収支と国民所得勘定 2. 国際収支と国民所得勘定 3. 外国為替市場 4. 外国為替市場 5. 外国為替市場 6. 固定相場制下の所得決定 7. 固定相場制下の所得決定 8. 変動相場制下の所得決定 9. 変動相場制下の所得決定 10. 国際収支と財政・金融政策 11. 国際収支と財政・金融政策 12. 国際資本移動と財政・金融政策 13. 国際資本移動と財政・金融政策 14. 質問とまとめ 15. 質問とまとめ

到達目標	貿易理論・政策、国際収支調整といった国際経済の仕組や、これらに関する諸問題について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前・事後の学修に関しては、授業時に指示する。
テキスト	未定
参考文献	特になし
評価方法	試験のみ（100%）で評価

13 年度以降	日本政治外交史Ⅰ	担当者	福永　文夫

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀に入っても日本は混迷の淵にあり、出口を求めてさまよっている。それは他方で、戦後日本のあり方を改めて問うている。本講義では、第２次世界大戦後の日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方をたどる。 春学期は敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつくられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力－政府・諸政党などがどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法を頂点とする占領期に行われた改革が戦後日本にどのような影響を与えたかを考えてみる。 国際社会のなかで日本はどうあるべきかを念頭に、受講者には歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えてもらいたい。	１．はじめに―国際社会のなかの日本― ２．日米戦争と戦後日本（１）－米国の占領政策 ３．日米戦争と戦後日本（２）－ヤルタからポツダムへ ４．敗戦と占領（１）－日米の終戦への動き ５．敗戦と占領（２）－占領の構造 ６．敗戦と占領（３）－政党政治の再出発 ７．日本国憲法の誕生（１）－日本政府とマッカーサー ８．日本国憲法の誕生（２）－国際政治の中の新憲法 ９．戦後政党政治の始動 10．中道政権の成立－労働運動の高まりと２．１スト 11．中道政権の軌跡－1947年総選挙と片山内閣の成立 12．動揺する中道政権 13．占領政策の転換（１）－ドッジ・ライン 14．占領政策の転換（２）－経済復興 15．おわりに－憲法と安保

到達目標	歴史を「考える」意識をもって、歴史的事実とその因果関係を正確に解釈し、個別の事象について見解を示すことができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。その上で講義ノートと照らし合わせて要点をまとめること。
テキスト	福永文夫『日本占領史 1945～1952』中公新書。
参考文献	参考文献については、適宜講義中に指示する。
評価方法	講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。

13 年度以降	日本政治外交史Ⅱ	担当者	福永　文夫

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀に入っても日本は混迷の淵にあり、出口を求めてさまよっている。それは他方で、戦後日本のあり方を改めて問うている。未来図は、過去の経験と現在の選択においてしか描かれることはない。 秋学期は、どのようにして戦後日本がつくられたかを、サンフランシスコ講和条約・日米安全保障条約の形成過程を追い、講和・独立から「５５年体制」の成立を経て、1960 年代に至る日本の政治外交のあり方をたどり、日本の諸政治勢力－とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。 国際社会のなかで日本はどうあるべきかを念頭に、受講者には歴史を学ぶだけでなく、歴史を考えてもらいたい。	１．はじめに－国際社会のなかの日本－ ２．講和への胎動 ３．朝鮮戦争と講和 ４．講和をめぐる国内政治－全面講和と多数講和 ５．講和をめぐる国際関係－連合国の対応 ６．サンフランシスコ講和会議 ７．戦後日本の再生（１）－講和後の政党政治 ８．戦後日本の再生（２）－「55年体制」の形成 ９．戦後日本の再生（３）－「55年体制」の展開 10．「55年体制」の展開－鳩山・岸内閣 11．60年安保騒動と政党政治 12．高度成長期の政治と外交－池田政権 13．高度成長期の政治と外交－佐藤政権 14．混迷の70年代 15．おわりに

到達目標	歴史を「考える」意識をもって、歴史的事実とその因果関係を正確に解釈し、個別の事象について見解を示すことができるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読しておくこと。その上で講義ノートと照らし合わせて要点をまとめること。
テキスト	福永文夫『日本占領史 1945～1952』中公新書。そのほか、講義中にプリントを配布する。
参考文献	参考文献については、適宜講義中に指示する。
評価方法	講義中に行う平常試験（50 点）と年度末の定期試験（50 点）によって判定する。詳細は講義中に指示する。

13 年度以降	国際機構と法 I	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 本講義の目的は、国際社会が抱える地球規模の問題（たとえば、安全保障、テロ、世界規模の感染症等）とそれへの国際社会（特に国際組織）の取り組みについて理解することです。 〔講義概要〕 国際社会には世界政府は存在しません。しかし、多様な国際組織が、国家とともに、国際社会の共通利益の実現のために重要な役割を担っています。本講義では、これら国際組織の様々な活動分野をとりあげて、国際組織が各分野で果たしている機能を具体的に説明します。 本講義の履修にあたっては、国際法の知識は必ずしも必要ではありませんが、講義の中では主に国際法の視点から分析を行うため、一連の講義に先立ち、国際社会と国際法についての簡単なレクチャーを行います(なお国際教養学部や経済学部の学生が履修する場合は2年生以上で受講することをお勧めします)。	1. はじめに 2. 国際組織と国際法 3. 紛争の平和的解決に関わる国際組織（１） 4. 紛争の平和的解決に関わる国際組織（２） 5. 安全保障に関わる国際組織（１） 6. 安全保障に関わる国際組織（２） 7. 軍備管理・軍縮・不拡散に関わる国際組織 8. 人権問題にかかわる国際組織 9. 人道・難民問題に関わる国際組織 10. 国際貿易・国際金融に関わる国際組織 11. 開発援助と南北問題に関わる国際組織 12. 教育・文化に関わる国際組織 13. 国際保健に関わる国際組織 14. 海洋に関わる国際組織 15. まとめ

到達目標	国際機構、および国際組織法の基本的な考え方、および、国際組織法に関する重要な判例、学説を正確に理解し、個別の事象について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	①事前学習：あらかじめ配布された資料の該当箇所を熟読。②講義中：教員から提示される今日のポイントを授業レポートとして提出。③事後学習：教員の添削・コメントを読んで復習。
テキスト	レジュメを配布します。
参考文献	特になし
評価方法	学期末に実施する試験により評価し(100%)、平常点を加点材料とします(ただし上限 10%)。

13 年度以降	国際機構と法 II	担当者	鈴木　淳一

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 本講義は、国際連合を中心とする国際組織を規律している法に関する講義を提供することを目的とします。 〔講義概要〕 今日、国際連合をはじめとした多くの国際組織が活動し、多くの人々がいわゆる「国際公務員」として活躍しています。しかし、これらの活動は、国際組織の設立条約や地位協定、職員規則などのルールに従っています。本講義は、国際組織や国際公務員の活動を規律しているルールについて、主に国際連合を例として分析を行います。 本講義は、国際法や国際組織法 1 を履修していなくても履修できます(主に国際法の視点から国際組織の分析を行うため、全学共通授業科目の国際法や法学部の国際法も同時に受講することを奨励します)。また、この講義では、教室で行う通常の授業を補うため、授業レポート・システム等を活用して、教員とのコミュニケーションを図ります。	1. はじめに 2. 国際組織の概念と歴史 3. 国際法の基礎知識 4. 国際組織の設立と解散 5. 国際組織の国際法上の地位 6. 国際組織の国内法上の地位 7. 国際組織と加盟国 8. 国際組織間の連携・協力 9. 国際組織とNGO（民間団体） 10. 国際公務員 11. 国際組織の意思決定 12. 国際組織と財政・分担金・運営上の諸問題 13. 国際組織に関する事例研究(1) 14. 国際組織に関する事例研究(2) 15. まとめ

到達目標	国際機構、および国際組織法の基本的な考え方、および、国際組織法に関する重要な判例、学説を正確に理解し、個別の事象について見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	①事前学習：あらかじめ指定されたテキストの箇所を熟読。②講義中：教員から提示される今日のポイントを授業レポートとして提出。③事後学習：教員の添削・コメントを読んで復習。
テキスト	浦部・望月編『国際機構論[総合編]』（国際書院、2015 年）
参考文献	特になし
評価方法	学期末に実施する試験により評価し(100%)、平常点を加点材料とします(ただし上限 10%)。

13 年度以降	地域研究論	担当者	浦部　浩之

講義目的、講義概要	授業計画
学問の世界には、特定の事象を分析するうえで有用な、地理学、歴史学、政治学、経済学、文化人類学といった個別のディシプリン(専門分野と方法論)がある。しかし、ある特定の地域の本質を理解しようとする場合、これらの個別的な研究手法に依拠するだけでは必ずしも十分でない。自然環境、歴史、宗教、思想、政治、経済、言語、芸術、文化など、広範な学問領域を横断して、総合的に対象に迫ることがきわめて重要になってくる。 本講義では、事例としてはラテンアメリカを取り上げ、地域を総合的に理解することの意味を考えたい。「地域研究」であるから、この地域への理解を深めることは本講義の目的の一つである。ただ、それを超えて狙いとしているのは、受講生の履修言語や関心地域に関わらず、「地域」への総合的なアプローチを体感し、地域理解のために必要な基本的な視座と応用力を身につけてもらうことである。	1. 地域研究とは何か（個別の学問と学際研究） 2. （地域研究の誕生） 3. 自然環境と生活（アマゾン地域の自然・生業・食） 4. （アンデス地域の自然・生業・食） 5. 歴史と社会（植民地社会の形成） 6. （ラテンアメリカ諸国の独立と近代化） 7. 人と文化（ラテンアメリカの人種と民族） 8. （ラテンアメリカの宗教・家族・価値規範） 9. 近代化と政治（ナショナリズムとポピュリズム政権） 10. （軍事政権と国家発展の追求） 11. 現代社会の形成（民主化運動と人権） 12. （市場経済化と地域統合） 13. 現代社会の諸問題（貧困・格差と教育問題） 14. （組織犯罪と麻薬問題） 15. 地域を総合的に捉えることの意義を考える

到達目標	各地域独自の社会文化が成立した過程や要因、および各地域の特徴等について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業効果を高めるための課題(基本事項の事前確認や文献の講読)について毎回指示する。
テキスト	指定なし。
参考文献	参考文献は授業で随時紹介する。
評価方法	期末試験で評価(これに授業への参加状況を加味する場合がある)。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（在外日本人研究）	担当者	山本　英政

講義目的、講義概要	授業計画
異郷で生きた日本人の足跡をたどり、「日本人ってなんなのか」を考えてみたい。 明治のころ、一攫千金を夢みて太平洋を越えた日本人たちはハワイへ、アメリカ本土へ、あるいは南米へと渡っていった。そうした人びとの子孫はいまや270万人にのぼる。 授業では、①一時滞在のつもりで日本を離れた彼らが帰国せず、②そのうち家族をもち異国で骨を埋める覚悟をもつようになる。しかし、③白人からの激しい差別を受け、日本人たちは、④それに忍従で対応して、⑤今日の確固とした地位を確立する、過程をみていく。 ただ、このようにダイジェストすると美点だけが強調されるが、授業では日本人の狡猾で日和見的な姿もとり上げる。 この授業はグローバルの「特殊研究」といって、講義の一部は参考文献を用いて講義の理解を深めることとする。	1. ガイダンス 2. 夢のハワイへ 3. ポリネシアハワイの生活 4. アメリカ西海岸への移動 5. 敵意のはじまり 6. 差別のメカニズム― 7. 日本人の完全排除 8. 日米戦争と強制収容 9. 収容キャンプの生活 10. アメリカへの忠誠と従軍 11. 二世部隊 12. 帰米二世 13. 中南米へ渡った日本人 14. 戦後の人権獲得と汚名返上 15. まとめ

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定された参考文献などを読み、講義理解の補助とする
テキスト	『ハワイの日本人移民』明石書店
参考文献	特になし
評価方法	定期試験 80%、課題提出 20%

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（滞日外国人研究）	担当者	Ｅ．ウラノ

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、日本における外国人市民の現状を紹介し、解説する。国際人口移動はグローバル化により発展し、世界の様々な国から外国人が日本にも移住し、生活している。「ヒト」の移動は、「モノ」、「カネ」の移動とは異なり、文化、労働、教育など、多次元的に社会に影響と変化をもたらす。今後、日本の「内なる国際化」を理解するためには、外国人市民とのコミュニケーションを通じて相互理解を高めることが欠かせないと思われる。 この講義は、「滞日外国人研究」をテーマに、これから日本社会が外国人市民、各地に存在するエスニックコミュニティーとどう向き合っていくのかを議論し、受講生がこのテーマを主体的に考える力を身につけることを目指す。	1. ガイダンス・人はなぜ移動するのか（I） 2. 人はなぜ移動するのか(II) 3. 日本における外国人の概況（I） 4. 日本における外国人の概況（II） 5. オールドカマー　：在日韓国朝鮮人 6. ニューカマー　　：在日ラテンアメリカ人(I) 7. ニューカマー　　：在日ラテンアメリカ人(II) 8. ニューカマー　　：在日フィリピン人 9. 映画 10. 労働：外国人労働者と不安定雇用 11. 労働：外国人労働者と不安定雇用 12. 労働：技能実習生の問題 13. 日本における移民政策の必要性 14. 「多文化共生」の可能性 15. 総括

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	講義テーマに関連する新聞記事やニュース、授業時に紹介する文献を予習すること。
テキスト	テキストは特になし。必要に応じて文献を紹介する。
参考文献	参考文献は授業時に紹介する。
評価方法	平常授業における課題レポート（４０%）、期末試験（６０%）により評価。

13 年度以降	グローバル社会特殊研究(東南アジアの経済と地域統合 a)	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、各国の経済発展の軌跡および経済の特徴について学習します。 講義には二つの軸があります。一つは、東南アジア諸国の多様性に焦点をあてることです。東南アジアという地域概念が定着してから半世紀しか経っていません。 もう一つは、共通の分析項目を設定することにより、各国経済を横並びで捉えることです。経済発展の初期条件、経済発展戦略、マクロ経済動向、産業構造の特徴、外国直接投資、日本との経済関係などについて解説します。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論ｂも履修してください。第1回の講義に必ず出席してください。	1. 講義の目的、成績評価 2. 東南アジア経済発展の軌跡(1) 3. 東南アジア経済発展の軌跡(2) 4. タイ(1)：経済発展の軌跡と特徴 5. タイ(2)：産業集積と輸出主導型経済 6. シンガポール(1)：経済発展の軌跡と人材戦略 7. シンガポール(2)：産業高度化戦略 8. シンガポール(3)：多国籍企業のグローバル拠点 9. マレーシア：脱工業化の模索 10. 人材育成戦略についての全員ディスカッション 11. インドネシア：世界最大のイスラム国家の挑戦 12. ベトナム：ドイモイ（刷新）政策の意義と限界 13. カンボジア：経済復興から経済成長への道筋 14. ミャンマー：経済再建の胎動 15. 講義のまとめ

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業に関連する文献や統計類に目を通す。
テキスト	教員が作成した資料を配布する。
参考文献	石川幸一他編著（2015）『現代 ASEAN 経済論』文眞堂
評価方法	学期末試験（100%）。ペーパー提出とスピーチによる加点あり。詳細は第 1 回の講義で説明。

13 年度以降	グローバル社会特殊研究(東南アジアの経済と地域統合 b)	担当者	高安　健一

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、東南アジアで事業を展開している日本企業の視点に立って、地域経済共同体としての東南アジア諸国連合（ASEAN）について学習します。 講義の柱は3つあります。第1は、1967年に発足したASEANがいかなる経緯で地域経済共同体として発展し、多国籍企業をひきつけてきたかを理解することです。第2は、ASEANにおける経済発展の担い手である華橋・華人資本、日本の自動車メーカー、邦銀の活動について学ぶことです。第3は、わが国がASEANのさらなる経済発展のために担うべき役割を考えることです。 受講生が講義内容を、大学での研究や就職活動のみならず、卒業後も活用することを期待します。東南アジア経済論aも履修してください。第 1 回の講義に必ず出席してください。	1. 講義の目的、成績評価等 2. 第2次世界大戦後の経済発展の軌跡 3. ASEAN市場に挑む日本企業（NHKスペシャル） 4. 地域経済共同体としてのASEAN(1)：形成過程 5. 地域経済共同体としてのASEAN(2)：共同体の実現 6. 地域経済共同体としてのASEAN(3)：将来構想 7. 大メコン圏開発とインフラ整備 8. ASEANの対域外自由貿易協定（FTA）戦略 9. わが国自動車メーカーの東南アジアでの事業展開 10. 邦銀の東南アジアでの事業展開 11. 経済発展の担い手としての華僑・華人資本 12. わが国と東南アジアの経済関係(1)：ASEANの視点 13. わが国と東南アジアの経済関係(2)：日本の視点 14. 東南アジアに関する学生スピーチ 15. 講義のまとめ

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業に関連する文献や統計類に目を通す。
テキスト	教員が作成した資料を配布する。
参考文献	石川幸一他編著（2015）『現代 ASEAN 経済論』文眞堂
評価方法	学期末試験（100%）。ペーパー提出とスピーチによる加点あり。詳細は第 1 回の講義で説明。

13 年度以降	グローバル社会特殊研究（東南アジアの開発と社会）	担当者	江藤　双恵

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 東南アジアの開発／発展がもたらした社会の変化について、また文化的な影響について、グローバルな視点とローカルな視点の両面から批判的に検討する。東南アジアの人々について、よその地域の他人ごとの話ではなく、さまざまな形で自分とつながる人々であることを理解し、この講義で学びを自分自身の今後の生き方を考える機会とする。 講義概要 東南アジア社会が直面する課題について、さまざまな視角から学習し、望ましい発展とは何か、また、今日のグローバルな発展／開発に対して、自分自身のとるべきスタンスを考える。また、主としてタイを事例に、1、開発／発展に関わる政府の政策、NGOsなどによるオルタナティブなアプローチについて紹介し、2、開発／発展によって生じた問題を解決するためのさまざまな福祉的アプローチについて検討する。	第１回：地域研究的な思考方法について 第２回：東南アジアの地域的特徴 第３回：東南アジア地域研究の課題 第４回：東南アジア社会の多様性 第５回：東南アジアにおける都市–農村間の格差 第６回：東南アジアと私たちの関わり 第７回：東南アジアにおける開発政策の展開 第８回：オルタナティブな開発／発展観／思想 第９回：タイにおける開発／発展と宗教 第10回：タイにおける開発／発展と環境 第11回：タイにおける開発／発展と労働力 第12回：タイにおける開発／発展と家族・子ども 第13回：タイにおける開発／発展と女性 第14回：タイにおける社会保障／福祉 第15回：まとめ／試験

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	参考文献を読んでおく。講義中に示された資料をヒントに、さらに関連事項を調べる。
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	地域研究』（JCAS Review）Vol.7 No.1 （2005 年 6 月発行）　『老いてゆくアジア』（中公新書）大泉啓一郎著
評価方法	定期試験が 60 パーセント、授業中に提出された課題を 40 パーセントとして総合的に判断する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	グローバル社会特殊研究(地球環境と法 a)	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 主に総論にあたる部分として、国際環境問題の性質・歴史、紛争の類型、国家や個人等の紛争当事者の地位、問題解決の基本的手法、国際環境法における諸原則や国際環境保全規範の構造などを検討する。 【注意事項】 本講義は、元来、法学部専門科目として３年生以上に開講される科目である。国際教養学部では、「グローバル・ガバナンスa」として２年生以上に開講されるが、２年生が受講を希望する場合は、履修が容易ではないので、開講時に教員に相談すること。	1 講義の概要 2 環境問題と国際社会 3 国際環境問題の法的紛争類型 4 越境汚染と領域管理責任 5 無過失責任条約 6 国際公域の環境保全 7 国際環境法の諸原則 8 環境責任論の進展 9 国際環境保全規範と事前防止 10 事前防止の手続的規則―通報・協議 11 事前防止の手続的規則―環境影響評価 12 司法手続き・履行確保 13 非国家主体・非拘束文書の役割 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストや参考文献等の指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。
テキスト	開講時に指示する。
参考文献	松井芳郎『国際環境法の基本原則』東信堂 2010 年、『国際条約集』有斐閣 2018 年。
評価方法	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。

13 年度以降	グローバル社会特殊研究(地球環境と法 b)	担当者	一之瀬　高博

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 国際環境問題および地球環境問題に対処するための国際的な法のしくみを概観する。 〔講義概要〕 環境条約の内容、国家実行、国際会議や国際機関の対応、具体的紛争等を素材に、個々の環境問題の類型ごとに国際環境法の構造を分析する。 【注意事項】 本講義は、元来、法学部専門科目として３年生以上に開講される科目である。国際教養学部では、「グローバル・ガバナンスa」として２年生以上に開講されるが、２年生が受講を希望する場合は、履修が容易ではないので、開講時に教員に相談すること。	1 講義の概要 2 長距離越境大気汚染、酸性雨 3 地球大気圏･気候変動問題―オゾン層 4 地球大気圏･気候変動問題―気候変動枠組条約 5 地球大気圏･気候変動問題―パリ協定 6 海洋環境の保全―総論 7 海洋環境の保全―船舶起因 8 海洋環境の保全―海洋投棄 9 南極の環境保護 10 廃棄物の越境移動 11 有害物質、放射能と環境 12 自然環境の保全 13 生物多様性の保全 14 講義のまとめ 15 講義のまとめ

到達目標	「グローバル社会研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたってグローバル社会を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストや参考文献等の指定された箇所を事前に精読しておくこと。 講義中の指示に従い、復習や課題作業を行うこと。
テキスト	開講時に指示する。
参考文献	西井・臼杵編『国際環境法』有信堂 2011 年、『国際条約集』有斐閣 2018 年。
評価方法	期末試験の成績（70%）により評価し、平常授業での課題レポート・小テストなどの成果（30%）も評価対象にする。

13 年度以降	教育学概論 I (教職論)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【授業の到達目標及びテーマ】 教職の意義、教員の資質能力、職務内容などの教職に関する概括的知識を習得し、教職への意欲向上と心構えの在り方を理解する。 【講義概要】 本講義では、グループ討議や研究協議などを通して教職の意義、教員の身分と服務、職務の内容、職責や職務遂行に必要とされる資質などについて主体的な理解を深めていく。教員が直面している現代的諸課題の対応についても取り組む。	第1回 : 教員の職種・職名とチーム学校 第2回 : 期待される教師像と目指す教師像 第3回 : 児童・生徒の成長と教員の役割 第4回 : 教員の資質と能力 第5回 : 教員養成と教員免許 第6回 : 教員の任用と教育委員会 第7回 : 教員の身分と服務 第8回 : 教員の職務(1)学校と教員の一日 第9回 : 教員の職務(2)学校運営と校務分掌 第１0回 : 教員の職務(3)学習指導と生徒指導 第１1回 : 教員の研修(1)法定研修と教員のキャリア 第１2回 : 教員の研修(2)自主的研修の活用 第１3回 : 進路選択の問題を考える(1)教職の特質 第１4回 : 進路選択の問題を考える(2)教育ボランティアの体験 第１5回 : まとめ

到達目標	教職の意義、職務の内容など、教職に関する概括的知識を習得し、教職に就く際の心構えをもち、これを示すことができるようにする。
事前・事後学修の内容	（事前学修）は提示された資料、テキストを読む （事後学修）は授業レポートなど
テキスト	講義毎に配布する資料
参考文献	文部科学省著『中学校学習指導要領解説総則編』（平成２０年９月）
評価方法	課題レポート（３０%)、グループ討議（２０%)、定期試験（５０%）により総合的に評価

13 年度以降	教育学概論 I (教職論)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は秋学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	教育学概論Ⅱ(教育の原理)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義概要】 学校現場の問題、子どもの権利条約と教育基本法、戦後教育改革の歴史、発達と教育の各テーマから近代教育の理念と本質に迫る。	第1回：学校現場と指導のあり方（1）「荒れ」を考える 第2回：学校現場と指導のあり方（2）発達障害を考える 第3回：学校現場と指導のあり方（3）体罰を考える・近代教育の本質論 第4回：子どもの権利条約の概略（1）ルソー以来の教育思想と子ども論 第5回：子どもの権利条約の概略（2）学習権を考える 第6回：子どもの権利条約の概略（3）教育の目的を考える 第7回：教育基本法の概略（1）法改正のポイント 第8回：教育基本法の概略（2）教育の内的事項と外的事項 第9回：教育基本法の概略（3）能力と発達について・学校の役割 第１0回：戦後教育の改革の歴史（1）戦後直後の改革から高度経済成長期の改革まで 第１1回：戦後教育の改革の歴史（2）70年・80年代の教育改革 第１2回：戦後教育の改革の歴史（3）90年代以降の教育改革 第１3回：発達と教育を考える（1）発達の最近接領域について 第１4回：発達と教育を考える（2）精神間機能から精神内機能へ 第１5回：まとめ

到達目標	教育の歴史や目的、内容、方法、制度について理解し、自身の学校観や現在までの教育改革について理論的に分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	（事前学修）提示された資料を事前に読んでくること （事後学修）講義を振り返り授業レポートを作成すること
テキスト	『ポケット版子どもの権利ノート』（子どもの権利・教育・文化 全国センター）
参考文献	授業中に適宜指示、紹介する。
評価方法	授業中に適宜課す小レポート（４０%）、最終レポート（６０%）

13 年度以降	心理学概論 I (こころの世界)	担当者	利根川　明子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義を通して，心理学がいかにして人の心を科学的にとらえようとしてきたかを理解してもらいたい。また，心理学の基本的知識を習得し，同時に，社会の諸問題や人間の行動を心理学的視点で捉える力を身につけてほしい。 本講義では，現代心理学の成立過程について概観した上で，知覚，記憶，学習，動機づけなど現代心理学の主要テーマについて，実証研究に基づいたデータを示しながら説明していく。	第１回：はじめに：科学としての心理学 第２回：心理学のあゆみ①：知覚 第３回：心理学のあゆみ②：記憶 第４回：心理学のあゆみ③：学習 第５回：心理学のあゆみ④：動機づけ 第６回：心理学のあゆみ⑤：思考 第７回：心理学のあゆみ⑥：パーソナリティ 第８回：心理学のあゆみ⑦：発達 第９回：心理学のあゆみ⑧：感情 第１０回：心理学のあゆみ⑨：対人関係 第１１回：現代社会と心の病①：ストレスとパーソナリティ 第１２回：現代社会と心の病②：ストレスとコーピング 第１３回：教育と心理学①：知能と学力 第１４回：教育と心理学②：授業と実践 第１５回：まとめ

到達目標	心理学に関する概論的知識のうえに、社会の諸問題や人間の行動を「人の心」という観点から科学的に検証し、あるいはその検証成果を様々な場面において応用できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学習では授業計画に示した各回のテーマについて参考文献をもとに予習する。 事後学習では講義内容について配布資料や文献をもとに自分なりの言葉で説明できるようにする。
テキスト	指定しない。
参考文献	授業にて適宜提示する。
評価方法	授業内課題(20%)と試験(80%)により総合的に評価する。

13 年度以降	心理学概論Ⅱ(心理検査法と自己理解)	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
受講者にさまざまな心理検査やグループ・ワークなどを実践してもらう。これらの学習を通して，心理学の基本的知見を習得してほしい。また，心理検査の結果を分析して自己理解を深めてもらうことも本講義の目的である。心理検査やグループワークを実践した後には、結果をレポートにまとめてもらう。 **※履修者には授業で使用する心理検査用紙の実費（2000円）を負担してもらう。履修が決定したら自動発行機で申請書を購入すること。授業時に申請書と引き換えに検査用紙を配布する。初回の授業にて履修制限や検査用紙代納入方法について説明するので欠席しないこと。**	１．　心理検査とは？ ２．　心理検査の種類と理論 ３．　Ｙ－Ｇ性格検査（理論的背景と検査の実施） ４．　Ｙ－Ｇ性格検査（検査結果の分析・解釈） ５．　ストレス・コーピング ６．　職業への興味 ７．　知能検査 ８．　EQS ９．　性格５因子 10.　TEG 11.　グループ・ワークによる自己理解（非言語的理解） 12.　グループ・ワークによる自己理解（言語的理解） 13.　グループ・ワークによる自己理解（他者と自己） 14.　テスト・バッテリーに基づく自己理解 15.　まとめ

到達目標	心理学に関する概論的知識のうえに、社会の諸問題や人間の行動を「人の心」という観点から科学的に検証し、あるいはその検証成果を様々な場面において応用できるようにする。
事前・事後学修の内容	各回で扱う心理検査について、その背景理論などを事前に学習する。事後にあっては、心理検査の結果を踏まえて授業で指示した課題をおこないレポートにより提出する。
テキスト	各種の心理検査用紙は一括で購入する。検査用紙購入にかかる費用を履修登録時に負担してもらう。
参考文献	各回で参考文献は異なるので、各回の授業にて紹介する
評価方法	実施した心理検査の結果をレポートにまとめて提出してもらう(50%)。また、最終レポートを課す(50%)。これらのレポート内容を総合し、最終の評価を決定する。

13 年度以降	スポーツ・レクリエーション概論	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
平和で、豊かな生活が可能な日本では、生涯生活時間の2 割から3 割の自由時間を享受することができます。労働時間は、1 割です。あなたは1 割の時間の価値観にとらわれすぎていませんか。自由時間を「レジャー」（生きがい）とするために、自由時間についてもっとよく考えて見ましょう。そうすれば、あなたは一人十色の魅力的な個性豊かな生き方に気づくはずです。あなたが、遊びの範疇でおこなってきたことが、大きな価値を持ち始めるでしょう。何も持っていない人は、この授業をきっかけに始められるでしょう。 この授業では、あなたの自由時間を学問的に意義付けし、その価値に目覚めていただくことを目的にします。また、旅行業など余暇関連産業の仕事をめざす学生には必須の知識となるでしょう。 秋学期には、実践編として全学総合講座で「自由時間の達人」たちにその方々の実践、考え方をお話していただきますので、ぜひこの授業と「自由時間の達人」を継続して履修してほしいと思います。	1 オリエンテーション 2 自由時間とは 3 生活時間の構成 4 自由時間の推移と現状 5 自由時間「三つの意味」その１ 6 自由時間「三つの意味」その２ 7 少子化とライフスタイル 8 古典的解釈から知るレジャー 9 「スコレー」とは 10 余暇享受能力を開発していますか 11 ビデオ「森と老人」に見る余暇享受能力 12 クオリティオブライフ 13 環境と健康 14 幸福感 15 まとめ 授業で通信端末を大教室における双方向授業としてライブアンケート等に必要に応じて利用しますので、大講義室での授業をより活性化するためにぜひご協力をお願いします。

到達目標	スポーツ・レクリエーションに関する概論的知識のうえに、余暇を有効に活用し、健康・体力の保持・増進、他者との交流を図ることができるようにする。
事前・事後学修の内容	身近な社会人の労働と余暇について時間配分、余暇享受能力という観点で観察しておくこと。学習後は授業内で考えたことを実践するための自らの自由時間設計を行う。
テキスト	講義支援システムまたは Porta に授業資料をアップロードしますので、授業前に印刷してお持ちください。
参考文献	ミヒャエル・エンデ， モモ， 岩波書店.
評価方法	授業への取り組み姿勢・授業内レポート（50%）、学期末試験（50%）により評価します。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	スポーツ科学概論	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 　スポーツ科学分野は近年目覚ましい発展を遂げている。「スポーツ」を「科学」することによってトップアスリートの身体機能やパフォーマンスの秘密が明らかになり、効率的なトレーニング方法が開発されている。また健康の維持増進にも寄与する実験科学的データや、社会科学的分野でも日々新たな知見が得られており、私たちの生活にもスポーツ科学は貢献している。スポーツを科学することによって個々の受講生がスポーツに対する理解を深めることを目標とする。 【講義概要】 　スポーツ生理学を中心に競技スポーツ、健康維持増進にかかわる内容を概説する。映像等も視聴する。 　2020年に開催される東京でオリンピック・パラリンピックを今までとは違った視点から見てみよう。	1. ガイダンス 2. スポーツの起源と歴史 3. 世界のスポーツ 4. 筋の科学－基礎 5. 筋の科学－発展 6. 持久力の科学－基礎 7. 持久力の科学－発展 8. メンタルトレーニング 9. スポーツテクノロジー 10. コンディショニング 11. 競技スポーツの科学－陸上 12. 競技スポーツの科学－野球 13. 競技スポーツの科学－サッカー 14. オリンピック・パラリンピック 15. 東京オリンピック・パラリンピック

到達目標	身体機能の発達や運動パフォーマンスの向上といったスポーツ科学について基本的な知識を習得し、これについて分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	新聞やメディアなどで取り上げられるスポーツ科学の情報を収集し、講義で得た知識をもとに新たに分析すること
テキスト	特に指定しない
参考文献	『イラスト運動生理学』『スポーツ科学事典』『コーチング学への招待』
評価方法	授業内レポート（40%）と定期試験（60%）により評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	教育の歴史Ⅰ	担当者	萩原　真美

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要 本講義では、日本の教科書の歴史から、日本がどのような教育の歴史を歩んできたかをみていく。毎回の授業の前半は、江戸時代以降現代に至る教科書の歴史に関する講義を行い、後半は、履修者が調べた当該時期に作成された教科書について報告し、それに関するグループ討議を行いながら理解を深めていく。教科書自体の検討に時間を割きたいため、当該時期の教育の歴史については、事前にテキストの当該箇所を読んで予習しておくこと。教育の歴史Ⅱと合わせて通年で履修することが望ましい。 **講義目的** 教科書がどのように位置づけられたのか、教科書の内容自体にはどのように教育政策の意図が反映されたのか等に着目しながら、教科書を通じて日本の教育の歴史を理解する。	第１回：オリエンテーション（日本の教科書変遷の概観） 第２回：江戸時代の教科書／教科書の内容分析の方法 第３回：近代学校の発足と翻訳教科書（1870年代～） 第４回：検定教科書と国家統制（1880年代～） 第５回：国定教科書の成立（1900年代～） 第６回：教科書の全国的普及（1910年代～） 第７回：大正新教育期の教科書（1910年代後半～1920年代） 第８回：戦時下体制の教科書（1930年代～） 第９回：国民学校の成立と教科書（1940年代前半） 第10回：戦後教育改革と新教科書の作成（1940年代後半） 第11回：米軍占領下沖縄の教科書（1940年代後半） 第12回：教科書検定の強化（1950年代～1960年代） 第13回：現代の教科書とその特徴１（1970～1990年代） 第14回：現代の教科書とその特徴２（2000年代～） 第15回：まとめ

到達目標	日本における教育の歴史概略を理解したうえで、教育史の事象を探究する手段と方法を獲得し、分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	（事前学修）テキストの指定箇所を読む。課題がある場合はそれをやって授業に臨む。 （事後学習）講義を振り返り、授業レポートを作成する。
テキスト	古沢常雄・米田俊彦編『教師教育テキストシリーズ３　教育史』学文社、2009 年。
参考文献	授業時に指示
評価方法	授業内での課題 50%（発表、授業レポート、グループ討議等）、最終レポート 50%

13 年度以降	教育の歴史Ⅱ	担当者	萩原　真美

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要 本講義では、諸外国の歴史教科書から、その国がどのような教育の歴史を歩んできたかをみていく。毎回の授業の前半は、諸外国の歴史教科書に関する講義を行い、後半は履修者が調べた当該諸国の教科書について報告し、それに関するグループ討議を行いながら理解を深めていく。教科書自体の検討に時間を割きたいため、諸外国の教育の歴史については事前にテキスト（資料を配布）を読んで予習しておくこと。教育の歴史Ⅰと合わせて通年で履修することが望ましい。※対象とする国は、履修者の希望等に鑑みて変更する可能性がある。 **講義目的** 国による教科書の性格・扱いの違いや、教科書の内容自体に反映された教育政策方針の違い等に着目しながら、諸外国の教育の歴史を理解する。	第１回：オリエンテーション（世界の歴史教科書をみる） 第２回：世界の教科書制度／教科書の内容分析の方法 第３回：韓国の歴史教科書 第４回：中国の歴史教科書 第５回：シンガポールの歴史教科書 第６回：ベトナムの歴史教科書 第７回：インドネシアの歴史教科書 第８回：ドイツの歴史教科書 第９回：ポーランドの歴史教科書 第10回：イギリスの歴史教科書 第11回：フランスの歴史教科書 第12回：フィンランドの歴史教科書 第13回：アメリカ合衆国の歴史教科書 第14回：ブラジルの歴史教科書 第15回：まとめ

到達目標	日本における教育の歴史概略を理解したうえで、教育史の事象を探究する手段と方法を獲得し、分析および見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	（事前学修）テキストの指定箇所を読む。課題がある場合はそれをやって授業に臨む。 （事後学習）講義を振り返り、授業レポートを作成する。
テキスト	こちらで資料を用意する予定。
参考文献	石渡延男・越田稔編著『世界の歴史教科書　11 カ国の比較研究』明石書店、2002 年ほか。授業時に指示
評価方法	授業内での課題 50%（発表、授業レポート、グループ討議等）、最終レポート 50%

13 年度以降	比較教育制度論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義概要】 本講義は、教育に関する社会的事項、教育に関する制度的事項、学校と地域の連携、学校安全への対応を含むものである。 現代の公教育制度の意義や原理・構造について法的・制度的な知識を身につけるとともに、現在進められている改革の背景にある学校や子どもの生活の変化などの課題を理解し、制度をめぐる諸課題と結びつけて考えることができる講義とする。 具体的には授業前半は知識のための講義とし、後半は改革を検討し討論・発表の時間とする。またリアクションペーパーを使用し質問や討論を経ての意見などを集め、次週にレビューをする。	第１回：オリエンテーション 第２回：教育を受ける権利と権利保障 第３回：学校教育制度の変遷 第４回：公教育と私教育 第５回：教育行政システム（国・地方）と教育委員会 第６回：教育行財政 第７回：教育課程行政 第８回：諸外国の教育制度と学校 第９回：家庭教育の現在と教育行政 第１０回：社会教育行政 第１１回：学校の危機管理と安全 第１２回：教育改革（1）学校評価・人事評価 第１３回：教育改革（2）学校選択制・小中一貫教育 第１４回：教育改革（3）開かれた学校づくりと学校評議員・学校運営委員会 第１５回：教育改革の現状と課題

到達目標	日本の教育制度に関する基礎的知識、および、教育制度の理論と構造を理解し、よりよい教育制度の在り方について諸外国や歴史との比較も行いながら分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	（事前学修）提示された資料を事前に読んでくること （事後学修）講義を振り返り授業レポートを作成すること
テキスト	藤本典裕・勝野正章編『改訂新版　教育行政学』（学文社）
参考文献	『教育小六法』
評価方法	定期試験６０％、リアクションペーパーを３０％、講義内の討論・発言等を１０％として評価する。

13 年度以降	比較教育制度論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	教育課程論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義概要】 学校において展開されている毎日の授業や諸活動は、一定の教育目的を達成するために編成される教育内容に関する計画である教育課程に基づいて行われている。いわば、教育課程は、学校教育における中核としての役割を果たしている。本講では、以上のような観点から、教育課程の編成と評価という問題を中心に、わが国の戦後教育の歩みと教育課程の変遷、新教育課程の分析と課題の検討、今日の学力問題等の問題を取り上げ、各種資料、ＶＴＲ教材などを用いながら、多面的に検討を加え、教育課程研究に関する理解を深めていく。	第１回 ：教育課程と学力問題 第２回 ：教育課程とは何か 第３回 ：日本の教育課程(1)小・中・高の教育課程 第４回 ：日本の教育課程(2)教育課程に関する法規 第５回 ：教育課程編成の理論と方法(1)教育課程の分類 第６回 ：教育課程編成の理論と方法(2)経験主義カリキュラムと系統主義カリキュラム 第７回 ：教育課程編成の理論と方法(3)カリキュラム構成法 第８回 ：学習指導要領と教育課程(1)昭和 20 年代 第９回 ：学習指導要領と教育課程(2)昭和 30-40 年代 第１０回：学習指導要領と教育課程(3)昭和 50-60 年代 第１１回：学習指導要領と教育課程(4)平成 1-10 年代 第１２回：学習指導要領と教育課程(5)現行学習指導要領 第１３回：次期学習指導要領の検討(1)改訂の要点 第１４回：次期学習指導要領の検討(2)カリキュラム・マネジメント 第１５回：教育課程と評価

到達目標	教育課程と学習指導要領の歴史的変遷を踏まえ、教育課程の全体構造や具体的編成に関する基礎的理論を理解し、よりよい教育課程の在り方や編成について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	前時の授業内容を確認した上で、指定されたテキスト・参考書がある場合には関連箇所を読み、課題意識を持って、本時の授業に臨むこと。授業時に提示された課題を遂行し、それを次回の授業で提出すること。
テキスト	担当教員の指示に従うこと
参考文献	文部科学省『中学校学習指導要領』『同解説総則編』『高等学校学習指導要領』『同解説総則編』その他は、講義の中で紹介する。
評価方法	平常点（５０%、授業内課題を含む)、試験またはレポート（５０%)、総合点６０点以上合格。

13 年度以降	教育課程論	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	教育心理学	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義概要】 教育心理学は「教育評価」、「学習の過程」、「発達」、「人格・適応」という４領域に大別される。そこで、これら４領域を中心に講義をおこなっていく。	第１回：教育心理学の領域とその歴史 第２回：教育測定と教育評価 第３回：教育評価の方法 第４回：評価の観点と学力問題 第５回：学習の原理 第６回：学習への動機付け 第７回：学習意欲と原因帰属 第８回：学習意欲と目標理論 第９回：学習意欲と教師の役割 第１０回：成熟と学習（発達の規定因） 第１１回：発達段階と発達理論 第１２回：発達課題と人格的発達 第１３回：軽度発達障害の理解と支援（ＬＤ，ＡＤＨＤ） 第１４回：軽度発達障害の理解と支援（自閉症スペクトラム） 第１５回：学校適応と心理アセスメント

到達目標	子どもの発達や学習、学校適応に関わる心理学の基礎的知識を理解し、学校現場において生じる諸問題に対して心理学的視点で検討のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業計画に示された各課の内容を参考文献をもとに事前に学習する。事後にあっては授業内容を参考文献をもとにまとめておく。また、各教員が授業で事前・事後学習として個別に指示した課題も含まれる。
テキスト	テキストは使用しない。必要な資料は配付する。
参考文献	授業のなかで関連文献を紹介する。
評価方法	試験（８０％）および課題レポート（２０％）の成績をもとに評価をおこなう。

13 年度以降	教育心理学	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	カウンセリング論	担当者	白砂　佐和子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、カウンセリングのスキルや知識を身につける授業ではない。なぜスキルや知識を“伝達”しないかについては授業で触れる。この授業では、カウンセリングとは何か、なぜ人が「治る」のか、「治る（変わる）」とはどういうことか、健康／病気とは何を意味するのか、人が人を理解するとはどういうことなのか、といったことを、受講者自身のこころを通して体験的に考えることを目指す。授業への主体的な参加が求められる。	１．　授業の概要 ２．　カウンセリング・心理療法の概説（１） ３．　カウンセリング・心理療法の概説（２） ４．　カウンセリング・心理療法の概説（３） ５．　意識と無意識（１） ６．　意識と無意識（２） ７．　人のこころのなりたち（１） ８．　人のこころのなりたち（２） ９．　人のこころのなりたち（３） １０．人間関係と心理療法（１） １１．人間関係と心理療法（２） １２．事例（１） １３．事例（２） １４．事例（３） １５．まとめ

到達目標	カウンセリングに関する諸理論を習得し、実際のカウンセリングに応用できるようにする。
事前・事後学修の内容	主体的な参加が求められるので、自身の関心の有りどころをよく確認すること
テキスト	授業のなかで適宜紹介する
参考文献	授業のなかで適宜紹介する
評価方法	授業での平常点（４０%）、期末試験（６０%）

13 年度以降	パーソナリティ理論	担当者	白砂　佐和子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、自分の性格診断をしたり、パーソナリティについての知識を得ることが目的ではない。簡単に答えが得られるような知識は「人のこころ」という複雑なものとは適合しないためである。この授業では、なぜ人のこころは複雑なのか、そして、人が人を理解するということはどういうことなのかということを、一人一人が、自分自身を通して考えていくことを目的とする。そのなかで、人間関係、親子関係、無意識、自己愛、コンプレックスなどのテーマに触れることになる。	１．　授業の概要 ２．　パーソナリティの考え方（１） ３．　パーソナリティの考え方（２） ４．　心理検査の実際（１） ５．　心理検査の実際（２） ６．　無意識とパーソナリティ ７．　人間の表現とパーソナリティ ８．　自己愛とパーソナリティ ９．　コンプレックスとパーソナリティ １０．こころの発達とパーソナリティ（１） １１．こころの発達とパーソナリティ（２） １２．事例（１） １３．事例（２） １４．事例（３） １５．まとめ

到達目標	ヒトの人格や性格、気質を研究対象とするとパーソナリティ研究の理論、形成、発達等について理解し、実際の諸問題について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	主体的な参加が求められるので、自身の関心の有りどころをよく確認すること
テキスト	授業のなかで適宜紹介する
参考文献	授業のなかで適宜紹介する
評価方法	授業での平常点（４０%）、期末試験（６０%）

13 年度以降	学校カウンセリング	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
【講義概要】 教員が学校で生徒と接する際に必要とされるカウンセリングの基本的な理論や技法について講義する。さらに、実習やグループワークなどを通じ、いじめ、不登校など学校現場で実際に起こっている問題について実際に考える機会を設ける。	第1回：学校カウンセリングとは何か 第2回：教師が行う学校カウンセリングの特徴 第3回：学校カウンセリングの理論①ー来談者中心療法とカウンセリングマインド 第4回：学校カウンセリングの理論②ーその他の理論 第5回：学校カウンセリングの理論③ーカウンセリングの体験 第6回：予防的カウンセリング①ー構成的グループエンカウンター 第7回：予防的カウンセリング②ーソーシャルスキルトレーニング 第8回：思春期の心の発達と危機 第9回：学校カウンセリングの実際①：いじめ 第１０回：学校カウンセリングの実際②：不登校・ひきこもり 第１１回：学校カウンセリングの実際③：非行 第１２回：学校カウンセリングの実際④：発達障害の理解と支援 第１３回：学校カウンセリングの実際⑤：精神障害の理解と支援 第１４回：学校カウンセリングの実際⑥：保護者との協調 第１５回：まとめ：学級運営に活かすカウンセリング

到達目標	学校カウンセリングに関する基礎的理論や技法を習得し、適切な相談、支援ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業計画に示された各課の内容を参考文献をもとに事前に学習する。事後にあっては授業内容を参考文献を踏まえて再度まとめる。また、各教員が授業にて事前・事後学習として個別に指示した課題も含まれる。
テキスト	特に定めない。毎回授業内容に関連するプリントを配付する。
参考文献	授業中に適宜資料を配付する。
評価方法	定期試験（７０%）、毎回の授業の最後に提出するリアクションペーパー（３０%）

13 年度以降	学校カウンセリング	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
（半期完結科目のため、講義目的等は春学期と同じ）	

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（子ども論 b）	担当者	小島　優生

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　貧困世帯に暮らす子どもや、日本語指導を必要とする子どもなど、何らかの困難を抱える子どもについての実践的な学修を目的とする講義である。 　講義時間内外でのボランティア活動を必須とする。 講義概要 　ボランティア活動が必須のため、おおよそ３０名程度を履修の上限とする。 　履修者が多い場合は、子ども論（a)、異文化理解教育、年少者日本語などの履修者を優先する。 　ボランティア対象施設や、曜日、回数等は１回目の講義の際に説明するので履修希望者は必ず出席すること。	１回目：概要説明 ２回目：子どもの貧困（１）概要 ３回目：子どもの貧困（２）母子世帯 ４回目：子どもの貧困（３）アスポート ５回目：異文化理解（１）オールドカマー ６回目：異文化理解（２）ニューカマーと不就学 ７回目：年少者日本語指導（１） ８回目：年少者日本語指導（２） ９～１２回：ボランティア活動 13回目：レビュー（１）アスポート 14回目：レビュー（２）年少者日本語指導 15回目：まとめ

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	子ども論、異文化理解教育、年少者日本語等の事前学修が望ましい。
テキスト	特になし。
参考文献	講義中に随時紹介する予定。
評価方法	ボランティア活動 50%、期末レポート 30%、講義中の発表・発言 20%程度で評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（認知科学）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問であり，その研究領域は広範囲におよぶ。ここでは、とくに認知心理学で得られた研究成果を中心にみていくことにする。また，授業では受講者自身に実験や調査（文献調査も含む）を実施してもらい，その結果をまとめて，授業にてレポート発表してもらう予定である。 授業内容は，まず，人間の「知」のしくみの基盤をなす「知覚」についてあつかう。つぎに，動物にとって重要な認知機能である「記憶」についてみていく。さらに，近年飛躍的に解明が進んでいる「脳の機能」についてビデオ教材なども使用してみていくことにする。初回授業にて授業の進め方をより詳しく説明するので履修予定者には必ず出席することを求める	1．認知科学とは（授業概要） 2．認知科学の歴史 3．視知覚の特性①（概説） 4．視知覚の特性②（実験・調査） 5．視知覚の特性③（レポート発表） 6．音の知覚 7．言語と脳（脳の機能局在） 8．言語と脳（言語野） 9．認知工学と脳 10．記憶のしくみ①（記憶の過程） 11．記憶のしくみ②（実験と調査） 12．記憶のしくみ③（レポート発表） 13．記憶のしくみ④（実験と調査） 14．記憶のしくみ⑤（レポート発表） 15．まとめ

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業計画に示した各テーマについて事前に学習するとともに、各テーマについてデータ収集等の課題をおこなってもらう。事後には講義内容を踏まえて調査レポートなどを作成してもらう。
テキスト	授業にて必要な資料は配付する。テキストは使用しない。
参考文献	各回の授業内容により参考文献は異なるため適宜紹介する
評価方法	授業での発表内容、授業内レポートを 50%、課題レポートを 50%として総合評価する。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（認知科学）	担当者	田口　雅徳

講義目的、講義概要	授業計画
半期完結授業のため、内容は春学期と同一である	

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	春学期と同一
テキスト	春学期と同一
参考文献	春学期と同一
評価方法	春学期と同一

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（社会心理学 a）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a，bでは，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理学aでは，個人の心の働きに主に焦点を当てる。	1.イントロダクション -「社会心理学」講義の前に 2.社会心理学の概要 3.社会的認知(1)：人の印象はどう決まるか 4.社会的認知(2)：ステレオタイプと差別 5.社会的アイデンティティ理論(1)：個人の中の集団 6.社会的アイデンティティ理論(2)：差別は集団からうまれる 7.自己(1)：自分はどんな人間か 8.自己(2)：自分のことを相手にどう伝えるか 9.態度と態度変容：好きになるのはどうしてか 10.社会的影響(1)：集団での意思決定における個人の役割 11.社会的影響(2)：規範的影響と情報的影響 12.社会的影響(3)：「助けて!」と聞こえてきたらどうするか 13.社会的影響(4)：そして集団全体が動き出す 14.まとめと振り返り 15.社会的影響(5)：人間の力

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣，2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（社会心理学 b）	担当者	樋口　匡貴

講義目的、講義概要	授業計画
人間は必ず，他者と関わりを持ちながら生きている。その中で，他者から影響を受け，そして他者に影響を与えている。つまり，人間の関わる事象はすべて社会心理学の研究対象と言える。社会心理学a，bでは，日常生活の中に存在する様々なトピックを科学的にとらえ，社会心理学的に解釈していく。特に社会心理bでは，主に個人と社会との間の相互作用や，社会心理学の応用的発展領域に焦点を当てる。	1.イントロダクション：「社会心理学」講義の前に 2.コミュニケーション(1)：言語的・非言語的コミュニケーション 3.コミュニケーション(2)：コミュニケーションと対人行動 4. コミュニケーション(3)：コミュニケーションのズレ 5.ソーシャルネットワーク(1)：ネットワークの諸相 6.ソーシャルネットワーク(2)：つながりを生み出すもの 7.ソーシャルネットワーク(3)：つながりが生み出すもの 8.信頼社会と安心社会 9.社会的感情(1)：互恵性を生み出す感情～感謝 10.社会的感情(2)：表情と感情 11.社会的感情(3)：生死を分ける感情 12.健康行動と社会心理学(1)：健康に関する様々な理論 13.健康行動と社会心理学(2)：感染予防ための挑戦 14.まとめと振り返り 15.社会心理学の未来

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回，事前に配布する資料に目を通してくること。またリアクションペーパーにコメントした内容について，授業後に自らの答えを出してくること。
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	亀田・村田『複雑さに挑む社会心理学（有斐閣，2000; スミス・ハスラム『社会心理学・再入門』（新曜社，2017）
評価方法	中間レポート 30%，期末試験 60%，その他 10%で評価する。なお，第 1 回目の授業において授業実施上の注意点等を詳細に説明する。特に，授業中に他者に迷惑をかける行為を禁止する。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（リーダーシップ論）	担当者	和田　智

講義目的、講義概要	授業計画
問題解決活動を実践し、その中から集団と個の関わりを考えてもらいます。問題解決活動は学生が互いに指導役割を交代しながら行うことで、指導経験の機会を得ることも目的としています。 グループ単位で企画作成と発表を行う過程でリーダーシップ理論を参考にしながら自己と他者の特性と役割を理解していくことを目的とします。授業の最初には集団の形成に必要ないくつかの方法を実践します。次の段階ではリーダーシップ発現の機会としてのイニシアティブゲームを実施し、リーダーシップを取る人の特性について考えます。その人の性格と経験等の特性をサンプルとして扱いいくつかのリーダーシップ理論と対照します。次の段階では、イベント企画を題材として企画と実践に向けた取り組みの中で個々の学生が自分の役割を果たすトレーニングを実施します。いくつかのグループによって提案された企画は投票によって1位を決定し、1位を取ったグループによってそのイベントが実施され、評価を含めたまとめを行います。グループでの話し合いと実践を中心にしたアクティブラーニングを行います。	1 オリエンテーション 2 集団形成：アイスブレーキング 3 グループワークによる問題解決活動と発表 4 イニシアティブゲームによる問題解決活動１ 5 イニシアティブゲームによる問題解決活動２ 6 グループ内での課題についての討論と発表 7 リーダーシップ理論 8 イベント企画作成の手順 9 イベント企画コンテストに向けてのグループ討論 10 イベント企画案の作成 11 イベント企画プレゼンテーション第1回 12 イベント企画プレゼンテーション第2回 13 イベントの実施 14 イベントの評価とまとめ 15 授業のまとめ

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前にリーダーシップ理論について学習し、授業で実践した方法を所属する集団で実施すること。
テキスト	必要に応じ資料を配布します。
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢・態度（60%）、小レポート・期末レポート（30%）、企画コンテスト（10%）を評価します。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（ボランティア論）	担当者	中條　共子

講義目的、講義概要	授業計画
友人の困り果てた様子を見て、人ごとは思いつつ、つい「仕方ない、助けてやるか」と手を貸したことはないだろうか。結果、あまりにも大変な事態に遭遇し、それでも手を引くことができなくて、つらい思いをしたことはないだろうか。 私たちはときに、困難を示す他者の声や顔に突き動かされて、困難の渦中に身を投じる。そして他者を知り、仲間を得、それまで生きてきた平穏な世界への異なるまなざしを手に入れる。本講義が扱う「ボランティア」とは、そういう経験である。 本授業では、多様なボランティア実践を紹介し、この営みがどのような過程を通して生み出され、どのような意味を担ってきたのかを多角的に考察する。そして、受講生がボランティアの価値を見出す契機となることを目指す。	1. 阪神淡路大震災の経験 2. 高齢者とボランティア 3. 障害者とボランティア 4. 環境保全とボランティア 5. まちづくりとボランティア 6. 貧困との格闘 7. 学生ボランティアのいろいろ 8. ボランティアの固有性 9. ＮＰＯ（非営利組織）とは何か 10. ボランティアとＮＰＯ 11. 海外のボランティア（イギリス） 12. 海外のボランティア（アメリカ） 13. 海外のボランティア（アジア） 14. 国際ＮＧＯ（非政府組織）活動 15. ボランティアの課題

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回リアクションペーパーにより講義内容の理解を確認する。
テキスト	テキストは指定せず、毎回レジュメと資料を配布する。
参考文献	初回授業において示す。
評価方法	リアクションペーパーの提出・内容（50%）、まとめのレポートの提出・内容（50%）により評価する。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（スポーツマネージメント）	担当者	川北　準人

講義目的、講義概要	授業計画
スポーツ・マネジメントを定義するためには、「成果を得るためには何が必要か」を追求しなければならない。諸外国からの輸入文化として広がったスポーツの発展・普及における過程を理解し、現代社会におけるスポーツの可能性を模索する。そして“今何が求められているか”を問う。また、昨今の社会情勢から、わが国におけるスポーツ活動の可能性を模索する。1980年から1990年は、メディアの発達、各種企業のグローバル化によってスポーツ・マーケティングの時代といわれている。このようにスポーツは、社会情勢の影響を受けながら人々の期待に応えてきた。そこで、我が国における体育とスポーツの関わりを歴史的背景から理解し、その発展過程から現代社会における体育・スポーツの問題を考えていく。特に組織論観点からマネジメントを捉え、我が国における現状のみならず、諸外国の事例なども扱ってスポーツ・マネジメントの理解を深めていく。具体的には、アメリカ４大プロスポーツの中でも最も成功していると言われているNFLを中心にプロスポーツのマネジメントを理解する。また、NCAAやヨーロッパサッカーなどのトップ組織を扱うだけではなく、身近な健康問題、アダプテッド・スポーツ、さらには2020年の東京オリンピック等も題材として扱う。	１．　オリエンテーション ２．　スポーツマネジメントの概要 ３．　我が国におけるスポーツ・体育の歴史的背景 ４．　体育とスポーツ教育学 ５．　チーム・ビルディング ６．　メディア＆コマーシャリズム ７．　スポーツビジネスのマネジメント ８．　オリンピックのマネジメント ９．　スポーツ・マーケティング １０．北米における学生スポーツの発展 １１．プロスポーツとアマチュアスポーツ １２．我が国における学生スポーツのマネジメント １３．アダプテッド・スポーツ １４．メンタル・マネジメント １５．高度競技スポーツにおけるマネジメント

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	初回に配布する資料を参考に、毎回重要となる用語を事前に調べておくこと。 また、関連するトピックスを調べ、授業内で発言できる準備をすること。
テキスト	適宜講義内で配布する。
参考文献	特になし
評価方法	**授業への参加度･貢献度 50%　レポート 30%　小テスト 10%　授業での発言 10%**

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（スポーツ指導実習）	担当者	松原　裕

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] スポーツコーチ学のなかで特にコーチング方法について、実践・実習をすることを目的とする。 [概要] アリーナで種目により担当者と受講者に分かれて、コーチングの実践・実習を行う。 注意：受講者の人数や運動経験により授業計画が変更になる。	1.　ガイダンス 2.　スポーツコーチ学の概念と写真付受講票作成 3.　バスケットボール＆フットサル研究 4.　バスケットボール＆フットサル実技① 5.　バスケットボール＆フットサル実技② 6.　バドミントン＆卓球研究 7.　バドミントン＆卓球実技① 8.　バドミントン＆卓球実技② 9.　バレーボール研究 10.　バレーボール実技① 11.　バレーボール実技② 12.　スポーツテスト研究 13.　スポーツテスト実技① 14.　スポーツテスト実技② 15.　スポーツ指導評価

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	体調管理をしてベストコンディションで授業に臨むこと。毎回の実施内容と課題を纏めること。
テキスト	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	授業への参加度 60%、参加後の変化 40%を目安に担当者の観察により総合的に評価する。

13 年度以降	人間発達科学特殊研究（スポーツパフォーマンス分析）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 スポーツ選手の競技力向上には運動中の身体各部の機能や適応について理解し、各種トレーニングの計画・実践、また動作解析やゲーム分析などのパフォーマンスチェックが欠かせない。そこで本講義ではスポーツに関わる身体の基本的な機能と測定・分析方法を学び、実際にスポーツパフォーマンスに関係する様々な測定を経験し、各自のスポーツへのかかわり方がその新たな知識を生かして工夫されることを目指す。 〔講義概要〕 実際のスポーツ中のパフォーマンスに関連するデータを測定し、試合や演技の映像を持ち寄って分析を行う。成果を学期末に発表する。 ☆35周年記念館アリーナ、グラウンドを使用するので室内および屋外用スポーツシューズと運動に相応しい服装を用意すること	1. ガイダンス 2. 運動強度測定（屋内スポーツ） 3. 運動強度測定（屋外スポーツ） 4. フィジカルテストの基礎 5. フィジカルテストの実践（グループワーク） 6. フィジカルテストの分析（グループワーク） 7. 動作分析の基礎 8. 動作分析の実践－屋内（グループワーク） 9. 動作分析の実践－屋外（グループワーク） 10. ゲーム分析の基礎 11. ゲーム分析の実践（グループワーク） 12. 成果発表（グループ①、②） 13. 成果発表（グループ③、④） 14. 成果発表（グループ⑤、⑥） 15. 春学期のまとめ

到達目標	「人間発達科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人間発達に関する諸科学を研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各種スポーツに必要な身体能力、技術について調べ、講義内で得られたデータをもとに分析すること
テキスト	特に指定しない
参考文献	『コーチング学への招待』『運動生理学の基礎と発展』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（50%）、レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）で総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	社会学 I	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
私たちのまわりには、さまざまな他者がいる。電車で隣に座った人も、家族や親しい友人も「他者」である。たいていの場合、他者は自分の思い通りに動いてはくれない。しかし、そういった他者たちと社会的関係を築かなくては、私たちは生活できない。それゆえ、社会を扱う学問である社会学では「他者other(s)」が重要なキー概念となっている。さらに、他者について考えることは、「自己（わたし)」について考えることでもある。本講義では、社会学の基礎知識をふまえつつ、先行研究を現代的な文脈で捉え、社会学が生まれた経緯と社会学的視点、さらにアイデンティティ形成のメカニズムについて学ぶ。それをとおして社会のなかに生きる「他者と自己」の関係を考えてみよう。	1. イントロダクション 2. 社会学的視座とは 3. 社会学の歴史（1）──A.コント、H.スペンサー 4. 社会学の歴史（2）──E.デュルケム 5. 社会学の歴史（3）──M.ウェーバー 6. 社会の類型（1）──コミュニティとアソシエーション 7. 社会の類型（2）─ゲマインシャフトとゲゼルシャフト 8. 社会の類型（3）──第一次集団 9. Identity形成と社会（1）──鏡に映った自己 10. Identity形成と社会（2）──重要な他者 11. Identity形成と社会（3）──マージナル・マン 12. Identity形成と社会（4）──未定 13. 補完的アイデンティティについて 14. 他者と自己の社会学 15. まとめ

到達目標	「社会学」という学問が成立した経緯をふまえて、社会学的な分析の仕方、社会集団の類型やアイデンティティ形成のメカニズム等を理解し、多文化社会における自己と他者について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	身分証明書以外に私が私であることを証明するものはなにか、考えておく。
テキスト	授業内で指示する
参考文献	授業内で指示する
評価方法	授業への積極性（小レポートや提出物）50%、 期末試験 50%

13 年度以降	社会学Ⅱ	担当者	岡村　圭子

講義目的、講義概要	授業計画
わたしたちが日常的に何気なく行っていることや「あたりまえ」だと思っていること、あるいは「社会問題」と呼ばれる事象について、社会学的な見地から分析してみるとどうだろうか。それまで見えていなかったことが見えてくるかもしれない。それまで気づいてさえいなかったことが、突然気になりだすかもしれない。 本講義では、近代の都市社会やグローバル化が抱える問題についての研究業績を知り、それを手がかりにしながら、わたしたちにとって身近な出来事を社会学的に考えてみたい。とくに「都市」「移民」「地域」「大量消費」「社会的逸脱」といったキー概念を中心に扱う。	1. イントロダクション 2. 社会的性格と「自由からの逃走」──E.フロム 3. 同調様式の３類型──D.リースマン 4. 都市化と移民──W.I.トマスとF.W.ズナニエツキ 5. 同心円地帯説──E.バージェス 6. シカゴ学派と都市問題──R.パーク 7. 予言の自己成就──R.K.マートン 8. 誇示的消費──T.ヴェブレン 9. 認知的不協和の理論──L.フェスティンガー 10. 文化的再生産──P.ブルデュー 11. コンフルエント・ラブ──A.ギデンズ 12. 現代社会を社会学的にみる（1）情報技術とメディア 13. 現代社会を社会学的にみる（2）グローバル化 14. 現代社会を社会学的にみる（3）ローカル化 15. まとめ

到達目標	社会学の学説をふまえて、近代社会が抱える問題や、多文化の共生を視野に入れながら、現代の日本社会が直面する課題について分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	グローバル化と都市化がもたらす光と影について考えておく。
テキスト	授業内で指示する
参考文献	授業内で指示する
評価方法	授業への積極性（小レポートや提出物）50%、 期末試験 50%

13 年度以降	文化人類学 I	担当者	井垣　昌

講義目的、講義概要	授業計画
文化人類学への入門授業である。学問としての成り立ちや、主な関心事に触れながら、人びとの間で文化がなぜ、どのように異なるのかについて、常識にとらわれず、体系的に知る力を身につけ、また、そのための基本的な概念を理解することを目的とする。 本授業は講義形式で行なう。履修生は、質問など、授業に積極的に参加すること。授業中に知識や概念の理解度を試す小テストや、概念を用いた思考力を試す課題を出す。課題を全て提出しない学生は、成績評価の対象としない。 ※上記の概要や授業計画は、履修生の興味・関心、授業の進捗などに応じて、変更する場合がある。 ※授業の進め方については、初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。 ※文化人類学IIとは開講時限が異なっていることに注意すること。	1. ガイダンス／文化人類学の学問的な位置付け 2. 未開と野蛮 3. 自民族中心主義と文化相対主義 4. 言語と文化 5. 境界と分類 6. 人種と民族 7. 通過儀礼 8. しきたりとタブー 9. 宗教と祝祭 10. 家族と親族 11. 性とジェンダー 12. 縁とコミュニティ 13. 贈与と交換 14. 伝統と文化変容 15. まとめ

到達目標	文化人類学の誕生の歴史を理解し、「文化」の概念を「自然」の概念から明確に切り離して分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各授業のテーマについて、①関連する概念および用語を調べ、②日常生活における見聞や体験から、文化人類学的に捉えなおして描写、分析、批判する練習を積むこと。これらの成果を課題に反映させること。
テキスト	斗鬼正一著『目からウロコの文化人類学入門―人間探検ガイドブック―』（ミネルヴァ書房、2014 年）
参考文献	授業内で指示する。
評価方法	平常点（授業への参加度等）[25%]、小テスト[25%]、課題[50%、実施する場合は期末試験を含む]を評価対象の目安とする。課題の期限内の全提出および一定回数以上の出席を成績評価の必須条件とする。

13 年度以降	文化人類学Ⅱ	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
文化人類学に関わる応用的で現代的なトピックを扱うとともに調査を実践することで、人類学の方法論と考え方を学ぶ。 本授業は講義形式を中心に行うが、履修生には授業への積極的な参加を求める。具体的には教員の解説する概念や視点について理解を深めるために簡単な調査を行ってもらう。主体的に課題をこなすことが重要となる。また、授業中に小課題の提出を課す。 ※授業の進め方、履修に関わる注意については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。 ※文化人類学 I を履修していなくても、本授業を履修することは可能である。ただし、履修に関する条件がある。ガイダンスで行う説明をよく聞くこと。	1. ガイダンス 2. 文化とは何か 3. 食と政治 4. 自然とは何か 5. 可視化・単純化 6. 調査実習1：可視化 7. 可視化：再説 8. 調査実習2：文化 9. 可視化と地域知 10. 調査実習3：地域知 11. 地域知と実践知 12. 調査実習4：実践知 13. 地域の中の多様なアクター 14. 政策への多様な評価 15. まとめ

到達目標	文化人類学の「実地調査」について理解し、さまざまな社会の慣習について、どの点が「文化」であるかを指摘したうえで分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を小課題に反映させること。
テキスト	教材は教員が用意するが、調査用ノートを持参する必要がある（詳しくは授業内で指示する）。
参考文献	山下晋司等著『文化人類学キーワード　改訂版』（有斐閣）
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、調査課題と小課題［70%］を評価対象とする。調査課題・小課題の全提出を成績評価の必須条件とする。また一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

13 年度以降	倫理学 I	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は倫理論理の諸説を考察し、倫理学の基礎を探求する。具体的には、功利主義、義務論、徳倫理学、私的と公共、正義と平等、共生倫理学を取り上げて分析する。 授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、発表を通して議論する。教職科目でもあり、学校という現場で伝達・理解しやすい表現にて倫理学全般の基礎を幅広く修得するものである。	1. イントロダクション 2. 倫理学の定義と方法論 3. 功利主義I：快楽と苦痛 4. 功利主義II：J.S. ミル 5. 義務論I：義理と義務 6. 義務論II：カント 7. 徳倫理学I：古代ギリシャからマッキンタイアまで 8. 徳倫理学II：マッキンタイア以降 9. 私的と公的：滅私奉公から滅公奉私へ 10. 私的と公的：活私開公から公共哲学へ 11. 正義と平等I：古代ギリシャからロールズまで 12. 正義と平等II：ロールズ以降 13. 共生倫理学I：エゴイズムから共生へ 14. 共生倫理学II：シンバイーシスとコンヴィヴィアリティ 15. まとめ

到達目標	近世倫理思想を理解し、これを用いて現代の倫理的諸問題を検証、分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

13 年度以降	社会学Ⅱ	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
応用倫理学の諸論理を概説し、現代社会の問題に沿って検討する。具体的には、科学技術、環境、医療、情報、そしてビジネス倫理学を取り上げ、実社会の諸問題にどう向き合うかと考えていく。 授業の進行としては、各論理に関する文献を纏めて講義を行う一方、発表を通して議論する。教職科目でもあり、学校という現場で伝達・理解しやすい表現にて倫理学全般の基礎を幅広く修得するものである。	1. イントロダクション 2. 応用倫理学の定義：論理と応用 3. 応用倫理学の方法論：観念と事例 4. 科学技術倫理学I：定義と起源 5. 科学技術倫理学II：安全と安心 6. 環境倫理学I：定義と方法 7. 環境倫理学II：自由と義務 8. 医療倫理学I：定義と原則 9. 医療倫理学II：自律と他律 10. 情報倫理学I：定義と課題 11. 情報倫理学II：私益と公益 12. ビジネス倫理学I：定義と背景 13. ビジネス倫理学II：商業と道徳 14. ビジネス倫理学III：秘密と公開 15. まとめ

到達目標	近世倫理思想を理解し、これを用いて現代における犯罪あるいは生命倫理的問題を検証、分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

13 年度以降	文化史入門	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化した現代社会にあって、私たちは自分の帰属意識や自己認識に揺らぎを感じ、改めて自分のアイデンティティーの確立の必要性を意識します。その時、自分が育ち、身に付けた文化が大きな役割を果たします。文化は、狭義にはさまざまな文化遺産や文化事象そのものを意味しますが、広義にはそれらを包括しつつ、歴史的に形成されてきた生活や思考の様式を意味し、そこに体現された社会や集団の個性や特質をも表わす概念です。本講義では、どちらも歴史的総体として考えねばならないとの問題関心から、個別文化事象も生活・思考様式もいかなる具体的な歴史社会と密接に結びついているか古代ギリシア・ローマ世界を例に取り上げ、自己の帰属意識や自己認識にとっていかに文化理解が不可欠であるかを明らかにすることを目的としています。授業は講義形式で行いますが、討議形式になるテーマもあるので積極的に参加して下さい。	１．　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２．　技術文化：動力とエネルギー源（奴隷労働の意義） ３．　技術文化：水の供給と浴場（テルマエ・ロマエ） ４．　運送手段：船と海上輸送（三段櫂船と商船） ５．　輸送手段：陸上輸送（一般道と高速道） ６．　造形芸術：建築と彫刻（アルカイック・スマイル） ７．　文学の世界：叙事詩と演劇（ギリシア悲劇の普遍性） ８．　宗教と祭祀：神々と人間（ギリシア神話とは何か？） ９．　性愛の諸相（１）男と女（同性愛） １０．性愛の諸相（２）男と女（結婚と異性愛） １１．競技（アゴン）的人間類型：理想的人間とは？ １２．クリエンテーラ・パトロネージ関係 １３．民主政の中の人間関係（１）：デマゴーグの意味 １４．民主政の中の人間関係（２）：ポピュリズム？ １５．討論会：総括と展望

到達目標	広義の文化史と狭義の文化史について理解し、個々の文化事象とそれらを生み出した社会との関係を関連付けて分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたプリントの指定された箇所を事前に精読して、必要に応じて参考文献を読んでおいて下さい。毎回出される課題に答えて授業後、あるいは次回に提出して下さい。
テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布します。
参考文献	初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。それ以外に各授業の際に、追加の参考文献を紹介することがあります。
評価方法	定期のレポート６０％、毎回の課題２０％、授業の参加度２０％

13 年度以降	比較宗教史	担当者	犬塚　悠

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目的は、世界・日本の歴史に大きな影響をもたらしてきた宗教についての基本的知識、更にそれらを比較する俯瞰的視座を獲得することにある。宗教は、今日では時に人々の対立の原因として否定的な見方をされることもあるが、太古から人々の個人的・集団的生活を支え文化形成の原動力となってきた。宗教に対する人々の態度が多様になっている今日こそ、信仰の有無にかかわらず、一人一人が互いを理解するための見取り図をもつことが求められる。 それぞれ異なる信仰や儀礼などを同じ「宗教」というカテゴリーにおいて比較すること自体近代的な見方であり、その探求は同時に私たちが生きる今日の時代的特性を知ることにもつながる。国際社会で活躍するために必要な教養と思考力をこの授業で身につけてほしい。	1.　イントロダクション：本講義の見取り図 2.　宗教の原初形態 3.　ユダヤ教 4.　キリスト教 5.　イスラム教 6.　バラモン教・ヒンドゥー教 7.　仏教 8.　儒教 9.　神道 10.　宗教の諸類型 11.　宗教思想 12.　宗教儀礼 13.　宗教集団 14.　宗教体験 15.　まとめ

到達目標	古今の宗教の形態と教義を理解し、宗教が現代生活に及ぼしている影響について分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	Porta で配布される資料、指示された参考文献をよく読むこと。
テキスト	授業中に適宜指示する。
参考文献	授業中に適宜指示する。
評価方法	授業内小試験 50%、期末レポート 50%

13 年度以降	文明史研究Ⅰ	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 講義全体をとおして、文明とは何かを考えていくことを目的とします。多彩な文明を作り出してきた人類の歴史について、はば広く学んでいきます。それにより多角的な視野を獲得し、現代社会を生きていく上で求められる国際的な教養や自らの価値観、世界観を築き上げていくことを目指します。 【講義概要】 ヨーロッパに焦点を当て、その歴史や文明を学んでいきます。講義のみならず、映像資料も使用します。 また右記の授業計画はあくまでも一応の目安であり、人数や皆さんの関心に応じて、授業内容を多少変更する可能性があります。	１．　ケルト ２．　古代ギリシア ３．　古代ローマ ４．　キリスト教の誕生 ５．　中世 ６．　大航海時代 ７．　ルネサンス ８．　オランダの繁栄 ９．　ヨーロッパ諸国の海外進出と奴隷制 １０．革命の時代 １１．第一次世界大戦 １２．第二次世界大戦 １３．戦後の世界 １４．ヨーロッパの統合とそれからの離脱 １５．まとめ

到達目標	文明の概念と文明単位での歴史を体系的に理解し、具体的な文明単位としての「ギリシア・ローマ文明」を文明成立発展の歴史として捉えて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後復習をし、興味を持った箇所について参考文献を読むなど、より深く掘り下げて勉強してください。
テキスト	特になし。
参考文献	配布資料を主に使用します。参考文献は授業中に適宜指示します。
評価方法	レポート　１００％

13 年度以降	文明史研究Ⅱ	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 同上。 【講義概要】 前半は、文明や人間というものについて、自ら考えるためのヒントとなる様々な課題やテーマを取り上げていきます。映像資料も使用する予定です。 後半は、日本について語ることができるようになることを目指して、日本に的を絞ります。古墳時代にいたるまでの社会の変遷を講義していきます。 また右記の授業計画はあくまでも一応の目安であり、人数や皆さんの関心に応じて、授業内容を多少変更する可能性があります。	１．　イントロダクション ２．　人類の誕生 ３．　創造力と芸術の誕生 ４．　農業の誕生と発展 ５．　国家と支配 ６．　お金の誕生と発展 ７．　旧石器時代（１）氷河期の日本列島 ８．　旧石器時代（２）社会と生活 ９．　縄文時代（１）土器の発明 １０．縄文時代（２）定住と社会 １１．弥生時代（１）稲作と社会の発展 １２．弥生時代（２）金属器の発展と戦争 １３．古墳時代（１）巨大墳墓と支配の確立 １４．古墳時代（２）一般人の生活 １５．まとめ

到達目標	文明の概念と文明単位での歴史を体系的に理解し、具体的な文明単位としての「ヨーロッパ文明」を文明成立発展の歴史として捉えて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後復習をし、興味を持った箇所について参考文献を読むなど、より深く掘り下げて勉強してください。
テキスト	特になし。
参考文献	配布資料を主に使用します。参考文献は授業中に適宜指示します。
評価方法	レポート　１００％

13 年度以降	科学史 I	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは科学が永遠不変の真理であって、人間とは関わりなく存在していると思いがちである。だが、科学は人間によって形成されてきたのであり、その有様は歴史の中で変化し続けてきた。この講義では、歴史の中で科学を捉えることによって、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのか考えることを目的とする。 春学期は、古代から１７世紀の科学革命を経て、「科学者(scientist)」という言葉が登場した１９世紀初めまでに、科学的なものの見方や考え方がどのように移り変わってきたのかについて、代表的な人物や事例に焦点を当てて概観する。	1. イントロダクション、科学とはなにか 2. 科学的な考え方の始まり（古代） 3. タームペーパーの書き方について 4. 古代世界の宇宙観 5. 地中海世界からアラビア世界へ 6. アラビア世界からヨーロッパ世界へ 7. 宇宙観の転換―天動説から地動説へ 8. 魔術と科学 9. 機械論的自然観の登場 10. ニュートンと科学革命 11. 科学アカデミーの誕生と展開 12. 科学史における女性 13. 産業革命と科学 14. フランス革命と科学 15. 「科学者（Scientist)」の誕生

到達目標	「科学とは何か」という問題に対して正しい理解を得て、人類が得てきた科学的知見を歴史的視点から分析し、科学を学ぶことの意義や楽しさを表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー（期末レポート）作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。
テキスト	なし。
参考文献	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（約８割）と、獨協大学レポート用紙の記述（約２割）により評価する。

13 年度以降	科学史 II	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
われわれは科学が永遠不変の真理であって、人間とは関わりなく存在していると思いがちである。だが、科学は人間によって形成されてきたのであり、その有様は歴史の中で変化し続けてきた。この講義では、歴史の中で科学を捉えることによって、われわれが科学とどのように関わってゆけば良いのか考えることを目的とする。 秋学期は、「科学者（scientist)」という言葉が登場した１９世紀の初めから現代までを扱い、科学が社会の中で大きな力を獲得してく過程について、具体的な事例に焦点を当てて概観する。	1. イントロダクション、“Scientist”とは誰か 2. 蒸気機関と熱力学の誕生 3. タームペーパーの書き方について 4. 科学の制度化と専門職業化 5. 科学の産業化 6. 公害の発生と科学 7. 進化論と社会 8. 帝国主義と科学 9. 研究所の誕生 10. 科学と国家 11. 現代科学の登場と自然観の転換 12. 科学と戦争 13. ビッグサイエンスの誕生 14. 環境科学の誕生と展開 15. 科学の過去・現在・未来

到達目標	「科学とは何か」という問題に対して正しい理解を得て、人類が得てきた科学的知見を歴史的視点から分析し、科学を学ぶことの意義や楽しさを表現できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー（期末レポート）作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。
テキスト	なし。
参考文献	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（約８割）と、獨協大学レポート用紙の記述（約２割）により評価する。

13 年度以降	科学技術基礎論 I	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在の科学技術は、専門分化が極度に進行しているため、科学技術の専門家でさえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。だが、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働することの意義を理解することを目的とする。 春学期は主として生命に関する事例を取り上げて考察する。	1. イントロダクション、生命とは何か 2. いつから生命か 3. タームペーパーの書き方について 4. いつまで生命か 5. 遺伝とはなにか 6. 品種改良と遺伝子 7. 進化・遺伝・優生学 8. 病気とは何か―正常と異常を考える 9. 感染と免疫 10. 生命と食品 11. 食のリスクと安全 12. 生命から見た環境 13. 環境問題とは何か―オゾンホール問題を例に 14. 環境の持続可能性と不確実性 15. 先端の科学技術と生命

到達目標	各種の科学技術を一般的に理解し、そうした技術の応用が人間の生活、文化、社会がどのような影響、変化を及ぼすかについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー（期末レポート）作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。
テキスト	なし。
参考文献	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（約 8 割）と、獨協大学レポート用紙の記述（約 2 割）により評価する。

13 年度以降	科学技術基礎論 II	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
現在の科学技術は、高度化・専門化が極度に進行したため、科学技術の専門家でさえ自分の専門分野以外のことは分からないことが増えている。その一方で、現在に生きるわれわれは、知らないうちに科学技術の成果を利用したり、科学技術的なものの見方や考え方の影響を受けたりしている。また、われわれが直面する問題を解決するためには、文系・理系という枠を超えて、様々な分野の人々と協働することがますます必要になっている。 この講義では、われわれにとって身近な事例から出発して、その背後にある科学技術の考え方や、価値観、法律や経済など、他分野との関わりを分析することによって、科学技術への関心を高めるとともに、異分野の人々との協働の意義を理解することを目的とする。 秋学期は主として物質や情報に関する事例を取り上げて考察する	1. イントロダクション、科学と不確実性 2. 科学的予測の原理と現状 3. タームペーパーの書き方について 4. 事故と科学技術 5. 「情報」とは何か 6. プライバシーと科学技術 7. デジタルディバイドと科学技術 8. 科学技術における安全 9. 科学技術とリスク 10. 科学技術と確率 11. 科学技術と統計 12. 物質とは何か 13. 物質が存在するとはどういうことか 14. 物質とエネルギー 15. 物質から見た環境

到達目標	各種の科学技術を一般的に理解し、そうした技術の応用が人間の生活、文化、社会がどのような影響、変化を及ぼすかについて分析を行い、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー（期末レポート）作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。
テキスト	なし。
参考文献	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（約 8 割）と、獨協大学レポート用紙の記述（約 2 割）により評価する。

13 年度以降	数学Ⅰ	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、自然や社会において偶然に支配されているとみなされる現象を解析する数学の一分野である「確率論」について学びます。「確率」については、高等学校数学で扱われていますが、ここでは、その内容を復習しつつ、実際に様々な分野で応用されている、「確率」を基にした「統計」の基本的な考え方につなげることを目標に授業を進めていきます。 なお、2017年度以前の数学Ⅱと同じ内容になります。制度上数学Ⅰの既修者は履修できませんが、聴講することは可能です。また、2017年度以前の数学Ⅱ履修者は履修することができません。	1. はじめに 2. 場合の数と集合 3. 順列・組合せ 4. 標本空間と事象 5. 確率 6. 余事象の確率、独立試行の確率 7. 条件付確率と事象の独立 8. 確率変数と確率分布 9. 確率密度関数 10. 確率変数の期待値 11. 確率変数の分散 12. 二項分布 13. 正規分布 14. 問題演習 15. まとめ

到達目標	数学理論の習得を通じて、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、物事を数理的に考え、正確に判断し、的確に類推できるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認、復習しておいてください。
テキスト	授業最初にプリント配布
参考文献	石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）
評価方法	授業中の問題解答 10%、授業最後の課題 10%、学期最後の問題演習 80%により評価

13 年度以降	数学Ⅱ	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、自然や社会において存在するまとまった数値や符号の集合体の性質を解析する「統計学」の基本的な考え方を学び、大学での学習や社会に出てからの仕事で必要となる統計処理の初歩を身につけることを目的とします。 最初に、集合体の性質を決める情報がすべて得られる場合の「記述統計」、次に、情報がすべて得られない場合の「推測統計」を扱います。推測統計では確率の考え方が応用されますので、まず、そこで使われるいくつかの確率分布について解説し、その後、それらを基にした推定や検定といった解析手法を紹介し、同時に課題演習も行います。 計算はコンピュータで行いますが、統計処理された数値の意味を把握するため、統計解析ソフトは使いません。 なお、2017年度以前の数学Ⅱ既修者は制度上履修できませんが、聴講することは可能です。	1. はじめに 2. １変量データーデータの整理 3. １変量データーデータの特徴 4. ２変量データ 5. 母集団と標本 6. 確率分布－連続型確率分布 7. 確率分布－χ^2分布 8. 確率分布－t分布、F分布 9. 不偏推定量 10. 母平均の区間推定 11. 母分散の区間推定 12. 母平均の検定 13. 母平均の差の検定 14. 等分散性の検定 15. 問題演習

到達目標	数学理論の習得を通じて、数量や空間を扱う考え方を身につけるだけでなく、物事を数理的に考え、正確に判断し、的確に類推できるようにする。
事前・事後学修の内容	プリントを事前に配布します。当日の部分を予習してください。 毎回出される課題の解答をポータルサイトで確認、復習しておいてください。
テキスト	石村園子『すぐわかる確率・統計』（東京図書 2001 年）
参考文献	なし
評価方法	授業中出された課題の評価を総合して評価する

13 年度以降	物理学 I	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、物理学の中でも２０世紀までに確立され、すでに様々な場面で応用されている分野を扱います。これらは、高等学校までの理科や物理で学んでいる内容ですが、もう一度、私たちの身の回りの生活との関係という視点で見直すことを目標として、学習を進めていきます。	1.　はじめに 2.　力と運動１－物体の運動 3.　力と運動２－物体に働く力 4.　力と運動３－運動の法則 5.　力と運動４－万有引力 6.　熱１－温度と熱 7.　熱２－熱と分子運動 8.　波動１－媒質の振動と波 9.　波動２－音波と光波 10.　電磁気１－電気と磁気 11.　電磁気２－電流と磁場 12.　電磁気３－電磁誘導 13.　電磁気４－電磁波 14.　問題演習 15.　まとめ

到達目標	普遍的、基本的な物理法則について理解を深め、その応用として、私たちの生活に身近なものを物理学的に捉えることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。

13 年度以降	物理学Ⅱ	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの身の回りの様々な自然現象は、多くの要素が入り混じって起き、複雑なものとなっています。しかし、それらの現象の中に、主要でない要素を取り除くことによって、ある普遍的な法則に支配されている基本的なものを見つけられることがあります。物理学は、そのような法則を発見し、そこから導かれた結果を研究して体系化する学問です。自然を深く認識することに寄与するばかりでなく、その応用への道も開きます。 本講義では、２０世紀以降物理学の分野で得られた新しい知見について紹介します。一つは「時間と空間」に関するもの、もう一つは「物質の究極像」に関するものです。これら人類の得た新しい知見を題材にして、自然に対する認識を深めることを目標に授業を進めていきます。 なお、春学期開講「物理学Ｉ」の授業で学習した知識があることを前提とします。	1.　はじめに 2.　時間と空間１－電磁気学と相対性原理 3.　時間と空間２－ローレンツ変換 4.　時間と空間３－４次元不変量 5.　時間と空間４－等価原理 6.　時間と空間５－時空の歪み 7.　時間と空間６－ブラックホール 8.　物質の究極像１－元素と原子 9.　物質の究極像２－原子の構造 10.　物質の究極像３－前期量子論 11.　物質の究極像４－量子力学 12.　物質の究極像５－素粒子論 13.　物質の究極像６－統一理論 14.　問題演習 15.　まとめ

到達目標	普遍的、基本的な物理法則について理解を深め、その応用として、私たちの生活に身近なものを物理学的に捉えることができるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポーシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。

13 年度以降	天文学 I	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、恒星や太陽、惑星の見かけの運動のような肉眼で観察できる現象から話を始め、ケプラーの法則、太陽系の様々な天体、太陽系・惑星の形成と話を進める。 身近な天文現象をとおして宇宙に興味を持ってもらうこと、広大な宇宙の中で太陽系とはどのような天体なのかを理解することが講義の目標である。	1．講義内容の紹介、天文学の紹介 2．宇宙観の変遷と現代の太陽系像 3．天球と日周運動 4．太陽の年周運動 5．惑星の見かけの運動 6．会合周期と惑星の公転周期 7．ケプラーの法則の概要とケプラーの第一法則 8．ケプラーの第２法則と第３法則 9．ニュートンの万有引力の法則 10. 太陽系の天体１　太陽 11. 太陽系の天体２　惑星とその衛星 12. 太陽系の天体３　小惑星と彗星、太陽系の外縁 13. 太陽系の形成 14. 太陽系外惑星 15. まとめ

到達目標	天文学について理解を深め、太陽系惑星や地球における各種の天体事象を詳しく解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。
テキスト	教科書は使用しない。資料を PDF ファイルで配布する。
参考文献	小森長生著 新版地学教育講座 12『太陽系と惑星』（東海大出版会）
評価方法	試験 90%， 授業への貢献 10%

13 年度以降	天文学Ⅱ	担当者	内田　俊郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目標は、恒星とはどのようなもので、どのように誕生し、どのような終末を迎えるのか大要を理解することと、我々と恒星の関係を理解することである。 天文学が他の自然科学の分野と大きく異なる点のひとつは、対象を直接調べることができないことである。この講義では恒星の表面から来る光という間接的な情報からどのように恒星の物理量が推定され、そこからどのように恒星の内部や進化が理解できるかを説明していく。	1　講義内容の紹介 2　星の見かけの明るさ 3　星までの距離 4　星の光度と絶対等級 5　星のスペクトルと表面温度 6　ヘルツシュプルンク・ラッセル図（HR図） 7　星の半径と質量 8　星のエネルギー源 9　星の誕生 10　主系列星の性質 11　主系列星以後の変化 12　惑星状星雲と白色矮星 13　超新星 14　中性子星とブラックホール 15　まとめ

到達目標	天文学について理解を深め、太陽系惑星や地球における各種の天体事象を詳しく解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	予習：資料を読んでくる。復習：資料の練習問題を解く。
テキスト	教科書は使用しない。資料を PDF ファイルで配布する。
参考文献	米山忠興著『教養のための天文学講』、中嶋浩一著『天文学入門 星とは何か』
評価方法	試験 90%， 授業への貢献 10%

13 年度以降	生物学 I	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】生命科学の著しい進歩は我々の生活に様々な恩恵を与えてきました。しかしその反面、これまで考える必要のなかった新たな問題を生み出しています。クローン人間、出生前診断、遺伝子操作の是非など我々は様々な判断を迫られています。これらを的確に判断するためには幅広い教養と生物学の知識が不可欠です。新聞やニュースで報道される生命科学の問題に関し、自分自身の頭で判断するための基礎知識を身につけます。 【講義の概要】本講義では細胞レベルの生物学を概説します。講義形式の授業ですが、授業の途中に簡単な実験なども組み込みたいと考えています。	1. はじめに　－履修の注意・キャンパス内の生物の観察－ 2. 生命の誕生　－生命誕生の謎－ 3. 細胞の特徴　－細胞膜の性質－ 4. 細胞の特徴　－細胞小器官とは－ 5. 細胞の観察　－顕微鏡による細胞の観察－ 6. 細胞を構成する物質　－細胞の生存に必要な物質－ 7. 細胞の分裂　－細胞が増えるしくみ－ 8. 染色体　－顕微鏡による染色体の観察－ 9. 遺伝と遺伝子　－子はなぜ親に似る？－ 10. 核酸　－DNAとRNA－ 11. DNAを見る　－DNAの抽出－ 12. タンパク質と酵素　－ホタルの発光と酵素の関係－ 13. プレゼンテーション（1） 14. プレゼンテーション（2） 15. まとめ

到達目標	生物学の基礎、生物の生態環境とその変化および生物の適応について理解し、様々な地域に生息する生物について詳しく解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：指定したテーマに関するレポートを作成し提出してください。
テキスト	資料を配付します。
参考文献	授業で紹介します。
評価方法	期末試験 50%、レポート 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。

13 年度以降	生物学Ⅱ	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の目的】「生物学Ⅰ」と同様に、最新の生命科学を理解するために必要な生物学の基礎知識を身につけます。そして、友人たちとの議論（プレゼンテーションと質疑応答）を通して、さらに深い理解を目指します。 【講義の概要】「生物学Ⅰ」の知識を基礎に、組織や器官レベルの生物学を学習します。講義形式の授業ですが、簡単な実験なども組み込みたいと考えています。１回目の授業で履修の注意点を話しますので、履修希望者は必ず出席してください。また、本講義は「生物学Ⅰ」の知識を持っていることを前提に実施します。「生物学Ⅰ」を履修していない方は注意して下さい。	1. はじめに　－履修の注意－ 2. 身近な生物　－キャンパス内の生物を観察－ 3. 刺激の受容　－眼の構造と働き－ 4. 刺激の受容　－味覚の特徴－ 5. 刺激の受容　－耳、舌、皮膚の構造と働き－ 6. 神経細胞　－体の中の情報伝達－ 7. 筋収縮　－体を動かすしくみ－ 8. 病原体から体を守るしくみ　（1）－体液性免疫－ 9. 病原体から体を守るしくみ　（2）－細胞性免疫－ 10. 寄生生物　－寄生性の多細胞生物－ 11. 寄生生物　－寄生性の単細胞生物－ 12. ウイルス　－インフルエンザ－ 13. プレゼンテーション（1） 14. プレゼンテーション（2） 15. まとめ

到達目標	生物学の基礎、生物の生態環境とその変化および生物の適応について理解し、様々な地域に生息する生物について詳しく解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：指定したテーマに関するレポートを作成し提出してください。
テキスト	資料を配付します。
参考文献	授業で紹介します。
評価方法	期末試験 50%、レポート 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。

13 年度以降	生理学 I	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 生理学はその名の意味するように「生きる」ことの「理（ことわり）」を考える学問である。私たちのからだは60兆個の様々な細胞がそれぞれに役割を担い、協調しながら生命活動を行っている。この講義では生命現象や生体機能の仕組みを学び、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解することを目指す。 〔講義概要〕 本講義では身体の仕組みや機能について概説する。毎回のテーマの中のキーワードについて受講生に割り振り、各自調べて発表する。また学期末に興味を持った「からだ」に関する情報を受講生同士（グループにわかれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 生理学の基礎 - ホメオスタシスって - 3. 血液・体液 - 体の中に海？ - 4. 呼吸・循環 - 息して生きてる・高血圧低血圧 - 5. 消化・吸収 - 食べ物の行方 - 6. 代謝・体温 - からだを温めると健康によい？ - 7. 内分泌 - ホルモン、男らしさ女らしさ 8. 神経 - 「運動神経」がない人はいない！ - 9. 感覚 - 第６感？ - 10. 筋・骨 - からだの屋台骨 - 11. 免疫 - からだの防衛隊 - 12.「からだ」の情報交換会（グループ発表①②③） 13.「からだ」の情報交換会（グループ発表④⑤⑥） 14.「からだ」の情報交換会（グループ発表⑦⑧⑨） 15. 春学期のまとめ

到達目標	生命現象や生体機能の仕組、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解し、各種の生理現象を解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）。
参考文献	『はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ２生理学』『イラストでまなぶ生理学』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%）、授業内レポート（20%）、学期末レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）により総合的に判断する。

13 年度以降	生理学Ⅱ	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
〔講義目的〕 「脳」は身体の機能の司令塔であり、また心の源でもある。そしてまだまだ未知な領域として多くの研究者がその機能の解明に取り組んでいる。この講義では、ヒトの身体制御機構である脳機能について学習し、様々な生理機能との関連を理解することを目指す。 〔講義概要〕 春学期の生理学Ｉで学んだ身体の仕組みや機能の基礎をもとに、秋学期の生理学Ⅱでは私たちの身体の中枢である脳とその機能に焦点をあてて講義する。毎回のテーマの中のキーワードについて受講生に割り振り、各自調べて発表する。また学期末に興味を持った「脳機能」に関する情報を受講生同士（グループに分かれて）で発表・討論することで共有する形式も取り入れる。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 神経科学の基礎 3. 中枢神経系（大脳・小脳・脳幹・脊髄） 4. 末梢神経系 5. ニューロン・シナプス・神経伝達物質 6. 聴覚・平衡感覚・体性感覚 7. 味覚・視覚 8. 脳・脊髄による運動制御 9. 脳と睡眠 - なぜ眠る？ - 10. 学習と記憶 11. 情動 - 好き嫌い - 12.「脳機能」の情報交換会（グループ発表①②③） 13.「脳機能」の情報交換会（グループ発表④⑤⑥） 14.「脳機能」の情報交換会（グループ発表⑦⑧⑨） 15. 秋学期のまとめ

到達目標	生命現象や生体機能の仕組、ヒトの身体の機能系統の器官と働きを理解し、各種の生理現象を解説できるようにする。
事前・事後学修の内容	日常生活上の生理機能について意識し、講義によって得た知識と照らし合わせ理解を深めること
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）。
参考文献	『神経科学テキスト 脳と行動』『神経科学－脳の探求－』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（30%）、授業内レポート（20%）、学期末レポート（30%）、発表（準備を含む：20%）により総合的に判断する。

13 年度以降	地球環境論 I	担当者	大竹　伸郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は地理的なものの見方や考え方を学ぶことで、自然環境の成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化と自然環境の関わりについて理解し、現代社会に関する基礎的な素養を身につけることである。 講義では、現代社会の暮らしの基盤となっている地球の自然環境や各地域によって異なる人文現象（衣食住など）に焦点をあて、人の暮らしと自然の関わりについて講義するとともに、現代の社会生活が起因となっている世界規模の諸問題についても取り上げる。	1　オリエンテーション 2　我々の暮らしと自然環境 3　環境の諸要素①（地球の成り立ちと地形） 4　環境の諸要素②（地球の周りの気団と気候） 5　環境の諸要素③（地球の植生と土壌） 6　環境の諸要素④（地球に暮らす様々な生き物） 7　熱帯地域①（熱帯地域の人々の暮らしと文化） 8　熱帯地域②（焼畑農業と熱帯の稲作） 9　熱帯地域③（東南アジアの熱帯開発と環境問題） 10　熱帯地域④（アマゾニアの熱帯開発と環境問題） 11　乾燥帯地域①（乾燥帯地域の人々の暮らしと文化） 12　乾燥帯地域②（一神教と自然環境） 13　乾燥帯地域③（資源ナショナリズムの台頭） 14　乾燥帯地域④（中東問題の遠因と現状） 15　まとめ

到達目標	地理学における研究アプローチを総合的に理解し、地理学的や見方・考え方を養成しながら地球環境問題に関する諸事象を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。
テキスト	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房
参考文献	特になし
評価方法	定期試験の結果に（80%）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

13 年度以降	地球環境論 II	担当者	大竹　伸郎

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は地理的なものの見方や考え方を学ぶことで、自然環境の成り立ちやそれぞれの地域で育まれた文化と自然環境の関わりについて理解し、現代社会に関する基礎的な素養を身につけることである。 講義では、現代社会の暮らしの基盤となっている地球の自然環境や各地域によって異なる人文現象（衣食住など）に焦点をあて、人の暮らしと自然の関わりについて講義するとともに、現代の社会生活が起因となっている世界規模の諸問題についても取り上げる。	1　オリエンテーション 2　温帯地域①（温帯地域の特徴と人々の暮らし） 3　温帯地域②（地中海性気候の人々の暮らしと文化） 4　温帯地域③（大陸西岸気候の人々の暮らしと文化） 5　温帯地域④（モンスーン気候の人々暮らしと文化） 6　温帯地域⑤（北米西部地域の人々の暮らしと文化） 7　温帯地域⑥（北米東部地域の人々の暮らしと文化） 8　冷帯地域　（冷帯地域の人々の暮らしと文化） 9　寒帯地域　（寒帯地域の人々の暮らしと文化） 10　山地地域　（山地地域の暮らしと文化） 11　世界の環境問題①（人口問題と食料） 12　世界の環境問題②（越境する大気汚染） 13　世界の環境問題③（増え続ける廃棄物と地球環境） 14　世界の環境問題④（我々の暮らしと地球温暖化） 15　まとめ

到達目標	地理学における研究アプローチを総合的に理解し、地理学的や見方・考え方を養成しながら地球環境問題に関する諸事象を分析のうえ、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定された箇所を事前に精読する。授業後には配布資料により学修内容を整理する。
テキスト	山本正三・犬井正他編『自然環境と文化』原書房
参考文献	特になし
評価方法	定期試験の結果に（80%）によって評価するが、平常授業におけるレポートなどの実績（20%）も評価対象とする。

13 年度以降	コンピュータと言語	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。さらに、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1. 講義の概要、データ表現、基数変換、論理演算 2. オペレーティングシステム（OS） 3. データ構造―リスト、スタック、キュー、2分木 4. アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 5. プログラム言語 6. プログラミングの仕組み 7. コンピュータの構成要素 8. 自然言語とは 9. コンピュータによる言語情報処理技術（1） 10. コンピュータによる言語情報処理技術（2） 11. 人工知能と言語処理 12. 情報検索と質問応答システム 13. インターネット上の多言語処理技術 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの関係、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組などを理解し、コンピュータ言語を処理できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。
テキスト	学内ネットに開示するテキストを使用します。
参考文献	特にありません。
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%です。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	情報科学各論Ⅰ	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用を取得することを目的とする。そのためにワープロを中心として書類や文書の作成方法を中心とする。また、インターネットの有益は利用についても重きを置く。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業をすすめる。そのため欠席や遅刻をしないこと、やむを得ず欠席した場合には必ず自習して後れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンス、ＰＣの基本操作 2. ＯＳとＯｆｆｉｃｅの基礎 3. 種々の日本語入力方法 4. 効果的な文章のまとめ方（箇条書きの注意）Ⅰ 5. 効果的な文章のまとめ方（箇条書きの注意）Ⅱ 6. データのまとめ方（表の作成）Ⅰ 7. データのまとめ方（表の作成）Ⅱ 8. 英文ワープロ 9. ペイントによるＣＧの初歩 10. 画像ファイルのサイズについて 11. 画像ファイルや写真ファイルの貼り付け 12. Ｗｏｒｄに含まれる図形の使い方　ワードアート 13. 図形の貼り付けに際しての注意 14. ホームページの取り込み（スクリーンショット） 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	日本語入力については、ローマ字入力とするから、復習しておくこと
テキスト	文科系学生のための情報活用　[CD 付]　情報教育研究会　編　共立出版
参考文献	特になし
評価方法	複数回課す課題の提出を持って評価する

13 年度以降	情報科学各論Ⅱ	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、エクセルの使い方を中心としてデータの整理などについて学習する。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと、やむなく欠席をした場合には、必ず自習をして遅れを取り戻すことは必須である。 なお、受講生の習熟度によって速度、扱う内容が多少変化することもあり得る。	1. ガイダンス、基本操作の確認 2. 表の編集、データ入力（オートフィルの使い方） 3. 計算式、セル参照方法の注意Ⅰ 4. 計算式、セル参照方法の注意Ⅱ 5. 計算式、セル参照方法の注意Ⅲ 6. フィルタによる抽出 7. 関数の利用Ⅰ 8. 関数の利用Ⅱ 9. 関数の利用Ⅲ 10. グラフの作成Ⅰ 11. グラフの作成Ⅱ 12. データの整理、並べ替え 13. ワードとの連携 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	日本語入力については習熟しておくこと
テキスト	文科系学生のための情報活用　[CD 付]　情報教育研究会　編　共立出版
参考文献	特になし
評価方法	複数回課す課題の提出を持って評価する

13 年度以降	情報科学各論Ⅱ	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、エクセルの使い方を中心としてデータの整理などについて学習する。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと、やむなく欠席をした場合には、必ず自習をして遅れを取り戻すことは必須である。 なお、受講生の習熟度によって速度、扱う内容が多少変化することもあり得る。	1. ガイダンス、基本操作の確認 2. 表の編集、データ入力（オートフィルの使い方） 3. 計算式、セル参照方法の注意Ⅰ 4. 計算式、セル参照方法の注意Ⅱ 5. 計算式、セル参照方法の注意Ⅲ 6. フィルタによる抽出 7. 関数の利用Ⅰ 8. 関数の利用Ⅱ 9. 関数の利用Ⅲ 10. グラフの作成Ⅰ 11. グラフの作成Ⅱ 12. データの整理、並べ替え 13. ワードとの連携 14. まとめ 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	日本語入力については習熟しておくこと
テキスト	文科系学生のための情報活用　[CD 付]　情報教育研究会　編　共立出版
参考文献	特になし
評価方法	複数回課す課題の提出を持って評価する

13 年度以降	情報科学各論Ⅰ	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用を取得することを目的とする。そのためにワープロを中心として書類や文書の作成方法を中心とする。また、インターネットの有益は利用についても重きを置く。なお、受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業をすすめる。そのため欠席や遅刻をしないこと、やむを得ず欠席した場合には必ず自習して後れを取り戻しておくこと。	1. ガイダンス、ＰＣの基本操作 2. ＯＳとＯｆｆｉｃｅの基礎 3. 種々の日本語入力方法 4. 効果的な文章のまとめ方（箇条書きの注意）Ⅰ 5. 効果的な文章のまとめ方（箇条書きの注意）Ⅱ 6. データのまとめ方（表の作成）Ⅰ 7. データのまとめ方（表の作成）Ⅱ 8. 英文ワープロ 9. ペイントによるＣＧの初歩 10. 画像ファイルのサイズについて 11. 画像ファイルや写真ファイルの貼り付け 12. Ｗｏｒｄに含まれる図形の使い方　ワードアート 13. 図形の貼り付けに際しての注意 14. ホームページの取り込み（スクリーンショット） 15. まとめ

到達目標	コンピュータの応用理論およびアプリケーションソフトに関する知識を習得し、コンピュータを用途に応じて操作できるようにする。
事前・事後学修の内容	日本語入力については、ローマ字入力とするから、復習しておくこと
テキスト	文科系学生のための情報活用　[CD 付]　情報教育研究会　編　共立出版
参考文献	特になし
評価方法	複数回課す課題の提出をもって評価する

13 年度以降	データ構造とアルゴリズム論	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】データ構造とアルゴリズムは難しそうなイメージであるが、実は日常の生活と仕事の中でよく利用する身近なものである。情報爆発といわれる現代社会において、いかにデータを構造化し、必要なアルゴリズムで素早く処理する能力は不可欠である。本講義は実習を通してデータ構造とアルゴリズムに対する理解を深めることを目的とする。 【概要】データ構造とアルゴリズムに関する基本的な理論と方法について、講義形式とパソコンを使った実習形式で体験する。講義内容は、文系の学生でも理解できるように、ゲームを取り入れ、体験しながら学ぶ。 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。	1. 講義の概要、基礎知識、目標 2. リスト 3. スタックとキュー 4. 再帰 5. 計算量解析 6. 解析木 7. 二分探索木 8. ソート１ 9. ソート２ 10. 二分探索 11. 平衡木 12. ハッシュ 13. グラフ 14. 動的計画法 15. 授業のまとめ

到達目標	データ構造とアルゴリズムについて理解し、アルゴリズムを駆使したプログラミングができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する。 また、出される課題やレポートなどを完成して提出する。
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する。
参考文献	参考サイト：http://www.ieice-hbkb.org/portal/doc_579.html
評価方法	授業の参加態度（20%）、レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。

13 年度以降	データベース論	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】本講義は、Microsoft Office Access を利用して、データベースの概念、設計、構築手法について学習する。 【概要】データベースの歴史から始め、データベースの概念や、設計方法や、構築手法などを解説しながら、Microsoft Office Access というソフトウェイアを利用して、実際の操作を行う。さらに、実習問題を通して、データベースの概念及び設計に対する理解を深める。 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。	1. 授業ガイダンス 2. データベース概論（1）：概念と歴史と種類 3. データベース概論（2）：設計方法と構築手法 4. Microsoft Office Access 入門 5. Microsoft Office Access 基本操作（1） 6. Microsoft Office Access 基本操作（2） 7. Microsoft Office Access 基本操作（3） 8. テーブルの構築と操作（1） 9. テーブルの構築と操作（2） 10. クエリ（1） 11. クエリ（2） 12. リレーションシップの構築 13. レポートの印刷 14. 総合演習 15. 授業のまとめ

到達目標	データベースの概念と設計方法について理解し、アプリケーションソフトを用いて、実際にデータベースの操作と構築ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する。 また、出される課題やレポートなどを解答して提出する。
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する。
参考文献	三好 康之『データベーススペシャリスト 2018 年版』
評価方法	授業の参加態度（20%）、レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。

13 年度以降	社会調査法	担当者	田端　章明

講義目的、講義概要	授業計画
「社会調査法」とは、社会学における調査手法の総称です。この講義では社会調査の代表的な手法を紹介し、実習をまじえながら理解を深めていきます。 この講義の目的は2つあります。1つは、現代社会に氾濫するデータとの接し方を理解し、データに振り回されないようになることです。もう1つは、レポートや卒論を書く際に、間違ったデータを引用したり、いいかげんな調査をしたりしないようになることです。 なお、調査法の実習では、自分（たち）でテーマを考え、調査を進めることになります。だからこの講義では、積極的かつ柔軟に疑問に取り組み続けられる人を歓迎します。 ※履修者数などの条件により、授業計画を変更する場合があります。あらかじめご了承ください。	1. 講義の概要、さしあたり「社会調査」とは 2. 調査計画（1）まず「テーマ」を提起する 3. 調査計画（2）先行研究を調べ上げる 4. 調査計画（3）先行研究を精査する 5. データの収集（1）知りたいことを挙げてみる 6. データの収集（2）インタビューをしてみる 7. データの収集（3）インタビューを突き合せる 8. データの収集（4）質問紙をつくる 9. データの収集（5）プレテスト 10. データの分析（1）データ入力とクリーニング 11. データの分析（2）自由回答のコーディング 12. データの分析（3）単純集計とクロス集計 13. データの分析（4）データから知見を引き出す 14. データの分析（5）調査報告書にまとめる 15. 講義のまとめ、あらためて「社会調査」とは

到達目標	統計的、あるいは記述的な調査手法について理解し、実際に社会調査ができるようにする。
事前・事後学修の内容	授業時間外に調査案の作成、文献調査、データの収集・入力・分析などの作業をしてもらいます
テキスト	テキストは使用しません。
参考文献	参考文献は授業の中で紹介します。
評価方法	調査報告書 40%、その他の提出物 40%、授業への参加度 20%

13 年度以降	統計と調査法	担当者	安間　一雄

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的 基礎的な統計手法の学習とその背景にあるデータの性質の理解を通して科学的なものの考え方を身につける。 授業概要 ・1世帯当たりの平均年間所得は約600万円→実感と違うのはなぜ？ ・この店の料理とあの店の料理はどっちがおいしい？→違いがあるとは？ ・「どっきょ」まで入力したら次に最も来やすい文字は何？→確率が高いとは？ 私達は常にこのようなデータに囲まれており、それを巧みに利用しながら生活している。「大まかな感覚」は大切な知恵ではあるが、より客観的で厳密な判断ができればさらに賢い生活をすることができる。この授業では日常的なデータを素材として、その性質を記述し、現象の本質を推測できるように、科学的な分析方法を使うことを学ぶ。基礎的な統計手法を学ぶことで身の回りの世界を客観的に理解することを目標とする。授業期間の後半は、自分たちで収集したクイズ問題の解答をさまざまな角度から分析し、前半で学んだ理論の応用を試みる。	1. 統計量の種類（量的変量・質的変量）：比例変量，間隔変量，順位変量，名義変量 2. アンケートの取りかた，クイズ問題作成説明 3. 度数分布，相対度数，度数分布表 4. 量的変数のグラフ表現，質的変数のグラフ表現 5. 代表値（平均値，中央値，最頻値），値の広がり，能力テストと到達度テスト 6. 正規分布，散布度（標準偏差），歪度，尖度，標準得点，偏差値 7. クイズ問題解答集計 8. 信頼性係数，項目分析，ロジスティック回帰分析 9. 記述統計と推測統計，仮説（帰無仮説，対立仮説） 10. 相関散布図，相関係数，回帰直線，欠損値の推定，相関検定 11. 対応がない場合の検定，分散分析 12. 対応がある場合の検定，プリテスト・ポストテスト，時系列分析 13. クロス集計，カイ二乗検定 14. 多変量解析(1) 主成分分析・因子分析・クラスター分析 15. 多変量解析(2) 要因計画法・重回帰分析・対応分析

到達目標	統計学の基礎的概念を理解し、的確な手法を選択して、実際に統計調査ができるようにする。
事前・事後学修の内容	各回とも十分な予習・復習を必要とする。また、課題は必ず提出しなければならない。
テキスト	授業において資料を配付する
参考文献	内田治『数量化理論とテキストマイニング』（日科技連、 2010）ISBN 978-4-8171-9292-9
評価方法	定期試験（授業への積極的参加度により評価を加減する）。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究 （世界の宗教と文化－一神教と多神教）	担当者	古川　堅治

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、世界史的にこれまで大きな役割を果たしてきた地中海世界の「宗教と文化」に焦点を絞り、キリスト教という一神教が成立する過程を歴史的に考察することにより、宗教と文化を含む歴史がいかに密接に関連し、しかも人々の考え方、生き方（心性）の変化と連動しているかをさぐることで、現代の私たちの自己認識や帰属意識がどこに由来するかを考えることを目的にしています。 講義は、概説的に進めて行きますが、関連するテーマのビデオや映画、DVDなどの映像資料もできるだけ使って理解を深めるのに役立てたいと考えています。この授業では、細かな年代や事項を知識として知ってもらおうというよりは、それぞれのテーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼においているので、積極的かつ活発な質問や意見が出ることが期待されています。その意味でも、自由な発言ができる雰囲気で進めて行きます。	１．　はじめに（講義の目的、概要、その他） ２．　メソポタミアの宗教と文化：可死の人間と不死の神 ３．　エジプトの宗教と文化（１）来世信仰とピラミッド ４．　同（２）一神教革命とツタンカーメンの死 ５．　パレスティナ地域の宗教と文化（１）カナンの宗教 ６．　同（２）イスラエルの民とユダヤ教 ７．　ギリシアの宗教と文化（１）オリンポスの神々 ８．　同（２）密儀宗教（エレウシスの密儀など） ９．　ヘレニズムの宗教と文化（１）コスモポリタニズム １０．同（２）諸神の習合（シンクレティズム） １１．ローマ帝国の宗教と文化（１）キリスト教の成立 １２．同（２）グノーシス主義 １３．同（３）キリスト教会の確立 １４．多神教から一神教への道筋 １５．まとめ（総括と展望）

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	配布されたプリントの指定された箇所を事前に精読して、必要に応じて参考文献を読んでおいて下さい。また、毎回出される課題に答えて、授業後あるいは次回に提出して下さい。
テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布します。
参考文献	初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布します。それ以外に各授業の際に、追加の参考文献を紹介することがあります。
評価方法	定期のレポート６０％、毎回の課題２０％、授業の参加度２０％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（思想と文化）	担当者	林　永強

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は文化、また日本文化とは何かを哲学的に考察する。方法としての哲学は、普遍性かつ説得力をもつ文化論を掘り出していきたい。 具体的には、文化の定義、方法論、基礎、構造、さらに現代における多文化世界への意義という五つの課題を取り上げ、近代日本哲学における文化論より、文化そのもの、そして日本文化を再考する。 授業の進行としては、各課題の文献に沿って概説する一方、発表を通して議論する。留学生を含め、英語にて講義やディスカッションがなされる場合もありうる。各自の思索により、新たな文化論を作り出す。	1. イントロダクション 2. 文化の定義 3. 文化の哲学的方法論 4. 文化の基礎Ⅰ：西田幾多郎の文化基礎論 5. 文化の基礎Ⅱ：西田幾多郎の日本文化基礎論 6. 文化の構造Ⅰ：和辻哲郎の風土論 7. 文化の構造Ⅱ：和辻哲郎の日本季節文化論 8. 文化の構造Ⅲ：九鬼周造の民族文化論 9. 文化の構造Ⅳ：九鬼周造の意味体験日本文化論 10. 文化の構造Ⅴ：鶴見俊輔の鎖国文化論 11. 文化の構造Ⅵ：鶴見俊輔の戦後日本文化論 12. 文化多様性の意義Ⅰ：加藤周一の近代文化論 13. 文化多様性の意義Ⅱ：加藤周一の多元文化論 14. 文化多様性の意義Ⅲ：加藤周一の雑種的日本文化論 15. まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	文献を事前に精読し、授業中に積極的に議論する。
テキスト	授業時に適宜指示
参考文献	授業時に適宜指示
評価方法	発表及び議論（40%）、レポート（60%）

13 年度以降	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化 a）	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 地中海周辺地域は古代より多彩な文化や世界的な宗教を生み出し、世界史上重要な役割を担ってきました。この地域について学ぶことにより、幅広い世界観を養い、国際的な視野や教養を身につけることを目指します。 【講義概要】 古代ギリシアに焦点を当て、その歴史や宗教、文化について講義していきます。	１．　イントロダクション ２．　ミノア文化 ３．　ミケーネ文化 ４．　初期鉄器時代 ５．　ホメロスと神話 ６．　前古典期 ７．　古典期の歴史と文化 ８．　古典期の宗教とその儀式 ９．　ヘレニズム時代 １０．神殿とその建築 １１．彫刻と神々の像 １２．各聖域とその特性（１）オリンピア １３．各聖域とその特性（２）エピダウロス １４．各聖域とその特性（３）デルフォイ １５．まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後復習すると同時に、興味を持った箇所をさらに掘り下げるべく、参考文献を精読してください。
テキスト	特になし。
参考文献	配布資料を使用します。参考文献は適宜指示します。
評価方法	レポート　１００％

13 年度以降	総合科学特殊研究（地中海世界の宗教と文化 b）	担当者	髙橋　裕子

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 同上。 【講義概要】 地中海周辺地域の宗教や文化を幅広く講義していきます。現代にいたるまで多大な影響を与えている地中海周辺地域の多様な歴史や宗教、文化を扱います。	１．　イントロダクション ２．　エトルリアの宗教と文化 ３．　ローマ帝国の宗教と歴史（１）共和政前期 ４．　ローマ帝国の宗教と歴史（２）共和政後期 ５．　ローマ帝国の宗教と歴史（３）帝政 ６．　キリスト教（１）誕生 ７．　キリスト教（２）迫害 ８．　キリスト教（３）発展 ９．　ビザンツ帝国（１）歴史的概要 １０．ビザンツ帝国（２）ギリシア正教 １１．ユダヤ人の歴史と宗教（１）旧約聖書と歴史 １２．ユダヤ人の歴史と宗教（２）ローマ帝国の支配 １３．両シチリア王国（１）歴史的概要 １４．両シチリア王国（２）宗教的融合 １５．まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業後復習すると同時に、興味を持った箇所をさらに掘り下げるべく、参考文献を精読してください。
テキスト	特になし。
参考文献	配布資料を使用します。参考文献は適宜指示します。
評価方法	レポート　１００％

13 年度以降	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術 a）	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラブと聞いて、多くの人はまず何を思い浮かべるでしょうか。石油や砂漠、テレビのニュースで見る戦場やテロの報道、戒律が厳しいと言われるイスラームや女性の抑圧、混乱を招いた「アラブの春」、そしてトンネルの先が見えないパレスチナ問題など、「怖い」「暗い」「分かりにくい」といったネガティブなイメージが強いのではないでしょうか。 しかし、テレビで報道されるアラブ像はアラブ世界のほんの小さな一面でしかなく、しかも中には歪曲されたイメージも少なからず紛れ込んでいます。そういったイメージの蓄積によって作り上げられるステレオタイプを打破しようというのがこの講座の目的です。 アラブの芸術、芸能、文学、そして生活文化を通してアラブ人の心と表現世界に親しみ、みなさん独自のアラブ像を形成してもらいたいと思います。	１．イントロダクション：アラブ人とは？ ２．「イスラム」と「イスラーム」 ３．「イスラム」と「イスラーム」 ４．ムスリムにとって「クルアーン」とは ５．アラブ人の生活文化　１）食生活と祭 ６．アラブ人の生活文化　２）家族・女性 ７．アラブ音楽入門 I ８．アラブ音楽入門 II ９．パレスチナ問題と芸術　１）ドキュメンタリー 「五つのカメラが壊された」鑑賞・ディスカッション １０．２）ドキュメンタリー　「レインボー」 １１．３）演劇「アライブ・フロム・パレスチナ」鑑賞 １２．演劇鑑賞レポート提出・ディスカッション １３．４）小説　ガッサーン・カナファーニ著 中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」 １４．５）詩人　「パレスチナの声」M・ダルウィーシュ １５．まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ガッサーン・カナファーニの課題図書をできるだけ早く 図書館で入手して読み始めてください
テキスト	課題図書：ガッサーン・カナファーニ著　中編「太陽の男たち」「ハイファに戻って」　読後レポート提出・ディスカッションが評価の大きなポイントになります
参考文献	テーマが多岐にわたるため、その都度、講義で紹介します。
評価方法	演劇鑑賞後レポート、小説読後レポートに重点を置く(70%)ほか、積極的な授業参加(30%)も考慮に入れます。

13 年度以降	総合科学特殊研究（アラブ文化・芸術 b）	担当者	師岡 カリーマ エルサムニー

講義目的、講義概要	授業計画
アラブの芸術といえば，世界一有名なファンタジー，そして SF の原点とも言われる「千夜一夜物語」がまず浮びますが，同時にアラブの文化は詩人の文化であり，また非常に洗練された音楽芸術を育んできました。近年ではノーベル文学賞に輝いたナギーブ・マハフーズやカンヌ映画祭で表彰された映画監督ヨーセフ・シャヒーンなど、国際的な評価を得ている芸術家も少なくありません。この講座ではまず誤解の多いイスラームの解説も交えながら、宗教が今も深く根付いている生活文化を知ると同時に、音楽、映画、演劇、文学作品を味わいながら、楽しく真剣にアラブ人の社会やメンタリティーを探っていきます。 ディスカッションには積極的に参加し、反対意見を恐れずにどんどん自己主張してください。	1. 後期イントロダクション―アラブの日常 2. アラブの芸能界と歌謡曲（1） 3. アラブの芸能界と歌謡曲（2） 4. ノーベル賞作家 N.マフフーズの小説「バイナル・カスライン（「張り出し窓の街」）を理解するためのエジプト近代史 5. アラビアンナイトは逆輸入？「千夜一夜物語」 6. レバノン映画「キャラメル」とアラブ女性 7. 映画鑑賞レポート提出・ディスカッション 8. ハリウッド映画になったアラブ旅行文学 9. マルコ・ポーロよりすごい中世アラブの旅行家 10. イスラームというファクターを正しく理解する 11. アラブ文化は詩の文化：イスラームより古いアラブの詩 12. 詩の文化（続き）：中世ヒップホップと恋愛歌 13. 詩の文化（続き）：映像で見る現代のアイドル詩人 14. 小説「バイナルカスライン」（新訳タイトル：「張り出し窓の街」）読後レポート提出 15. まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ナギーブ・マフフーズの課題図書をできるだけ早く 図書館で入手して読み始めてください
テキスト	課題図書：ナギーブ・マフフーズ著「バイナルカスライン」（新訳タイトル：「張り出し窓の街」）
参考文献	テーマが多岐にわたるため、その都度、講義で紹介します。
評価方法	演劇鑑賞後レポート、小説読後レポートに重点を置く(70%)ほか、積極的な授業参加(30%)も考慮に入れます。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（科学技術と社会 b）	担当者	野澤　聡

講義目的、講義概要	授業計画
我々は科学技術に囲まれて生きている。科学技術は宇宙や生命の謎を解き明かしたり、新しい治療薬や画期的な通信手段を作り出したりして、我々の人生や生活を豊かにする。他方、インターネットを利用したサイバーテロや、受精卵のゲノム編集のように、我々の安全を脅かしたり、生命観を揺るがしたりする問題も発生している。2011年3月11日の東日本大震災と、その後に発生した東京電力福島第一原子力発電所の事故は、我々が科学技術と社会との関係を真剣に考えなければならないことを示している。 この講義では、科学技術と社会との関わりを示す代表的な事例とその意義を理解し、科学技術と社会との関わりを学ぶことによって、社会の中で科学技術を生かにはどうしたらよいのか考えることを目的とする。	1. イントロダクション、科学、技術、社会とは 2. 科学技術とイノベーション 3. タームペーパーの書き方について 4. 科学技術の発達は人々の仕事を奪うか 5. 公害と科学技術 6. 気候変動問題と科学技術 7. 気候変動問題の解決に向けて 8. 知的財産と科学技術 9. 製造物責任と科学技術 10. 研究不正を考える 11. 科学者の社会的責任 12. 巨大科学技術と社会 13. なぜ理系に進む女性は少ないのか 14. 専門家と市民との関係 15. 科学技術政策

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	タームペーパー（期末レポート）作成に向けて、各自で文献調査をおこない、執筆を進める。
テキスト	なし。
参考文献	参考になる文献や Web 資料などを随時紹介する。
評価方法	タームペーパー（期末レポート）（約 8 割）と、獨協大学レポート用紙の記述（約 2 割）により評価する。

13 年度以降	総合科学特殊研究（宇宙論 a）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 a 」では、まず、近代科学以前の宇宙論を概観し、次に、近代的宇宙観の成立と現代的宇宙観の成立を見ていきます。そして、現代宇宙論で確立されたビッグバン宇宙について解説します。	1. はじめに 2. 近代科学以前の宇宙論 3. 天体の運行法則の発見と新たな宇宙像の誕生 4. ガリレイによる動力学の発見と相対性原理 5. ニュートン力学とニュートン的宇宙観 6. ニュートン的宇宙観の発展と電磁気学の成立 7. ニュートン的宇宙観への批判と特殊相対性理論の成立 8. 同時概念・時間概念の相対性 9. 空間概念の相対性と新しい時間空間概念の成立 10. 等価原理と一般相対性理論の成立 11. アインシュタイン方程式と時空の歪み 12. 宇宙の時間的・空間的広がりと宇宙の一様性・等方性 13. 膨張宇宙論 14. ビッグバン宇宙論 15. まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポートシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。

13 年度以降	総合科学特殊研究（宇宙論 b）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
「宇宙論」とは、宇宙の全体としての構造や進化を研究する学問です。人類は古代から、自分たちを取り囲む宇宙やその起源について思索してきました。かつて、それらは哲学や宗教の言葉で語られてきましたが、近代科学が成立して以降、科学的な研究の対象となりました。現代では、観測機器や技術の発達により、より精密に検証のできる科学の一分野となっています。一方で、宇宙の全体としての姿は、人間が生きる時間や空間をはるかに超えており、その探求には、哲学的視点や人間の価値観が入り込む余地があります。人間の豊かな知的活動の場である「宇宙論」に触れ、自然と人間とのかかわりについての理解を深めることを目標に、講義を進めていきます。 「宇宙論 b 」では、現代宇宙論において近年得られた知見について解説します。 なお、春学期開講「宇宙論 a 」の内容についての知識があることを前提に講義を進めます。	1. はじめに 2. 宇宙論が対象とする宇宙 3. 宇宙の階層構造 4. 物質の階層構造 5. 膨張宇宙の観測 6. 膨張宇宙の理論 7. ビッグバン理論と物質の形成 8. 宇宙の構造形成 9. 物質の究極像 10. 宇宙の進化 11. ビッグバン理論の問題点 12. インフレーション宇宙 13. 宇宙の特異点と量子宇宙論 14. 超ひも理論と膜宇宙 15. まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前に授業で使うスライドのハンドアウトをポータルサイトに上げておきます。予習してください。 毎回出される課題は「授業レポートシステム」で結果を確認し、復習しておいてください。
テキスト	なし
参考文献	佐藤勝彦『宇宙論入門』（岩波新書 2008 年）
評価方法	毎回の授業における「授業レポート」の評価を総合して評価する。

13 年度以降	総合科学特殊研究（自然観察 a）	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】この授業では、様々な実験と観察を行い生物学の基礎を学びます。さらに、その結果をレポートにまとめる作業を通して、論理的な文章の書き方を学びます。 【概要】身近な生物を用いて実験および観察を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。実験では衣服が汚れることがありますので、汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※受講する学生は2回目の授業までに実習費（¥2,000）を支払う必要があります。	1. 海と生命　－海水を調べる－ 2. 細胞分裂の観察　－植物の根の細胞分裂を観察－ 3. 寄生生物の観察　－食べたら痛い!? 魚に潜む寄生虫－ 4. 微生物の有用性　－味噌造りにおける微生物の役割－ 5. 光合成色素の観察　－ペーパークロマトグラフィー－ 6. 光合成と糖質　－ジャガイモからデンプンを精製－ 7. タンパク質の性質　―豆腐造りから考える－ 8. 脂質の性質　－バター造りから考える－ 9. 多糖類の性質　－テングサとカンテン－ 10. 動物組織の観察（1）－メダカの色素胞を観察－ 11. 動物組織の観察（2）－ムラサキイガイの鰓を観察 12. 動物組織の観察（3）－イカの神経系を観察－ 13. 原生生物の観察　－アメーバの観察－ 14. 発生の観察　－ムラサキウニの発生を観察－ 15. プレゼンテーション

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：毎回レポートを作成して提出してください。
テキスト	資料を配付します。
参考文献	授業で紹介します。
評価方法	レポート 50%、期末試験の結果 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。

13 年度以降	総合科学特殊研究（自然観察 b）	担当者	飯泉　恭一

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】この授業では、様々な実験と観察を行い生物学の基礎を学びます。さらに、プレゼンテーション（生物学において興味をもった内容）を実施することで、聴衆が理解しやすい発表方法を身につけます。 【概要】身近な生物を用いて実験および観察を行います。初回に注意事項を説明しますので、受講する意思のある学生は必ず出席して下さい。実験では衣服が汚れることがありますので、汚れてもよい服を着用してください。 【注意】天候により生物の採集（または購入）が困難な場合、実験の順番や内容を変えることがあります。 ※受講する学生は2回目の授業までに実習費（¥2,000）を支払う必要があります。	1. 動物の再生　－プラナリアの再生を観察－ 2. 微生物の有用性　－酵母による発酵を観察－ 3. 核酸　－ブロッコリーからDNAを抽出－ 4. 刺胞動物　－ヒドラの摂食行動を観察－ 5. 光合成　－葉緑体の観察－ 6. 酵素の性質　－様々な酵素の性質を調べる－ 7. 微生物の観察　－カビ（麹）の観察－ 8. 染色体の特徴　－ユスリカ唾腺染色体の観察－ 9. 節足動物の観察　－クルマエビの心臓と神経系を観察－ 10. 魚類　－魚類の標本を作製－ 11. 葉の観察　－葉脈標本の作製－ 12. 生体高分子の性質　－ソーセージ造りで考える－ 13. 発生の観察　－バフンウニの発生を観察－ 14. プレゼンテーション 15. まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	事前学修：授業の最後に次回の概要を伝えますので、図書館等で関連文献を熟読してください。 事後学修：毎回レポートを作成して提出してください。
テキスト	資料を配付します。
参考文献	授業で紹介します。
評価方法	レポート 50%、期末試験の結果 30%、授業への参加度（質問・発言など）20%で評価します。

13 年度以降	総合科学特殊研究（サイエンスライティング a）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 春学期「サイエンスライティング a 」では、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物の中のあるテーマについて文章にまとめる作業を通して、科学について書く能力を高めていきます。	1.　はじめに 2.　「地球外文明」に関する講義内容をまとめる 3.　まとめ文の添削・講評・修正 4.　「古代の物質観」に関する講義内容をまとめる 5.　まとめ文の添削・講評・修正 6.　「地球科学」に関するビデオの内容をまとめる 7.　まとめ文の添削・講評・修正 8.　「生命科学」に関するビデオの内容をまとめる 9.　まとめ文の添削・講評・修正 10.　「プリンキピア」に関する本の内容をまとめる 11.　まとめ文の添削・講評・修正 12.　「疑似科学」に関する本の内容をまとめる 13.　まとめ文の添削・講評・修正 14.　まとめ文全体の講評 15.　まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	各テーマにおける「まとめ文」の完成度を総合的に評価する

13 年度以降	総合科学特殊研究（サイエンスライティング b）	担当者	東　孝博

講義目的、講義概要	授業計画
サイエンスライティングとは「科学について書く」ということです。広くとらえれば科学論文も含みますが、ここでは、科学研究を専門としない人々が、科学に関する一般向け解説や新聞・雑誌の記事、科学読み物・エッセイ等を書くことを指すこととします。 サイエンスライティングは科学についての知識・理解を教養として高めるだけでなく、文章を通して考えていることを人々に伝える実践ともなります。これは、書く内容がサイエンスに限らずあらゆる分野に応用でき、社会に出てからも役に立つことです。 秋学期「サイエンスライティング b 」では、春学期「サイエンスライティング a 」での実践を前提に、科学に関する一般向けの講義、ビデオ、書物等の解説文を実際に書くという作業を通して、文章力をさらに高めていきます。	1.　はじめに 2.　科学に関する講義を聴く 3.　科学に関する講義の解説文を書く 4.　添削と講評を基に書き直し 5.　科学に関する論文形式の文章を読む 6.　科学に関する論文形式の文章の解説文を書く 7.　添削と講評を基に書き直し 8.　科学に関するビデオを見て、その解説文を書く 9.　添削と講評を基に書き直し 10.　科学者へのインタビューをし、その記事を書く 11.　添削と講評を基に書き直し 12.　科学に関する本を読む 13.　科学に関する本の解説文を書く 14.　添削と講評を基に書き直し 15.　まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ライティングの添削と講評を基に書き直したものを毎回提出
テキスト	なし
参考文献	授業中に紹介
評価方法	各テーマにおける「解説文」の完成度を総合的に評価する

13 年度以降	総合科学特殊研究（情報検索演習）	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】情報爆発といわれている現代社会において、情報検索の技術を駆使し、いかに必要な情報を素早く、的確に見つける能力は不可欠である。本講義は情報検索の仕組を解説し、実習を通して「情報検索力」を身に付けることを目的とする。 【概要】情報検索システムの基本的な理論と方法について、講義と実習形式で解説する。 講義内容は、文系の学生でも理解できるように、情報検索の歴史、情報検索ための情報収集、情報整理、情報抽出、情報評価の順番で説明する。 【受講者への要望】講義と実習を織り交ぜて授業を進めるため、休まず出席すること。	1. 授業ガイダンス 2. 情報検索の基本（1）：パソコンの世界 3. 情報検索の基本（2）：情報の表現 4. 情報検索の基本（3）：データベース 5. 情報検索の種類 6. 情報検索システムの構成と役割 7. 情報の収集 8. 情報の整理（1） 9. 情報の整理（2） 10. 情報の抽出（1） 11. 情報の抽出（2） 12. 情報の検索と評価 13. 情報検索システムの例：図書検索 14. 情報検索システムの例：ネット検索 15. まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	授業で指示した予習内容を事前に精読する。 また、出される課題やレポートなどを解答して提出する。
テキスト	授業中に関連資料・テキストを配布する。
参考文献	原田、江草、小山、澤井共著『情報検索演習』
評価方法	授業の参加態度（20%）、レポート（20%）及び筆記試験（60%）により総合的に評価する。

13 年度以降	総合科学特殊研究（コンピュータ構造論）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。単にコンピュータの操作技術を習熟するということではなく、その基礎となる原理を理解することにより、情報やそのシステムをより有用な道具として使いこなす能力を身に付けることができます。本講義では、（1）情報に関する基本的な概念、（2）コミュニケーションにおける情報とその処理に関する基礎的な素養、（3）情報システムに関する基礎的な素養、（4）情報社会に関する基礎的な理解などの修得を目標とします。（5）コンピュータの最新技術を紹介します。本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説し、数回の演習も実施します。	1. 授業のガイダンスとコンピュータ技術の概要 2. ファイル編成とデータベース 3. データベース管理システム（DBMS） 4. SQL言語とデータベース演習 5. コンピュータ・ネットワーク 6. インターネットの仕組みとサービス 7. モノのインターネット（IoT）とは 8. セキュリティ、暗号システム、電子認証 9. コンピュータのハードウェア構造 10. マン・マシンインータフェス 11. 情報システムを支える技術 12. ソフトウェア開発手順 13. 人工知能とは 14. 総合演習 15. 授業のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの指定される内容を予習し、前回出される課題を次回に提出してください。
テキスト	学内ネットに開示するテキストを使用します。
参考文献	特にありません。
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%です。

13 年度以降	総合科学特殊研究（自然言語処理 a）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然」言語といます。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものです。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とします。 本講義では、自然言語処理の基礎技術について解説します。ここでは、自然言語の形態素解析・構文解析、意味解析などの基礎理論を論述し、言語処理に欠かせない辞書・シソーラス・コーパスなどの構成と応用方法について学びます。コンピュータを使って言語データの収集し、オンラインソフトを使って演習を行います。	1. 言葉とコンピュータ　自然言語処理の諸方面 2. 自然言語処理の予備知識 3. 形態素解析（1）形態素解析の原理と方法 4. 形態素解析（2）日本語と英語の形態素解析実験 5. 構文解析（1）　文脈自由文法､句構造文法 6. 構文解析（2）　構文解析の原理と実験 7. 電子化辞書・シソーラスの構造と情報抽出 8. コーパス、言語データベースの構造と使い方 9. 単語と文の意味処理 10. 言語処理とオントロジー 11. 人工知能と言語処理 12. 自然言語応用の実態 13. 総合演習 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出してください。
テキスト	最初の講義で指示します。
参考文献	必要な資料を配布します。
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%

13 年度以降	総合科学特殊研究（コーパス言語学）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
コーパス言語学とは、電子化された大規模な言語テキストの集成体であるコーパスに基づき、コンピュータを駆使して、実証的観点から言語の諸特性を観察・調査・記述・分析する研究実践の総称です。 コーパス言語学は、言語に対する新しい見方をもたらすアプローチとして言語学はもとより、テキスト分析、言語教育、自然言語処理などの関連分野に大きな影響を与えています。 本講義は受講者にコーパスを学ぶ意義を解説からスタートし、コーパスの紹介・作成の方法を展開し、さらにコーパス検索技術、頻度の処理、コーパスによる語彙分析を多面的に考察します。	1. コーパスを学ぶ意義、コーパスとは何か 2. 主要な英語コーパスと日本語コーパス 3. 正規表現とコーパス検索（1） 4. 正規表現とコーパス検索（2） 5. コーパスの作成方法 6. コーパスの作成演習 7. ビッグデータとコーパス 8. 英語語彙の分析実例 9. 日本語語彙の分析実例 10. 英語文法の分析実例 11. 日本語文法の分析実例 12. コーパスと学習者の関わり 13. コーパスのさまざまな応用 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出してください。
テキスト	最初の講義で指示します。
参考文献	必要な資料を配布します。
評価方法	定期試験 60%、小テスト 10%、課題 20%、授業への参加度 10%

13 年度以降	総合科学特殊研究（プログラミング論 a）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼びます。本講義では、プログラムの経験のない初心者から、プログラミングの基礎、すなわちプログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにします。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指します。 初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つであるVisual　Basicを用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習します。いくつのプログラムの設計について講義および実習を行います。	1.　授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2.　開発ツールとしてのVisual Basic の基本知識 3.　Visual Basic の基本操作 4.　簡単なプログラムの作成 5.　イベント駆動型プログラムの仕組み 6.　総合演習（1） 7.　選択構造をもつプログラム 8.　総合演習（2） 9.　繰り返しあるプログラムの作成 10.　総合演習（3） 11.　クラス、配列や構造体の基礎 12.　グラフェックスの基礎 13.　課題の作成（1） 14.　課題の作成（2） 15.　講義のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出してください。
テキスト	最初の授業に説明します。
参考文献	最初の授業に説明します。
評価方法	総合演習 50%、小テスト 10%、課題 30%、授業への参加度 10%

13 年度以降	総合科学特殊研究（プログラミング論 b）	担当者	呉　浩東

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、プログラミングの知識を学べ、実際に各種のプログラムの作成練習を繰り返しプログラミングの技能を身に付くことを目的とします。 ここでは、Pythonというプログラミング言語を使って、Windows環境でさまざまな機能を生かすためにプログラム作成の考え方をはじめ、文系の方に役立つ文字列の処理、テキストの処理、ファイル操作などについて学びます。さらに、各種な問題解決のアルゴリズムについて紹介し、実用なプログラムについて紹介します。プログラミングを学ぶにあたって実践が非常に重要であるので、実習の比重が大きく設定されています。	1.　プログラミングの基礎知識 2.　言語研究とプログラミング 3.　Pythonに触れてみょう 4.　Pythonの基本知識 5.　テキストデータに親しもう 6.　Pythonを検索しよう：条件分析 7.　繰り返す処理：ループ 8.　総合演習（1） 9.　Pythonでファイル処理 10.　コーパス処理 11.　総合演習（2） 12.　Pythonの応用 13.　総合演習（3） 14.　講義のまとめ 15.　講義のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	指定した内容を事前に予習し、毎回出される課題を指定期日まで提出してください。
テキスト	最初の授業に説明します。
参考文献	最初の授業に説明します。
評価方法	総合演習 50%、小テスト 10%、課題 30%、授業への参加度 10%

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（からだの機能を測る）	担当者	依田　珠江

講義目的、講義概要	授業計画
【講義目的】 普段、何気なく生活している中では気づかないが、私たちのからだは様々な環境・状況の変化に対して適応反応を示している。今、メディアなどでも盛んに健康に関する情報が溢れている。まずはもっとも身近な私たち自身のからだの中のことを知って、快適な生活について考える、工夫するきっかけを提供することが本講義の目的である。 【講義概要】 講義内容はからだの仕組みや機能について概説し、実際に自分自身のからだを使ってその機能の一部を確かめる、つまり実験・測定を行う（グループワーク）。得られたデータを分析し、レポートにまとめることで理解を深める。	1. ガイダンス・自己紹介 2. 加齢と身体能力 3. 棒反応時間測定 - 反応の速さに影響するのは？ - 4. 棒反応時間測定 - データのまとめ方（グループワーク） 5. 血圧調節の基礎 - 身近な健康のバロメータ - 6. 血圧調節実験 - 姿勢変化、運動 - 7. 血圧調節 - まとめ（グループでデータの解析） 8. 体温調節の基礎 - 冷え症・低体温、熱中症 - 9. 体温調節実験 - 寒冷血管拡張反応 - 10. 体温調節 - まとめ（グループでデータの解析） 11. 運動調節の基礎 - スムーズに動くには - 12. 運動調節実験 - プリズム順応 - 13. 運動調節 - まとめ（グループでデータの解析） 14. 成果発表 15. 総合討論

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	各テーマの実験データに関連する論文を調査すること、また生理機能の理解を深めるため実験のレポートを都度作成し、提出すること。
テキスト	特に指定しない（必要に応じてプリント等を配布する）。
参考文献	『生理学実習 NAVI』
評価方法	授業への参加態度・貢献度（40%）とレポート（60%）で総合的に評価する。

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（文化について調べて書く a）	担当者	松岡　格

講義目的、講義概要	授業計画
文化に関わる、調査にもとづいたレポートや論文を書くことができる能力を身につけることを目標とする。 ここで言う調査とは、フィールド調査・文献調査を含む。文化人類学や関連の学問（地域研究・社会学・民俗学など）の授業を履修したことがある者の参加を歓迎する。 本授業は実践研究形式で行う。履修生には授業への積極的な参加を求める。 毎年具体的なテーマを設定して研究・調査をしてもらう。本年度のテーマは「風景・景観」とする予定である。 ※授業の進め方については初回の授業で説明するので、ガイダンスには必ず参加すること。	1. ガイダンス 2. テーマについての文献学習：文化の概念 3. テーマについての文献学習：見ること 4. テーマについて文献学習：風景 5. 模擬調査準備 6. 模擬調査 7. 文献調査実習：見ること 8. 文献調査実習：風景 9. 調査成果報告 10. 観察実習 11. フィールド調査準備 12. フィールド調査実習：中間報告 13. フィールド調査実習：データ整理 14. 調査成果報告 15. まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	それぞれの授業のテーマについて自分なりに調べて授業に望むこと。また授業各回の内容をよく復習して、次回の授業に備えること。こうした教室外の学習を課題に反映させること。
テキスト	教材は教員が用意するが、調査用に指示したものを持参する必要がある（ノートなど）。
参考文献	参考文献については授業内で指示する。
評価方法	平常点（授業への参加度等）［30%］、授業内課題・調査課題［70%］を評価対象とする。調査課題・授業内課題の全提出を成績評価の必須条件とする。一定回数以上欠席した学生は成績評価の対象としない。

13 年度以降	総合科学特殊研究（暮らしの中の民法入門）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
民法とは、一般市民が社会生活を送る際に生じた問題を解決するための法律である。たとえば、お金を貸す、お金を借りる、スマホを買う、ワンルームマンションを借りる。このような行為の際に生じた問題を解決するための法律が民法である。したがって、民法は皆さんにとって、最も身近な法律であり、また最も重要な法律でもあるといえよう。 そこで、本講義は、皆さんが社会生活を送る上で、法律問題に直面した場合に、当惑することの無いよう、必要な法的知識を伝授することを目的とする。 国際教養学部の学生はもちろん、外国語学部や経済学部、法学部の学生も、本講義で扱う法的知識はしっかり身に付けて、社会に巣立っていってほしい。	１．お金の貸し借りに関する法律－消費貸借契約 ２．債権の回収法－担保法 ３．債権の回収の際の注意点－消滅時効 ４．借金返済に関する法律①－貸金業法 ５．借金返済に関する法律②－自己破産 ６．お金の紛失・盗難・詐欺に関する法律 ７．人に関する法律 ８．不動産に関する法律①－登記、取得時効等 ９．不動産に関する法律②－相隣関係 １０．動産に関する法律 １１．契約とは何か １２．各種の契約の問題点①－贈与 １３．各種の契約の問題点②－売買 １４．各種の契約の問題点③－請負 １５．講義のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学んだ内容を必ず復習すること。
テキスト	石原豊昭監修『生活実用法律事典〔第４版〕』（自由国民社、2017 年）
参考文献	適宜、指示する。
評価方法	定期試験１００％

13 年度以降	総合科学特殊研究（続・暮らしの中の民法入門）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
民法とは、一般市民が社会生活を送る際に生じた問題を解決するための法律である。たとえば、自動車事故にあう、結婚する、離婚する、財産を相続する。このような行為の際に生じた問題を解決するための法律が民法である。したがって、民法は皆さんにとって、最も身近な法律であり、また最も重要な法律でもあるといえよう。 そこで、本講義は、皆さんが社会生活を送る上で、法律問題に直面した場合に、当惑することの無いよう、必要な法的知識を伝授することを目的とする。国際教養学部の学生はもちろん、外国語学部や経済学部、法学部の学生も、本講義で扱う法的知識はしっかり身に付けて、社会に巣立っていってほしい。 なお、本講義は、春学期に開講した「総合科学特殊研究（暮らしの中の民法入門）」の続編であるが、本科目のみの受講でも差し支えない。	１．損害賠償の法律①－総論 ２．損害賠償の法律②－債務不履行 ３．損害賠償の法律③－不法行為の要件・効果 ４．損害賠償の法律④－特殊不法行為 ５．損害賠償の法律⑤－交通事故 ６．結婚の法律 ７．夫婦の法律 ８．親子の法律 ９．離婚の法律 １０．相続に関する法律①－相続財産、相続人 １１．相続に関する法律②－相続分 １２．相続に関する法律③－相続の承認・放棄 １３．相続に関する法律④－遺言 １４．最近の判例 １５．講義のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学んだ内容を必ず復習すること。
テキスト	石原豊昭監修『生活実用法律事典〔第４版〕』（自由国民社、2017 年）
参考文献	適宜、指示する。
評価方法	定期試験１００％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（不動産取引と法）	担当者	新井　剛

講義目的、講義概要	授業計画
賃貸マンションを借りる、分譲マンションを買う、一戸建てを買う。人が生活をするにあたって、「住むところ」の存在は必要不可欠なものである。したがって、ほとんど全ての人は、一生のうちに、一度は不動産取引を経験することになる。しかしながら、その不動産取引の際に法律問題が生じた場合、どうすれば良いのかを学んでいる人は、ほとんどいない。そのため、欠陥住宅問題などの社会問題が絶えず生じているのである。 そこで、本講義は、獨協大学で学ぶ全学生に向けて、不動産取引の際に法律問題が生じた場合に、どのように対処すれば良いのか、そのために必要な法的知識を伝授することを目的とする。同時に、本講義は、不動産という物の見方や注意点をも講義することで、法的問題が生じるのを未然に防止する方法も伝授しようと考えている。	１．不動産建築の法律①－市街化区域と用途地域 ２．不動産建築の法律②－建ぺい率と容積率 ３．不動産売買の法律①－契約書の作成 ４．不動産売買の法律②－手付、欠陥住宅問題 ５．不動産売買の法律③－欠陥住宅問題（承前） ６．不動産登記の法律①－甲区と乙区 ７．不動産登記の法律②－共同申請主義 ８．マンションの法律①－専有部分と共用部分 ９．マンションの法律②－管理組合と総会 １０．マンションの法律③－修繕と建替え １１．借地借家の法律①－借地契約の期間と更新 １２．借地借家の法律②－定期借地権 １３．借地借家の法律③－賃借権の登記と特則 １４．借地借家の法律④－借家権 １５．講義のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	毎回、講義で学んだ内容を復習しておくこと。
テキスト	木島康雄監修『最新不動産の法律と手続きがわかる事典』（三修社、2017 年）
参考文献	適宜、指示する。
評価方法	定期試験１００％

13 年度以降	総合科学特殊研究（日本の司法（１））	担当者	齋藤　哲

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、幕末期、主には明治維新期から約150年間にける日本国の法律制度の変遷を、比較法を交えながらその大綱を解説する。	第１回　近代司法制度の萌芽 第２回　近代司法制度の成立 第３回　現行司法制度の確立（１） 第４回　現行司法制度の確立（２） 第５回　現行司法制度の確立（３） 第６回　裁判所の組織と権限（１） 第７回　裁判所の組織と権限（２） 第８回　法曹養成制度 第９回　裁判官制度 第10回　検察制度 第11回　弁護士制度 第12回　民事裁判制度と刑事裁判制度 第13回　少年司法 第14回　裁判外紛争解決制度 第15回　司法制度への市民参加

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキスト等の予習
テキスト	オリジナル無テキストを配布する予定
参考文献	市民裁判官の研究（齋藤哲【信山社】）、裁判法（兼子一＝竹下守夫【有斐閣】）
評価方法	試験 100％

13 年度以降	総合科学特殊研究（日本の司法（２））	担当者	齋藤　哲

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、裁判における二大手続である民事訴訟法と刑事訴訟法について、両者の比較を通して、解説を行う。 なお、＊春期日本の司法（1）の単位取得者の受講が望ましい。	第１回　開講にあたり 第２回　沿革 第３回　訴訟構造 第４回　裁判所 第５回　当事者 第６回　捜査・訴訟資料の収集 第７回　起訴・提訴 第８回　審判対象 第９回　公判・口頭弁論 第10回　証拠 第11回　判決主体 第12回　裁判 第13回　被害者参加 第14回　市民参加 第15回　まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	開講時に開示する
テキスト	ケースメソッド民事訴訟法（齋藤哲他）
参考文献	クロスオーバー民事訴訟法・刑事訴訟法（小林秀之・安富潔）
評価方法	試験 100％

		担当者	

講義目的、講義概要	授業計画

到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

13 年度以降	総合科学特殊研究（市民生活と法）	担当者	齋藤　哲

講義目的、講義概要	授業計画
私たちが日常生活やマスコミを通して目の当たりにする出来事について、事象単位で、関連法の紹介と解説を行う。憲法、民法、刑法等基本法律に関わるが、基本法の授業であまり触れられない問題や法令を授業の対象としている。	第１回　ゆりかごと墓場 第２回　ロード・レイジ怒れる運転者 第３回　近隣紛争 第４回　ストーカー 第５回　十一 第６回　夜逃げや 第７回　ブラックバイト 第８回　生活保護 第９回　ＤＶ 第10回　心神喪失状況にある者 第11回　ハレの日 第12回　School Accident 第13回　チャイルド・アブューズ 第14回　紛争解決 第15回　内心の自由

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	テキストの予習・復習
テキスト	オリジナルのテキストを配布する予定
参考文献	家族と法（齋藤哲）
評価方法	試験 100％

13 年度以降	総合科学特殊研究（マルチメディア論 a）	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
マルチメディアというのは、文字だけに限らず画像（写真を含む）や音声もまとめて扱うことを意味しているが、ここでは画像（特に動画）に的を絞る。動画などは今やインターネットの世界では日常的なことになっているが、それはブログなどでただ単に指定通りに張り付けるだけであり、その原理を理解・認識している人は少ない。その基本的原理はパラパラ漫画にも見受けられるが、その処理などを理解し、インターネットの世界での標準ともいえるソフとのフラッシュを用いて自分の力でコントロールできるようになることを目指す。もちろんこれは、ソフトの使いこなしだけを目指すのではなく、自ら作画し、それを動かせるようにすることから始める。	1. ガイダンス 2. イラストの作成① 3. イラストの作成② 4. イラストの作成③ 5. イラストの作品制作 6. アニメーションの基礎。モーショントゥイーン 7. シンボルの作成、保存。レイヤーの利用 8. トゥイーンアニメーション 9. シェイプトゥイーン① 10. シェイプトゥイーン② 11. 作品の制作① 12. 作品の制作② 13. 作品の制作③ 14. 作品の制作④ 15. 作品の制作予備日

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	基本的な図形の処理をマスターしておくこと
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	作成した作品を持って評価する

13 年度以降	総合科学特殊研究（マルチメディア論 b）	担当者	田中　雅英

講義目的、講義概要	授業計画
研修発表、プレゼンなどにおいて、効果的な方法は、言うまでもなく文字だけではなく、画像、写真などを適宜用いることである。インターネットの世界ではそれこそありとあらゆるものが現れている。それらを有効に利用することにより、アピールの効果は何倍にもなるであろう。 ここではインターネット上のHPや、ユーチューブの動画などの取り込みを行うことによって、最終的に発表するという、いわゆるプレゼンをいかに効果的にできるかを学ぶことを主眼とする。そして実際にプレゼンをすることによってその効果を実感することを主眼とする。	1. 画像、写真のワードへの取り込み 2. HPのワードへの取り込み（スクリーンショット） 3. 著作権、肖像権などの注意 4. 画像などのパワーポイントへの取り込み 5. ユーチューブの動画の取り込み① 6. ユーチューブの動画の取り込み② 7. ユーチューブの動画の取り込み③ 8. 動画の取り込みに際してのNG集 9. プレゼン実習① 10. プレゼン実習② 11. プレゼン実習③ 12. プレゼン実習④ 13. プレゼン実習⑤ 14. プレゼン実習予備日 15. まとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	ワード、エクセルの扱いには習熟しておくことが望ましい
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	プレゼン実習のでき映えによって評価する

13 年度以降	総合科学特殊研究（社会のなかの化学物質 a）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの日常生活は化学物質に取り囲まれています。金属やプラスチックなどの材料、燃料、衣料や食品等々、工業的に生産されている化学物質だけでも十万種類。それどころか、私たちの身体を作っている物質そのものやそれらの働きも、化学の力で理解が進んでいます。 いわゆる「理系」「文系」の境もなく、私たちの身の回りの物質や社会におけるそれらの利用を理解することは、現代社会を生きる私たちに必須の教養です。この授業では、これらさまざまな化学物質がどんな特徴を持つモノたちであり、どのように生産流通され、どんなふうに働いているかを学びます。その理解を基礎として、現代の社会生活をみずからの判断力に基づいて自覚的に築く力を養ってもらいたいと考えます。 なお、受講に当たって、高校理科で化学を履修していなくても心配いりません。高校化学のようなむずかしい理屈はやりません。	1. イントロダクション 2. 金属材料の化学　① 3. 金属材料の化学　② 4. 金属材料の化学　③ 5. 金属材料の化学　④ 6. 高分子材料(プラスチック、合成繊維)の化学　① 7. 高分子材料(プラスチック、合成繊維)の化学　② 8. 高分子材料(プラスチック、合成繊維)の化学　③ 9. 高分子材料(プラスチック、合成繊維)の化学　④ 10. 燃料、エネルギー源の化学　① 11. 燃料、エネルギー源の化学　② 12. 環境保護の化学　① 13. 環境保護の化学　② 14. 環境保護の化学　③ 15. 講義のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	学期末レポートのテーマに沿って各自調査・学習してください。
テキスト	左巻健男編著『ものづくりの化学が一番わかる―身近な工業製品から化学がわかる』技術評論社、2013 年
参考文献	特になし
評価方法	学期末レポート（60%）　授業の参加態度(提出物)（40%）

13 年度以降	総合科学特殊研究（社会のなかの化学物質 b）	担当者	内田　正夫

講義目的、講義概要	授業計画
私たちの日常生活は化学物質に取り囲まれています。金属やプラスチックなどの材料、燃料、衣料や食品等々、工業的に生産されている化学物質だけでも十万種類。それどころか、私たちの身体を作っている物質そのものやそれらの働きも、化学の力で理解が進んでいます。 いわゆる「理系」「文系」の境もなく、私たちの身の回りの物質や社会におけるそれらの利用を理解することは、現代社会を生きる私たちに必須の教養です。この授業では、これらさまざまな化学物質がどんな特徴を持つモノたちであり、どのように生産流通され、どんなふうに働いているかを学びます。その理解を基礎として、現代の社会生活をみずからの判断力に基づいて自覚的に築く力を養ってもらいたいと考えます。 なお、受講に当たって、高校理科で化学を履修していなくても心配いりません。高校化学のようなむずかしい理屈はやりません。	1. イントロダクション 2. 農業の化学　① 3. 農業の化学　② 4. 農業の化学　③ 5. 食品の化学　① 6. 食品の化学　② 7. 食品の化学　③ 8. 食品の化学　④ 9. 日用品の化学　① 10. 日用品の化学　② 11. 日用品の化学　③ 12. 健康の化学　① 13. 健康の化学　② 14. 健康の化学　③ 15. 講義のまとめ

到達目標	「総合科学研究科目群」の他科目では触れることが難しい分野や領域にわたって人文・社会・自然科学を総合的に研究分析し、見解を提示できるようにする。
事前・事後学修の内容	学期末レポートのテーマに沿って各自調査・学習してください。
テキスト	左巻健男編著『ものづくりの化学が一番わかる―身近な工業製品から化学がわかる』技術評論社、2013 年
参考文献	特になし
評価方法	学期末レポート（60%）　授業の参加態度(提出物)（40%）

13 年度以降	卒業研究	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
国際教養学部では、全在学期間を通して学んだ集大成として、卒業研究を必修にしています。形式は、卒業論文や卒業制作などですが、各自、所属する演習の担当教員と相談してください。そこで指導をうけながら、卒業研究の進め方を決めていってください。	各担当教員による

到達目標	特定研究課題を設定して詳細な調査等を行い、その成果を一定程度整理し、体系化できるようにする。
事前・事後学修の内容	各自が設定した研究テーマについて主体的に学習・研究を進めていくこと。
テキスト	各担当教員による。
参考文献	各担当教員による。
評価方法	各担当教員による。ただし、卒業論文の提出は必須である。

13 年度以降	卒業研究	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
春学期参照	

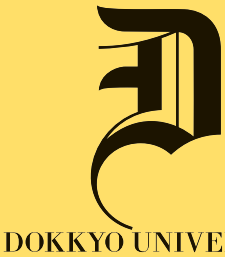
到達目標	
事前・事後学修の内容	
テキスト	
参考文献	
評価方法	

シラバス 言語文化学科

2018年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1825



学　　科	学年	氏　　名
学科	年	